第12節　中之馬場北石垣・百間堀

中之馬場と呼ばれる外曲輪の北縁を形成する石垣を検出した。便宜上、中之馬場北石垣とする。この石垣の背後は、砂利敷道路（道路7）であり、土居状の高まりは存在しない。石垣前面の堀は、百間堀と呼ばれる福井城最大の堀で、吉野川と呼ばれる自然河川を堰き止めて作られた。

中之馬場北石垣（第125・126図）　石垣は総検出長25.4mであり、ほぼ東西方向に直線的に延びる。最大で5石、概ね3・4石の石材が残存しており、最大残存高1.9m、勾配75°である。石垣石材の下端は標高4.8 ～ 5.2mで標高5m付近を上下する。ただし、根石として最下段の石材の半分から2段目の半分程度に当たる標高5.4mあたりまで、ほぼ平らに埋め込んでいたようである。なお、石垣の基礎構造は、裏込めに認められる石材と同様な砕礫や割石がまばらに確認されたのみである。それらの石材は、ある程度のまとまりで分かれつつも直線状に並んで見える。そのため、胴木組の隙間に充填したものである可能性があるが、胴木組を構成する木材は確認されていない。使用される石材は、概ね0.7 ～ 0.8×0.5 ～ 0.6×0.4m程度の切り出した石材が使用される。しかし、最下段の石材は比較的歪な形の石材が多く、正面形が必ずしも長方形でない。石材は裏込めの栗石等を含めて、いずれも笏谷石とみられる。

刻印は、検出した石垣石材155石中64石に21種を確認した（第164図，第5・6表）。数石から5石を超える同じ刻印をもつ石材のまとまりを、間隔をあけて配置するが、中には同じ刻印の石材を1石ずつある程度の間隔で配置するものもある。このような配置のものが複数種集まるため、各種刻印が混在して見える。なお、同じ刻印を複数面に施す例は6石、異なる刻印を異なる面に施す例は1石である。

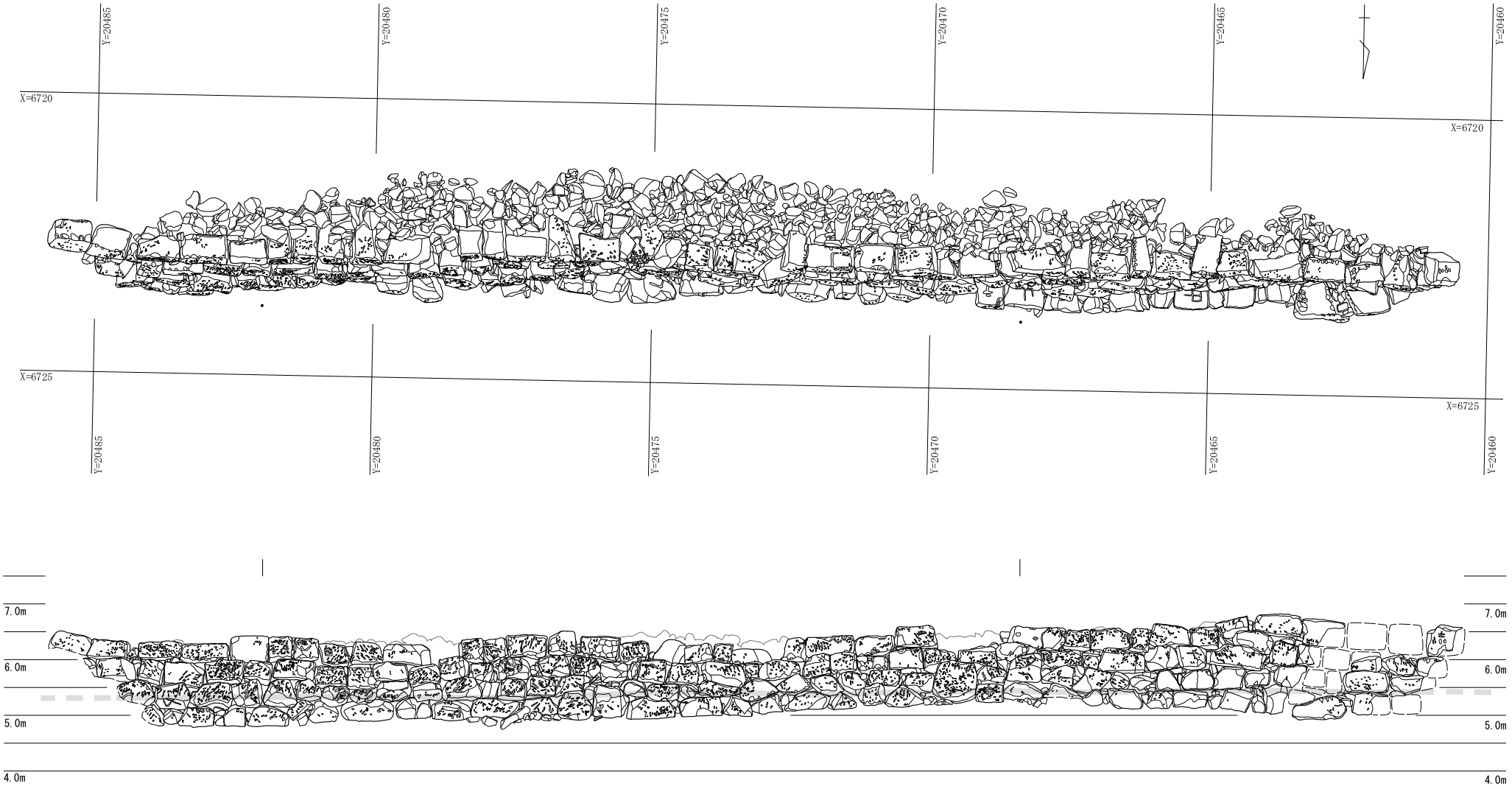
百間堀（第128・129図）　中之馬場北石垣から三ノ丸南の土橋に至る約127m分を検出した。ただし、幅5mの矢板に囲まれての限定的な検出である。また、百間堀を斜めに横断するため、断面が実際より間延びする。堆積土の状況等から、堆積は4種に大別される。最下層の堆積は、福井城築城時の造成土である。笏谷石の割石や細かい砕礫を含む粘質土であり、地山の凹凸に関わらず上面は標高3.5 ～ 3.75mに揃う。地山には調査範囲を越えて横断する落ち込みが、明瞭な北側と中央のものの他にいくつか確認される。その窪みには笏谷石の砕礫等が比較的多く、とくに北側の落ち込みには割石の集中する中に「天文十九年（1550）」銘のある一石五輪塔の地輪部分が混入していた。なお、地山は砂層であり、薄い粘土層と互層になる部分も確認され、かつて水の流れがあったことがわかる。

次の堆積は、百間堀としての堆積である。暗灰色や褐灰色の粘質土が水平に堆積しており、上面は標高4m前後で揃う。遺物や小石等を含まない均質な粘質土の堆積であり、堰き止めて堀となった後の自然堆積と考えられる。遺物を含まないのは清掃等の環境整備が充分になされた結果かもしれない。

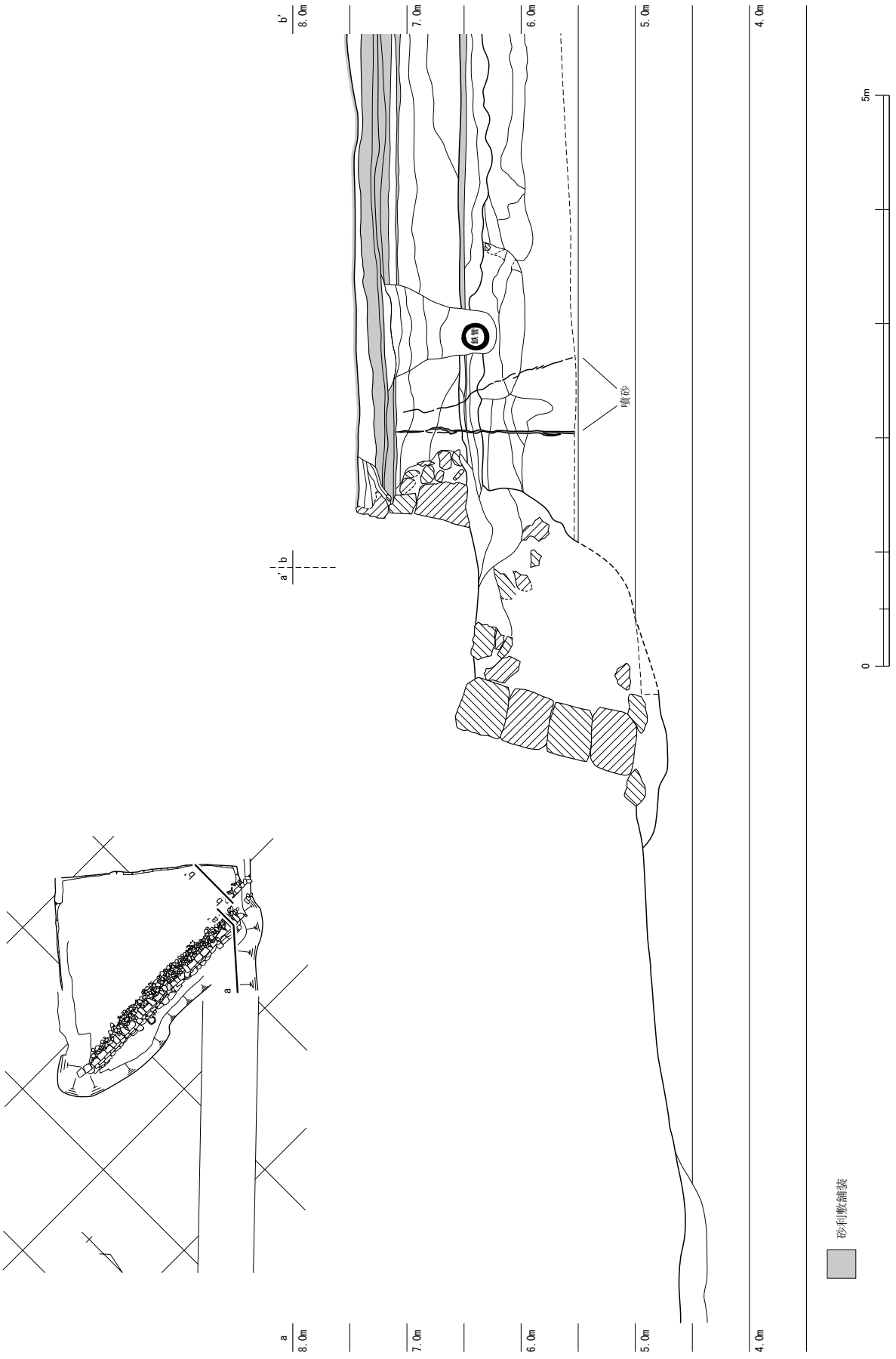
その上の堆積は、百間堀の埋め立てによるもので、概ね東から西へ下降するように堆積する。明治29年（1896）に鉄道局による北陸線が福井駅まで開通するが、さらに北への延伸工事が続く。線路敷設のため百間堀を跨いで土橋状に埋め立てて、両側を石垣で整えた。その西面の石垣は、今回の調査区から東へ5 ～ 10m離れてほぼ平行に延びており、南端は道路7上に嵩上げされた路面の石垣に接続する。

最上層は、小石や礫を含む砂質土や、大量のアクと呼ばれる石炭の燃えカスや灰、様々な廃棄物からなり、大部分が鉄道操業による廃棄物の処理を目的とした埋め立てのようである。

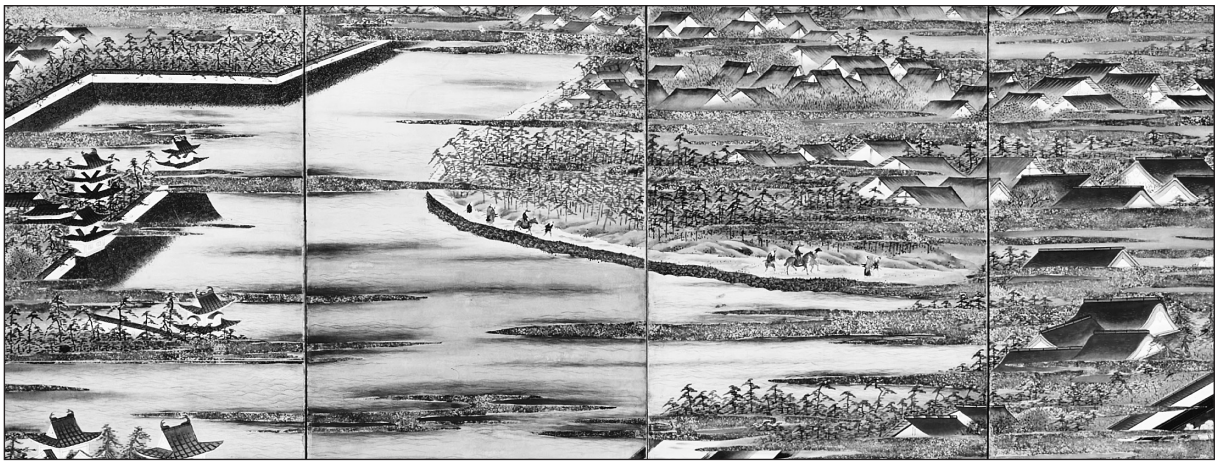
百間堀底面は、最深部で標高3.5 ～ 4m前後まで徐々に堆積したようである。両岸の道路面は標高6.5m、石垣裾は標高5 ～ 5.5mであり、路面からの深さ2.5 ～ 3m、石垣裾からの深さ1.5 ～ 2m（1 ～ 1.5m）となる。なお、絵図によると、北側で幅48間（約86m）、水の深さ1間半（2.7m）、南側で幅50間（約90m）、水の深さ2間（3.6m）で、ともに中之馬場側で水たたき3尺（約0.9m）とされる。



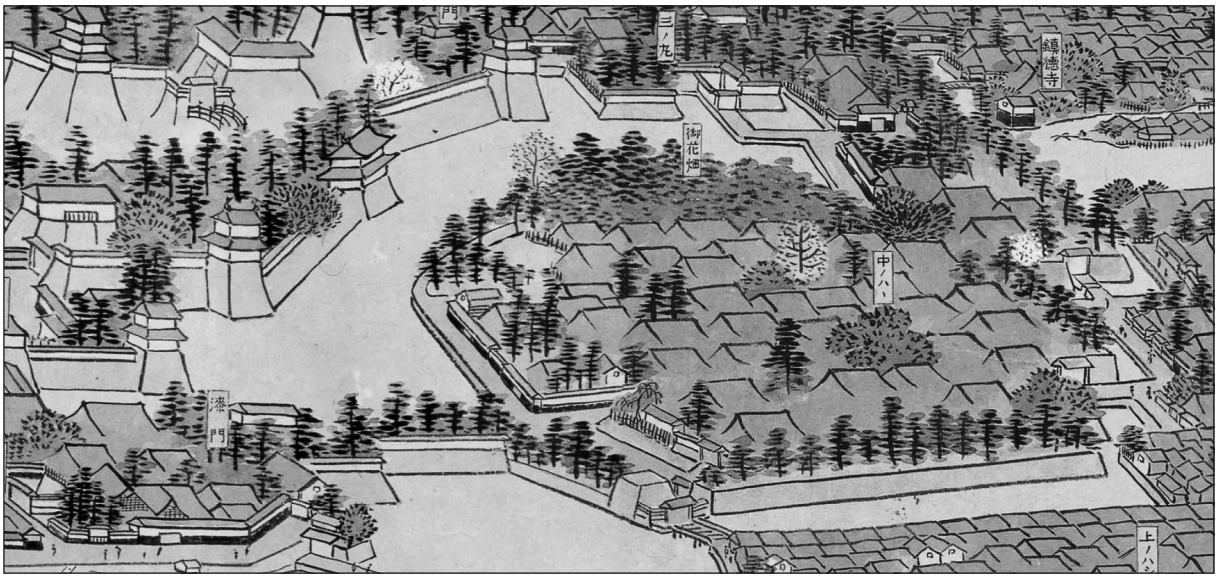
第125図 中之馬場北石垣（縮尺1/100）



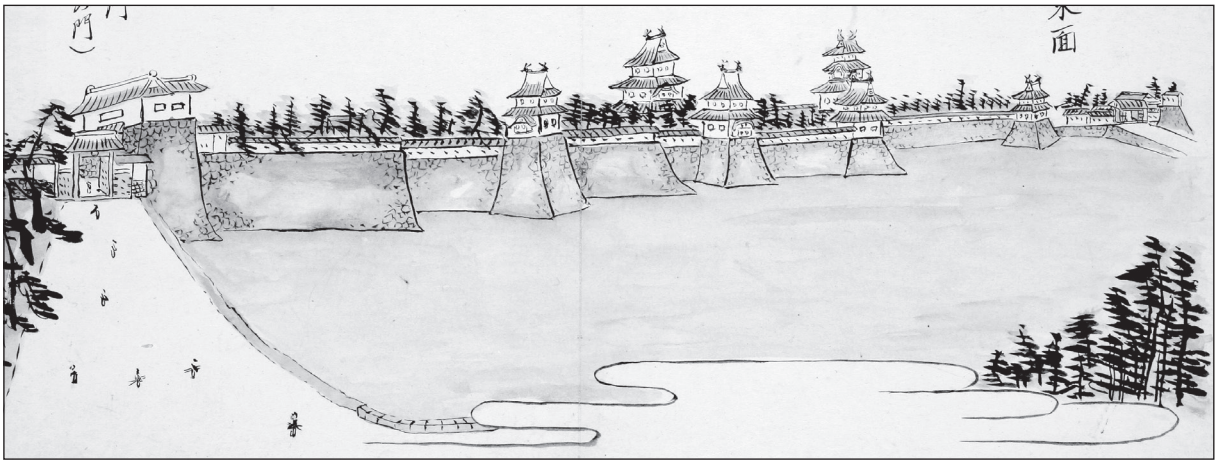
第126図　中之馬場北石垣断面図（縮尺1/50）



『紙本馬威図六曲屏風』福井県立歴史博物館蔵　　幕末頃
背景の一部に西から望む百間堀が描かれている。対岸の中之馬場には、石垣沿いの道路に人の往来が見える。道路の奥に御菜園の松林があり、土を盛り上げた状態が表現される。

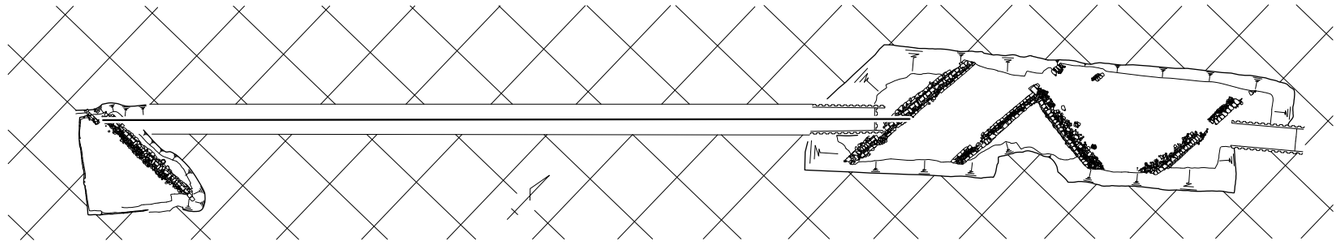


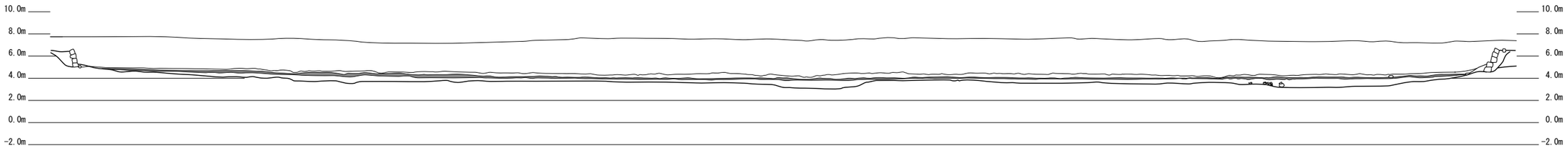
『福井城下眺望図』福井市春嶽公記念文庫（福井市立郷土歴史博物館保管）　寛政年間（大正８年模写）
南から望む。左奥に本丸・二ノ丸が、百間堀をはさんで中之馬場が描かれる。中之馬場の南辺に春秋門と土居が、北側には御菜園（御花畑）がある。中之馬場の奥には三ノ丸とその南門へ至る土橋が見える。

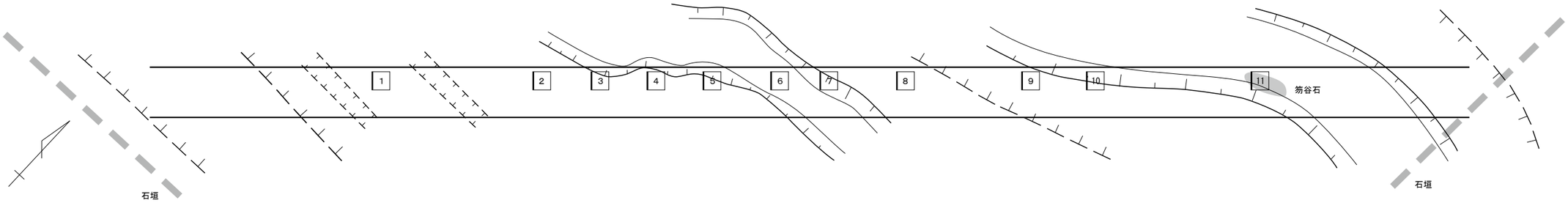


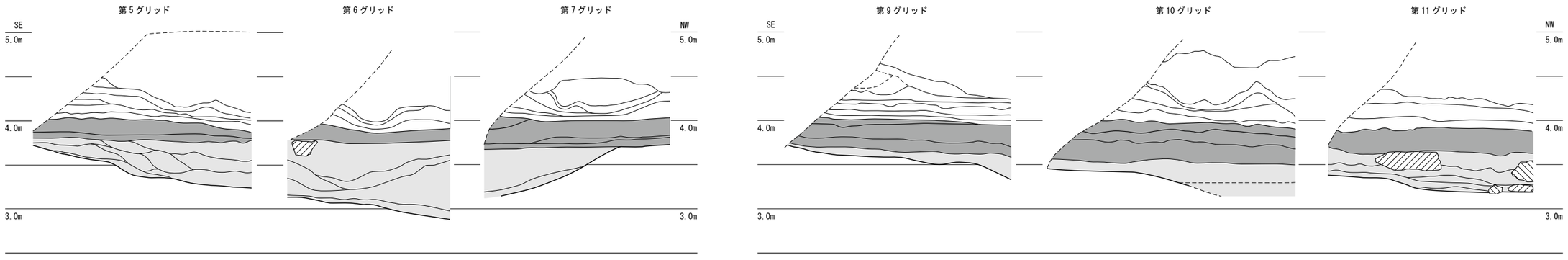
「百間濠及福井城東面」『福井城旧景』福井市立郷土歴史博物館蔵　　文久二～元治元年頃
百間堀の東から望む。右手前には御菜園の松林が、右奥には三ノ丸南門と土橋が描かれている。

第127図　描かれた百間堀

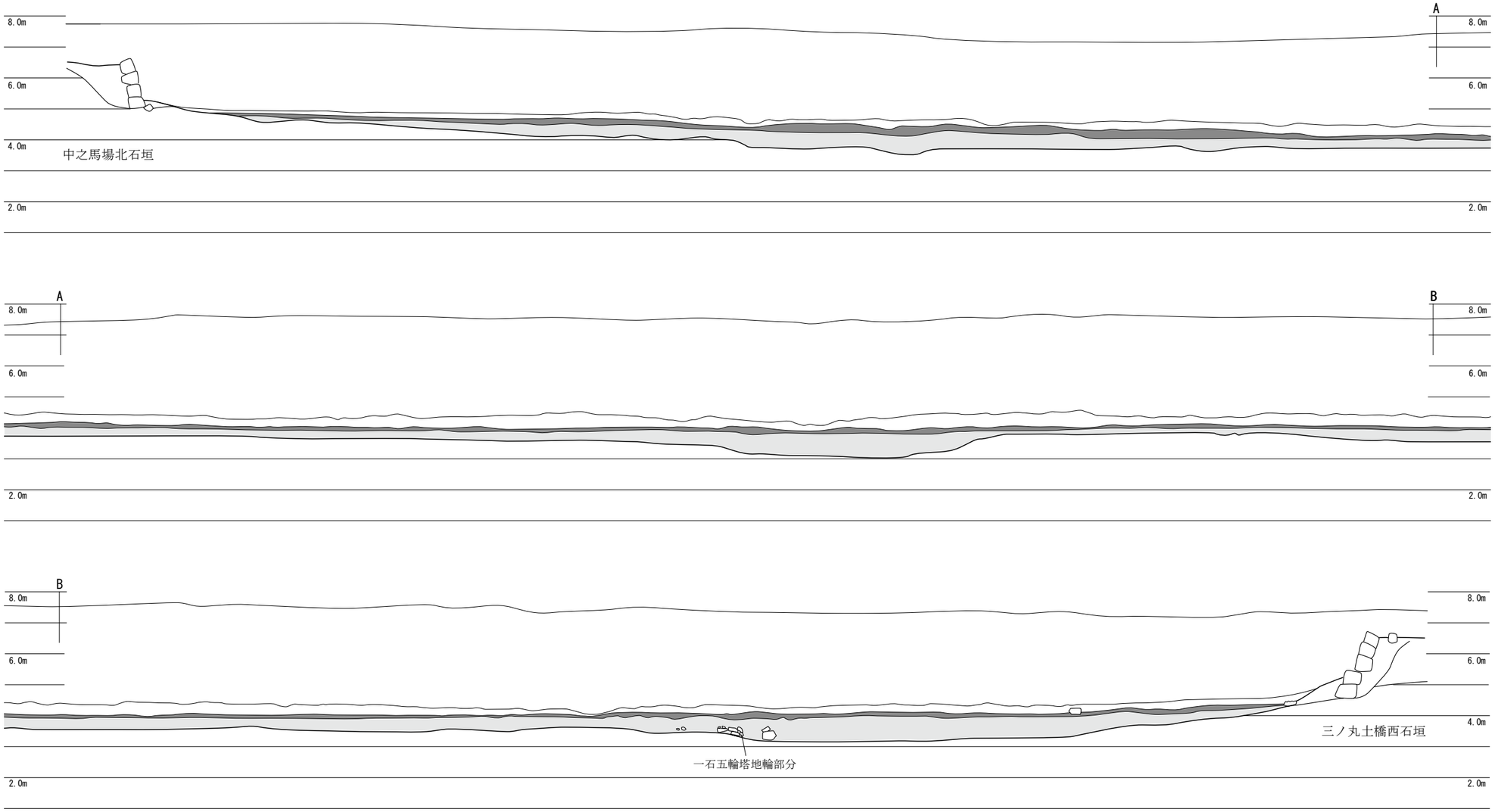








第128図　百間堀（縮尺1/50・1/400）







一石五輪塔地輪部分

第129図　百間堀（縮尺 1/150）

第13節　三ノ丸・土橋

三ノ丸の搦手側の門付近を検出した。この門は、絵図等によると今村段右衛門前御門・三ノ丸南門・南三丸門・南門・南三ノ丸門・三崎門等と名称が変遷する。明治31年（1898）の松平試農場の図（松平文庫分類番号1397－2）には南御門と記されており、現在も付近の交差点名に「三ノ丸」が残ることから、ここでは（三ノ丸）南門とする。

検出した主要な遺構は、門付近の高石垣に伴う石垣、門から南へ延びる土橋の一部と、それぞれの周囲の堀の一部である（第130図）。門は検出されていないが、検出した石垣の位置と、文久3年（1863）の「越前国御座所三ノ丸御屋形ノ図」（松平文庫分類番号1380）に描かれる石垣と門、その他の絵図に書き込まれた石垣の計測値等とを比較することで位置が復元できる。なお、表側の一ノ門は既に撹乱により消滅したようである。以下、三ノ丸部分と土橋部分に分けて、それぞれの主要な遺構について詳述する。

1　三ノ丸（第130図）

福井城三ノ丸に関わる遺構は、曲輪周囲を区画する高石垣である。ただし、削平のために曲輪内側の石垣や雁木等は一部を除き残存せず、堀内に築かれた基底部分が残存したにすぎない。検出した石垣は、撹乱等により、東を正面とする石垣（以下、三ノ丸東石垣）と、南を正面とする石垣（以下、三ノ丸南石垣）、南門の枡形虎口を形成する石垣（以下、枡形石垣）に分断されるため、便宜上個別に扱う。

三ノ丸東石垣（第132・134図）　検出した石垣は、概ね南北方向に直線的に延びるが、北側で約10°東へ傾く。撹乱により中央で南北に分断されるが、総延長約21m分を検出した。3石までの石材が積まれた状態で残存しており、残存最大高約1m、残存部分の勾配63°である。石垣石材の下端は標高5.9～6.3mで北から南へ緩やかに下降する。ただし、根石として、北側では最下段の石材の半分から1石程度、南側では2段目の半分程度埋め込んで固定しており、見かけ上の石垣裾は標高6.5m前後となる。使用される石材は、北側には概ね1×0.7×0.5m大の不整形で鑿等による調整痕があまり認められない石材が多く、南側には概ね0.6～0.7×0.5×0.3～0.4m程度のやや小ぶりながら整形された石材が多い。石材は、裏込めの栗石等を含めて、いずれも笏谷石とみられる。

刻印は、検出した石垣石材52石中11石に3種を確認した（第169図・第10表）。このうち、石垣正面に刻印のある石材は2石であるが、ともに最下段に位置するため根石として埋没する。

石垣の基礎構造は、平行する2本の胴木や杭等を検出し、僅かながら跳木も残存することから、梯子胴木組と判断される。ただし、南側には跳木は残存しない。胴木組は、北側は延長約6ｍ分、南側は延長約6.5m分を検出した。跳木は3本残存し、1.8～2mの間隔で配置される。いずれも丸太材であり、胴木は径10～15cm・最長4.8m、跳木は径7㎝前後・長さ0.8～1.75mである。胴木組の隙間や周囲に拳大～人頭大の笏谷石砕礫・割石を充填し固める。砕礫は石垣前面から1.5m程度の範囲にも認められるが（第135図）、石垣根石とともに埋め込まれた部分である。胴木組は平坦に整えた地山上に設置されており、掘り込みはない。三ノ丸の造成とともに石垣を積み上げたようである。

南側の石垣背後や下層に地すべりの痕跡が残る。ところが、石垣には影響が認められないことから、地震後に積み直されたものであることが考えられる。胴木組が掘り込んだ部分に設置されていないことや、その付近に跳木が確認されないことは、積み直しであるためかもしれない。この堀が埋められたのは大正11・12年（1922・23）であり、それ以前の福井に影響した地震は明治以前に遡る。

三ノ丸南石垣（第133・134図）　検出した石垣は、概ね東西方向に約16m直線的に延びるが東側で約5°南へ傾く。3石程度の石材が積まれた状態で残存し、最大高約1.6m、正面の勾配63～67°である。

石垣石材の下端は標高5.4 ～ 5.9mで西から東へ緩やかに下降する。ただし、根石として、最下段の石材を半分程度埋め込んで固定しており、見かけ上の石垣裾は標高6.0m前後である。なお、西端は算木積となり、北へ屈曲する隅角部が形成される。北へ延びる部分が枡形石垣である。また、隅角部のやや東に土橋東面の石垣が接しており、隅角部が土橋に食い込むように見える。

使用される石材は、いずれも笏谷石とみられる。最下段の石材には比較的不定形なものが多く、隙間に間詰石を使用するが、２・３段目の石材は直方体に近い形状ではないものの各面が整形されており、比較的隙間なく組み上げている。0.6 ～ 0.7×0.5×0.4m大や0.9×0.65×0.5m大の石材を使用するが、石垣正面に露出させる面が小口面の場合と長側面の場合があり、見え方が大きく変化する。

刻印は、検出した石材60石（角石・角脇石含む）中50石に15種を確認した（第168図，第9・10表）。このうち13種は鎌形の刻印で、柄の形状や刃の向き等細部に相違が認められる。刻印が石垣の正面にある石材は12石である。また、複数の面にそれぞれ異なる刻印を施す石材は17石である。

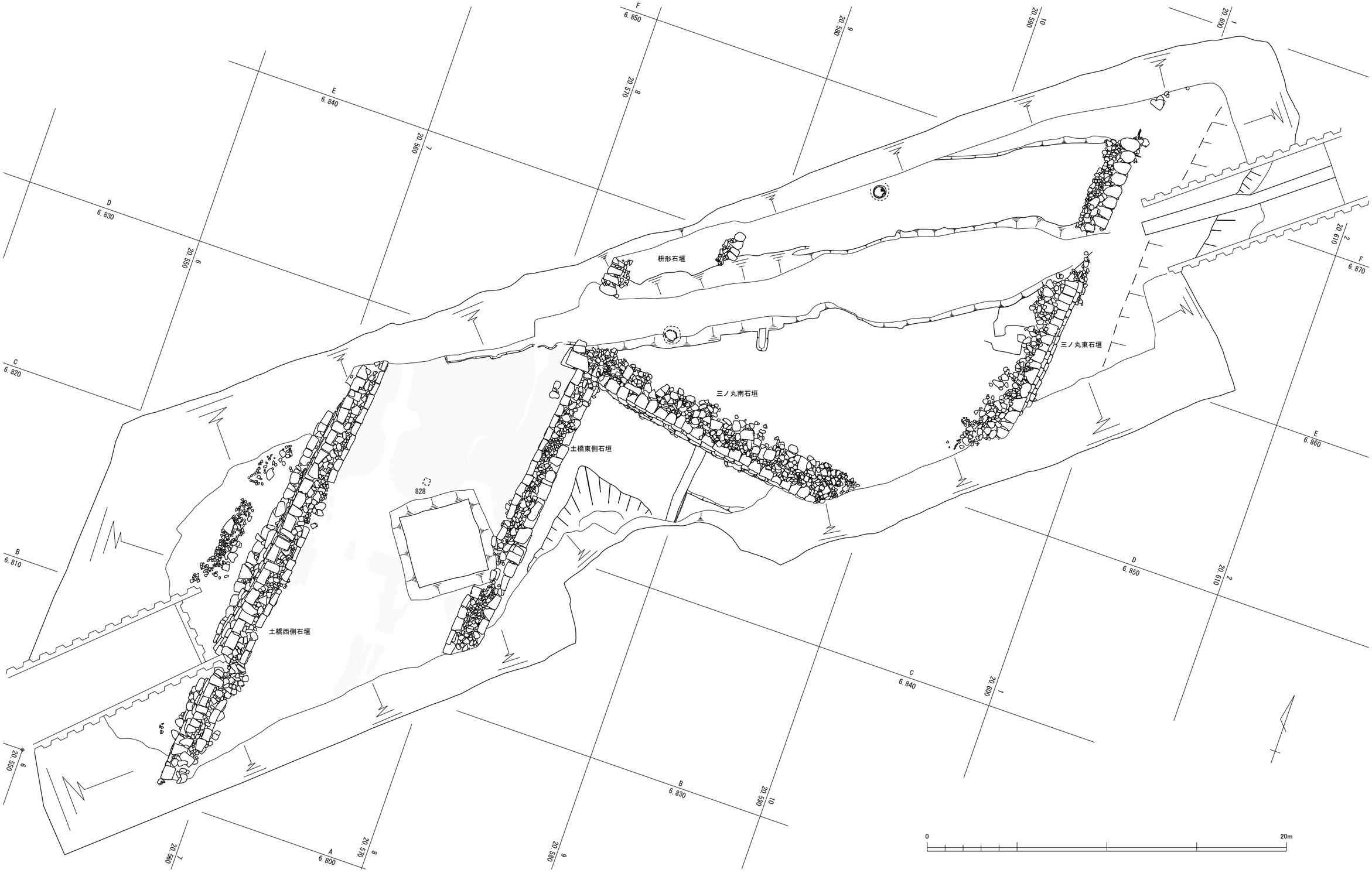
石垣の基礎構造は、梯子胴木組である（第134図）。胴木組は、延長約12.5m分を検出した。跳木は６本残存し、1.5 ～ 2mの間隔で配置される。胴木は、径10 ～ 15cm・長さ4.5m前後の丸太材である。太い２本の部材の片側先端には、縄を掛けたとみられる抉り込みが廻る。跳木は、径５ ～ 10cm・長さ１ ～ 2mの丸太材である。中には先端が二股に分かれる自然木に近いものも使用している。胴木組の隙間等は拳大～人頭大の笏谷石砕礫・割石を充填し固めるが、その中に笏谷石製の五輪塔火輪が含まれていた。胴木組は掘り込んだ部分に設置される（第135図）。掘方は不明瞭であるが、幅2.5m前後、深さ0.2 ～ 0.5mで、東の隅角部側へ向かって深くなるとともに、大きく広がるようである。

枡形石垣（第130・136図）　検出した石垣は、南石垣西端から屈曲して北へ延びる高石垣の根石であり、曲輪の内と外に当たる東・西を正面とする２つの石垣からなる。石材は裏込めの栗石等を含め笏谷石である。なお、両石垣正面間の距離（高石垣の幅）は6.2m（約３間半）である。

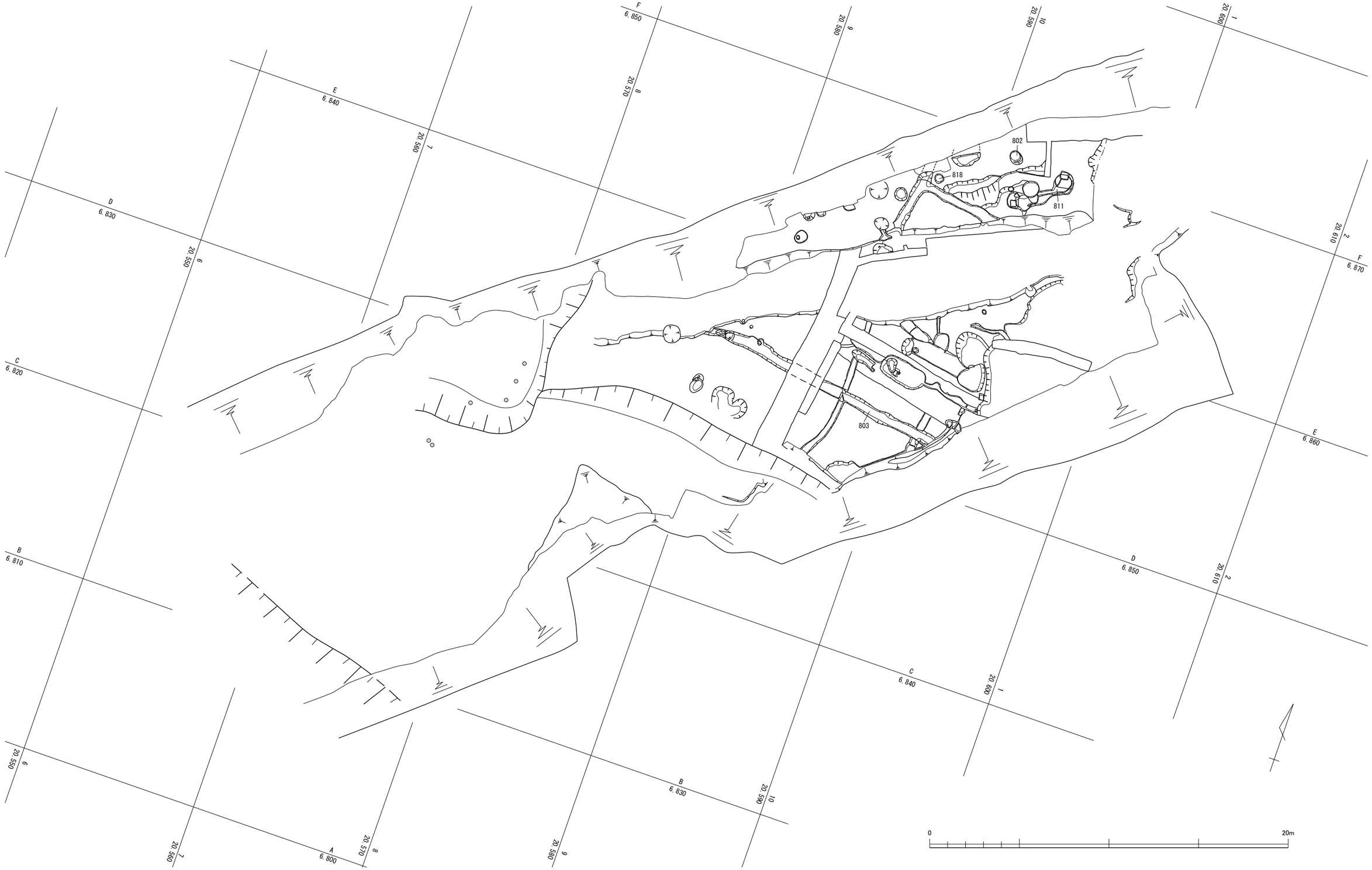
西を正面とする石垣は、南石垣が屈曲して北へ延びた部分である。撹乱部分も含め、延長約7.5m分を検出した。部分的に２石の石材が積まれた状態で残存しており、残存高0.4 ～ 0.8m、隅角部の残存高約１ｍである。石垣石材の下端は標高6.7 ～ 7.3m、隅角部で標高約6.4mであり、北から南へ下降する。ただし、根石として大半の石材が埋め込まれており、見かけ上の石垣裾は標高6.7 ～ 7.5mで北から南へ下降する。使用される石材は、概ね0.8×0.4×0.3m大のやや細長く整形された石材である。基礎構造としての胴木組は検出されていない。

東を正面とする石垣は、１石が並ぶのみであり、裏込栗石を含めて延長約３ｍ分を検出した。石垣石材の下端は標高７ ～ 7.2mであるが、いずれも根石として埋め込まれたものである。使用される石材は、0.5 ～ 0.7×0.4×0.15 ～ 0.3m大の不整形な割石である。基礎構造としての胴木組は検出されていない。刻印は、西面石垣のみで確認した。検出した石材８石（隅角部含まない）中４石に４種を確認した（第168図，第9・10表）。このうち石垣の正面に刻印がある石材は２石、異なる面に同じ刻印がある石材は１石、異なる面に異なる刻印がある石材１石である。

三ノ丸造成状況（第135・137図）　三ノ丸を造営した当時の地表面は、調査区北端では標高６～6.5mであるが、南側に向かい下降しており、東側も石垣の前面あたりから下降する。そのため、東側の堀内に石垣から５ｍを超える範囲に、最大約１ｍの盛土を施している。当時の地表面下の堆積状況に不自然な点があるが、人為的な痕跡が確認されないため、自然の作用によるものと思われる。ただし、調査区北端の大きな落ち込みについては、周辺から９世紀の遺物が出土しているため、当時の遺構であ



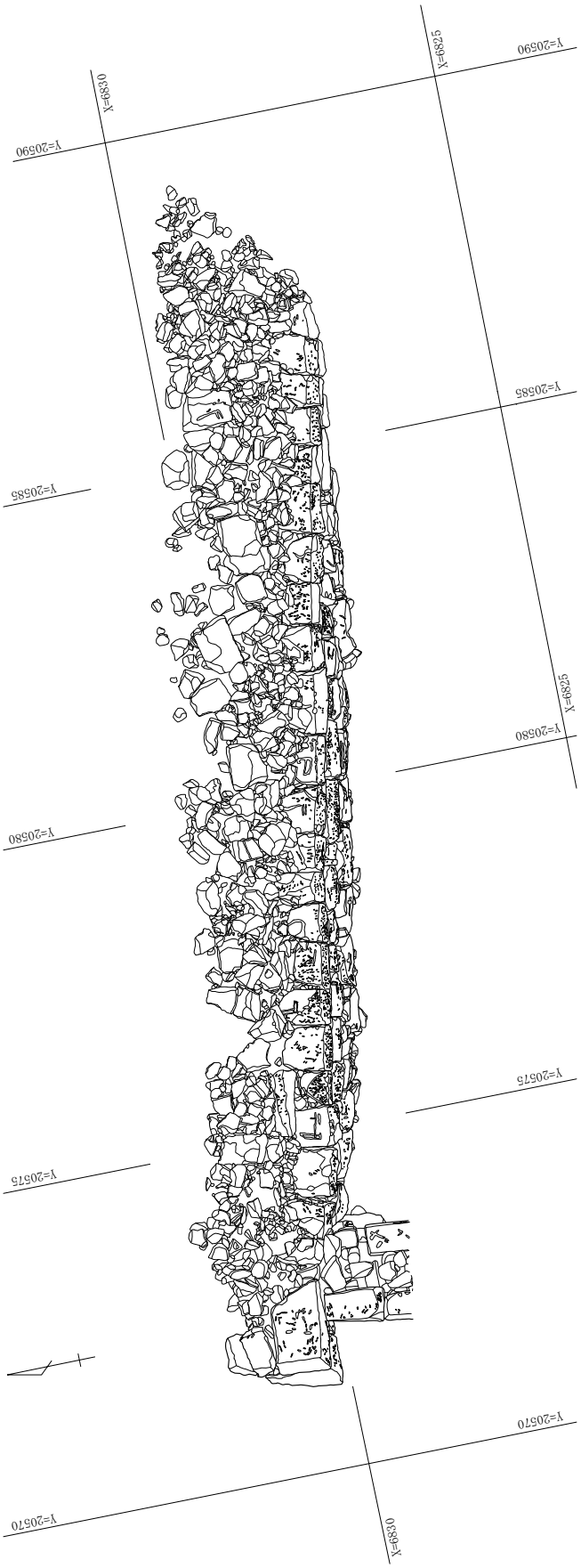
第130図　三ノ丸遺構配置図（縮尺1/200）

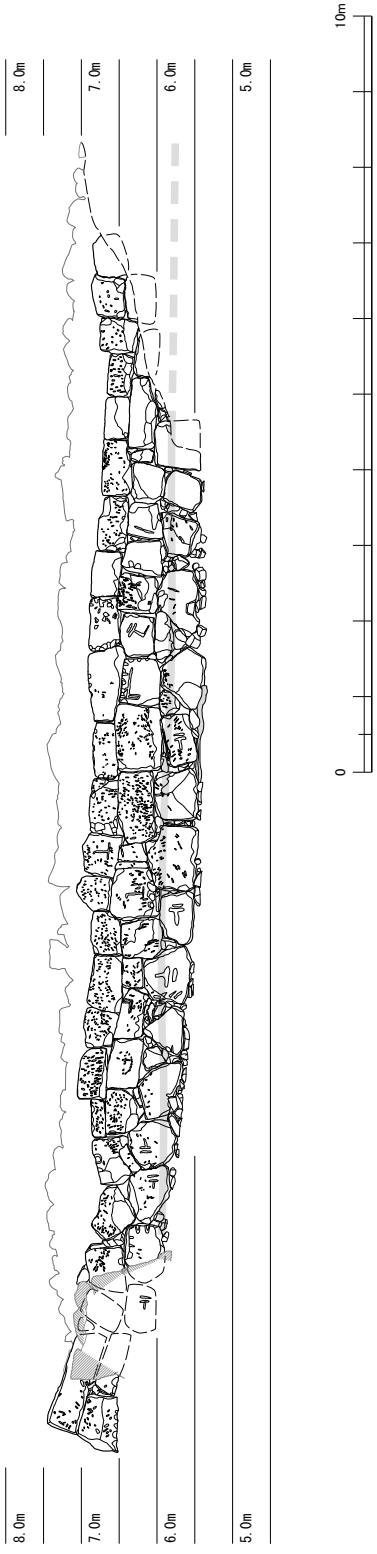


第131図　三ノ丸下層遺構配置図（縮尺1/200）

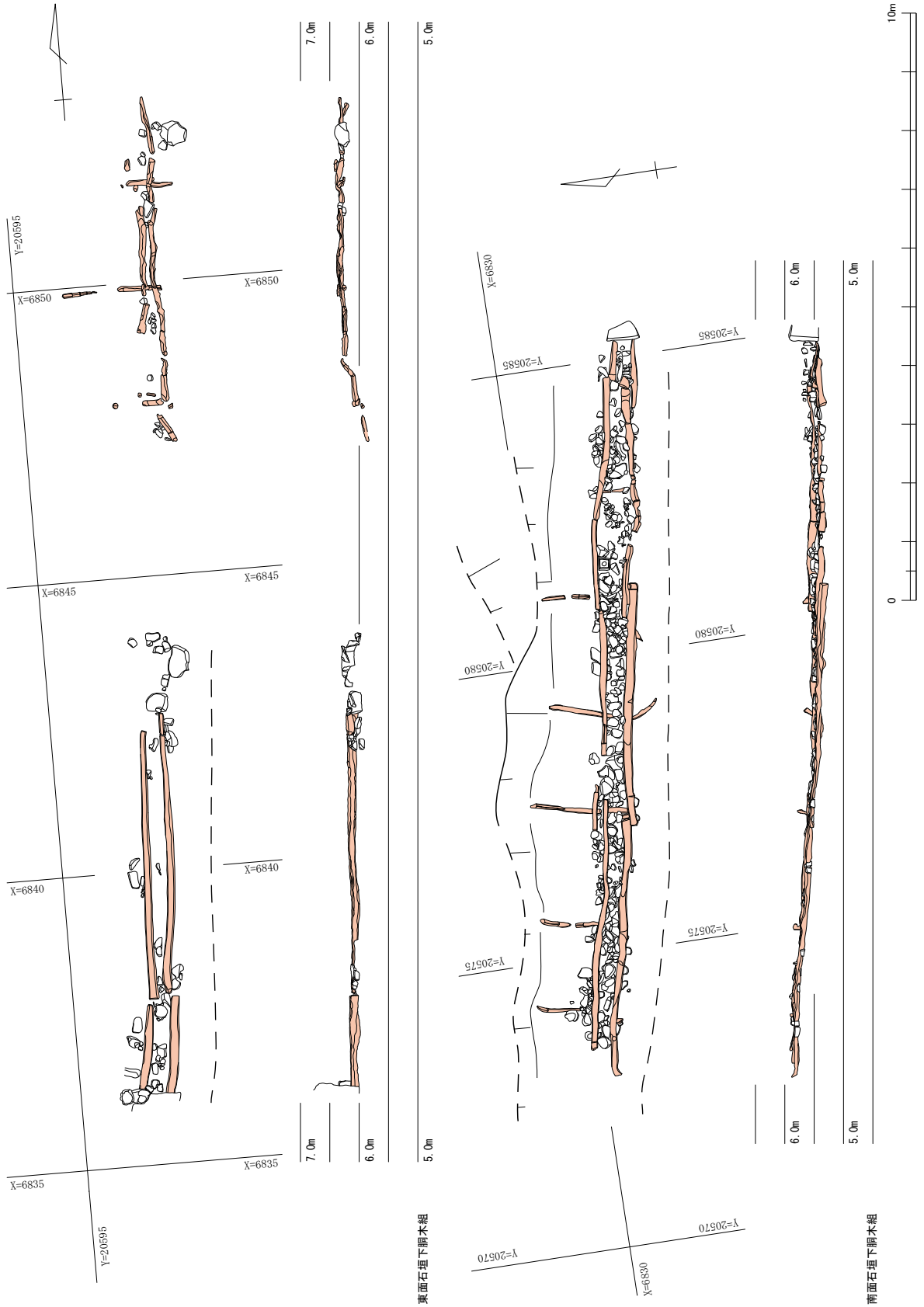


第132図　三ノ丸東石垣（縮尺1/100）

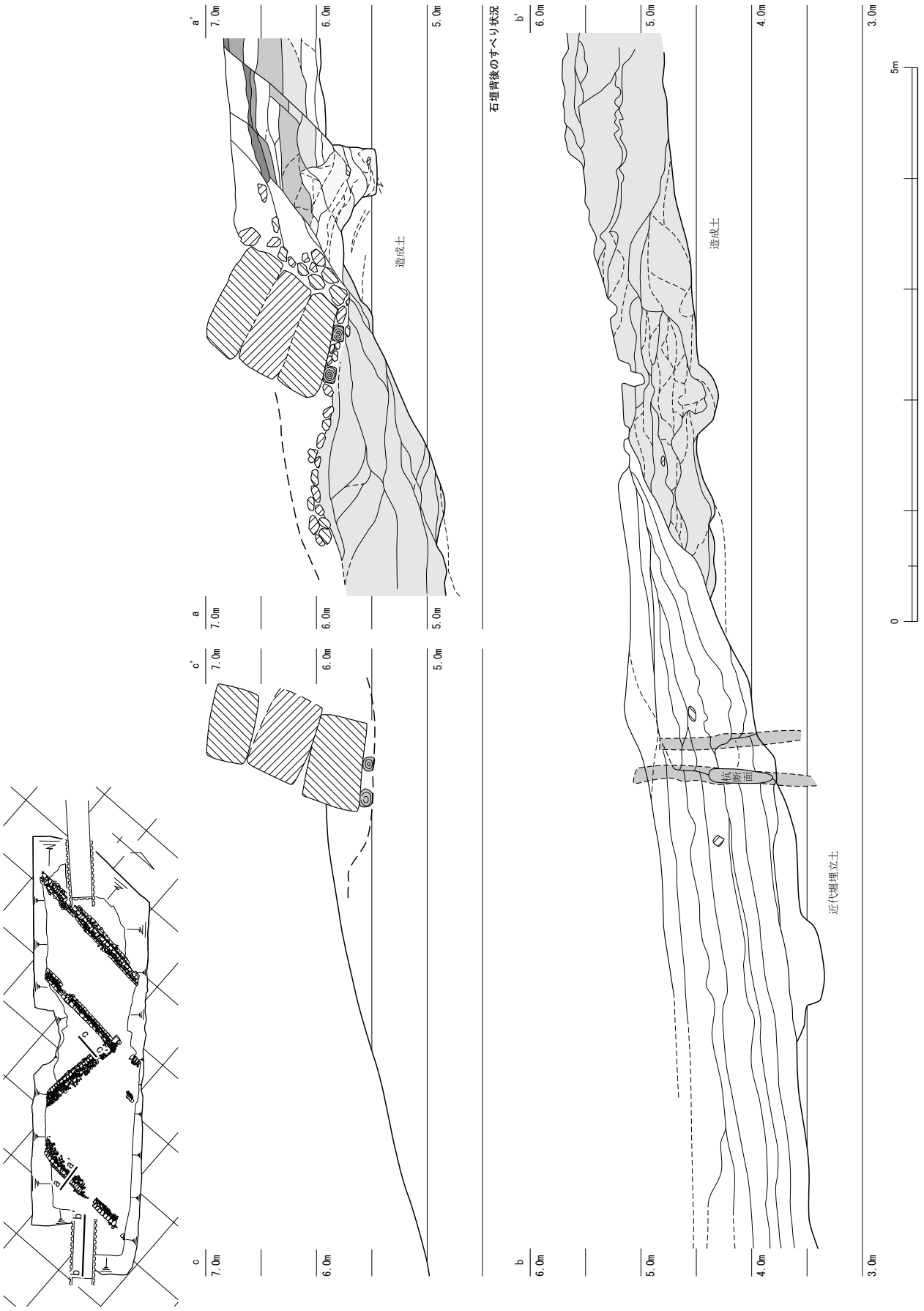




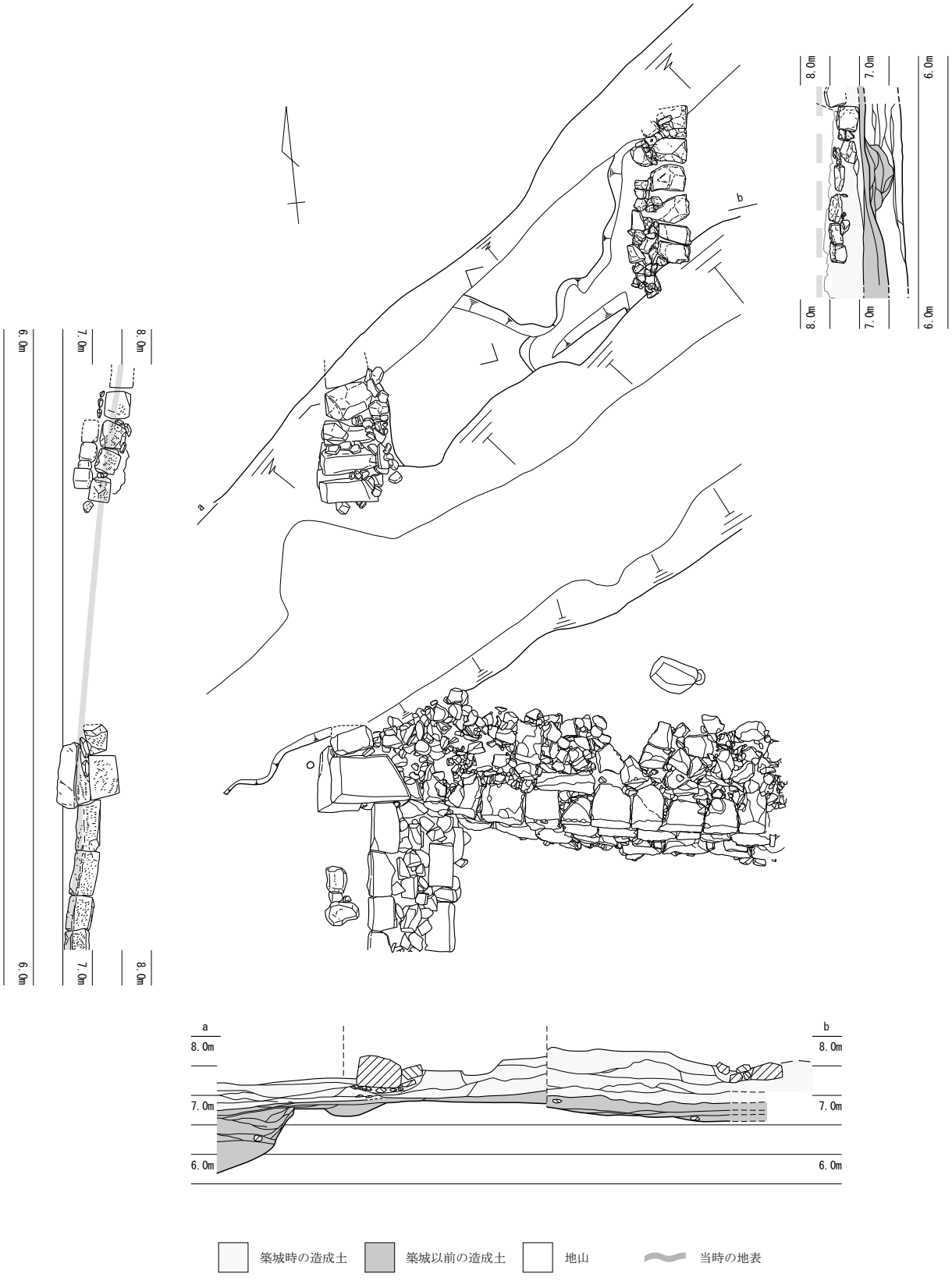
第133図　三ノ丸南石垣（縮尺1/100）



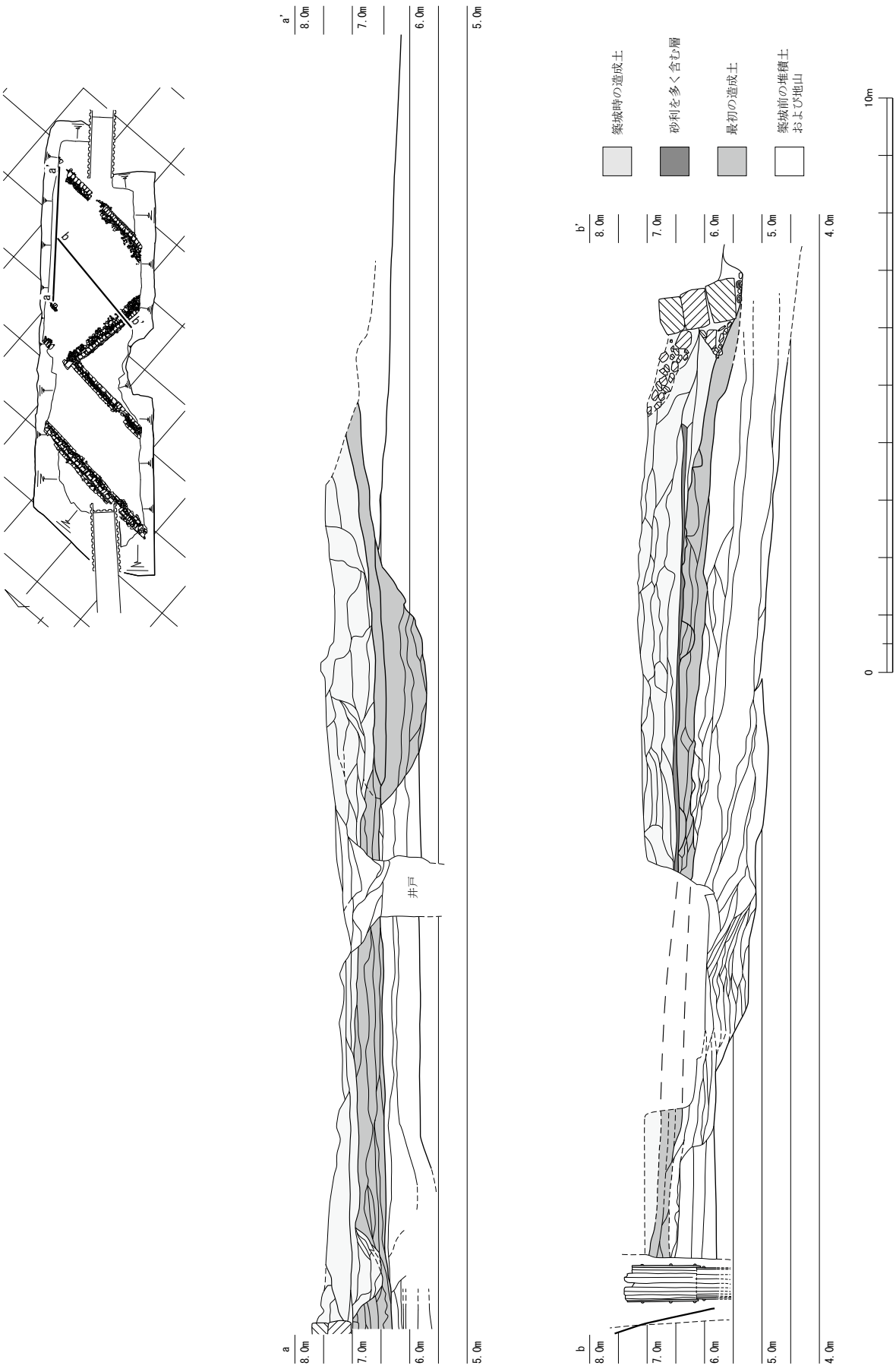
第134図　三ノ丸石垣下胴木組（縮尺 1/100）



第135図　三ノ丸石垣断面および堀内堆積状況（縮尺1/50）



第136図　三ノ丸枡形付近の石垣（縮尺1/100）



第137図　三ノ丸の造成土（縮尺1/100）

る可能性がある。そのほか、確認されるのは造成土中の落ち込みが多く、遺構と呼べるものは少ない。

三ノ丸の造成は、位置を定めて胴木組を設置した後、石垣を積み上げつつ盛土を施している。南石垣では、胴木を設置し根石を並べた後、背後の埋め立てを行っており、2石目を積んで裏込めに栗石を詰めた後、再び背後を嵩上げしている。この段階で広い平坦面ができ、小石が敷かれたように認められることから、作業としての区切りがあったことが窺える。なお、この平坦面には石垣の内側約6mにあたる位置にて平行に延びる溝803がある（第131図）。溝803は、検出長約14m、幅0.6 ～ 0.8m、深さ0.25m前後で、16世紀末までの遺物を含む。この溝は築城中のものであり、作業に関わるものと考えられる。枡形石垣の幅が約６ｍであるので、高石垣の内側の位置を示す可能性が考えられる。作業上、位置を示す必要があったのかもしれないが、次の嵩上げ時には埋没する。さらに、石垣の積み上げと造成土の嵩上げを繰り返して、三ノ丸を造成する。枡形石垣の高石垣も同様である。

2　土橋（第130図）

三ノ丸から延びる土橋は、絵図によると南へ25間（45m）延び、屈曲して東へ方向を変える。検出したのは三ノ丸南石垣から約30m分である。ほぼ南北方向へ延びるが、南側で約5°西へ傾く。土橋の東西両側面は石垣が積まれる。上面は砂利敷路面であり、標高6.5m前後で僅かに北から南へ下降する。路面の両脇には縁石状に延石が据えられる。延石と石垣の正面間の距離は1.3 ～ 1.8mと幅があるが概ね1.5m前後であり、それらの高さはほぼ揃う。この路肩部分は、絵図によると、石垣のない土居と同じ表記がされており、小さく土盛りがあった程度で塀等はなかったようである。

土橋東石垣（第138図）　検出した石垣は、5石程度までの石材が積まれた状態で残存し、最大高2.1m、正面の勾配約80°である。石垣石材の下端は標高4.7 ～ 6mで北から南へ下降する。ただし、根石として、最下段の石材を埋め込んで固定しており、見かけ上の石垣裾は標高5.3 ～ 6.0mである。なお、北端は三ノ丸南石垣の隅角部付近に接している。石垣の基礎構造は、検出されていない。

使用される石材は、最下段には0.3 ～ 0.6m大の比較的小さめで歪な石材が多いが、その他では0.9 ～ 1×0.6×0.4m大の石材が多く、長側面を正面として積む。いずれも笏谷石とみられる。

刻印は、検出した石材80石中30石に７種を確認した（第166図・第8表）。そのうち１種が19石を占め、一定の間隔をおいて分散した配置となる。なお、刻印が石垣の正面にある石材は2石である。

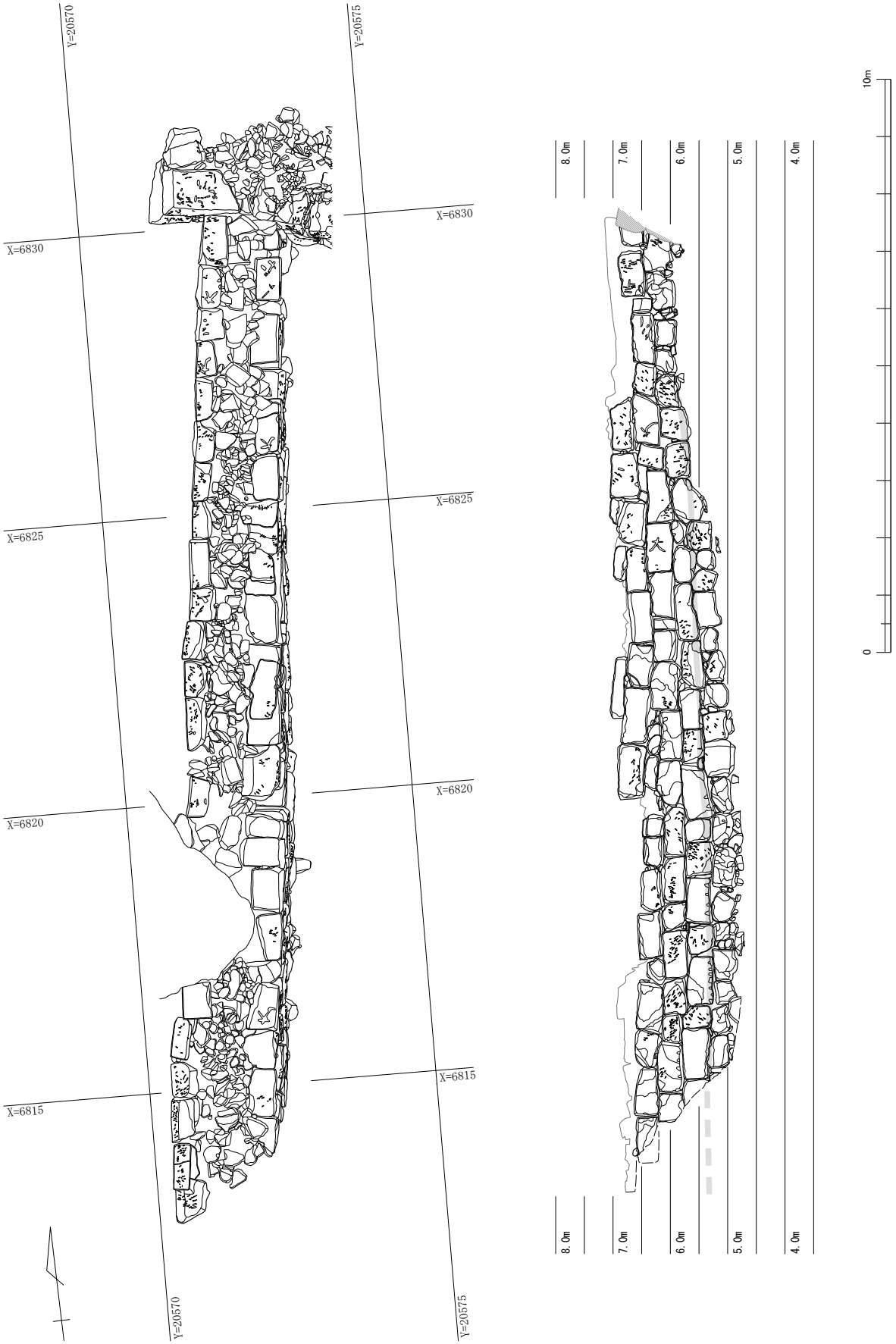
土橋西石垣（第139図）　検出した石垣は、最大７石程度の石材が積まれた状態で残存し、最大高2.5m、正面の勾配約77°である。石垣石材の下端は標高4.3 ～ 5mでやや波打ちつつも平らになるようである。ただし、根石として、最下段の半分程度から2段目の石材を埋め込んで固定しており、見かけ上の石垣裾は標高5.2m程度である。なお、石垣石材や割石等多量の石材を含む土砂で埋めて固定する。石垣の基礎構造については検出されていない。

使用される石材は、小さなものでは0.4×0.25m大、大きなものでは0.9×0.5×0.4m大であり、露出する部分に形の整った大きなものを、長側面を正面として積む。いずれも笏谷石とみられる。

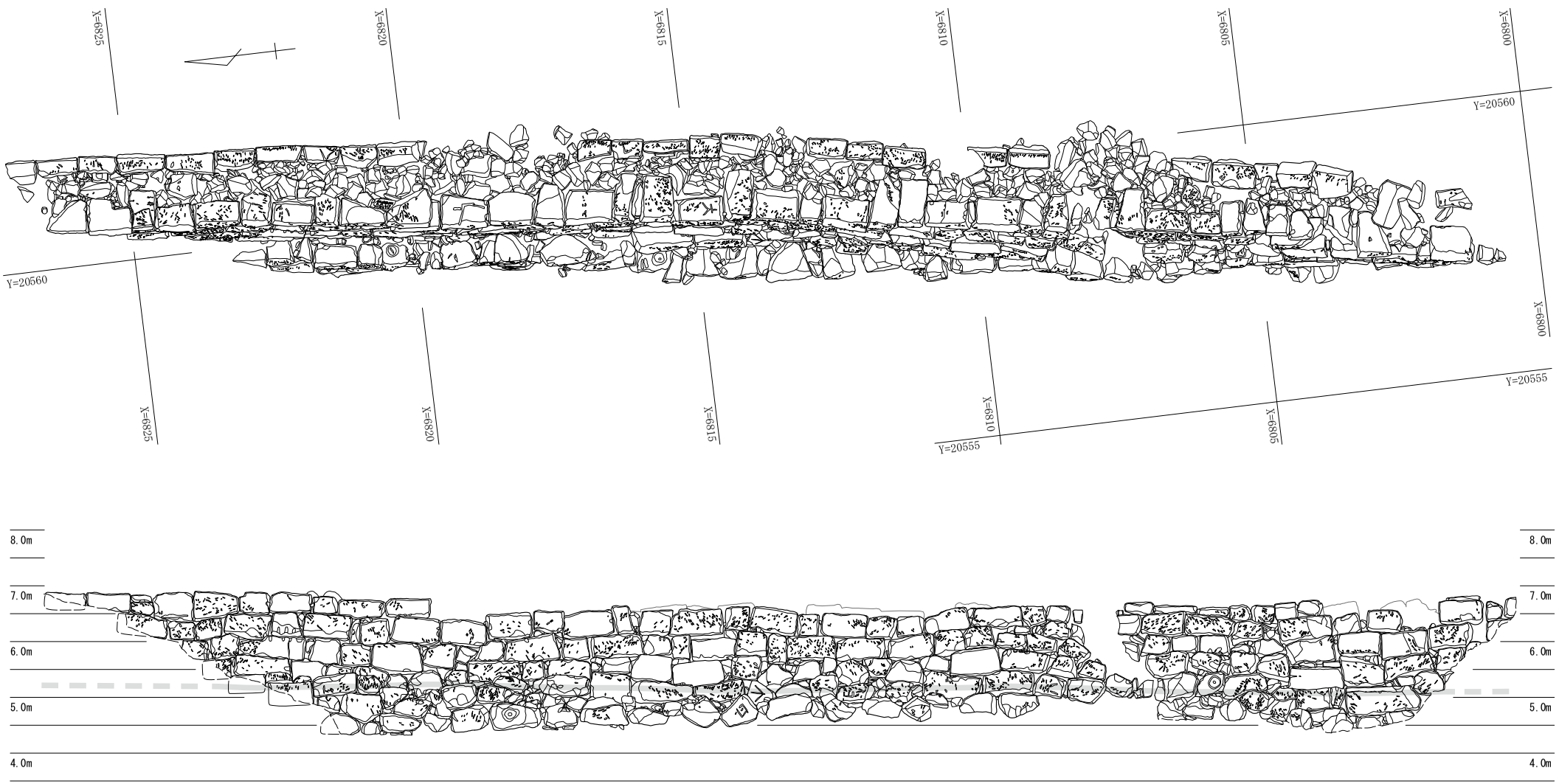
刻印は、検出した石材170石中68石に22種を確認した（第165図，第7・8表）。大きくて整った形状の石材には刻印がないものが多い。根石に当たる石材に刻印が多い。

縁石状延石列（第140図）　検出した延石列は東側約17.5m分、西側約24m分である。ともに１石を並べるのみで、残存する隅角部の高さとの比較より、もとから積み上げなかったものとみられる。使用される石材は概ね0.7×0.3 ～ 0.4×0.3m大で、表面に丸鑿等の調整痕が残る。すべて笏谷石製である。

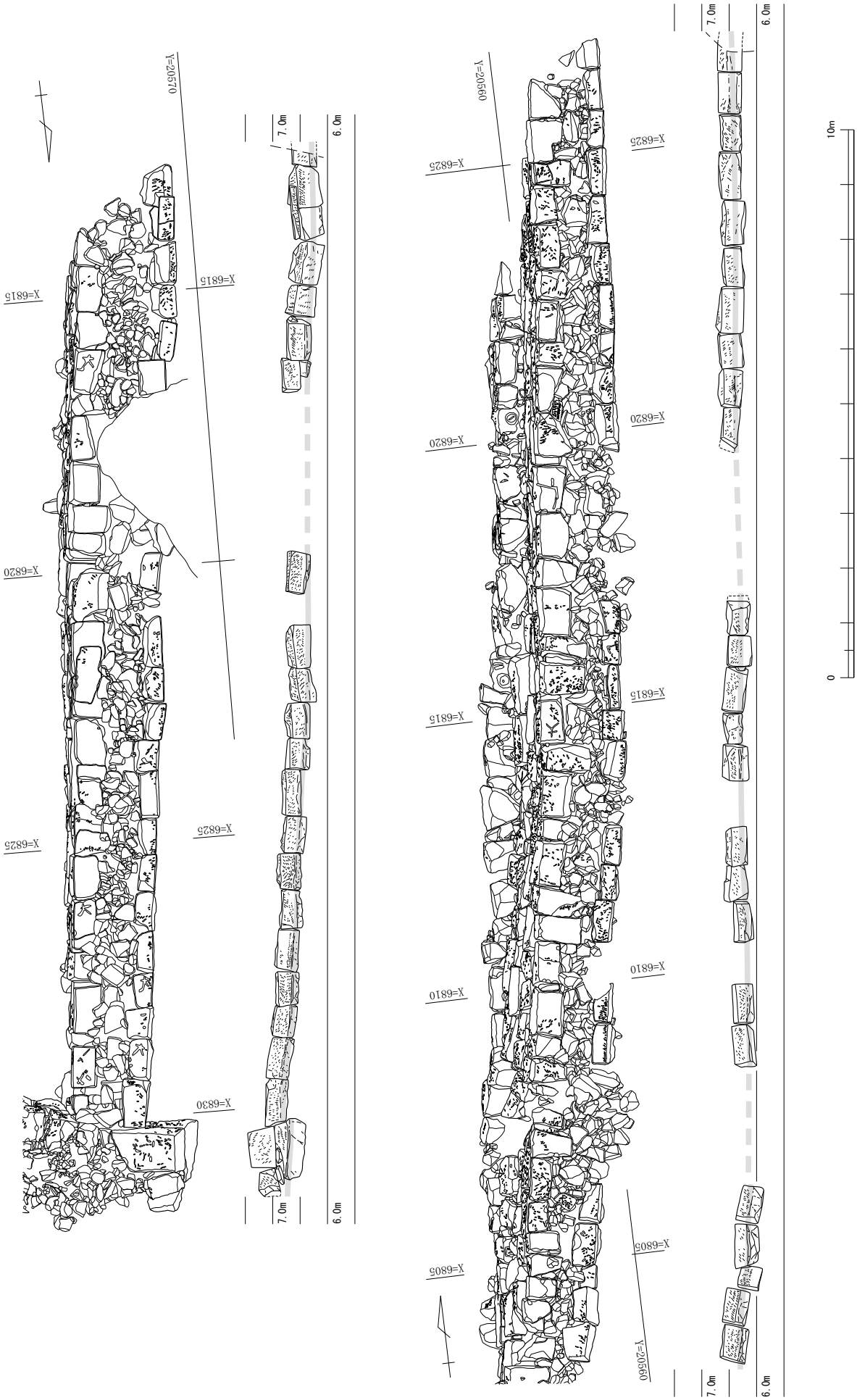
刻印は、東延石列20石中４石に２種を、西延石列27石中３石に３種を確認した（第167図・第9表）。



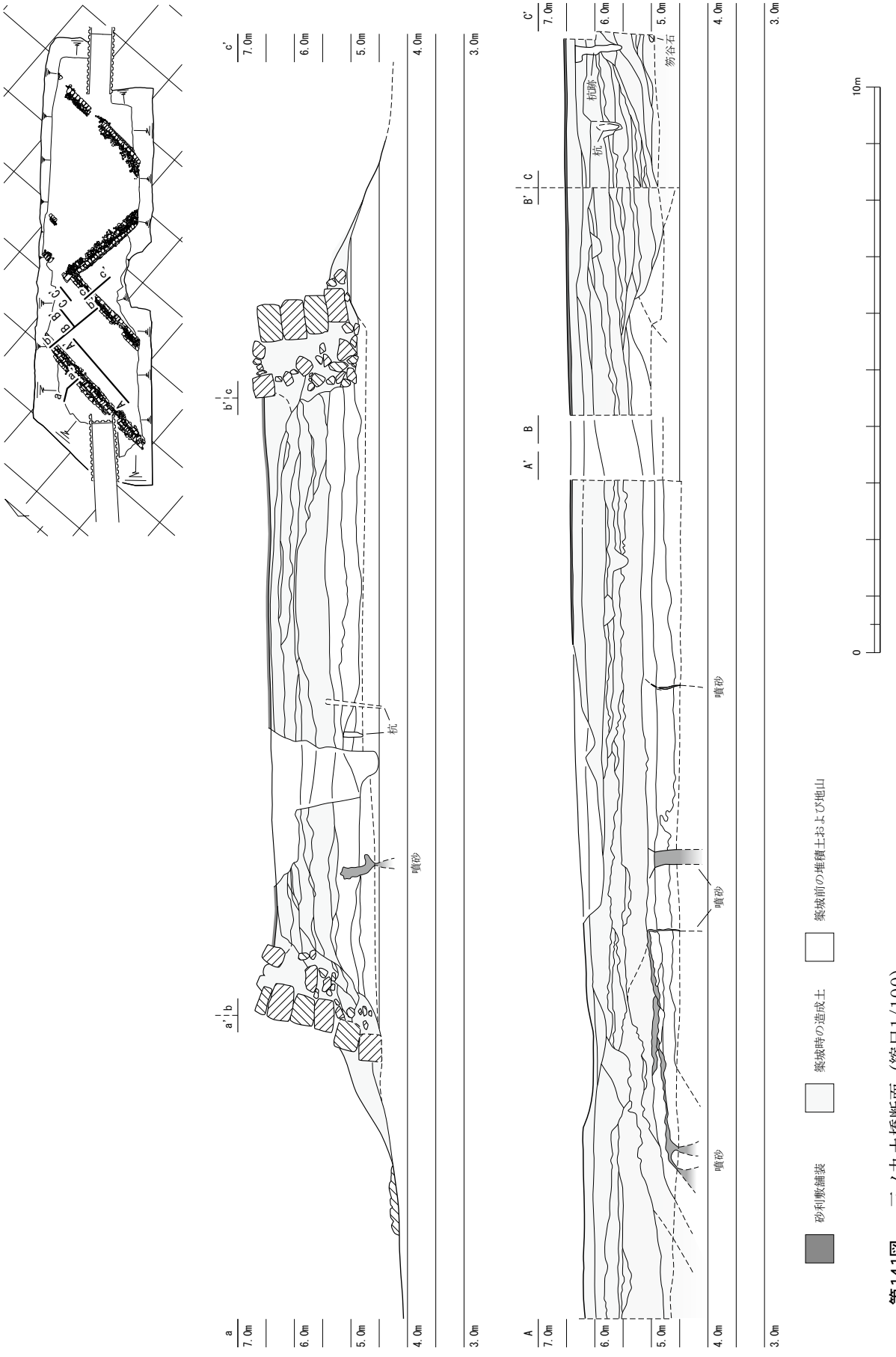
第138図　三ノ丸土橋東側石垣（縮尺1/100）



第139図　三ノ丸土橋西側石垣（縮尺1/100）



第140図　三ノ丸土橋縁石状延石列（縮尺1/100）



第141図　三ノ丸土橋断面（縮尺1/100）

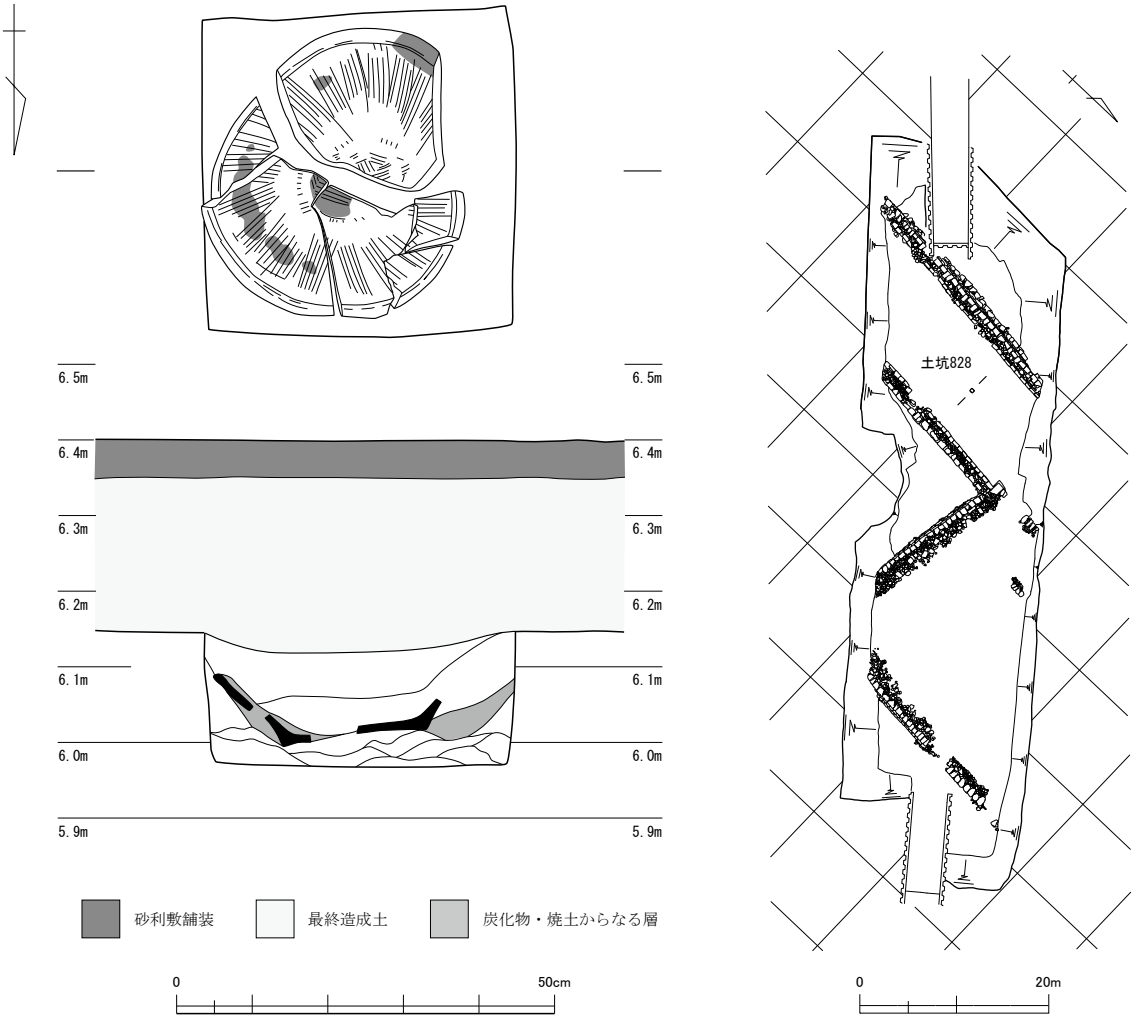
いずれも間隔をあけて配置されている。両延石列の刻印と土橋両側の石垣の刻印には共通するものが確認できるが、それぞれの石垣・石列にしか現れない刻印もある。

これらに基礎構造は特にないようであるが、各石材の下部0.1 ～ 0.2mを埋め込んで固定する。

土橋の造成（第141図）　土橋の造成は、まず位置を定めて、石垣を２段程度積み上げてから、内側に盛土を施している。石垣の積み上げと造成土の嵩上げを繰り返し、必要な高さに達したら上面を整える。ここまでの工程を、三ノ丸南石垣から約20mまで仕上げた後、さらにその先の造成を始めている。縁石状延石列を設置するのは最終工程の段階とみられるが､その後に砂利敷舗装が施されて竣工となる。

なお、最終盛土が施される前に、地鎮的行為のなされた痕跡とみられる土坑828がある。

土坑828（第142図）　東西の縁石間は約9.4mであり、その中央に土坑828は位置する。また、土坑828から土橋の中央軸線上を約9.4m三ノ丸側へ進むと、南石垣の隅角部と並ぶ位置となる。土坑は、一辺約0.4mの方形で、深さ0.18mである。土坑の各辺は、土橋の延長方向が北から約5°東へ傾くのに対し、ほぼ正しく方位に沿う。土坑内から１個体の擂鉢が出土したが、割れて破片が足りない状況であったことから、他所で破砕したものを埋めたものと考えられる。擂鉢は被熱して煤けた状態であり、炭化物や焼土粒等と一緒に埋められていた。その後、土橋上に最終盛土を施し、砂利敷舗装をしている。



第142図　土坑828（縮尺1/50・1/800）

第４章　中世の遺構

第１節　中世北庄の歴史

福井城が築かれた地は、もと北庄と呼ばれ中世以来の町であった。町としての北庄の名が文献に現れるのは、15世紀後半のことである。この地は、足羽川と北陸道が交わる水陸交通の結節点であるとともに、足羽川北岸の足羽庄と南岸の社庄・木田庄といった異なる支配領域の境界に位置し、物資の交易にとって恰好の場所であった。南北朝から室町時代にかけて勢力を伸ばし、越前一国を支配した朝倉氏は、一乗谷に本拠を置くと共に国内の要地に一族を配した。北庄には、一乗谷初代孝景の時に朝倉土佐守が入り、館を構えたとされる。しかし、この館に関する遺構は、これまでの調査で確認されていない。

天正元年（1573）の朝倉氏の滅亡後、一向一揆の蜂起を経て、天正３年に柴田勝家が北庄に入る。柴田は越前支配の拠点を一乗谷から北庄に移すこととし、城郭の建設とともに、一乗谷を始めとする国内各地から商人・職人を移り住ませた。天正９年に北庄を訪れたイエズス会宣教師のルイス・フロイスは、書簡の中で、まだ工事中ながら石瓦が葺かれた城や屋敷の美観について記しており、このころには城郭の整備がかなり進んでいたことが分かる。本能寺の変の後、豊臣秀吉と対立した柴田は、天正11年の賤ヶ岳の合戦に敗れ、北庄落城に伴い自刃する。

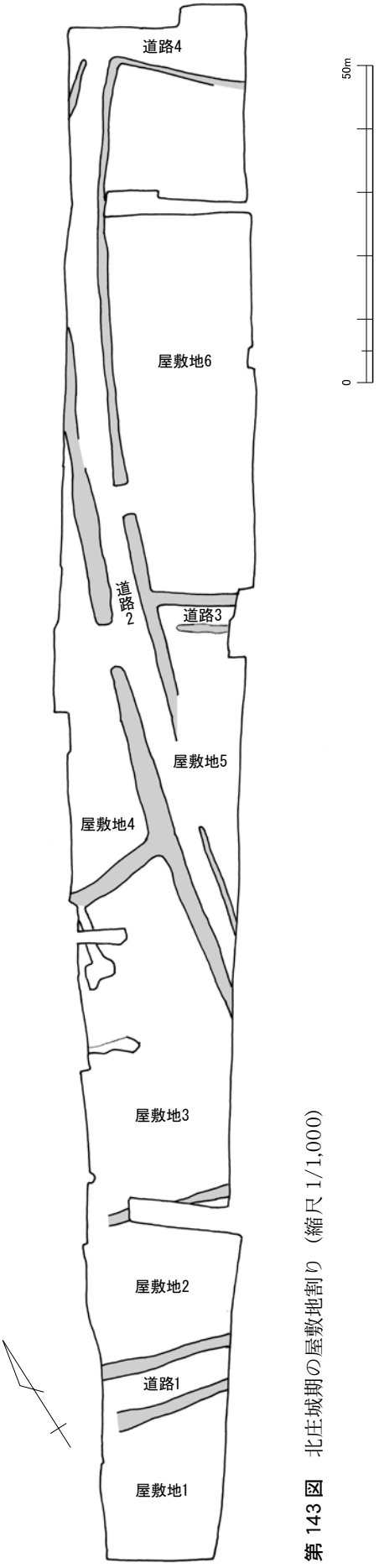
その後、北庄城主は丹羽長秀・長重、堀秀政・秀治、小早川秀秋、青木一矩が数年おきに交代する。最後に、慶長５年（1600）の関ヶ原の合戦の結果を受けて、結城秀康が越前一国を拝領し、以後福井城主は松平家が受け継いでいく。

第２節　北庄城期の遺構

１　屋敷地割り

今回の調査では、FKJ00－３調査区を中心に、近世遺構の下層から中世の遺構が見つかった。ここでは、朝倉氏滅亡以前の遺構を北庄期、朝倉氏滅亡から結城秀康による福井城築城までの遺構を北庄城期と呼ぶことにする。北庄期の遺構は非常に少ないので、ここでは、まず北庄城期の遺構を屋敷地ごとに見ていき、最後に北庄期の遺構について触れる。

北庄城期の状況を伝える城下絵図は残っておらず、ここではFKJ00－３調査区を、道路および区画溝によって６つの区画に分けた（第143図）。南から見ていくと、道路１より南の区画が屋敷



第143図　北庄城期の屋敷地割り（縮尺 1/1,000）

地１、道路２と溝32166・32167に挟まれた区画が屋敷地２、溝32166より北で東は道路２および溝3325、北は溝33448に囲まれた区画が屋敷地３である。また、溝33448より北で道路２の西側にある区画を屋敷地４、道路２の東側で道路３の南側の区画が屋敷地５、道路３の北側で道路４に至るまでの区画が屋敷地６である。

なお、FKJ00－５・６調査区でも北庄城期の遺構が検出されているが、数が少なく、屋敷地割りを設定することはできなかった（第148図）。その他の調査区では中世の遺構はほとんど確認されていない。

２　道路・屋敷地境溝

1) 道路１（第144図）

道路１は東西に走り、屋敷地１と２を分ける。幅約5.0ｍで、長さ18.0ｍ分を検出した。砂利敷き等の舗装は確認できなかったが、上面が平らで両側に溝（31104・31106）を伴うことから道路と推定した。溝はともに幅約2.5m、深さ約0.8ｍである。

2) 道路２（第145 ～ 147図）

道路２は南北に走り、屋敷地３・４と屋敷地５・６を分ける。幅は約5.0ｍで、長さ約75.0ｍ分を検出した。全体として東にゆるく曲がり、両側に溝（3225・33359・34244・34371・34372・34554・36013）を伴う。道路上面は一部に砂利敷きが残り、本来は舗装されていたと考えられる。

西側側溝（第84・160・161図）　道路２の西側の溝3325は北で溝34554につながり、屋敷地６の門１（34614）前の土橋で途切れ、その北は溝34372として北に伸び、一度調査区外に出た後、再び溝36013として現れる。溝3325と34554は本来一連のものであるが、近世に埋められた部分に溝34554の番号を、近世になっても残り、屋敷地境溝として機能した部分に溝3325の番号を付した。ともに、幅は約3.0m、深さは約1.6ｍである。溝34372は幅3.0m、深さ1.5ｍで、中央部に南に面を持つ石列34374がある。溝が一定程度埋まった段階で作られており、対になる石列は確認できなかったが、土橋があった可能性がある。溝36013は上部が削平され、幅1.0ｍほどになっている。

東側側溝（第149・158・159図）　道路２の東側の溝34371は土橋34660で途切れ、その北は溝34244として北に伸び、道路４の側溝36175につながる。溝34371は幅約2.0m、深さ約1.0ｍである。南寄りの部分は、ゆるやかに東に曲がり、幅も1.0ｍと狭くなる。溝34244は幅約2.4m、深さ約1.8ｍで、北に行くほど上面が削平され、幅が狭くなっている。土橋34660は幅5.0ｍで、南北に石積みがある。溝が0.8ｍほど埋まった段階で作られており、それ以前は溝34371と34244は一連のものであったと考えられる。道路２の南端部に沿って溝33359が南北に走る。幅0.7ｍで、土層断面から、溝34371が埋められた段階で作られていることが分かる。

3) 屋敷地境溝（第145図）

溝32166・32167は屋敷地１と２の境溝である。その間は信号ケーブルが設置されていたため調査できなかったが、方向や深さから一連の溝と考えられる。溝の方向は道路１にそろい、幅は2.0ｍである。

溝33448は屋敷地３と４の境溝で、幅は3.0 ～ 3.5m、深さは約1.2ｍである。本来は自然河川だったと推定され、蛇行しながら調査区を横切っていたが、北庄城築城時に溝3325より東側は埋められ、西側は掘り下げられて屋敷地境溝とされた（第158図）。

4) 道路３（第146図）

道路３は東西に走り、道路２にほぼ直角に取り付く。幅は約3.0ｍと他の道路より狭く、砂利敷き等の舗装は確認できなかった。

側溝（第160・161図）　これも両側に側溝34471と34670を伴うが、側溝34471が道路２の側溝34371につながっているのに対し、側溝34670はつながらずに2.0m程離れている。このことから道路３が道路では無い可能性も残されている。側溝34471の幅は約2.0m、深さは1.5mで、側溝34670は幅約1.5m、深さ約0.9mである。

石垣（第149・160図）　側溝34471と34371の合流点の南側に石垣34470が一部残っている。溝の壁面に平坦面を作り笏谷石を積んでいる。検出時には４段程が残っていた。これが溝34371と34471のどちらに沿って伸びていたのかは不明である。

5) 道路４（第147図）

道路４は東西方向に走り、道路２にほぼ直角に取り付く。北側の端部が確認できなかったため、幅は不明である。砂利敷き等の舗装は確認できなかった。南側に側溝36175が伴い、幅約1.2m、深さ約1.3mである（第162図）。なお、この道路にほぼ重なるように、近世の道路５が作られる。

３　屋敷地

1) 屋敷地１（第144図）

FKJ00－３調査区の南端に位置し、屋敷地の北は道路１によって屋敷地２と区画される。屋敷地南境は不明であるが、近世の中之馬場南石垣付近にあったと推定すると、屋敷地の南北距離は約30.0mである。屋敷地内は近世および近代の撹乱が著しく、溝と土坑が一つずつ見られるだけである。溝31126は検出長12.5m、幅1.0mで道路１に並行し、西端部で直角に南に折れるようである。

2) 屋敷地２（第144・145・162図）

屋敷地１の北に位置し、南境は道路１が、北境は溝32166・32167が相当する。屋敷地の南北距離は約20.0mである。主な遺構は井戸、溝、土坑である。

井戸（第154図）　井戸3195は屋敷地のほぼ中央に位置し、井戸側として直径0.7mと0.6m、高さ1.0mの桶が上下に２段残る。掘方の長径は1.8m、検出面からの深さは3.5mある。地震によって井戸側は南に大きく傾いている。

土坑（第162図）　井戸の南西側や東側では、土坑31116の他、３～５基の土坑が切りあった状況で見つかり、ゴミ穴と考えられる。このゴミ穴群の西側には遺構の見つからない空閑地が広がる。

溝　溝32179は屋敷地境溝32166と2.5m離れて平行に走る。幅0.7mで、土師質皿や灰釉皿・鉄釉皿等の出土遺物群の組合せから北庄期に遡る可能性がある。

3) 屋敷地３（第145図）

屋敷地２の北に位置し、南境は溝32166・32167、北境は溝33448、東境は道路２が相当する。屋敷地の南北距離は約47.0mである。屋敷地の中央部は、近世の池や溝によって大きく破壊されている。主な遺構は井戸・溝・土坑である。

井戸（第156･157図）　井戸32171は一辺0.9m四方の木組みの井戸側が残存する。井戸側の構造は、四隅に立つ角柱をそれぞれ３本の貫で固定し、その貫の外側に幅0.3～0.4mの板を立てるというものである。完掘できなかったが、検出面からの深さは2.0m以上ある。井戸32174は、上部に板石組みの、下部に桶の井戸側が残る。板石組の井戸側は、長さ0.8m、幅0.4mの笏谷石の板石４枚を組んで作られており、２段分が残存していた。板石には、噛み合わせのために両端に抉りを持つものもある。板石組みの下には、支えとして井桁状に組んだ角材があり、その下には部分的に板材が敷かれていた。桶の井戸側は直径0.7mで、完掘されていないが２段以上ある。桶の周囲には杭が数本打ちこまれているが、

その位置から、これは板石積みの下にある井桁を支えるためのものと考えられる。井戸の掘方は長径2.3m、検出面からの深さは3.0m以上ある。

溝（第158図）　屋敷地の北西部に溝32159・32161がある。溝32161は幅4.0mであるが、流路の方向もよく分からない。16世紀末の陶磁器が出土しており、土坑と自然流路が一緒になっている可能性もある。溝32159は西から東に延び、ゆるやかに南に折れる。17世紀初頭の溝によって北側が切られている。溝32186・32187は、南側の屋敷地境溝32166・32167とほぼ平行で、幅1.2m、深さ1.0mある。これを井戸32171が切っていることから溝の方が先行する。

4) 屋敷地４（第145 ～ 147図）

屋敷地４は屋敷地３の北にあり、道路２の西に位置する。南境は溝33448、東境は道路２が相当する。屋敷地が調査区外になっている部分もあり、北境を確認ができなかったので、ここでは道路４までの南北距離120mの範囲を一つの屋敷地として扱う。主な遺構は門、土塀基礎、暗渠、溜桝である。

門（第151図）　東側の道路２に対して門１（34614）が開く。根石が４カ所残ることから、礎石建ちと考えられ、柱間寸法は心心間で間口・奥行きとも3.2mである。門の中央よりやや東に寄った部分にも、浅い穴が南北に並ぶ。これがこの礎石建ちの門と一体のものか、それに先行する門の遺構なのかは不明である。門内には砂利敷きが残り、舗装されていたことが分かる。

土塀基礎（第151図）　門の南北には笏谷石の石列がＬ字状に残り、これを基礎とする土塀があったと推定される。屋敷地内側に面した石列はしっかり残るが、外側は残っていないため幅は不明である。門両側の石列の折れ曲がり部が土塀の幅を反映しているとすると、幅2.0mと推定される。また、門の形式は、間口と奥行きが同寸法で、両側にしっかりとした土塀があることから櫓門が考えられる。

暗渠（第152図）　門の南側の石列の下には、暗渠34869がある。長さは4.0m、水路の幅は0.4mである。水路部分は長さ0.8m、高さ0.5mほどの笏谷石の板石を両側に立て、上に不揃いの笏谷石を並べて蓋にし、板石の裏や蓋石の隙間には拳大の笏谷石を詰めている。水路の底から木材の断片が出土しており、板材が敷かれていた可能性がある。土塀の幅が2.0mとすると、この暗渠は内側に0.7m、外側に1.3mはみ出ている。暗渠の西は溝が調査区外へと延び、東は溝34554につながっている。屋敷地の排水に利用されたものである。

溜桝（第153図）　門３と暗渠34869の西側に、溜桝34450がある。内法で長さ2.0m、幅1.1m、深さ1.2mで、笏谷石を２～３段積んで作られている。底は中央付近が長径1.0m、短径0.4mの大きさで0.2m程深くなっている。出土遺物は少なく、土師質皿や瀬戸鉄釉瓶、中国製の染付皿等が出土している。

5) 屋敷地５（第145・146図）

屋敷地５は道路２の東に位置し、北境は道路３が相当する。屋敷地の西に沿って走る溝34371は南が大きく東に湾曲する形をしているが、土層断面の観察によると、後に湾曲部を埋め、新たに溝33359を掘ることで、全体として直線的な構造になるように改修された。屋敷地内の主な遺構は、柵列、建物跡、井戸である。

柵列　柵列33933は溝33359に沿って南北に延びる。検出長は12m程で、この間に直径0.3 ～ 0.5m、深さ0.4m前後の柱穴が16 ～ 18基、一直線上に並ぶ。柱穴からの出土遺物は無いが、道路２の側溝である33359に沿っていることから、これらと同時期とみてよい。

建物（第150図）　屋敷地の北西隅に掘立柱建物１がある。柱穴の直径は0.25mから0.5mとばらつきが有る。建物の規模は、東西4.6m（２間）、南北6.2m（３間）で、内部には柱穴や床を支える束穴等は

無い。床の無い小屋のような建物であろうか。道路２とほぼ平行になるように建てられている。

井戸　井戸33446は、長径2.9m、検出面からの深さ1.5mの素掘りの井戸で、上部は近世後半期の池で破壊されている。溝33359と34371に挟まれた位置にあり、近世初頭のものの可能性もある。

6) 屋敷地６（第146・147図）

屋敷地６は道路２の東に位置し、南境は道路3、北境は道路４が相当する。南北距離が82mもあるが、この間に屋敷地境と考えられる溝や石垣が検出されなかったので、一つの屋敷地として扱う。この屋敷地は近世の撹乱や削平が著しく、北庄城期の遺構はあまり残っていない。主な遺構は石垣、門である。

石垣（第149・159図）　石垣34346は屋敷地西側に、溝34371・34244に沿って南北に走る。長さは門34656の部分を含めて30mあり、残存高は0.8m前後で２～３段の石が残る。内側には拳大よりやや大きい裏込め石が詰められており、裏込め部を含めた石垣の幅は約1.2mである。この石垣は門2によって南北に分かれている。南側の石垣南端部はL字状に折れて途切れているが、本来ここで終わっていたのか、さらに東に向かって延びていたのか不明である。石垣の北端部は、門２の手前で東に折れ、2.0m行った所で南に折れて終わっている。この部分は築造当初の状況が残っていると考えられる。北側の石垣は南北端部とも、撹乱によって失われている。しかし、門２に接する部分は、南側の石垣と同じ構造であったと推定できる。石垣は溝34371・34244の東壁に平坦面を作り積まれている。石垣上にはおそらく土塀があったと考えられる。

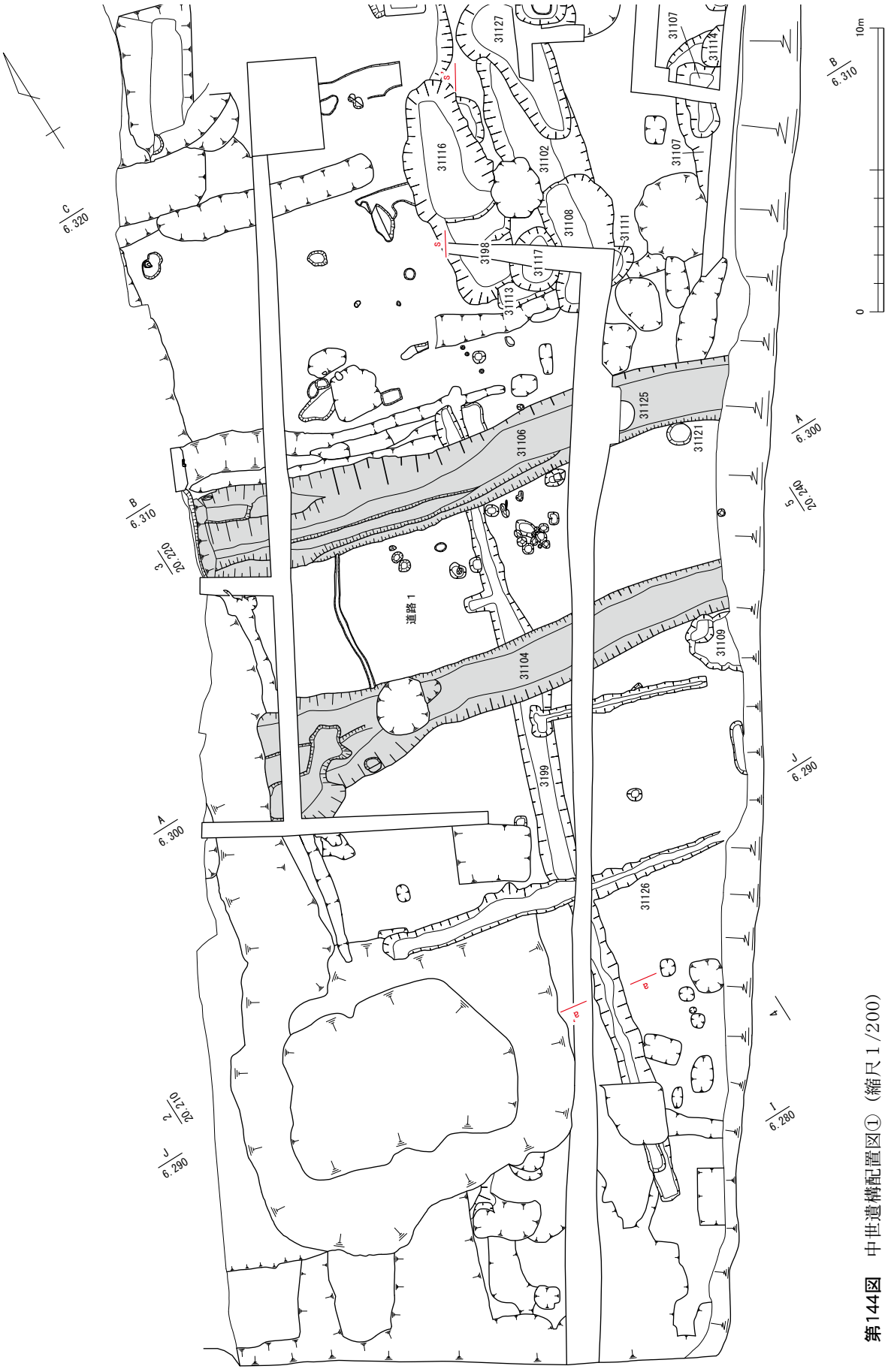
門（第150図）　門２は石垣34346が途切れた部分にあり、４基の柱穴が直線上にならぶ。外側の柱穴の方が大きく、直径0.7mと1.0m、内側の柱穴は0.5mと0.7mで、深さはいずれも0.4～0.5mである。内側の柱穴の間隔は心心間で2.4m、外側のそれは3.8mである。門の構造はよく分からないが、屋根の付かない冠木門が想定される。門の前には溝があるが、土橋を設けた痕跡は無く、木造橋が掛かっていたものと考えられる。前節で述べたように、この門の南側にある土橋34660は、溝の築造当初には無く、溝が一定程度埋まった後に作られている。このことから、屋敷地６の当初の出入り口は門２に当たり、後に土橋34660の位置に移ったものと想定される。

7）FKJ00－5・6調査区の遺構（第148・161・162図）

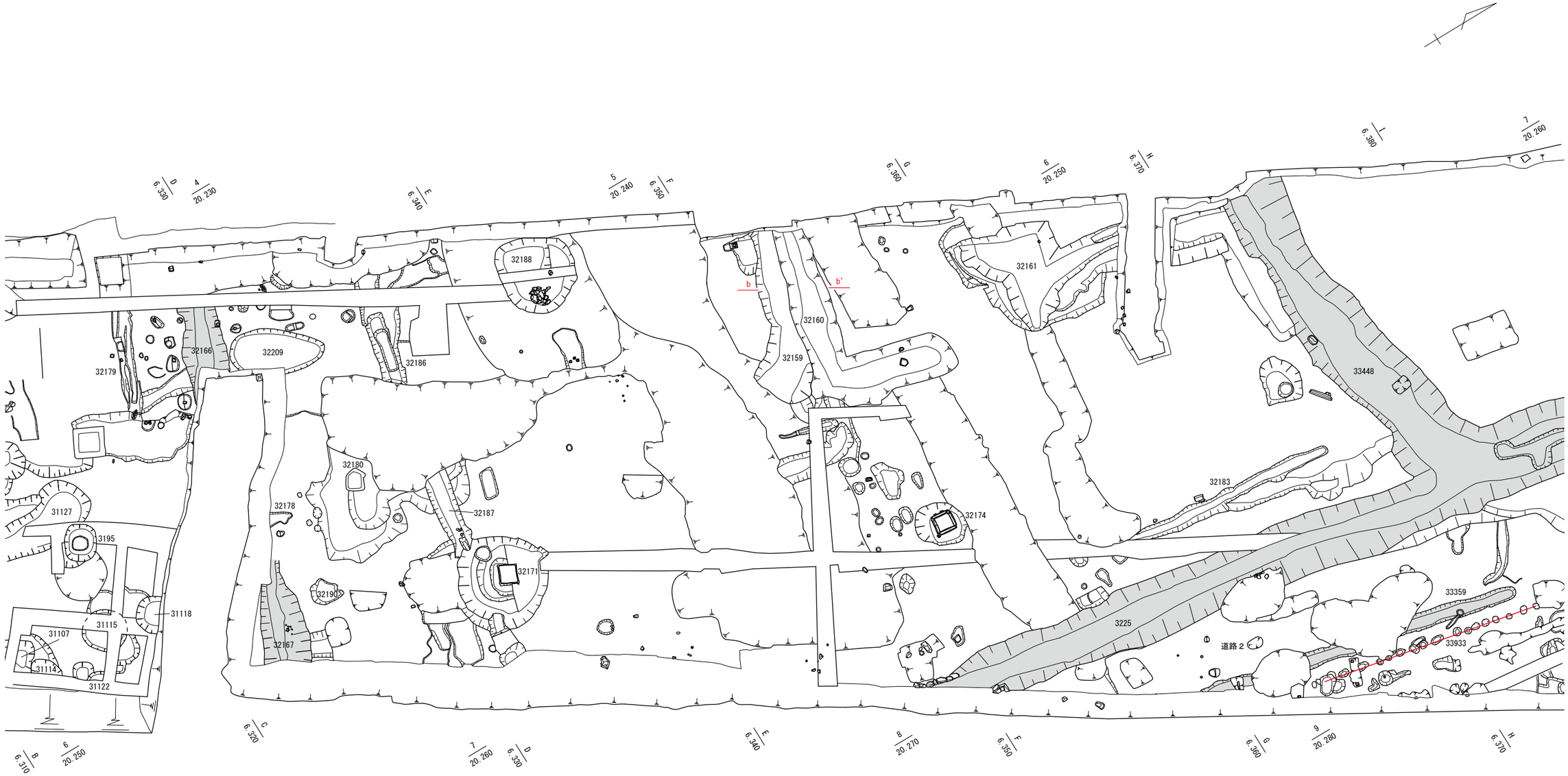
この調査区の北庄城期の遺構は少なく、溝、土坑が数カ所検出されているだけである。溝5355は検出長18.0m、幅1.0m、深さ0.3mで、北西から南東の方角に走る。溝63165は検出長21.0m、幅3.0m、深さ0.6mで、蛇行しながら北東から南西に走る。人工の溝ではなく自然流路と考えられる。溝53218は、検出長9.5m、幅3.4m、深さ1.0mのものである。他にも土坑が検出されているが散発的である。

第３節　北庄期の遺構（第144・155・158・161図）

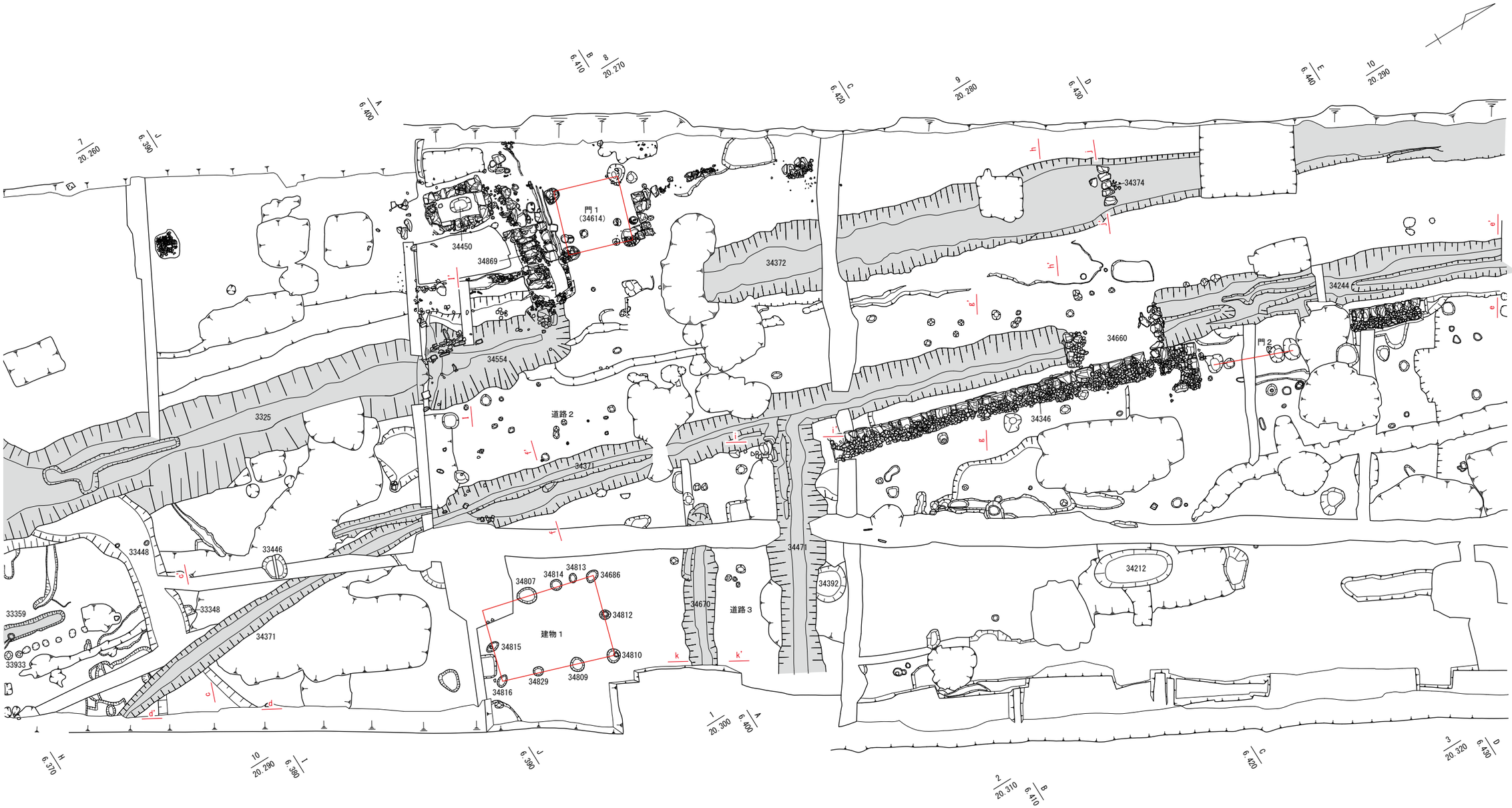
朝倉氏滅亡以前の北庄期の遺構のうち主なものは、FKJ00－３の南端部、北庄城期の屋敷地割りでは屋敷地１や道路１付近に固まっている。主な遺構は溝、井戸、土坑等である。溝3199は検出長29.0m、幅1.0m、深さ0.8mで、南北に走る。井戸31121は素掘りで、直径1.0m、検出面からの深さ2.0mである。井戸31125も素掘りで、直径1.0m、検出面からの深さ2.0mである。ともに地震の影響によって、標高4.5～5.0m付近で、上部が南に向かってずれている。また、FKJ00－５調査区で検出された溝5466もこの時期のものである。検出長15.0m、幅1.4m、深さ0.8mで、北東から南西に延びる。



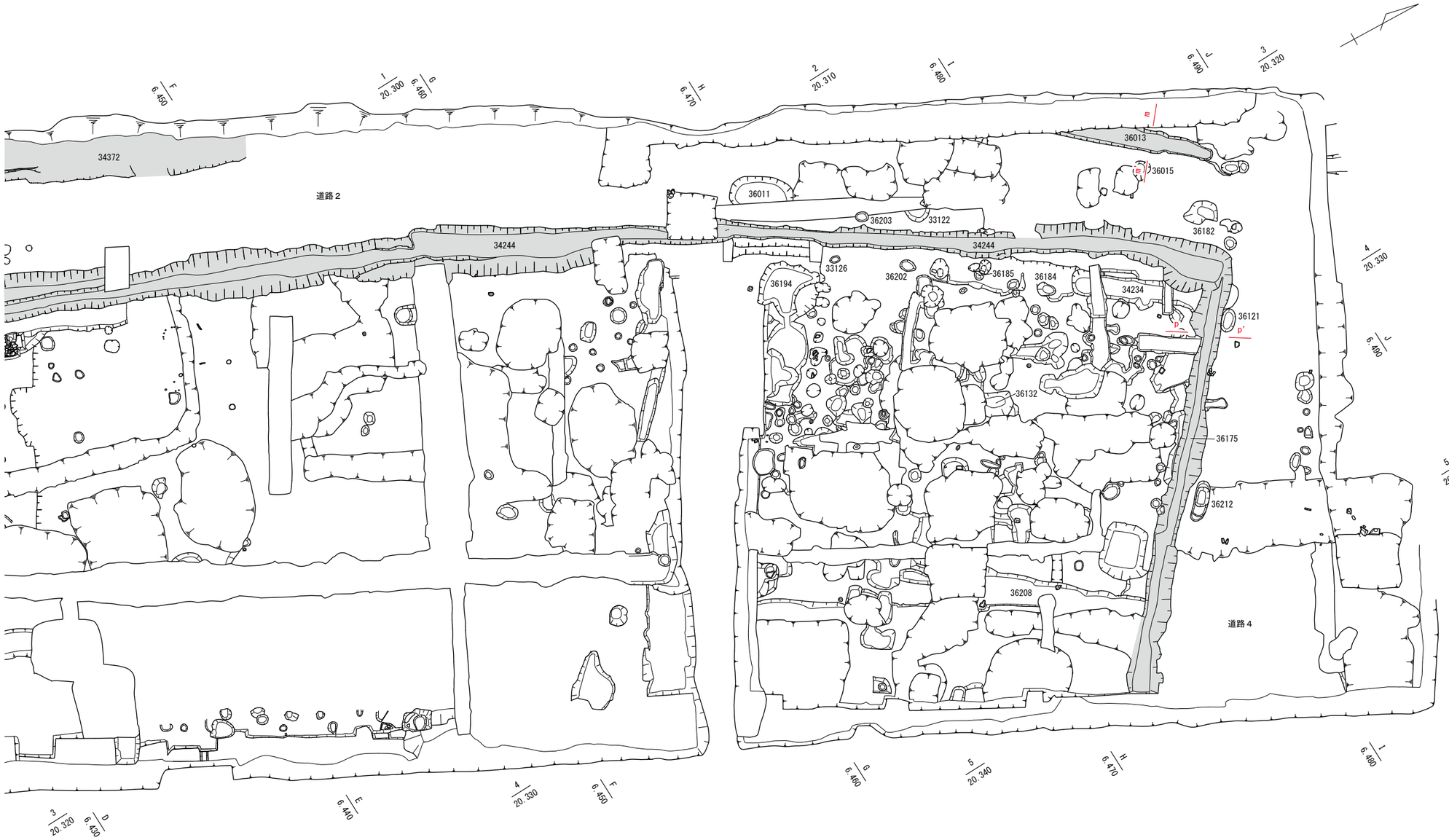
第144図　中世遺構配置図①（縮尺１/200）



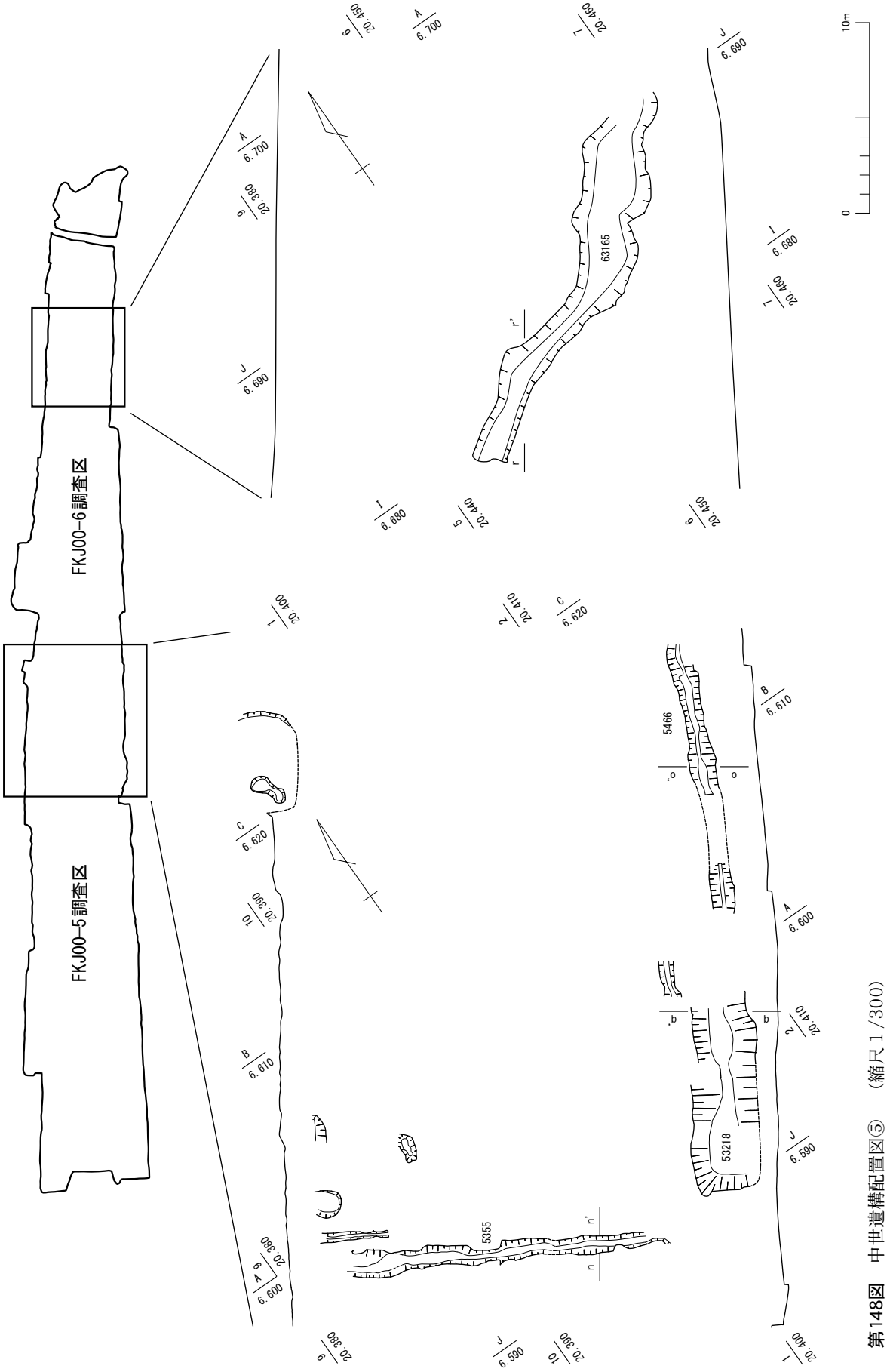
第145図　中世遺構配置図②（縮尺１/200）



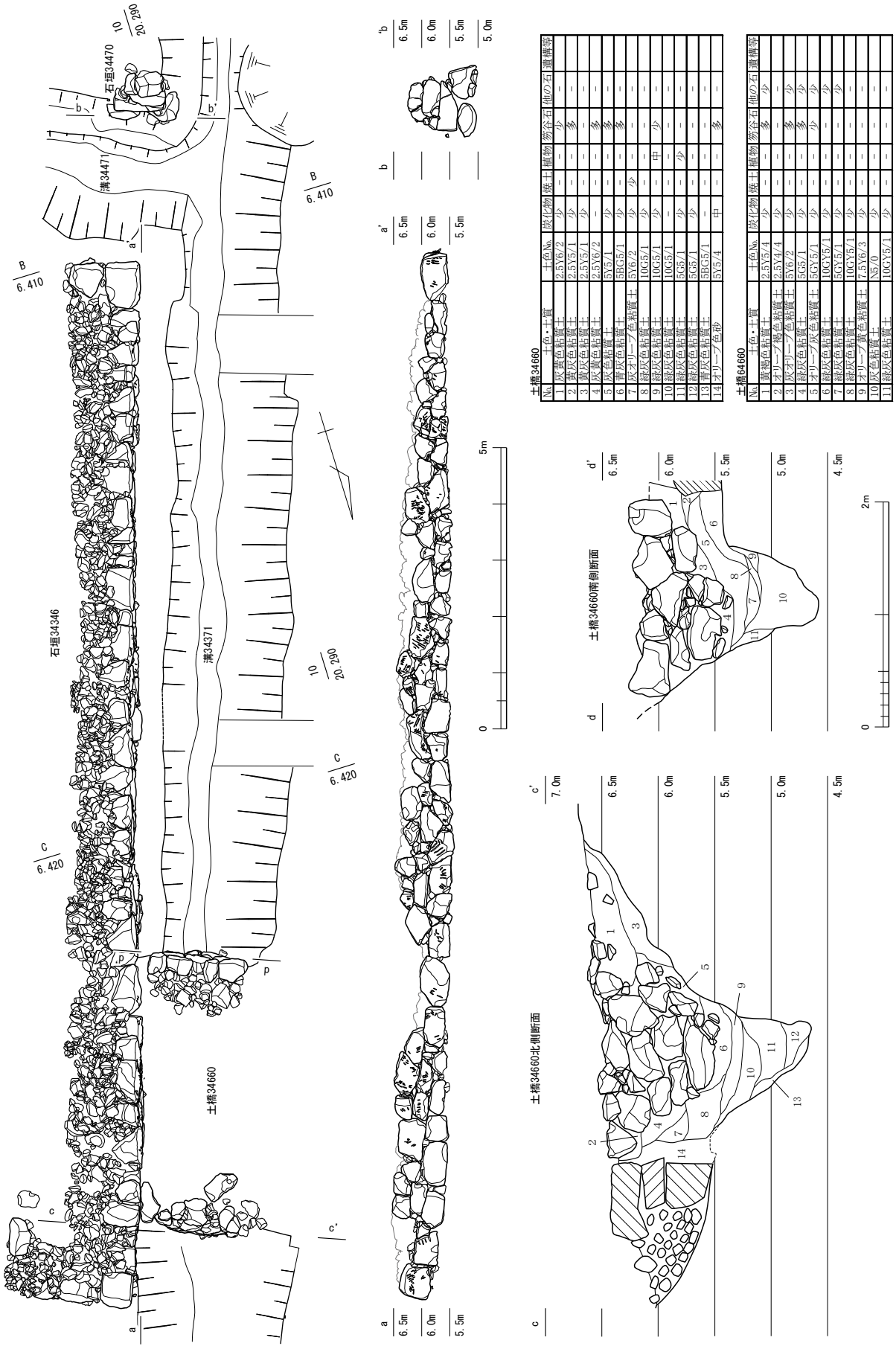
第146図　中世遺構配置図③（縮尺１/200）



第147図　中世遺構配置図④（縮尺１/200）



第148図　中世遺構配置図⑤　（縮尺1/300）



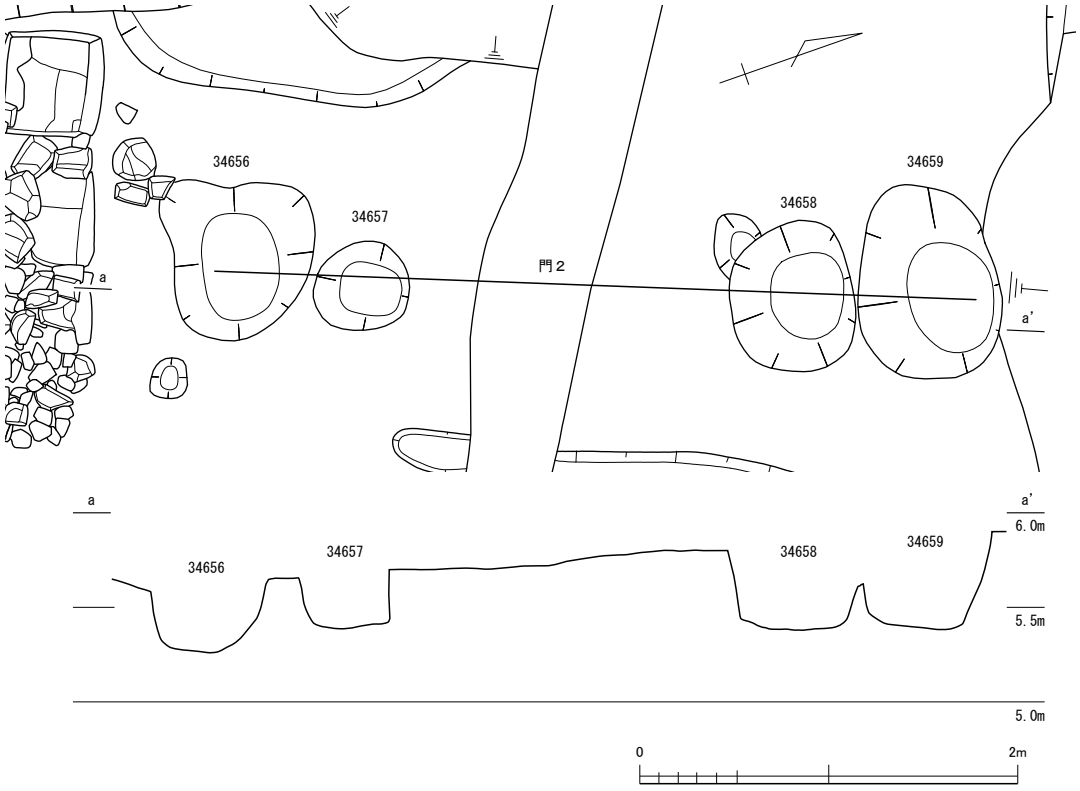
土橋34660

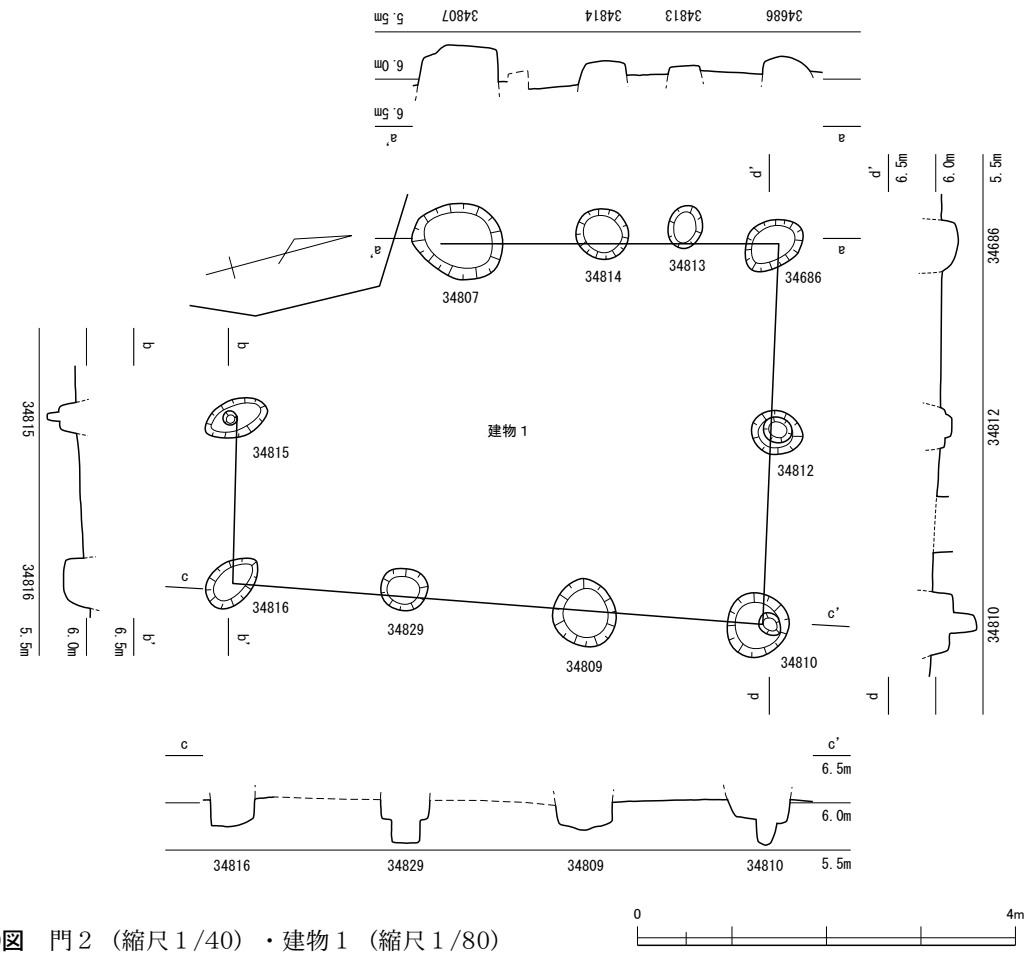
No.	土色・土質	土色No.	炭化物	焼土	植物	勢谷石	他の石	遺構等
1	灰黄色粘質土	2.5Y6/2	少	–	–	少	–	
2	褐灰色粘質土	2.5Y5/1	少	–	–	多	–	
3	黄灰色粘質土	2.5Y5/1	少	–	–	–	–	
4	灰黄色粘質土	2.5Y6/2	–	–	–	多	–	
5	灰色粘質土	5Y5/1	少	–	–	多	–	
6	青灰色粘質土	5BG5/1	少	–	–	多	–	
7	灰オリーブ色粘質土	5Y6/2	少	少	–	–	–	
8	緑灰色粘質土	10G5/1	少	–	–	–	–	
9	緑灰色粘質土	10G5/1	少	–	中	少	–	
10	緑灰色粘質土	10G5/1	–	–	–	–	–	
11	緑灰色粘質土	5G5/1	少	–	少	–	–	
12	緑灰色粘質土	5G5/1	少	–	–	–	–	
13	青灰色粘質土	5BG5/1	–	–	–	–	–	
14	オリーブ色砂	5Y5/4	中	–	–	多	–	

土橋64660

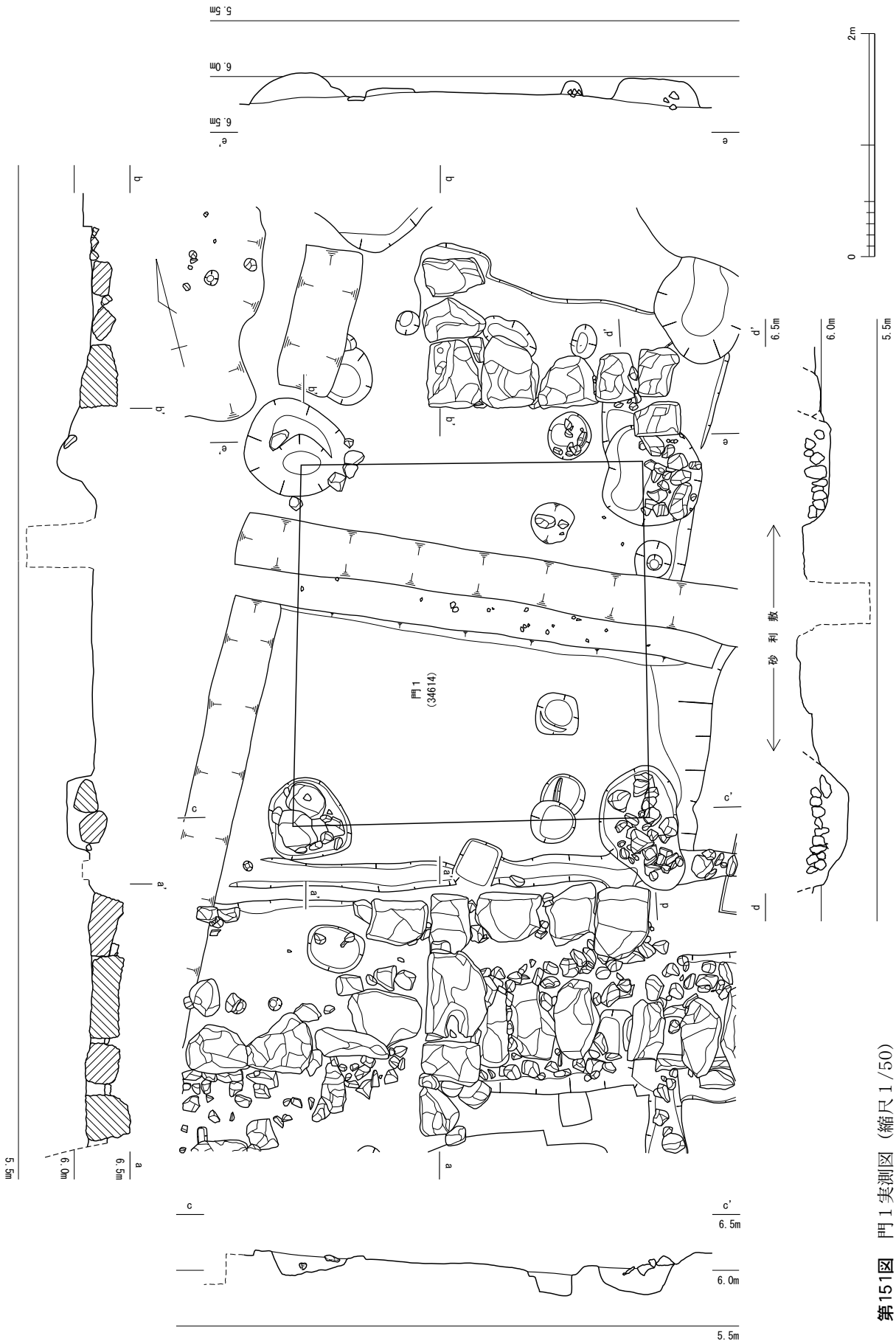
No.	土色・土質	土色No.	炭化物	焼土	植物	勢谷石	他の石	遺構等
1	黄褐色粘質土	2.5Y5/4	少	–	–	多	少	
2	オリーブ褐色粘質土	2.5Y4/4	少	–	–	–	–	
3	灰オリーブ色粘質土	5Y6/2	少	–	–	多	少	
4	緑灰色粘質土	5G5/1	少	–	–	多	少	
5	オリーブ灰色粘質土	5GY5/1	少	–	–	少	少	
6	緑灰色粘質土	10GY5/1	少	–	–	–	少	
7	緑灰色粘質土	5GY5/1	少	–	–	–	少	
8	緑灰色粘質土	10GY5/1	少	–	–	–	–	
9	オリーブ灰色粘質土	7.5Y6/3	少	–	–	–	–	
10	灰色粘質土	N5/0	少	–	–	–	–	
11	緑灰色粘質土	10GY5/1	少	–	–	–	–	

第149図　石垣34346・34470・土橋34660（上図：縮尺1/100、下図：縮尺1/50）

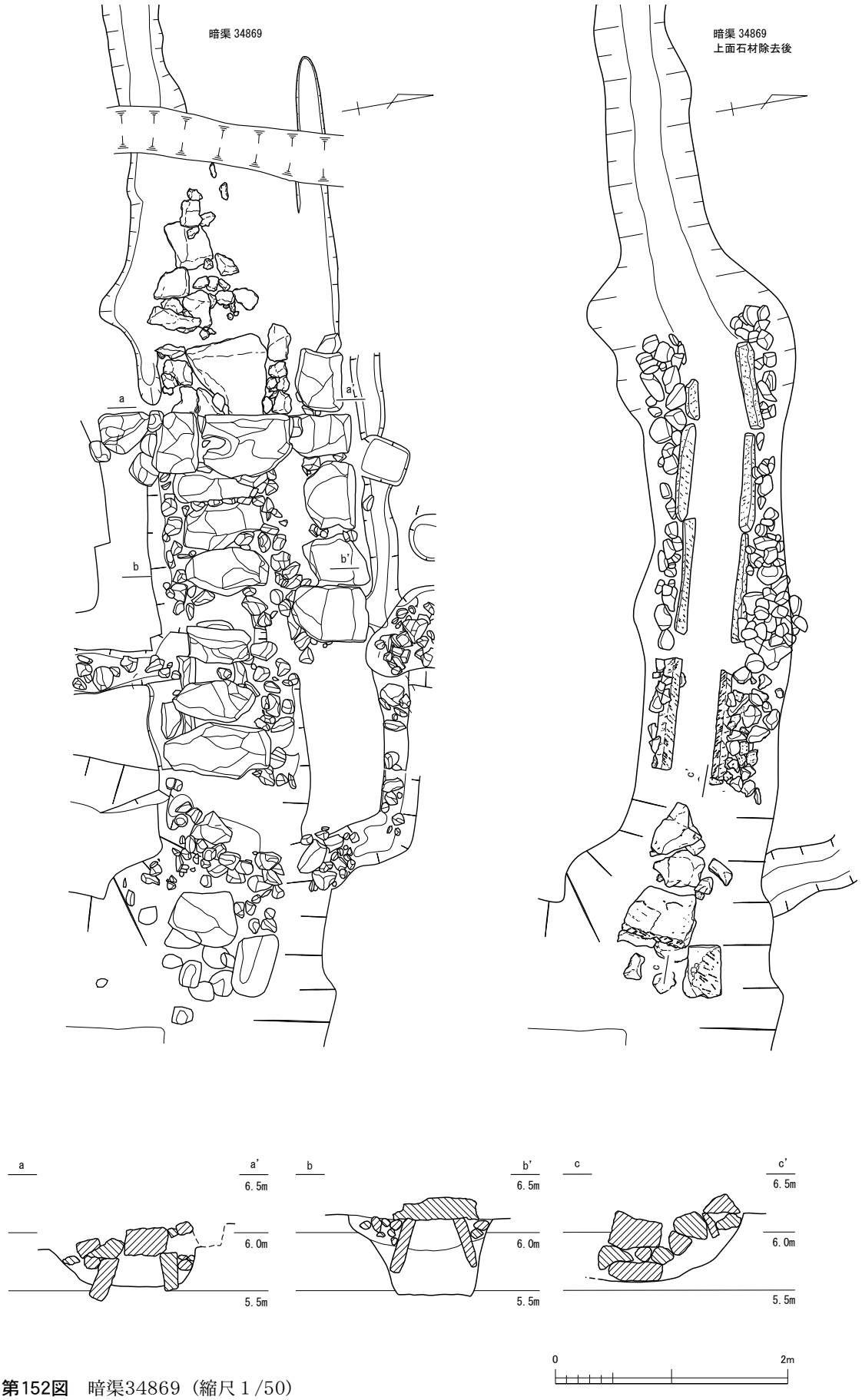




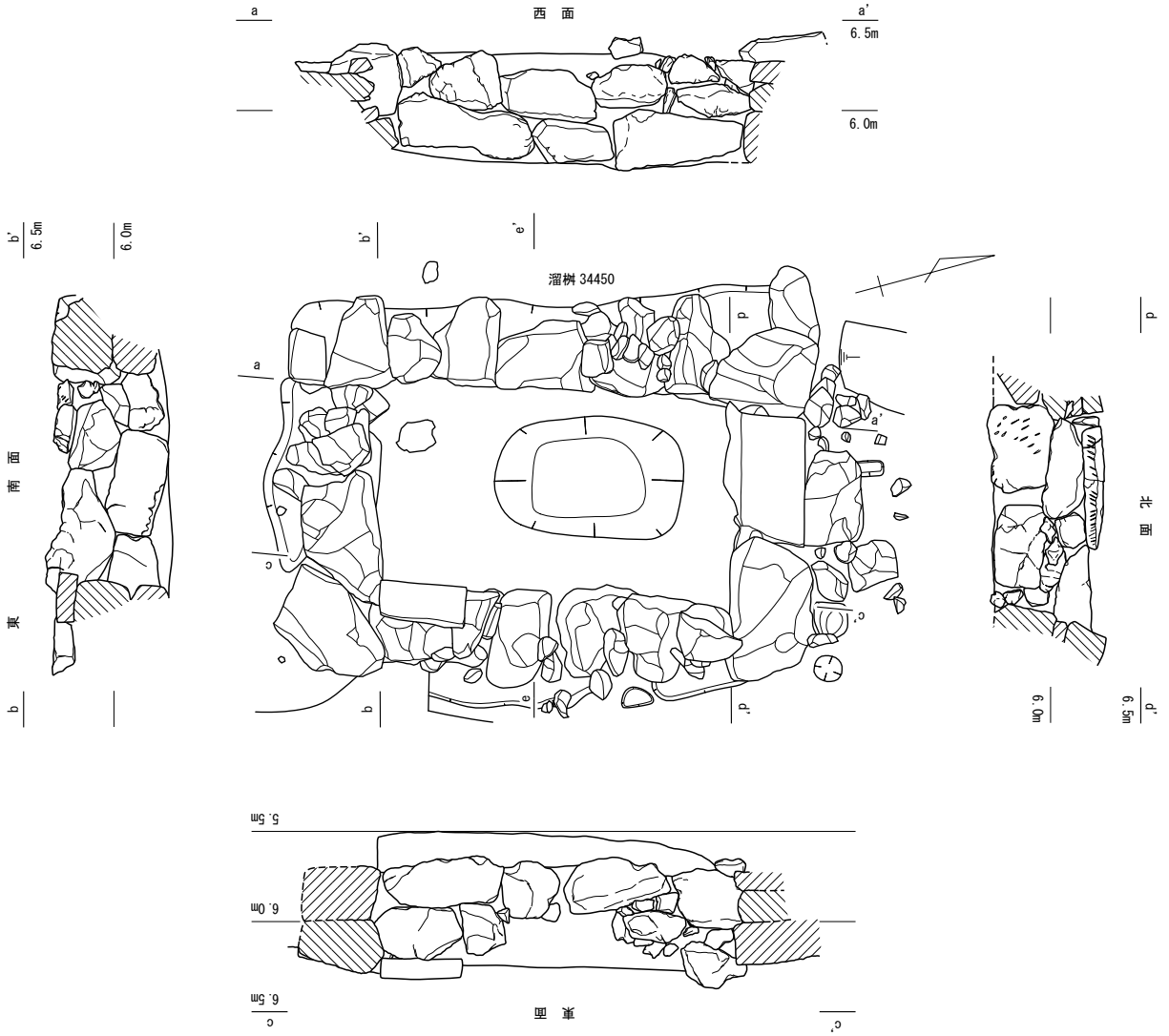
第150図　門2（縮尺1/40）・建物1（縮尺1/80）

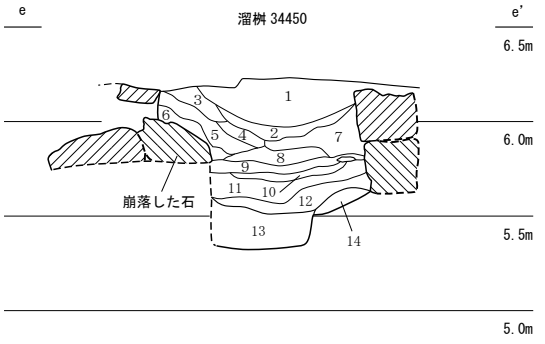


第151図　門１実測図（縮尺１/50）



第152図　暗渠34869（縮尺１/50）



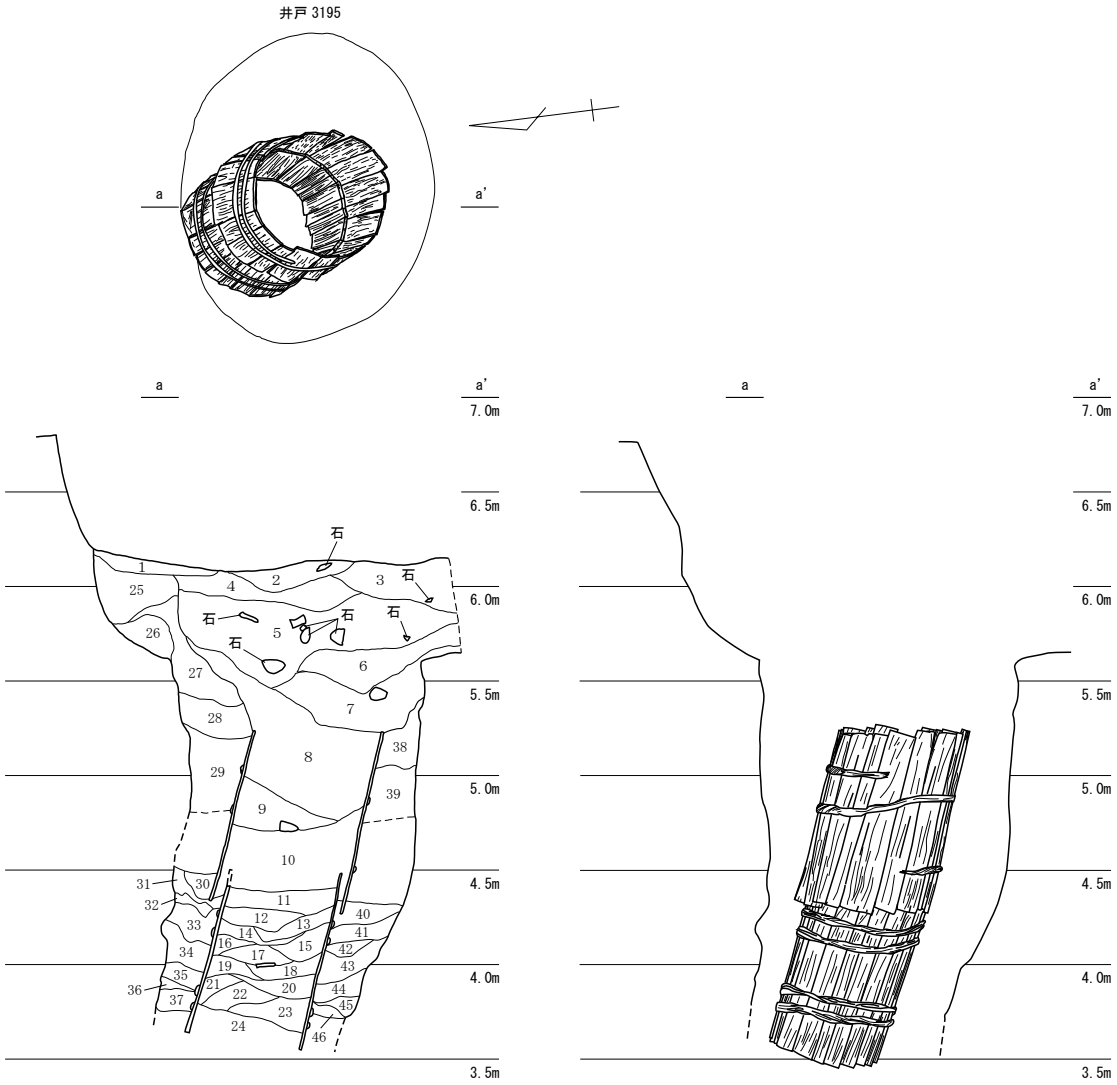


溜桝34450

No.	土色・土質	土色No.	炭化物	焼土	植物	勾谷石	他の石	遺構等
1	暗オリーブ褐色粘質土	2.5Y3/3	少	－	－	少	少	
2	暗灰黄色粘質土	2.5Y4/2	多	－	－	少	－	
3	オリーブ褐色粘質土	2.5Y4/4	少	－	－	少	－	
4	黄褐色粘質土	2.5Y5/4	少	－	－	少	－	
5	オリーブ褐色粘質土	2.5Y4/3	中	－	－	少	－	
6	オリーブ褐色粘質土	2.5Y4/3	多	少	－	少	－	
7	オリーブ褐色粘質土	2.5Y4/3	少	－	－	少	少	
8	暗灰黄色粘質土	2.5Y4/2	少	－	－	少	－	
9	黒褐色粘質土	2.5Y3/2	中	少	－	少	－	
10	暗灰黄色粘質土	2.5Y4/2	少	少	－	少	－	
11	黒褐色粘質土	2.5Y3/2	中	少	－	－	－	灰多量
12	黄灰色粘質土	2.5Y4/1	少	－	－	－	－	
13	黒褐色粘質土	2.5Y3/2	少	－	－	－	－	
14	暗オリーブ褐色粘質土	2.5Y3/3	－	－	－	－	－	

0　2m

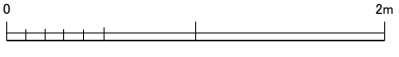
第153図　溜桝34450（縮尺１/40）



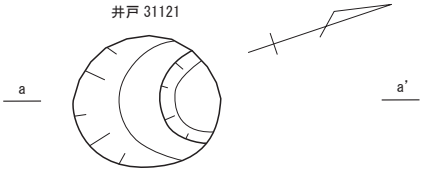
井戸3195

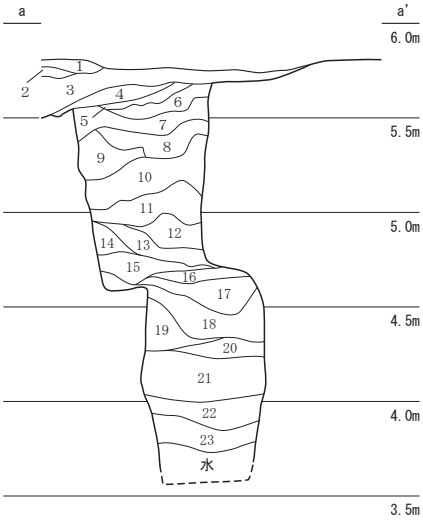
No.	土色・土質	土色No.	炭化物	焼土	植物	笏谷石	他の石	遺構等
1	灰オリーブ色粘質土	5Y4/2	少	－	－	－	－	
2	オリーブ黒色粘質土	7.5Y3/2	少	－	－	少	少	
3	オリーブ黒色粘質土	7.5Y3/2	少	少	－	少	少	
4	オリーブ黒色粘質土	5Y3/2	中	－	－	少	少	
5	オリーブ黒色粘質土	7.5Y2/2	少	少	－	少	中	
6	オリーブ黒色粘質土	7.5Y3/1	少	少	－	少	少	
7	オリーブ黒色粘質土	7.5Y3/2	少	少	少	少	少	
8	オリーブ黒色粘質土	10Y3/1	少	－	－	少	少	
9	オリーブ黒色砂質土	7.5Y3/2	－	－	少	－	少	
10	オリーブ黒色砂質土	7.5Y3/2	少	－	－	－	－	
11	オリーブ黒色粘質土	10Y3/1	少	－	－	－	少	
12	オリーブ黒色粘質土	7.5Y3/1	少	－	少	－	少	
13	オリーブ黒色粘質土	10Y3/1	少	少	少	－	少	
14	オリーブ黒色粘質土	7.5Y3/1	少	－	少	－	少	
15	オリーブ黒色粘質土	7.5Y2/2	少	－	－	－	少	
16	オリーブ黒色粘質土	7.5Y3/1	少	－	－	－	少	
17	黒色粘質土	2.5GY2/1	少	－	－	－	少	
18	オリーブ黒色粘質土	5Y3/1	少	－	少	少	少	
19	オリーブ黒色粘質土	5Y3/1	少	－	少	－	少	
20	オリーブ黒色粘質土	7.5Y3/1	少	－	少	－	－	
21	オリーブ黒色粘質土	10Y3/1	少	－	－	－	－	
22	オリーブ黒色粘質土	10Y3/1	－	－	少	－	少	
23	オリーブ黒色粘質土	7.5Y3/1	少	少	少	－	少	

No.	土色・土質	土色No.	炭化物	焼土	植物	笏谷石	他の石	遺構等
24	黒色砂	10Y2/1	－	－	－	－	多	
25	オリーブ黒色粘質土	7.5Y3/2	少	－	－	少	少	
26	オリーブ黒色粘質土	7.5Y3/2	少	－	－	－	少	
27	オリーブ黒色粘質土	7.5Y3/2	中	－	－	少	少	
28	オリーブ黒色粘質土	7.5Y3/1	少	－	－	少	少	
29	オリーブ黒色粘質土	5Y3/2	少	－	－	－	少	
30	オリーブ黒色粘質土	7.5Y3/1	少	少	少	－	少	
31	黒褐色粘質土	2.5Y3/1	少	－	少	－	少	
32	オリーブ黒色粘質土	10Y3/1	少	－	少	－	－	
33	灰色粘質土	7.5Y4/1	少	－	少	少	－	
34	灰色粘質土	10Y4/1	少	－	少	－	－	
35	オリーブ黒色粘質土	7.5Y3/1	少	－	少	－	少	
36	黒色砂	2.5GY2/1	－	－	－	－	少	
37	灰色粘質土	7.5Y4/1	少	－	少	－	－	
38	オリーブ黒色粘質土	7.5Y3/2	少	少	少	少	－	
39	灰色粘質土	7.5Y4/1	少	－	－	－	少	
40	オリーブ黒色粘質土	7.5Y3/1	少	少	少	－	少	
41	オリーブ黒色粘質土	7.5Y3/1	少	－	－	－	－	
42	灰色粘質土	7.5Y4/1	－	－	－	－	－	
43	灰色粘質土	10Y4/1	少	－	少	－	－	
44	黒色砂	2.5GY2/1	－	－	－	－	少	
45	灰色粘質土	10Y4/1	－	－	－	－	－	
46	灰色粘質土	7.5Y4/1	少	－	少	－	－	



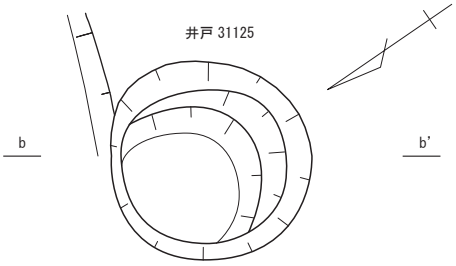
第154図　井戸3195（縮尺1/40）





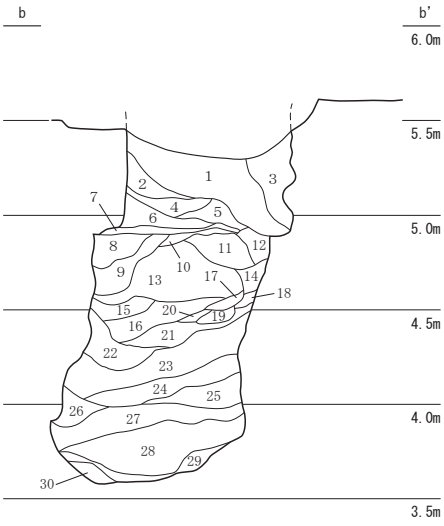
井戸31121

No.	土色・土質	土色No.	炭化物	焼土	植物	笏谷石	他の石	遺構等
1	暗オリーブ色砂質土	5Y4/4	少	少	－	－	少	
2	オリーブ黒色砂質土	5Y3/2	少	少	少	少	少	
3	暗オリーブ褐色砂質	2.5Y3/3	少	少	少	－	少	
4	暗オリーブ色砂質土	5Y4/4	少	少	少	－	－	
5	オリーブ褐色砂質土	5Y3/2	少	少	少	－	－	
6	オリーブ褐色砂質土	2.5Y4/4	少	少	少	－	－	
7	暗オリーブ褐色砂質	2.5Y3/3	少	－	少	－	－	
8	オリーブ褐色砂質土	2.5Y4/3	少	－	－	－	－	
9	黒褐色砂質土	2.5Y3/2	少	－	少	－	－	
10	暗オリーブ褐色砂質	2.5Y3/3	少	－	少	－	－	
11	オリーブ褐色砂質土	2.5Y4/3	少	－	少	－	－	
12	黒褐色砂質土	2.5Y3/1	少	－	少	－	－	
13	暗オリーブ灰色砂質	5GY4/1	少	－	少	－	－	
14	灰色砂質土	10Y4/1	少	－	少	－	－	
15	灰色砂質土	10Y4/1	少	－	少	少	－	
16	暗オリーブ灰色砂質	2.5GY4/1	少	－	少	－	－	
17	黒褐色粘質土	2.5Y3/2	少	少	少	－	－	
18	オリーブ黒色粘質土	5Y3/1	少	少	少	－	－	
19	オリーブ黒色粘質土	5Y3/1	少	少	少	－	－	
20	灰色粘質土	5Y4/1	少	少	少	少	－	
21	黄褐色砂質土	2.5Y5/4	少	少	少	－	少	
22	オリーブ褐色砂質土	2.5Y4/4	少	少	少	－	－	
23	灰色砂質土	2.5Y4/1	少	少	少	－	－	





井戸 31125 土層断面（北西より）

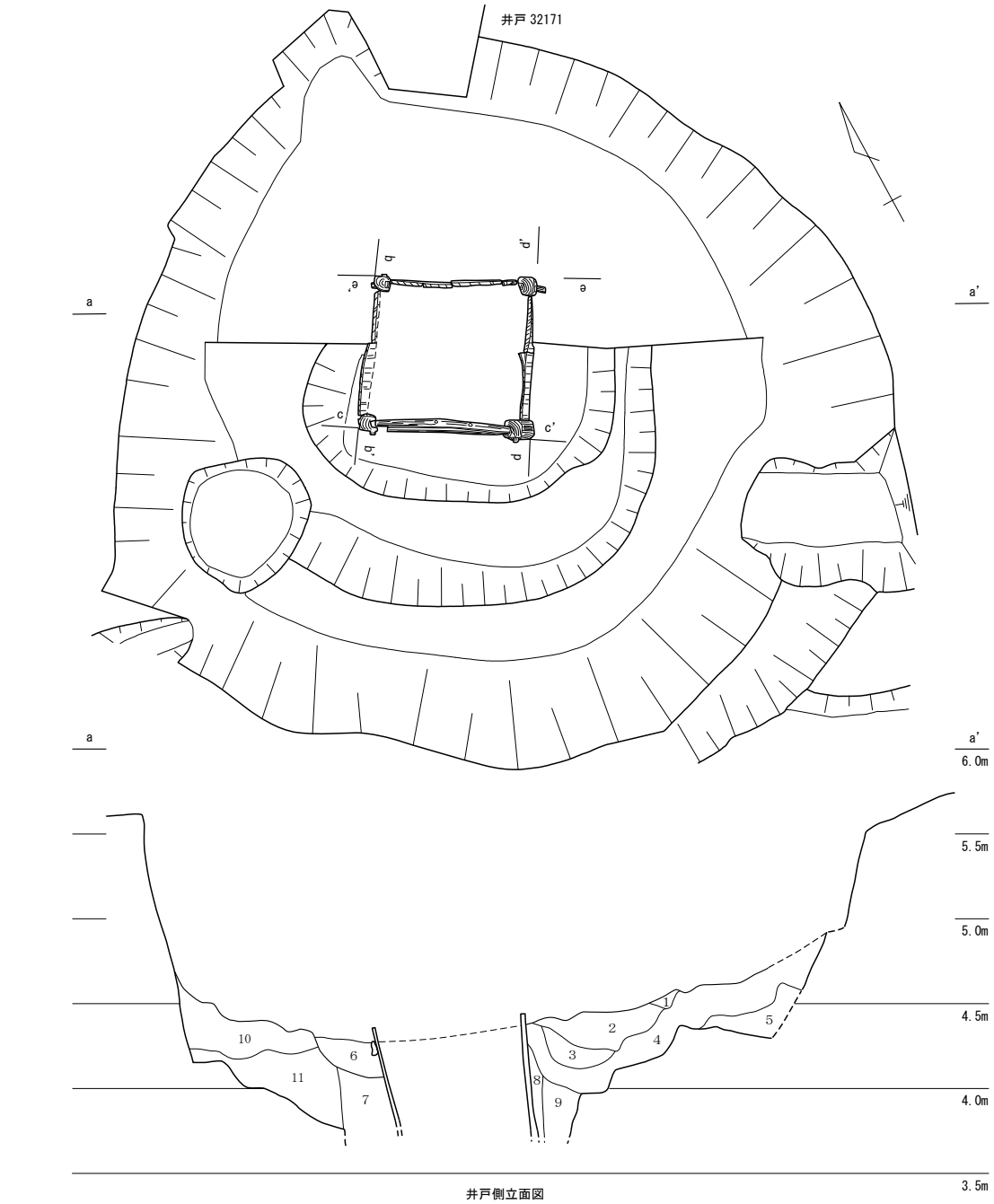


井戸31125

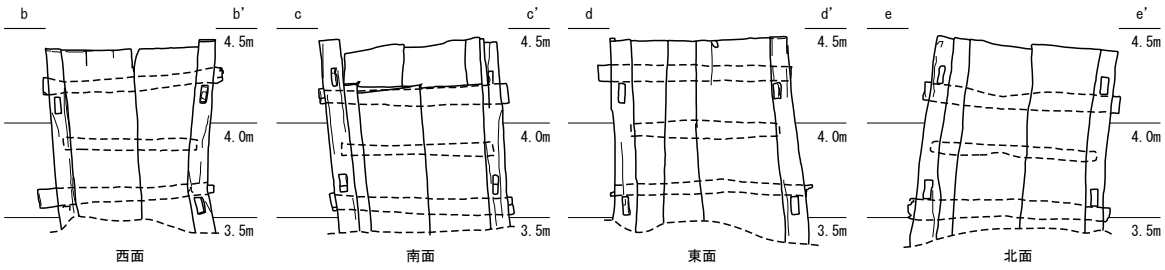
No.	土色・土質	土色No.	炭化物	焼土	植物	笏谷石	他の石	遺構等
1	オリーブ黒色粘質土	10Y3/2	中	－	少	少	少	
2	オリーブ黒色砂質土	5Y3/2	少	－	少	少	－	
3	オリーブ黒色	7.5Y3/2						
4	オリーブ黒色砂質土	7.5Y3/2	中	－	中	－	少	
5	オリーブ黒色粘質土	7.5Y3/1	中	－	中	－	－	
6	オリーブ黒色粘質土	5Y3/1	少	－	少	－	－	
7	オリーブ黒色粘質土	5Y3/1	少	－	少	－	－	
8	黄灰色粘質土	2.5Y4/1	中	－	中	－	少	
9	灰色粘質土	5Y4/1	少	少	中	少	少	
10	灰色砂質土	5Y4/1	少	－	中	－	－	
11	オリーブ黒色粘質土	7.5Y3/2	中	－	少	－	－	
12	オリーブ黒色粘質土	7.5Y2/2	少	－	少	－	－	
13	灰色粘質土	5Y4/1	少	少	中	少	－	
14	灰色粘質土	5Y4/1	少	－	少	－	－	
15	灰色粘質土	5Y4/1	中	－	少	－	－	
16	灰色粘質土	5Y4/1	少	少	少	－	－	
17	灰色粘質土	7.5Y4/1	－	－	中	－	－	
18	灰色粘質土	7.5Y4/1	少	－	少	－	－	
19	灰色粘質土	5Y4/1	－	－	少	－	－	
20	灰色粘質土	5Y4/1	少	－	少	－	－	
21	灰色粘質土	7.5Y4/1	少	－	少	－	－	
22	灰色粘質土	7.5Y4/1	少	－	少	－	－	
23	オリーブ黒色粘質土	7.5Y3/1	少	少	中	－	少	
24	灰色粘質土	7.5Y4/1	少	－	少	－	少	
25	オリーブ黒色粘質土	5Y3/1	少	－	少	－	少	
26	オリーブ黒色粘質土	5Y3/1	少	－	中	－	－	
27	灰色粘質土	7.5Y4/1	少	少	中	－	少	
28	オリーブ黒色粘質土	7.5Y3/1	少	－	－	－	－	
29	オリーブ黒色–	10Y3/1	－	－	－	－	－	
30	灰色–	10Y4/1	－	－	－	－	－	



第155図　井戸31121・31125（縮尺1/40）



井戸側立面図



西面　南面　東面　北面

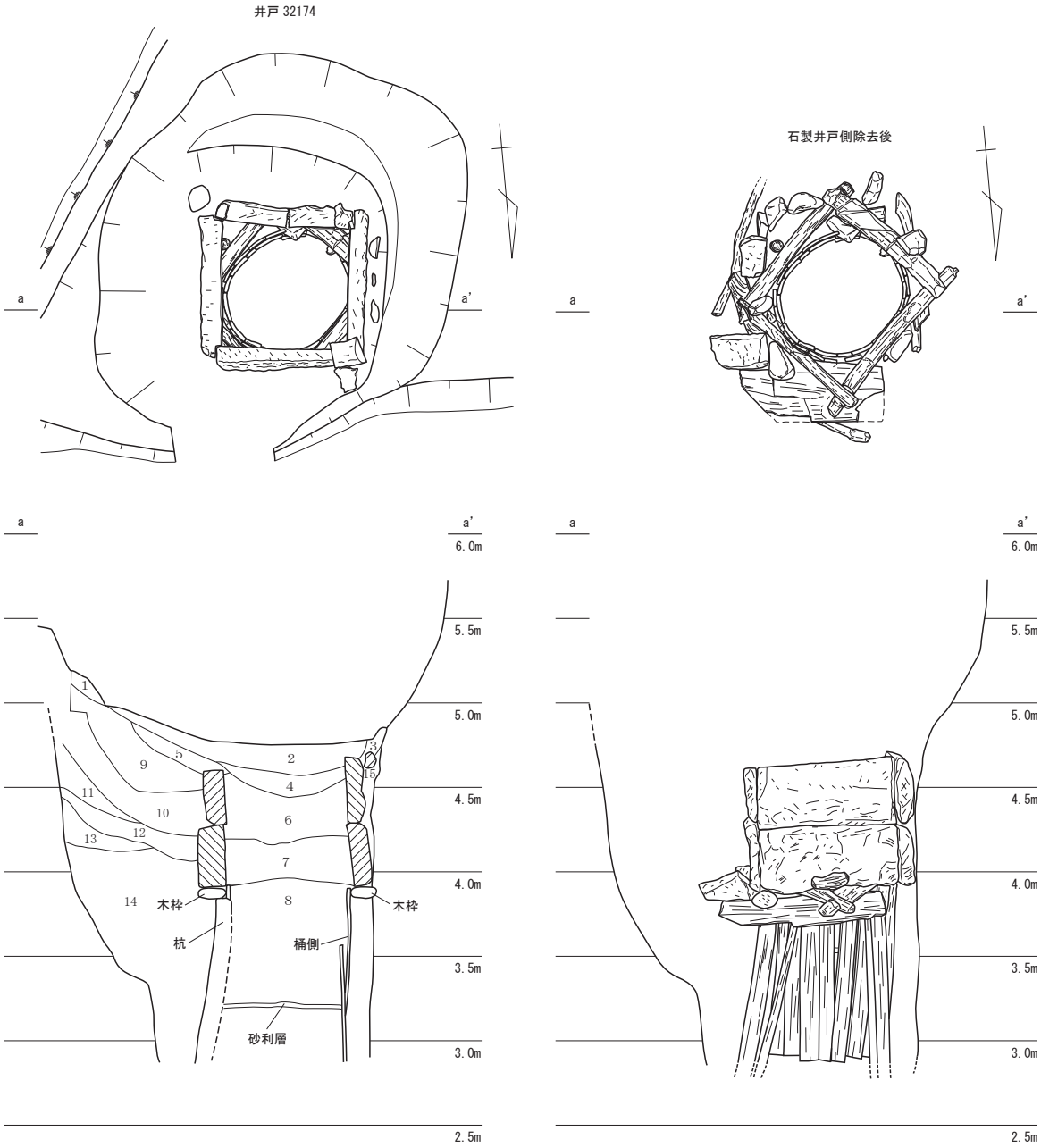
井戸32171

No.	土色・土質	土色No.	炭化物	焼土	植物	勞谷石	他の石	遺構等
1	暗オリーブ灰色粘質土	2.5GY4/1	−	−	−	−	−	
2	オリーブ黒色粘質土	5Y3/1	−	−	−	−	少	
3	灰色粘質土	10Y4/1	−	−	−	−	−	
4	灰色粘質土	10Y4/1	少	−	少	−	少	
5	灰色粘質土	10Y4/1	少	−	少	−	−	
6	灰色粘質土	5Y4/1	−	−	−	−	少	

No.	土色・土質	土色No.	炭化物	焼土	植物	勞谷石	他の石	遺構等
7	灰色粘質土	7.5Y4/1	少	−	少	−	−	
8	灰色粘質土	7.5Y4/1	少	−	−	−	−	
9	オリーブ黒色粘質土	5Y3/1	−	−	−	−	少	
10	-	-	−	−	−	−	−	
11	オリーブ黒色粘質土	5Y3/1	少	−	少	−	−	



第156図　井戸32171（縮尺１/40）



井戸32174

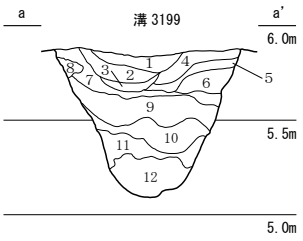
No.	土色・土質	土色No.	炭化物	焼土	植物	笏谷石	他の石	遺構等
1	暗オリーブ灰色粘質土	5GY4/1	少	少	－	少	少	
2	暗オリーブ灰色粘質土	5GY3/1	少	－	中	少	少	
3	黒色粘質土	2.5GY2/1	中	－	少	少	少	
4	オリーブ黒色粘質土	5GY2/1	少	－	中	少	少	
5	暗青灰色粘質土	5BG4/1	少	－	－	少	少	
6	オリーブ黒色粘質土	5GY2/1	少	－	－	－	－	
7	暗青灰色粘質土	5BG3/1	少	－	－	－	－	
8	暗灰色粘質土	N3/	少	－	－	－	－	
9	暗オリーブ灰色粘質土	5GY3/1	少	－	少	少	少	
10	暗青灰色粘質土	5BG4/1	少	－	少	少	少	
11	暗青灰色粘質土	5BG3/1	少	－	少	少	少	
12	暗青灰色粘質土	5BG3/1	中	－	少	少	少	
13	青黒色粘質土	5BG2/1	中	－	中	少	少	
14	暗青灰色粘質土	5BG3/1	少	－	中	少	少	
15	暗青灰色粘質土	5BG3/1	少	－	少	少	少	

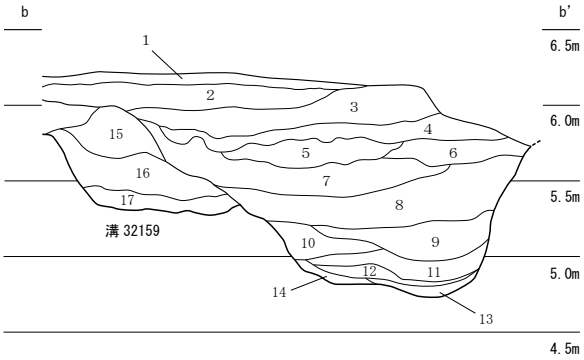
0　2m

第157図　井戸32174（縮尺１/40）



井戸側検出状況（北東より）



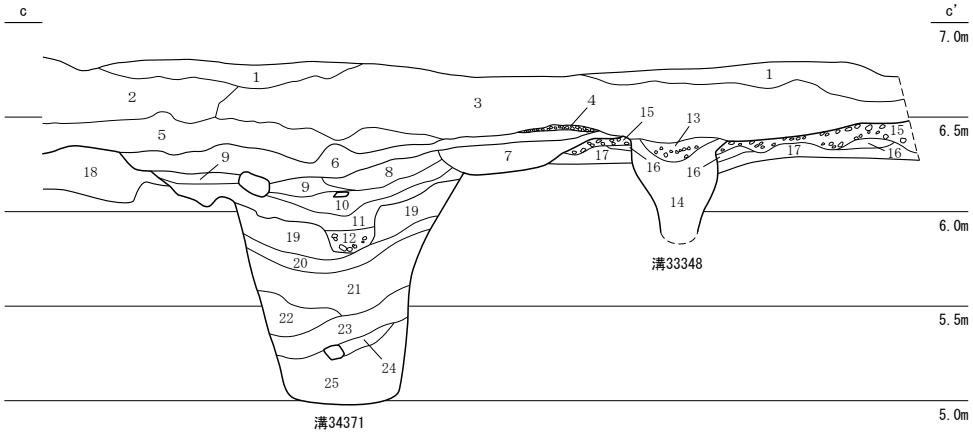


溝3199

No.	土色・土質	土色No.	炭化物	焼土	植物	笏谷石	他の石	遺構等
1	暗灰黄色砂質土	2.5Y4/2	少	－	少	－	－	
2	にぶい黄色砂質土	2.5Y6/3	少	少	中	－	－	
3	暗灰黄色砂質土	2.5Y5/2	少	－	少	－	－	
4	にぶい黄色砂質土	2.5Y6/3	少	－	中	－	－	
5	黄褐色砂質土	2.5Y5/3	少	－	少	－	－	
6	灰オリーブ色砂質土	5Y5/3	少	－	少	－	少	
7	暗オリーブ色砂質土	5Y4/3	少	－	少	－	少	
8	黄褐色砂質土	2.5Y5/3	少	少	少	少	－	
9	暗オリーブ色砂質土	5Y4/3	少	－	少	少	－	
10	暗オリーブ色砂質土	5Y4/3	少	少	少	少	－	
11	オリーブ褐色粘質土	2.5Y4/3	少	少	少	－	－	
12	灰色粘質土	7.5Y4/1	少	少	少	少	－	

溝32159

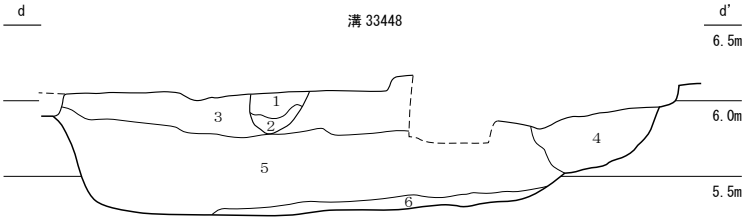
No.	土色・土質	土色No.	炭化物	焼土	植物	笏谷石	他の石	遺構等
1	黄褐色砂質土	2.5Y5/4	少	－	－	少	少	
2	黄褐色砂質土	2.5Y5/3	少	－	－	少	少	
3	にぶい黄色砂質土	2.5Y6/3	少	－	－	少	少	
4	黄褐色砂質土	2.5Y5/4	－	－	－	－	少	
5	オリーブ褐色砂質土	2.5Y4/4	少	－	－	－	－	
6	灰オリーブ色砂質土	5Y5/3	少	－	－	－	－	
7	灰オリーブ色砂質土	5Y5/2	少	－	－	－	－	
8	灰オリーブ色砂質土	5Y4/2	少	－	－	－	－	
9	灰色粘質土	10Y4/1	少	－	－	－	－	
10	オリーブ黒色粘質土	10Y3/1	少	－	少	－	－	
11	オリーブ黒色粘質土	10Y3/2	少	－	中	少	－	
12	暗オリーブ灰色粘質土	5GY3/1	少	－	中	少	－	
13	暗青灰色粘質土	5BG3/1	少	－	－	－	－	
14	暗青灰色粘質土	5BG4/1	少	－	少	－	－	
15	オリーブ色粘質土	5Y5/4	少	－	－	－	－	32159
16	灰色粘質土	5Y4/1	少	－	－	－	－	32159
17	オリーブ黒色粘質土	5Y3/1	少	－	－	－	－	32159



溝33348・34371

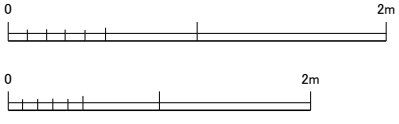
No.	土色・土質	土色No.	炭化物	焼土	植物	笏谷石	他の石	遺構等
1	赤橙色砂質土	－	少	少	－	少	少	
2	灰褐色砂質土	－	中	中	－	少	少	
3	灰黄褐色砂質土	－	少	－	－	少	中	
4	灰黄褐色砂質土	－	－	－	－	－	多	
5	暗褐灰色砂質土	－	少	少	－	少	中	
6	褐灰色砂質土	－	少	少	－	－	少	
7	褐灰色砂質土	－	少	－	少	少	少	
8	灰色砂質土	－	少	－	－	少	－	34371
9	灰色砂質土	－	少	－	－	少	－	34371
10	灰色砂質土	－	－	－	－	中	少	34371
11	灰色砂質土	－	－	－	－	－	多	34371
12	暗灰色砂質土	－	－	－	－	－	多	34371
13	暗褐色粘質土	7.5Y3/4	少	少	－	少	中	33348

No.	土色・土質	土色No.	炭化物	焼土	植物	笏谷石	他の石	遺構等
14	灰黄褐色砂質土	－	少	－	－	－	少	33349
15	灰黄褐色砂質土	－	－	－	－	－	多	
16	明黄橙色粘質土	－	－	－	－	－	－	
17	灰黄褐色砂質土	－	少	－	－	－	少	
18	灰色砂	－	少	少	－	－	少	
19	灰白色砂質土	－	－	－	－	－	－	34371
20	暗灰色粘土	－	少	少	－	－	－	34371
21	灰色砂質土	－	－	－	－	少	－	34371
22	灰色粘質土	－	－	－	少	－	－	34371
23	暗灰色粘土	－	多	－	中	－	－	34371
24	暗灰色粘土	－	－	－	－	中	－	34371
25	灰色粘土	－	中	－	－	－	－	34371

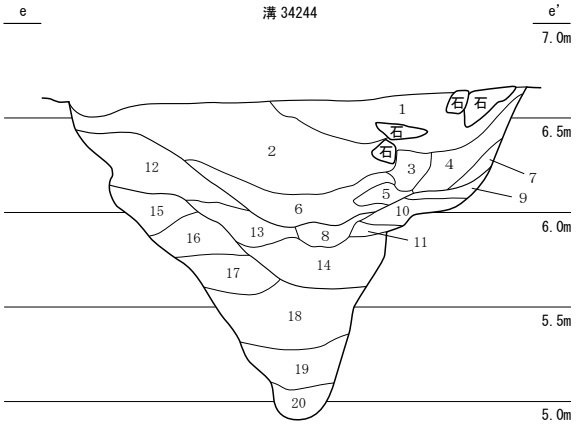


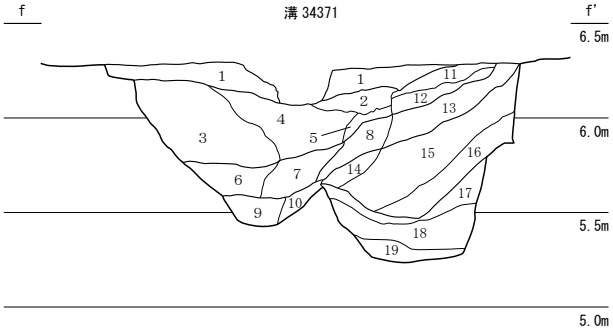
溝33448

No.	土色・土質	土色No.	炭化物	焼土	植物	笏谷石	他の石	遺構等
1	暗灰黄色粘質土	2.5Y4/2	少	少	－	少	少	
2	暗灰黄色粘質土	2.5Y5/2	少	少	少	－	少	
3	暗灰黄色粘質土	2.5Y5/2	少	－	－	－	少	
4	灰オリーブ色粘質土	7.5Y4/2	少	－	－	－	－	
5	青灰色粘土	10BG6/1	少	－	少	少	少	
6	暗オリーブ灰色粘質土	2.5GY4/1	－	－	－	－	－	



第158図　溝3199・32159・33348・33448・34371（32159・33448：縮尺1/50、その他：縮尺1/40）



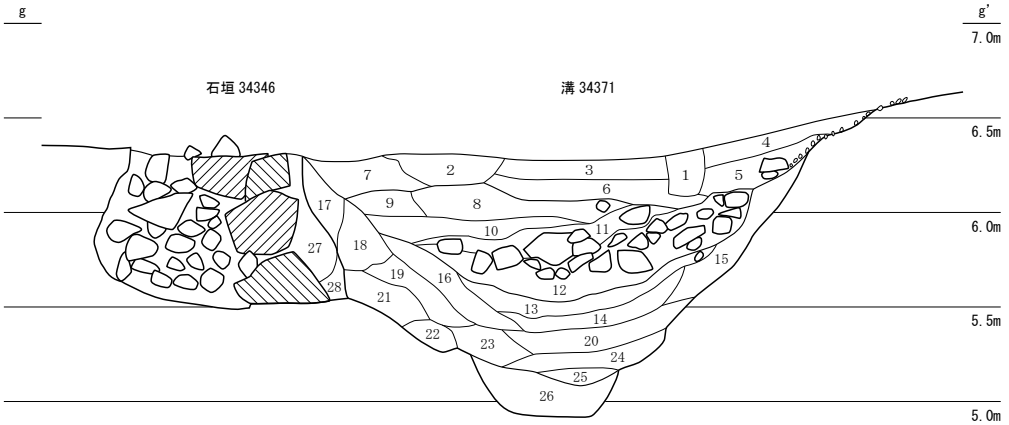


溝34244

No.	土色・土質	土色No.	炭化物	焼土	植物	労谷石	他の石	遺構等
1	黄褐色砂質土	2.5Y5/4	少	－	－	多	－	
2	オリーブ褐色砂質土	2.5Y4/4	少	少	少	中	少	
3	黒色粘質土	2.5Y5/3	－	－	－	少	－	
4	オリーブ褐色砂質土	2.5Y4/3	少	－	少	－	－	
5	黒色粘質土	2.5Y4/3	少	－	少	少	－	
6	黒褐色粘質土	2.5Y3/2	少	－	少	少	－	
7	暗オリーブ褐色粘質土	2.5Y3/3	少	－	少	少	－	
8	オリーブ褐色砂質土	2.5Y4/4	少	－	－	－	－	
9	オリーブ褐色砂質土	2.5Y4/4	－	－	－	－	－	
10	オリーブ褐色砂質土	2.5Y4/3	少	－	少	少	－	
11	暗オリーブ褐色砂質土	2.5Y3/3	少	－	－	少	－	
12	オリーブ褐色砂質土	2.5Y4/4	少	－	－	少	少	
13	オリーブ褐色砂質土	2.5Y4/3	少	－	少	少	－	
14	オリーブ黒色粘土	5Y3/1	少	－	少	少	－	
15	暗オリーブ褐色砂質土	2.5Y3/3	少	少	少	－	－	
16	オリーブ黒色粘質土	5Y2/2	少	－	－	－	－	
17	暗オリーブ褐色粘質土	2.5Y3/3	－	－	－	－	－	
18	オリーブ黒色粘質土	5Y3/1	少	－	－	－	－	
19	黒色粘質土	5Y2/1	少	－	－	－	－	
20	黒色粘質土	5Y2/1	－	－	－	－	－	

溝34371

No.	土色・土質	土色No.	炭化物	焼土	植物	労谷石	他の石	遺構等
1	オリーブ褐色粘質土	2.5Y4/3	少	－	－	少	少	
2	オリーブ褐色粘質土	2.5Y4/3	少	－	－	少	少	
3	暗オリーブ褐色粘質土	2.5Y3/3	少	－	少	少	少	
4	暗オリーブ褐色粘質土	2.5Y3/3	少	－	－	少	少	
5	暗オリーブ褐色粘質土	2.5Y3/3	－	－	少	－	－	
6	黒褐色粘質土	2.5Y3/2	少	－	－	－	少	
7	黒褐色粘質土	2.5Y3/2	少	－	－	少	少	
8	黒褐色粘質土	2.5Y3/2	少	－	－	少	少	
9	黒褐色粘質土	2.5Y3/1	少	－	少	－	少	
10	オリーブ褐色粘質土	2.5Y4/3	－	－	－	－	－	
11	オリーブ褐色粘質土	2.5Y4/3	少	－	－	－	多	
12	暗オリーブ色粘質土	5Y4/3	少	－	－	少	少	
13	灰オリーブ色粘質土	5Y4/2	少	－	－	少	少	
14	オリーブ褐色砂質土	2.5Y4/3	－	－	－	－	－	
15	暗オリーブ色粘質土	5Y4/3	少	－	少	少	少	
16	暗オリーブ色砂質土	5Y4/3	少	－	少	少	少	
17	暗オリーブ色粘質土	5Y4/3	－	－	－	－	－	
18	オリーブ黒色粘質土	5Y3/1	少	－	－	－	少	
19	灰色粘質土	5Y4/1	－	－	少	－	－	



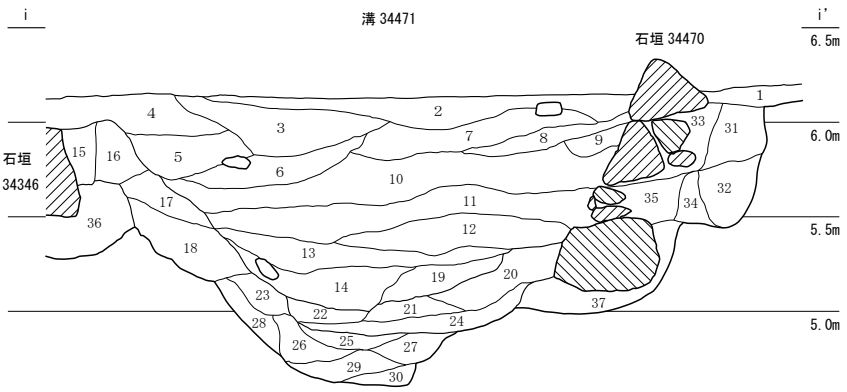
溝34371・石垣34346

No.	土色・土質	土色No.	炭化物	焼土	植物	労谷石	他の石	遺構等
1	灰オリーブ色粘質土	5Y4/1	少	－	－	－	－	
2	灰オリーブ色粘質土	5Y5/2	少	－	－	－	－	
3	灰オリーブ色粘質土	5Y5/2	少	－	－	－	少	
4	灰オリーブ色粘質土	5Y5/2	少	－	－	少	少	
5	灰色粘質土	10Y5/1	少	－	－	中	－	
6	灰色粘質土	10Y5/1	少	少	－	少	－	
7	灰オリーブ色粘質土	5Y5/2	少	－	－	少	－	
8	オリーブ灰色粘質土	2.5GY5/1	少	－	－	少	－	
9	灰オリーブ色粘質土	5Y5/2	少	－	－	少	少	
10	灰オリーブ色粘質土	5Y5/2	少	－	－	少	少	
11	オリーブ灰色粘質土	2.5GY5/1	少	－	－	多	少	
12	褐灰色粘質土	10YR4/1	少	－	多	多	少	
13	オリーブ灰色粘質土	5GY5/1	少	－	－	少	少	
14	緑灰色粘質土	10GY5/1	少	－	－	中	少	

No.	土色・土質	土色No.	炭化物	焼土	植物	労谷石	他の石	遺構等
15	緑灰色粘質土	10GY5/1	少	－	－	－	少	
16	緑灰色粘質土	10GY5/1	少	－	－	少	少	
17	黄褐色粘質土	2.5Y5/4	少	－	－	少	－	
18	灰オリーブ色粘質土	7.5Y6/2	少	－	－	－	少	
19	緑灰色粘質土	10G5/1	少	－	－	－	－	
20	緑灰色粘質土	10G5/1	少	－	－	－	－	
21	緑灰色粘質土	10G5/1	中	－	－	－	－	
22	緑灰色粘質土	10G5/1	少	－	－	－	－	
23	緑灰色粘質土	10G5/1	少	－	－	－	－	
24	緑灰色粘質土	10G5/1	少	－	－	少	－	
25	緑灰色粘質土	10G5/1	少	－	－	－	－	
26	オリーブ灰色粘質土	5GY5/1	少	－	－	－	－	
27	褐色粘質土	10YR4/4						
28	黄褐色粘質土	2.5Y5/4	－	－	－	－	－	



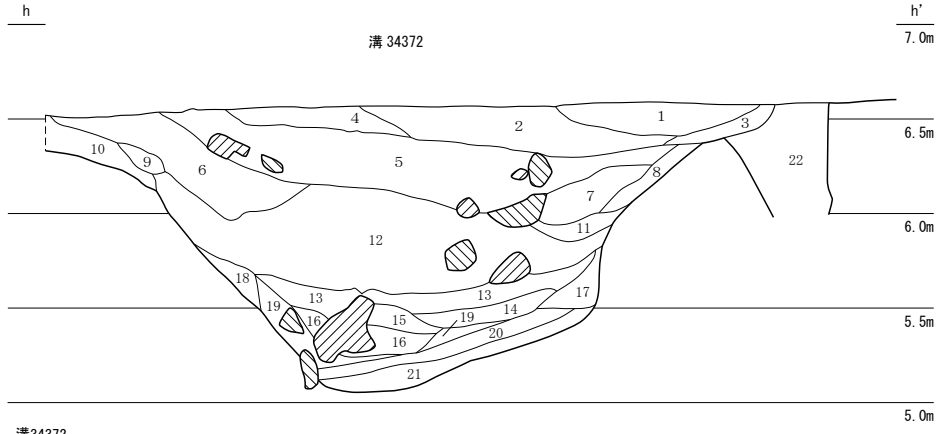
第159図　溝34244・34371・石垣34346（縮尺１/40）



溝34471・石垣34470

No.	土色・土質	土色No.	炭化物	焼土	植物	勞谷石	他の石	遺構等
1	オリーブ褐色粘質土	2.5Y4/4	−	−	少	−	−	
2	黄灰色粘質土	2.5Y4/1	少	−	少	−	−	
3	オリーブ褐色粘質土	2.5Y4/4	少	−	少	−	−	
4	オリーブ褐色粘質土	2.5Y4/4	少	−	少	−	−	
5	褐色粘質土	10YR4/4	少	−	少	−	−	
6	オリーブ褐色粘質土	2.5Y4/3	少	少	少	−	−	
7	オリーブ黒色粘質土	5Y3/2	−	−	−	−	−	
8	オリーブ黒色粘質土	5Y3/1	少	−	少	−	−	
9	黒褐色粘質土	2.5Y3/1	少	−	−	−	−	
10	オリーブ黒色粘質土	5Y3/2	−	−	少	−	−	
11	黒褐色粘質土	2.5Y3/3	少	−	少	−	−	
12	暗オリーブ褐色粘質土	5Y3/2	少	−	少	−	少	
13	オリーブ褐色粘質土	2.5Y4/3	少	−	−	中	少	
14	暗オリーブ褐色粘質土	2.5Y4/3	中	−	−	中	少	
15	オリーブ黒色粘質土	5Y3/1	少	−	少	−	少	
16	黒褐色粘質土	10YR2/2	少	−	多	−	−	
17	オリーブ褐色粘質土	2.5Y4/4	少	−	少	少	少	
18	オリーブ褐色粘質土	2.5Y4/4	少	−	少	少	少	
19	黄灰色粘質土	2.5Y4/1	−	−	少	多	−	

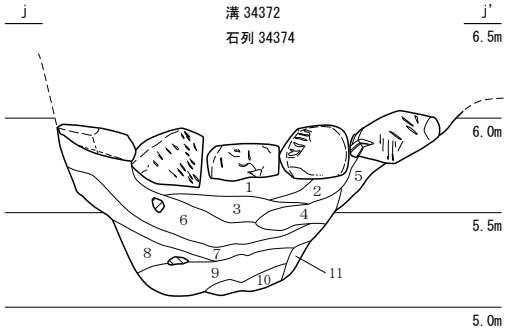
No.	土色・土質	土色No.	炭化物	焼土	植物	勞谷石	他の石	遺構等
20	オリーブ黒色粘質土	2.5Y4/3	−	−	中	−	−	
21	暗オリーブ褐色粘質土	2.5Y4/3	少	−	−	−	−	
22	オリーブ褐色粘質土	2.5Y4/3	少	−	−	−	−	
23	オリーブ褐色粘質土	2.5Y4/3	少	−	−	少	中	
24	オリーブ黒色粘質土	5Y3/1	少	−	少	少	−	
25	オリーブ黒色粘質土	5Y2/2	少	−	−	少	少	
26	オリーブ褐色粘質土	2.5Y4/4	少	−	−	−	中	
27	黄灰色粘質土	2.5Y4/1	少	−	少	少	少	
28	暗オリーブ褐色粘質土	2.5Y3/3	少	−	−	−	少	
29	オリーブ褐色粘質土	2.5Y4/4	少	−	−	−	少	
30	暗オリーブ褐色粘質土	2.5Y3/2	少	−	−	−	−	
31	オリーブ褐色粘質土	2.5Y4/3	少	−	−	少	少	石垣裏込
32	灰色粘質土	5Y4/1	少	−	−	−	−	石垣裏込
33	黄灰色粘質土	2.5Y4/1	−	−	−	−	−	石垣裏込
34	黒褐色粘質土	2.5Y3/1	−	−	−	−	−	石垣裏込
35	黒褐色粘質土	2.5Y3/1	−	−	少	−	−	石垣裏込
36	黒褐色粘質土	2.5Y3/2	少	−	−	−	少	石垣裏込
37	オリーブ黒色粘質土	5Y3/1	−	−	中	−	−	石垣裏込



溝34372

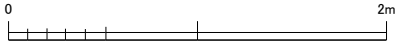
No.	土色・土質	土色No.	炭化物	焼土	植物	勞谷石	他の石	遺構等
1	にぶい黄褐色粘質土	10YR5/3	少	少	−	少	少	
2	黄褐色粘質土	2.5Y5/3	少	少	−	少	−	
3	黄褐色粘質土	2.5Y5/4	少	−	少	少	少	
4	褐色粘質土	10YR4/4	少	少	−	少	−	
5	黄褐色粘質土	2.5Y5/4	少	少	−	中	−	
6	褐色粘質土	10YR4/6	少	少	−	少	少	
7	黄褐色粘質土	2.5Y5/3	少	−	−	中	少	
8	黄褐色粘質土	2.5Y5/3	少	−	少	少	少	
9	灰黄褐色粘質土	10YR5/2	少	少	−	−	少	
10	暗褐色粘質土	10YR3/4	少	−	−	少	−	
11	暗灰黄色粘質土	2.5Y5/2	少	−	−	少	−	

No.	土色・土質	土色No.	炭化物	焼土	植物	勞谷石	他の石	遺構等
12	黄灰色粘質土	2.5Y4/1	少	少	少	中	少	
13	黒褐色粘質土	2.5Y3/1	少	−	少	少	少	
14	黒褐色粘質土	2.5Y5/3	−	−	少	少	少	
15	黄褐色粘質土	2.5Y5/1	少	−	少	少	−	
16	黄灰色粘質土	2.5Y4/1	少	−	少	中	−	
17	黄褐色粘質土	2.5Y4/1	少	−	−	少	−	
18	オリーブ黒色粘質土	2.5Y5/3	少	−	−	−	−	
19	黄灰色粘質土	2.5Y4/1	−	−	少	多	−	
20	褐色粘質土	10YR4/4	−	−	−	−	−	
21	黄灰色粘質土	2.5Y4/1	−	−	−	−	−	
22	にぶい黄色粘質土	2.5Y6/3	少	−	−	−	−	

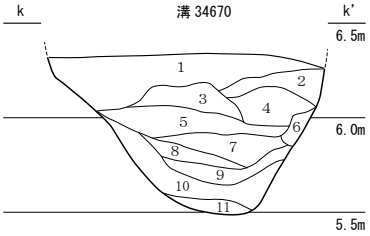


溝34372・石列34374

No.	土色・土質	土色No.	炭化物	焼土	植物	勞谷石	他の石	遺構等
1	灰色粘土	5Y4/1	少	−	−	少	−	
2	黒褐色粘質土	2.5Y3/2	少	−	−	−	少	
3	灰色粘土	7.5Y4/1	少	−	−	少	−	
4	黄灰色粘質土	2.5Y4/1	少	−	−	少	少	
5	暗オリーブ褐色粘質土	2.5Y3/3	−	−	−	−	少	
6	褐灰色粘質土	10YR4/1	少	−	−	少	少	
7	黄灰色粘質土	2.5Y4/1	少	−	−	少	少	
8	灰色粘質土	5Y4/1	少	−	−	少	−	
9	褐色粘質土	10YR4/1	少	−	−	中	少	
10	黄灰色粘質土	2.5Y4/1	−	−	−	少	−	
11	オリーブ褐色粘質土	2.5Y4/3	少	−	−	−	少	

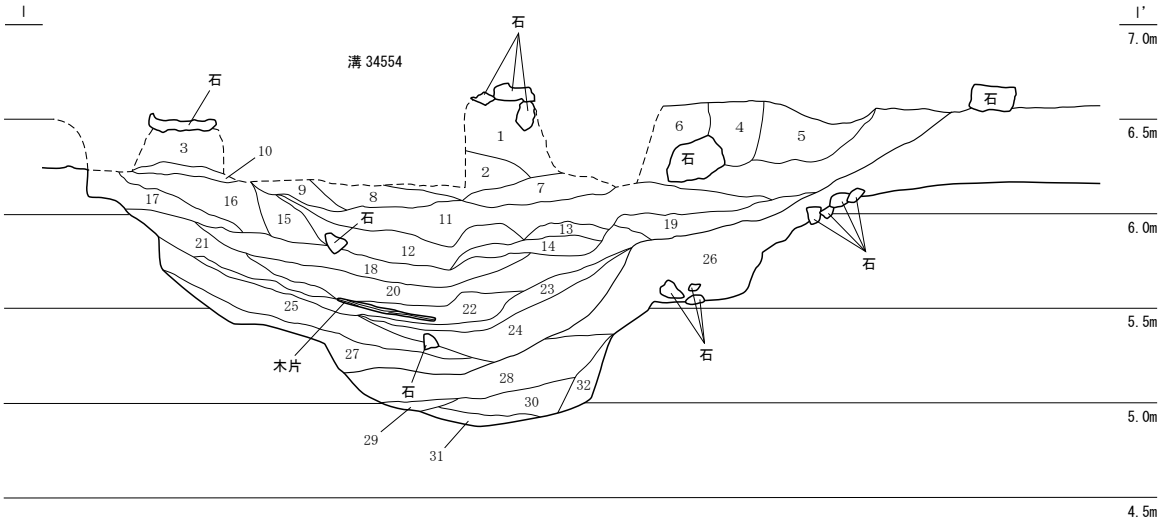


第160図　溝34471・34372・石垣34470・石列34374（縮尺1/40）



溝34670

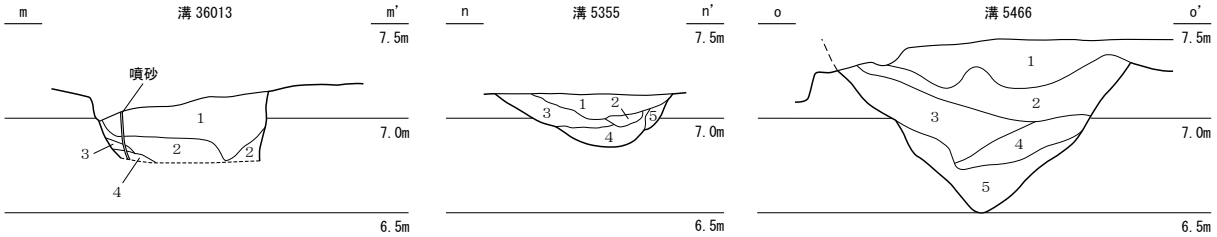
No.	土色・土質	土色No.	炭化物	焼土	植物	笏谷石	他の石	遺構等
1	黄灰色粘質土	2.5Y4/1	少	少	－	－	少	
2	黄灰色粘質土	2.5Y4/1	少	少	－	－	少	
3	黄褐色粘質土	2.5Y5/6	少	－	－	－	少	
4	褐灰色粘質土	10YR5/1	少	－	－	中	中	
5	黄灰色粘質土	2.5Y4/1	少	少	－	－	少	
6	オリーブ褐色粘質土	2.5Y4/6	少	－	－	－	－	
7	黄灰色粘質土	2.5Y5/1	少	少	－	－	少	
8	暗灰黄色粘質土	2.5Y4/2	少	－	－	少	中	
9	黄灰色粘質土	2.5Y4/1	少	－	－	－	－	
10	灰オリーブ色粘質土	5Y5/2	少	－	－	－	少	
11	暗灰黄色粘質土	2.5Y5/2	－	－	－	－	－	



溝34554

No.	土色・土質	土色No.	炭化物	焼土	植物	笏谷石	他の石	遺構等
1	灰オリーブ粘質土	7.5Y5/2	少	－	－	－	少	
2	灰オリーブ粘質土	7.5Y5/2	中	－	－	－	少	
3	黄灰色粘質土	10BG5/1	－	－	－	－	－	
4	灰色粘質土	10Y5/1	少	少	－	少	－	
5	灰オリーブ色粘質土	5Y4/1	少	－	－	－	－	
6	灰オリーブ色粘質土	5Y5/2	少	－	－	－	少	
7	オリーブ褐色粘質土	2.5Y4/4	少	－	少	少	少	
8	オリーブ黄色粘質土	7.5Y6/3	少	少	－	－	－	
9	緑灰色粘質土	10G5/1	少	－	－	少	－	
10	褐色粘質土	10YR4/4						
11	緑灰色粘質土	10G5/1	少	－	－	－	－	
12	灰オリーブ色粘質土	5Y6/2	中	少	－	中	中	
13	灰オリーブ色粘質土	7.5Y6/2	少	－	－	少	少	
14	オリーブ灰色粘質土	10Y6/2	少	－	－	少	少	
15	オリーブ黄色粘質土	7.5Y6/2	少	－	－	少	－	
16	黄褐色粘質土	2.5Y5/4	少	－	－	少	－	

No.	土色・土質	土色No.	炭化物	焼土	植物	笏谷石	他の石	遺構等
17	黄褐色粘質土	2.5Y5/4	－	－	－	－	－	
18	灰色粘質土	10Y6/2	少	－	－	－	－	
19	灰色粘質土	10Y5/1	少	－	－	中	－	
20	オリーブ黄色粘質土	7.5Y6/3	少	－	－	－	－	
21	灰オリーブ色粘質土	5Y5/3	少	少	－	－	－	
22	オリーブ色粘質土	5Y6/4	少	－	－	－	－	
23	オリーブ色砂質土	5Y5/2	少	－	－	－	－	
24	緑灰色粘質土	10G5/1	中	－	－	少	中	
25	オリーブ黄色粘質土	5Y6/3	少	－	－	－	－	
26	オリーブ灰色粘質土	2.5GY5/1	少	－	－	少	－	
27	緑灰色粘質土	10G5/1	少	－	－	－	－	
28	オリーブ黄色粘質土	5Y6/3	少	－	－	－	－	
29	緑灰色粘質土	10G5/1	少	－	－	－	－	
30	緑灰色粘質土	7.5Y5/1	少	－	－	－	－	
31	緑灰色粘質土	5GY5/1	少	－	－	－	－	
32	オリーブ灰色粘質土	5GY5/1	－	－	－	－	－	



溝36013

No.	土色・土質	土色No.	炭化物	焼土	植物	笏谷石	他の石	遺構等
1	褐色砂質土	10YR4/6	少	－	－	－	少	
2	にぶい黄褐色砂質土	10YR5/4	－	－	－	－	－	
3	褐色砂質土	10YR4/4	－	－	－	－	－	
4	暗褐色粘質土	10YR3/4	少	－	－	－	－	

溝5466

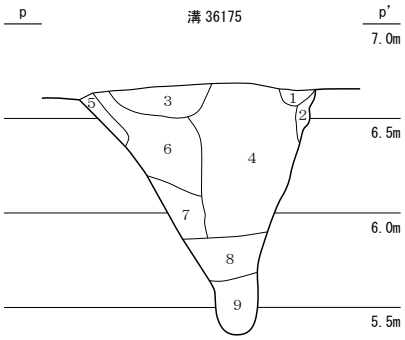
No.	土色・土質	土色No.	炭化物	焼土	植物	笏谷石	他の石	遺構等
1	暗褐色粘質土	10YR3/4	少	少	－	少	少	噴砂あり
2	にぶい黄褐色粘質土	10YR4/5	少	－	－	少	少	噴砂あり
3	暗褐色粘質土	10YR3/4	少	少	－	少	少	噴砂あり
4	にぶい黄褐色粘質土	10YR4/3	少	－	－	－	少	
5	にぶい黄褐色粘質土	10YR4/3	少	－	－	－	少	噴砂あり

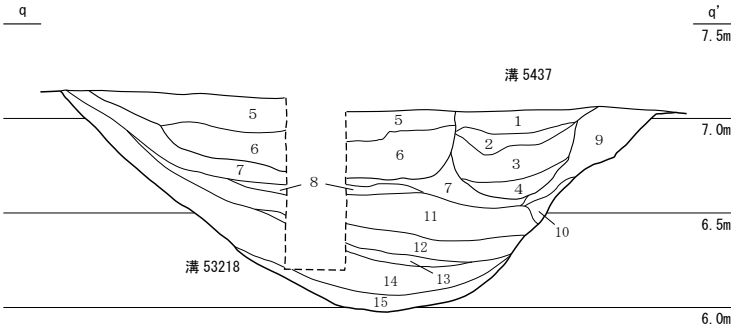
溝5355

No.	土色・土質	土色No.	炭化物	焼土	植物	笏谷石	他の石	遺構等
1	暗灰黄色粘質土	2.5Y5/2	少	－	－	少	少	
2	灰黄色粘質土	2.5Y6/2	少	－	－	－	－	
3	黄褐色粘質土	2.5Y5/3	少	－	－	少	少	
4	暗灰黄色粘質土	2.5Y4/2	少	－	－	少	少	
5	黄褐色粘質土	2.5Y5/3	少	－	－	少	少	



第161図　溝34554・34670・36013・5355・5466（縮尺１/40）



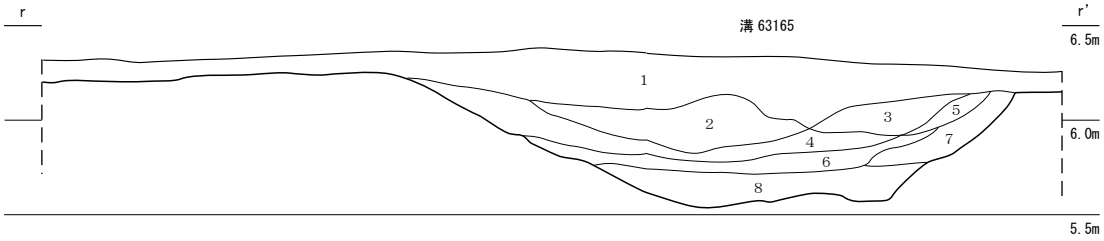


溝36175

No.	土色・土質	土色No.	炭化物	焼土	植物	笏谷石	他の石	遺構等
1	暗褐色粘質土	10YR3/4	少	－	－	－	少	
2	褐色粘質土	10YR4/4	少	－	－	－	－	
3	灰黄褐色粘質土	10YR4/2	少	少	－	少	少	
4	褐色粘質土	10YR4/4	少	少	－	－	少	
5	暗褐色粘質土	10YR3/3	少	少	－	－	－	
6	にぶい黄褐色粘質土	10YR4/3	少	－	－	－	－	
7	灰黄褐色粘質土	10YR4/2	少	少	－	－	少	
8	にぶい黄褐色砂	10YR4/3	少	少	－	－	少	
9	褐色粘質土	10YR4/4	少	－	－	－	－	

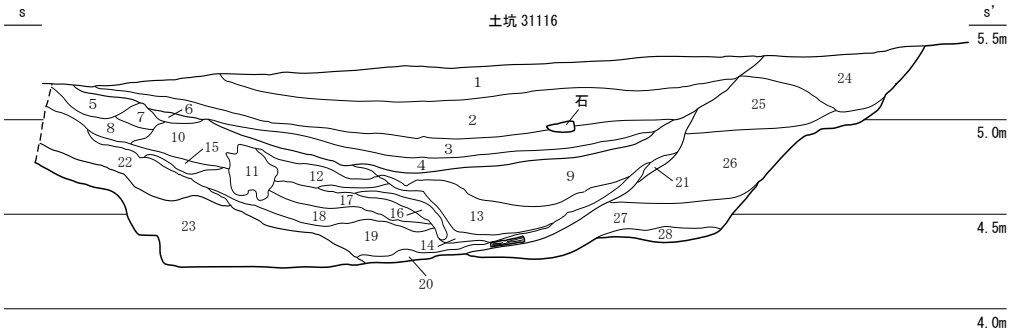
溝53218・5437

No.	土色・土質	土色No.	炭化物	焼土	植物	笏谷石	他の石	遺構等
1	灰色砂質土	5Y4/1	少	－	－	少	少	
2	オリーブ黒色砂質土	5Y2/2	多	少	－	少	少	
3	暗灰黄色砂質土	2.5Y4/2	多	－	－	中	少	
4	黒色炭層	2.5Y2/1	多	－	多	少	少	
5	黒褐色砂質土	2.5Y3/1	中	－	－	－	－	
6	にぶい黄褐色砂質土	10YR5/4	微	少	－	－	少	
7	褐色粘質土	10YR4/4	少	少	－	－	少	
8	黒褐色粘質土	2.5Y3/2	少	少	－	－	－	
9	褐色砂	10YR4/6	－	－	－	－	－	
10	オリーブ褐色粘質土	2.5Y4/3	少	－	－	－	－	
11	灰色砂質土	5Y4/1	少	－	少	－	少	
12	オリーブ黒色砂質土	5Y2/2	多	－	－	－	少	
13	暗灰黄色砂質土	2.5Y4/2	多	－	中	－	少	
14	黒色炭層	2.5Y2/1	多	－	少	－	少	
15	黒褐色粘質土	2.5Y3/1	中	－	－	－	－	



溝63165

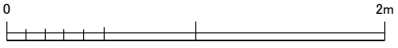
No.	土色・土質	土色No.	炭化物	焼土	植物	笏谷石	他の石	遺構等
1	灰オリーブ色粘質土	5Y5/2	少	－	－	－	－	
2	灰オリーブ色粘質土	5Y5/3	少	－	－	－	－	
3	オリーブ灰色粘質土	5GY5/1	少	－	－	－	－	
4	オリーブ灰色粘質土	2.5GY5/1	少	－	－	－	－	
5	灰色粘質土	N5/0	少	－	－	－	－	
6	灰色粘質土	N5/0	少	－	－	－	－	
7	灰色粘質土	N5/0	少	－	－	－	少	
8	青灰色粘質土	10BG5/1	少	－	－	－	少	



土坑31116

No.	土色・土質	土色No.	炭化物	焼土	植物	笏谷石	他の石	遺構等
1	暗灰黄色砂質土	2.5Y5/2	少	少	少	少	－	
2	黄褐色砂質土	2.5Y5/3	少	少	少	少	－	
3	オリーブ褐色砂質土	2.5Y4/3	少	少	少	少	－	
4	暗オリーブ褐色砂質土	2.5Y3/3	少	少	少	－	少	
5	オリーブ褐色砂質土	2.5Y4/4	少	少	少	－	少	
6	オリーブ褐色砂質土	2.5Y4/3	少	少	少	－	－	
7	暗オリーブ褐色砂質土	2.5Y3/3	少	少	少	－	少	
8	オリーブ褐色砂質土	2.5Y4/3	少	少	少	－	少	
9	黒褐色粘質土	2.5Y3/2	少	少	少	－	－	
10	オリーブ褐色砂質土	2.5Y4/3	少	少	少	－	－	
11	オリーブ褐色粘質土	2.5Y4/3	少	少	少	－	－	
12	暗オリーブ褐色粘質土	2.5Y3/3	少	少	少	－	－	
13	黒褐色粘質土	2.5Y3/3	少	少	少	－	－	
14	暗オリーブ褐色粘質土	2.5Y3/3	少	少	少	少	少	

No.	土色・土質	土色No.	炭化物	焼土	植物	笏谷石	他の石	遺構等
15	オリーブ褐色粘質土	2.5Y4/3	少	少	中	－	－	
16	黒褐色粘質土	2.5Y3/2	少	少	少	少	－	
17	オリーブ黒色粘質土	5Y3/2	少	少	少	－	－	
18	オリーブ黒色粘質土	5Y3/1	少	少	中	少	少	
19	オリーブ黒色粘質土	5Y3/1	少	少	少	－	－	
20	オリーブ黒色粘質土	5Y3/2	少	少	少	－	少	
21	暗オリーブ褐色粘質土	2.5Y3/3	少	少	少	－	－	
22	オリーブ黒色粘質土	5Y3/1	少	少	少	－	－	
23	灰色粘質土	5Y4/1	少	少	少	少	－	
24	黄褐色粘質土	2.5Y5/4	少	少	少	－	少	
25	オリーブ褐色粘質土	2.5Y4/4	少	少	少	－	－	
26	灰色粘質土	2.5Y4/1	少	少	少	－	－	
27	オリーブ黒色粘質土	5Y3/1	少	－	少	－	－	
28	オリーブ黒色粘質土	5Y3/1	－	少	－	－	－	



第162図　溝36175・53218・5437・63165・土坑31116（縮尺1/40）

第５章　石垣の符号

第１節　福井城の石垣符号

これまでの福井駅周辺の再開発に伴う福井城跡の発掘調査のうち、JR北陸線ほか２線連続立体交差事業（高架化）、北陸新幹線福井駅部建設事業、福井駅西口地下駐車場整備事業に伴う調査で、三ノ丸と中之馬場の石垣を検出した。これらの石垣は、最終的に調査範囲内の石材をすべて撤去することになり、撤去の際に石材ごとの符号の有無とその形状、検出位置等を確認して記録に留めた[(1)]。

石垣の符号は、石垣の構築や石材の確保に関わる人物・官職・産地等の略号や記号・紋、石材番号、寸法等の情報を記すものとされており、筆による墨書と鑿等で彫った刻印に大別される[(2)]。また、刻印には記号や略号のほか、名前を彫り込んだ刻銘と呼べるようなものもある。福井城の石垣にも、これら各種が確認されている。福井城の刻銘は、本丸北不明門西側の高石垣北東角付近の石材に、刻印とともに「本多左門角」と刻まれたものが知られる[(3)]。本多左門は、福井藩士のうち17家の高知席に名を連ねる上級武士であり、慶長18年（1613）と安永４年（1775）の福井城下絵図[(4)]に認められる。北不明門枡形石垣は、寛文の大火（1669）後の修理時に石材1461個を補填し修築しており、どちらの本多左門による石材か判断を下すことはできない。ともあれ、この刻銘は石垣の丁場担当を記したものと推察される。

墨書による符号は、西口地下駐車場整備に伴う発掘調査で確認した。残存状態が悪く判読が困難であったが、複数の文字が認められるもの２石、墨痕のあるもの１石があり、文字列は人名や漢数字を記したように見える[(5)]。この他、JR高架化に伴う発掘調査で検出した三ノ丸南石垣隅角部の石材に、刻印とともに「十七」の墨書があった。やはり、これらも石材の担当や配置等に関わる書き込みであろう。

刻印は、多種多様な形状のものが多数確認でき、幾何学的な図形や漢字のようなもの、道具や動植物、昆虫を図案化したと思われるもの等がある。これらは刻印の形状に意味を持たせたのではなく、それぞれが個人や組織を示す記号や略号等とみるべきであろう。これらのなかには、鏡に映すように反転したり、点や線を加除したりして、もととなる刻印と微細な部分が異なる亜種と呼ぶべき刻印もある。多数のうち数点程度が亜種ならば誤刻の可能性もあるだろうが、複数種の亜種がある程度の割合を保持して併存する例があることから、意図して刻み分けていたと考えられる。このような亜種の刻印は、もととなる刻印を使用する個人や集団、組織等と、近い関係であることを示すのかもしれない。例えば、石工の師弟や兄弟弟子のような同じ系譜であることや、あるいは全く別の集団でありながら同じ施工主や出資者の下に集まったことを示すのかもしれないが、刻印の示す対象の特定は、現時点では困難である。ただし「本多左門角」の刻銘の隣にある刻印は、異なる表示で重複する内容を並べる理由が見出し難いため、「本多左門」を示すのではなく、実際の作業に関わった集団等を示すことが考えられる。また、一石材に一種の刻印を刻むことが原則のようであるが、一石材の異なる面に異なる刻印を施したり、同一面に異なる刻印を並べたりするものも確認されている。その場合、異なる集団の合同作業範囲や元請下請の関係を示す可能性を考えたが[(6)]、一方が丁場担当者を示すことも考えられる。

福井城の石垣の調査は、城郭全体から見ると僅かな範囲で実施されたのみである（第175図）。しかし、石垣の符号は、僅かな墨書の例とともに多種多様の刻印が確認されている。また、石垣によって刻印の有無や多寡、刻印を持つ石材の分布状況が多様であることが確認されている。一見、各石垣の刻印石は全く秩序なく配置されているように見える。使用される刻印は、一地点にのみ限定的に認められるので

はなく、多くの刻印が複数地点にわたって確認されており、刻印の多くが石垣造営に関わる集団を示すものと考えられることから、複数の集団が多くの場面で相互に関わり合いながら造営活動に当たったことが想定される。そのような状況であれば、刻印を持つ石材の配置等についても、共通する概念や規則性のようなものが存在したことが推測される。そのため、各石垣における刻印の概要を確認し、それらを比較することで共通性の有無の確認とその認識をすることで、法則のようなものが見出せるかもしれない。以下、調査により確認した福井城の石垣刻印の諸様相を詳述する。

第２節　石垣刻印の様相

今回の発掘調査で検出した石垣について、南から順に刻印の様相を説明する（第175図）。それにあわせて隣接する新幹線駅部地点の石垣刻印も確認する。また、これまで符号の調査がなされた他の石垣についても同様に概要をまとめる。なお、今回の調査と新幹線駅部地点の調査で検出した石垣以外には、福井駅西口地下駐車場地点にて検出した三ノ丸西側南端（寄合席屋敷東側）の百間堀に面する石垣と、福井市教育委員会が昭和63年から平成３年度にかけて実施した御屋形地区再開発事業に伴う発掘調査にて検出した三ノ丸作事所周囲の石垣を取り上げる。現在のところ、石垣符号の調査を実施した福井城の石垣は、これら４事業地点のみである[(7)]。

１　中之馬場の石垣

中之馬場南石垣（第163図，第５・11表）　検出総数84石のうち76石（約９割）に23種の刻印を確認した。複数の刻印を持つ石材は１石であり、異なる３面に同じ刻印がある。石材各面の刻印出現数は正面２・背面２・右面９・左面９・上面16・下面40で、５割以上が下面にあり、正面に露出するのは３％に満たない。刻印を持つ石材の配置は、東半分の直線的に延びる部分では刻印の種別ごとに積み分けられるのが特徴的であり、西の隅角部周辺では17種が混在する。ほぼすべての石材に刻印があるため積み分けの範囲が明瞭である。最も多い刻印は、鎌を模したような形のものであり、検出部分の東端に18石がまとまる。隅角部付近にも「鎌」形刻印が２石に確認されるが、柄の部分の表現が異なる。次いで、アルファベットのＹ形に線等を追加した形のものや、円内に十字を刻むものが多い。「Y」系の刻印には、鏡像となるものが含まれており、「Y」系刻印の配置の両側境界部に配置されている。また、隅角部付近には「Y」の下端をＬ字状に屈曲するものが１石認められる。

中之馬場北石垣（第164・170図，第５・６・11・13表）　検出総数155石のうち65石（４割以上）に21種の刻印を確認した。複数の刻印を持つ石材は７石あり、そのうち同一面に同じ刻印が並ぶものは１石で、同じ刻印が異なる２面にあるもの４石、異なる３面にあるもの１石、異なる２面に異なる刻印があるもの１石である。石材各面の刻印出現数は正面15・背面６・右面７・左面６・上面13・下面23で、下面に３割強があり、正面に露出するのは２割を超える。刻印を持つ石材の分布は概ね４つ程度のまとまりに分かれ、それぞれに複数種の刻印が混在する。また、それぞれのまとまりの中でも、同種の刻印が一ヶ所にまとめられたり、一定の間隔をあけて配置されたりしている。最も多い刻印は「V」形の刻印であり、その亜種と捉えられる「V」に下線を付けたような刻印をあわせて30石ある。これらも同様に分かれて分布するが、東側では２つのまとまりの間にも多数集中し、隙間を埋めるように展開する。「V」系以外の刻印は19種あるが、そのうち13種が単独で確認される刻印である。なお、正面に刻印を露出させる石材は「V」系の割合が高い。

上記の検出石垣から東側へ約10m離れた部分にて、新幹線駅部地点の石垣（06－１－１）を検出した。

検出総数85石のうち41石（5割弱）に25種の刻印を確認した。複数の刻印を持つ石材は10石あり、そのうち同一面に同じ刻印が並ぶもの・異なる刻印が並ぶものがともに1石、異なる面に同じ刻印があるもの6石・異なる刻印があるもの2石である。石材各面の刻印出現数は正面5・背面1・右面6・左面5・上面15・下面18で、下面が4割強と多く、正面に露出するのは1割強である。刻印を持つ石材の分布は3つ程度に分かれるように見える。各種刻印が5石以下と少なく、同種の刻印がややまとまりつつ分布する。ただし、円内に中心点を付けたような形（家紋種別風に言うなら「丸に一つ星」）の刻印は、亜種と呼べるものを含めると比較的多く、これらの分布は広範におよぶ。

中之馬場西石垣（第172図，第14表）　上記の中之馬場北石垣から西南西へ約300m離れた福井駅西口地下駐車場地点にて検出した石垣である。各城下絵図では、北石垣地点から西石垣地点までの間に2～4ヶ所のシノギ角が表現されているが、実際の石垣の状況は不明である。これら中之馬場の北から西側にかけての石垣は、吉野川旧流路左岸の形状をよく残すものとみられる一連の石垣である。

この地点では、検出総数166石のうち12石（7％強）に8種の刻印を確認した。複数の刻印を持つ石材は1石であり、異なる面に同じ刻印がある。石材各面の刻印出現数は右面3・上面2・下面7で、他の面にはなく、石垣表面に露出するものはない。刻印の分布は、5～7m程度の間隔をあけながら、刻印の同種異種問わず3石程度がまとまる。かなり希薄ではあるが、中之馬場北石垣で認められた「V」系刻印以外の刻印分布状況に共通すると言える。

2　三ノ丸土橋と三ノ丸の石垣

三ノ丸土橋西石垣（第165図，第7・8・11表）　検出総数170石のうち69石（約4割）に22種の刻印を確認した。複数の刻印を持つ石材は7石あり、同一面に同じ刻印が並ぶもの2石、異なる面に同じ刻印があるもの1石、異なる面に異なる刻印があるもの4石である。石材各面の刻印出現数は正面6・背面3・右面5・左面4・上面18・下面37であり、下面に半数以上、上面に約1/4が配され、正面に露出するのは9％弱である。刻印の分布は、多くが石垣の下部に集中する。上半は刻印が希薄で、広く間隔をあけつつ「大」形の刻印が配置されている。なお、下部の石垣石材は不整形であり、根石として埋め込まれていたものと考えられる。上半の石垣石材はおもに普遍的な寸法の切石であり、石垣表面に側面を露出させるものと小口を向けるものが認められるが、交互に配置されるような部分があるものの必ずしも規則性はないようである。

三ノ丸土橋南石垣（第171図，第13表）　土橋西石垣は、検出した部分の南端から南へ約15m先でほぼ直角に屈曲し、東側へ方向を変えて延びる。隣接する新幹線駅部地点にて、その屈曲部付近から東へ約10m延びる石垣を検出しており、土橋南石垣（06－1－2）とした。検出総数58石のうち18石（約3割）に15種の刻印を確認した。複数の刻印を持つ石材は4石あり、そのうち1石は異なる3つの刻印が2面に分けて刻まれていた。それ以外は、異なる2面に異なる刻印があるもの3石である。石材各面の刻印出現数は正面3・右面1・上面7・下面11で、上下の面で8割を超え、正面に露出するのは1割強である。刻印の分布は、検出範囲が狭く不明瞭ではあるが、「大」形刻印が間隔をあけつつ配置される状況は土橋西石垣と共通する。土橋南石垣下層の刻印は大きく2つに分かれてまとまっており、土橋西石垣下層の刻印が網羅的に認められたのとは異なる。

三ノ丸土橋東石垣（第166図，第8・12表）　検出総数80石のうち30石（4割弱）に7種の刻印を確認した。複数の刻印を持つ石材は1石で、異なる面に同じ刻印がある。石材各面の刻印出現数は正面2・背面4・右面4・左面3・上面6・下面12で、正面に露出するのは1割に満たない。刻印の分布は、ほ

ぼ全面にわたり疎らであるが、最も多く確認された「大」形刻印が土橋西石垣上層と同様に間隔をあけながら全面にわたり配置されている。そのため、他の刻印は「大」の空隙部分に配置されるように見える。土橋東石垣は、検出した部分の南端から南へ約12m先で屈曲し、東へ延びる。隣接する新幹線駅部地点では、屈曲部付近とその東約8m分の石垣を検出し、土橋北石垣（06－1－2）とした。屈曲部北側には土橋東石垣の南端約2m分も確認した。土橋東石垣南端部分では、検出石材数12石のうち４石（1/3）に２種の刻印を確認した。石材各面の刻印出現数は右面１・上面１・下面２である。刻印の分布状況は、実際に東石垣の南端であり、東石垣と同一である。また、西石垣と同様、石垣石材の向きは石垣表面に側面を露出させるものと小口を向けるものが認められるが、やはり規則性はないようである。

三ノ丸土橋北石垣（第171図，第13表）　検出総数36石のうち11石（約３割）に10種の刻印を確認した。複数の刻印を持つ石材は１石で、異なる面に異なる刻印がある。石材各面の刻印出現数は右面２・左面１・上面３・下面６であり、正面への露出がない。刻印の分布は、石垣の残存状態が良くないが、最下層の根石に刻印がなく、２石目以上に疎らに配置される。

三ノ丸土橋縁石状延石列（第167図，第９・12・14表）　土橋上路面の東西両脇に縁石状の石列を確認した。土橋が屈曲した南東側では路面の南側にのみ確認しており、東・西・南の３方にある。これは城下絵図に見られる小さな土居状の表現と位置が共通する。これらの石列は、いずれも直方体の延石１石を横方向に並べており、部分的に薄い石材を上に積む。西石列は27石中３石（１割強）に３種の刻印を確認した。刻印は上面1・下面２にあり、間隔をあけて配置されている。南石列は15石中２石（１割強）に２種の刻印を確認した。刻印は上面１・背面１にあり、間隔をあけて配置されている。東石列は20石中４石（2割）に２種の刻印を確認した。刻印は上面３・下面１にあり、北端に同種の刻印がまとまる他は間隔をあけて配置されている。これら石列の刻印は、必ずしもそれらの背後の石垣と同種の刻印とは限らないが、石垣の刻印が集中する箇所と配置が揃うように見える。

三ノ丸南・枡形石垣（第168図，第９・10・12表）　三ノ丸南石垣と枡形石垣は隅角部を介してほぼ直角に屈曲するが、枡形石垣とした石垣の残存状況が著しく悪く石材が少ないため、あわせて扱う。検出総数66石のうち54石（8割強）に19種の刻印を確認した。複数の刻印を持つ石材は22石ある。同一面に異なる刻印が並ぶもの２石、異なる面に同じ刻印があるもの３石、異なる面に異なる刻印があるもの15石があり、この他に、２面に同じ刻印があり、もう１面に異なる刻印のある石材が２石ある。石材各面の刻印出現数は正面15・背面４・右面13・左面12・上面15・下面17で、背面に少なく、下面にやや多いもののいずれも比率が似通っており、正面は２割弱である。

刻印の分布は、南石垣では「鎌」と「〒」形の刻印がほぼ網羅的に密集しており、両者の刻印を持つ石材も多い。また、「鎌」形の刻印は、柄が一本線で表現されるものや二本線表現のもの、柄に鉤が付くもの、それらの鏡像等、様々なバリエーションの亜種がある。なお、隅角部最下段の角石には、「鎌」と「〒」の融合した刻印が刻まれている（第168図 石材番号58）。その東隣の角脇石には「鎌」の刻印とともに「十七」の墨書がある。枡形石垣は、残存する石材が少ないが、南石垣とは異なる多様な刻印を持つ石材があり、本丸石垣に認められた刻銘「本多左門」と並ぶ刻印と同一の刻印（「Y」形の二股に開く部分に「+」を追加した刻印）が１石ある（第168図 石材番号61）。

三ノ丸東石垣（第169図，第10・12表）　検出総数52石のうち11石（２割強）に３種の刻印を確認した。複数の刻印を持つ石材は３石あり、異なる２面に同一の刻印があるもの２石、異なる３面に同一の刻印があるもの１石である。石材各面の刻印出現数は正面２・右面２・左面２・上面４・下面５であり、上下

の面で6割を占め、正面に露出するのは1割強である。石垣の残存状態が悪いが、撹乱で二分された西側には歪な形の石材による根石が並び、東側はやや小ぶりの整形された石材が最下段から積み上げられている。刻印の分布は、西側の根石に同種の刻印がまとまって認められ、東側には西側に見られる刻印と、南石垣に見られた「鎌」と「〒」の刻印が疎らに1、2点ずつ確認される。

3　三ノ丸南端の百間堀に面する石垣

この石垣は、寛文年間の後に三ノ丸に配置された寄合席三家のうち南の屋敷の東側の石垣である。最下層には福井城の縄張とは異なる石垣Ⅰがあり、これを壊して造られた慶長期の石垣Ⅱと、その後、入角・出角の位置をやや南に移動（拡張）して幕末まで存続した石垣Ⅲを確認した。石垣Ⅰは、いわゆる福井城以前の石垣であり、刻印も確認されていないため、ここでは石垣Ⅱ・Ⅲのみを扱う。

三ノ丸石垣Ⅱ（第173図, 第14表）　検出総数157石のうち48石（3割強）に12種の刻印を確認した。複数の刻印を持つ石材は7石あり、そのうち同一面に異なる刻印が並ぶもの2石、異なる面に同じ刻印があるもの4石・異なる刻印があるもの1石である。石材各面の刻印出現数は正面5・背面1・右面9・左面8・上面12・下面19で、正面に露出するのは1割程度である。刻印は、屈曲して入角・出角となる付近に集中する。複数種の刻印があるが、入角部分には「×」形刻印が網羅的に集中する。なお、墨書を持つ石材（墨書2石・墨痕1石）は、北側の直線的に延びる部分にて確認した。

三ノ丸石垣Ⅲ（第174図, 第14表）　検出総数269石のうち154石（6割弱）に42種の刻印を確認した。複数の刻印がある石材は43石あり、その内訳は、同一面に同じ刻印2つが並ぶもの1石・同じ刻印3つが並ぶもの1石・異なる刻印2つが並ぶもの4石・異なる刻印3つが並ぶもの2石、異なる面に同一の刻印があるもの20石・異なる刻印があるもの11石のほか、異なる2面に異なる3種の刻印が2つと1つに分けて配置されるもの、異なる3面に同じ刻印が1つずつとその別面に異なる刻印があるもの等、多数の複合例がある。石材各面の刻印出現数は正面3・背面3・右面21・左面21・上面64・下面79で、上下の面で7割を超え、正面に露出するのは2％に満たない。複数の刻印を持つ石材が多いものの正面に刻印を露出する石材が著しく少ないため、意図して表面に刻印を露出しなかったことが考えられる。刻印の分布は、ほぼ網羅的に刻印を持つ石材が使用されている。入角付近は亜種を含む「Y」系刻印が占める。出角部分には様々な刻印が混在する。隅角部より北側には「丸に一つ星」系刻印が多く、他にVを二つ重ねて並べたような「W」形、「×」系、「大」系、「N」もしくは「Z」のような形の刻印等、多種多様の刻印がある。なお、大坂城の石垣のうち越前方の丁場に認められる主要な刻印として、X・Y・Zのような形の刻印があげられているが[(8)]、石垣Ⅲにはそれら3種の刻印とその亜種等が認められる。福井城の発掘調査で、これらアルファベットのような3種の刻印が一地点にまとまって確認されたのは、今のところこの石垣Ⅲだけである。

4　三ノ丸作事所周辺の石垣

三ノ丸作事所周囲の石垣とは、18世紀半ば頃以降、作事所となった馬出状区画の四方外面の石垣である。これに、その南へ延びる土橋の西側石垣、土橋が南接する鉄門北方の石垣と、作事所の東側対岸に当たる御座所西石垣もまとめて扱う[(9)]。

作事所北石垣（第16表）　残存した石材794石のうち、近代以降に積み直されたとみられる石材を除くと598石がもとの状態を留めるようである。このうち164石（3割弱）に54種の刻印がある。複数の刻印を持つ石材は15石あり、同一面に異なる刻印が並ぶもの11石、異なる面に同じ刻印があるもの1石、異なる面に異なる刻印があるもの3石である。石材各面の刻印出現数は正面25・背面4・右面10・左

面11・上面10・下面99と不明９であり、下面は６割を超え、正面に露出するのは約16％である。刻印は石垣下半に比較的多い。全般的に疎らな分布ではあるが、同種の刻印がそれぞれまとまる。最も多い刻印は「Y」系４種であり、亜種等をあわせると20石におよぶ。次いで、円内に三つの点を配する刻印（家紋種別の「丸に三ツ星」に該当するとされる）や「×」形刻印がそれぞれ10石を超え、その他８種の刻印がそれぞれ５石前後、残りのものは数石程度ずつである。この石垣西端は算木積みになり隅角部を形成するが、刻印は確認されていない。

作事所西石垣（第15表）　地上に露出していた部分のみが調査対象となった。撤去となった石材338石のうち、近代以降に積み直された石材を除くと206石がもとの状態を留める。このうち114石（5割強）に24種の刻印がある。複数の刻印を持つ石材は５石あり、同一面に同じ刻印が並ぶもの１石・異なる刻印が並ぶもの３石、異なる面に同じ刻印があるもの１石である。石材各面の刻印出現数は正面２・背面11・右面14・左面14・上面31・下面42で、上下の面で６割を超え、正面に露出するのは２％に満たない。刻印の分布は、散漫に広く展開するが、いくつかのまとまりを成す。最も多く認められる刻印は「大」系であり、亜種等をあわせて50石を超える。次いで、円内に一本線を引く形（家紋種別としては「丸に一つ引き」）の刻印14石、弓を模したとみられる細長いＤ形とその亜種があわせて10石、（五芒）星形６石、「×」形４石、「井」形の中央に点を付けるもの（家紋種別風に言えば「平井筒に一つ星」）４石、これらの他は１～２石ずつ配置される。数の多い「大」系や「丸に一つ引き」、「星」形刻印等は全体にまんべんなく配置され、数の少ない刻印は間隔をあけつつまとまる。

作事所南石垣（第15表）　検出総数143石のうち54石（４割弱）に20種の刻印がある。複数の刻印を持つ石材は５石あり、同一面に異なる刻印が並ぶもの２石、異なる面に同じ刻印があるもの１石、異なる面に異なる刻印があるもの２石である。石材各面の刻印出現数は背面３・右面３・左面３・上面２・下面46で、約８割が下面にあり、正面にはない。刻印の分布は、やや間隔があくがほぼ網羅的に配置される。しかし、網羅的配置の両側は、刻印を持つ石材が疎らになる。最も多く認められる刻印は「大」系刻印であり、亜種等をあわせると20石におよぶ。次いで、矢印あるいは傘のような形の刻印が14石あり、この他「×」形が４石ある以外は数石ずつ配置されている。刻印が網羅的に認められる部分では、概ね「大」系が上半に、「矢印（傘）」形が下半に分かれて位置し、他の刻印がその間に配置される。

作事所東石垣（第15表）　この石垣は、平面検出した最上段の石材についてのみ刻印を確認したようであるが、刻印の検出面等は確認していない。刻印を持つ石材は53石で、30種の刻印がある。複数の刻印がある石材は８石あり、いずれも同一面に異なる刻印が並ぶものである。確認された刻印は、２つの円を交差した形（家紋種別としては「輪違い」）とその亜種等をあわせて10石、弓形７石、「Y」系６石、「×」形５石、その他の刻印は１～数石ずつである。

作事所南の土橋西側の石垣（第16表）　検出総数254石のうち37石（約15％）に21種の刻印を確認した。複数の刻印を持つ石材は２石で、同一面に異なる刻印・異なる面に同じ刻印があるものが各１石ある。石材各面の刻印出現数は正面１・背面４・右面４・左面２・上面５・下面22で、正面に露出するのは約2.6％である。刻印の分布は疎らであり、多くが石垣上半の標高6.5m以上にまとまる。刻印は、亜種を含む「大」系16石あり、その他はほぼ単独か多くても数石ずつ配置される。

鉄門北方の石垣（第16表）　地表下３段分が調査対象となり、検出総数71石のうち25石（約35％）に８種の刻印を確認した。複数の刻印を持つ石材はない。石材各面の刻印出現数は右面１・左面４・上面７・下面13であり、正面・背面にはなく、半数以上が下面にある。刻印の分布は検出部分の西半分

に偏る。確認された刻印は、亜種を含む「大」系が19石あり、その他の6石中3石は「Y」系刻印である。なお、石垣の検出部分は標高約6.5m以上であり、それ以下の刻印について存否は不明である。

御座所西石垣（第17表）　作事所の東側対岸に位置する。西面する石垣の南側が入角となりL字状に屈曲した北面の石垣からなる。西面部分は、検出総数125石のうち57石（約45％）に21種の刻印がある。複数の刻印を持つ石材は14石あり、同一面に異なる刻印が並ぶものが12石ある。そのうち1石は異なる面にも同じ組み合わせの刻印がある。この他、異なる面に同じ刻印、異なる刻印があるもの各1石である。石材各面の刻印出現数は正面2・背面1・右面10・左面13・上面13・下面20である。刻印の分布は、やや間隔が空くもののほぼ網羅的に配置される。ただし、入角北側にまとまる大型の石材には刻印がない。最も多い刻印は2つの正方形を交差した形（家紋種別風に言うと「方違い」）の刻印21石であり、次いで亜種を含む「中」のような形の刻印11石がある。この他大半の刻印が数石ずつである。

北面部分は、検出総数28石のうち8石（3割弱）に7種の刻印がある。複数の刻印を持つ石材は3石あり、同一面に異なる刻印が並ぶもの3石である。このうち1石には、二つの刻印と同じ面に「二十三」と漢数字が刻まれている。報告書によると、この石垣の検出部分のすぐ西側が算木積みとなり出角を形成するらしい。この部分の検出された石材と隅角部の石材をあわせても30数石であり、「二十三」という漢数字が下から積み上げた際の石材の順番を示している可能性はある。石材各面の刻印出現数は正面2・背面2・右面1・上面1・下面2である。刻印の分布は、刻印を持つ石材の方が少ないが、比較的まとまって見える。西面部分と共通する刻印は「平井筒」形と果樹園記号形が1石ずつある。また、この他、「＊」形やひらがなの「の」もしくは「お」のような形の他所に認められない刻印等がある。

第3節　石垣刻印の諸様相の比較

前節では検出した各石垣の刻印の諸様相を確認した。ここではそれらを地点ごとにまとめて比較し、共通点・相違点等を整理する。

1　中之馬場の石垣

中之馬場の石垣のうち南石垣は城郭の外側を向く表側の石垣であるが、北石垣や西石垣としたものは城郭中枢を望む背後側の石垣である。この違いが刻印を持つ石材の使用頻度や配置に影響を与えているのかもしれない。南石垣は、検出した石材の約9割に刻印があり、隅角部東側の刻印は種別ごとに積み分けられている。それに対して北・西石垣は、北の方が刻印を持つ石材の使用割合がやや高いが（北：4～5割，西：1割弱）、南石垣の半分以下の割合であり、刻印は同種のものが島状にまとまり、各島が間隔をあけて配置される。ただし、各島間を埋めるように網羅的に配置される例外的な刻印もある。

2　三ノ丸土橋と三ノ丸の石垣

三ノ丸土橋は、途中でほぼ直角に屈曲しており、東西と南北の二つの対になる石垣からなる。これらは検出した石材の3～4割に刻印があり、そのうち1割前後が表面に露出する。刻印の分布は、東石垣と西石垣上半、南石垣上半については、広く間隔をとりつつ「大」形刻印を疎らに配置することで共通している。ところが、西石垣下層は、「丸に一つ星」系を中心とする多様な刻印があり、同種のものが島状にまとまるものの島同士の間隔が小さいため網羅的となる配置であり、南石垣下層は同種のものだけでなく複数種の刻印が島状にまとまる。また、北石垣は、残存状態が悪いが、様々な刻印がある程度まとまりながら配置されるようである。つまり、「大」形刻印の分布範囲以外の北石垣や南石垣下層、西石垣下層は、多様な刻印による島状配置を原則としており、明らかに様相が異なる。

この土橋は、東石垣の南端の石材を北石垣の表面に当てるように構築されていることから、先に土橋南側の東西方向へ延びる部分、次いで南北方向へ延びる部分を造営したようである。そして、刻印配置の状況から、土橋造営の前段階を複数集団が担当したが「大」形刻印に示される集団が引き継いだ、あるいは、土橋の石垣が崩壊したため「大」形刻印に示される集団等が修繕に当たったこと等が考えられる。ただし、石垣の積み直しの可能性は否定できないが、土橋上の縁石状延石列に認められる刻印はおもに「大」であり、土橋の土層断面等にこの石列を敷設し直す程の土橋崩壊の痕跡は認められない。

三ノ丸の石垣のうち土橋が接続する南石垣および枡形石垣には、検出した石材の８割以上に刻印があり、そのうち２割近くが正面に露出する。その背後に当たる東石垣には、検出した石材の２割強に刻印があり、正面に露出するのはそのうちの１割強程度である。南石垣には亜種の多い「鎌」系、「〒」形の刻印が網羅的に密集しており、両刻印をあわせ持つ石材も多い。枡形石垣は、残存状態が悪いが、南石垣と異なる多様な刻印を持つ石材が網羅的に配置されるようである。東石垣も残存状態が良くないが、刻印石の配置は緩やかにまとまる島状配置である。なお、東石垣にも、南石垣に多い「鎌」系、「〒」形刻印があるが、疎らに1、２点ずつ確認されるのみである。東・南石垣は同じ三ノ丸の城郭外側を向く表側の高石垣であり、ともに同じ刻印が確認されるにもかかわらず、このような差が生じる原因は不明である。しかし、人目につく門側の石垣であるか否かという違いが現れているのかもしれない。

３　三ノ丸南端の百間堀に面する石垣

石垣Ⅱは検出石材の３割強に刻印があり、正面に刻印が露出する例はその１割程度であったが、石垣Ⅲは６割弱に刻印があり、正面に露出するのはそのうちの２％に満たない。また、石垣Ⅱでは刻印は屈曲部の入角・出角付近に集中しており、特に入角付近に「×」形刻印が網羅的に密集したが、石垣Ⅲでは刻印はほぼ網羅的に分布しており、入角付近には「Y」系刻印が密集する。石垣Ⅱから石垣Ⅲへの変化の中で、刻印石の割合が多くなったにもかかわらず、表面への露出度は低下している。ただし、入角付近に刻印石を網羅的に配置することは変化していない。

石垣Ⅱの刻印12種、石垣Ⅲの刻印41種のうち、共通する刻印は４種（「×」形、「平井筒」形、果樹園記号のような形、日のような形）である。この共通する刻印４種は、石垣Ⅱに27石、石垣Ⅲには18石に確認した。石垣Ⅱでは一石材が複数の刻印を持つことは少ないが、石垣Ⅲではその割合が高い。しかし、その共通する刻印を持つ石材は、石垣Ⅲでも一石材に一刻印のものが多い。なお、石垣Ⅲでその４種を含む複数種の刻印を持つ石材は４石であり、その４種のうちの刻印と石垣Ⅱには認められない刻印が組み合わせられている。そのため、共通する刻印の石材は石垣Ⅱから石垣Ⅲへ再利用された石材である可能性は否めないが、同じ刻印を使用する集団が再び石垣造営に参加したとの理解も可能である。

なお、石垣Ⅲの刻印数と種類は、どちらも石垣Ⅱと比較して４倍近く増加している。このことは、石垣Ⅱの造営時よりも、多数の集団を動員して石垣Ⅲとして積み直したことを示すものと考えられる。

４　三ノ丸作事所周囲の石垣

作事所の西・南石垣は、検出した石垣の５～６割に刻印があるが、表面に露出するのはその２％に満たない。北石垣は３割弱に刻印があり、露出するのはそのうちの２割弱である。いずれも散漫な島状配置を原則とするようであるが、数の多い種別の刻印を持つ石材が連なり部分的に網羅的な配置となる。西石垣は「大」系刻印のほか、「丸に一つ引き」、「星」形刻印が広く展開し、南石垣は「大」系と「矢印（傘）」形刻印がまとまりつつ展開する。北石垣には「Y」系刻印、次いで「丸に三ツ星」、「×」形刻印が多いが、他の少ない刻印と同様に島状にまとまりつつ展開する。東石垣では石垣１段分の刻印種別を確認しただ

けであるが、周辺に見られない「輪違い」形の刻印が多数認められ、他の石垣と共通の刻印もあるが数が多くはない。おもに確認される刻印種別の違いから、西・南石垣、北石垣、東石垣の三者は異なる集団が中心となって造営した可能性が窺える。

作事所南の土橋西石垣と鉄門北方石垣は、後者が部分的な調査であるため俄かに比較することはできないが、ともに刻印は島状分布であり、おもに「大」系刻印が使用されることで共通する。

御座所西石垣の西面部分は、検出した石垣の5割近くに刻印があり、表面に3％強露出しており、刻印を持つ石材が「方違い」形の刻印を中心に部分的に網羅的な配置となる等、作事所西・南石垣とよく似た様相と言える。また、対面する作事所東石垣には「輪違い」形刻印が多いのであるが、この配置に何らかの関連があるのか否かは不明である。御座所西石垣の北面部分は、散漫な島状配置であり、使用される刻印は西面部分に共通のものや「円」形等の他地点にも認められる刻印のほかに、「＊」形刻印等の今のところ他には認められない刻印がある。

5　各地点の刻印様相の比較

各地点の刻印の諸様相は、俄かには各地点で異なるように見えるが、それぞれの詳細を確認すると実際は共通するところが多い。おもに刻印を持つ石材の配置等に関して、刻印が石垣の表面に露出する割合、地点による刻印を持つ石材の使用頻度、刻印石の配置原理等が共通点や通有の規則性があげられる。刻印が石垣の表面に露出する割合は、多い場合には刻印を持つ石材のうちの3割近くに上ることもあるが、ほとんどの場合は1割程度であり、石垣表面に刻印を露出しないことを原則とするようである。三ノ丸南端の石垣Ⅱから石垣Ⅲへの変化には、時間の経過による刻印に対する意識の変化が現れているとみられるが、刻印を持つ石材が増えているのにもかかわらず、露出する刻印の割合が減ることから、時間の経過とともにそのような意識が進行したとまでは言えなくとも継続したものと捉えられる(10)。なお、いわゆる福井城以前の石垣には、刻印は確認されていない。

各石垣における刻印を持つ石材の使用頻度は、おおまかに1～2割前後、4～5割前後、8割以上に分かれる。刻印を持つ石材が1～2割前後の石垣は、中之馬場西石垣や三ノ丸東石垣、作事所北石垣等であり、城郭の内側を向く背後側の石垣や、表側の高石垣でも門等の主要な施設から離れた地点に当たる。刻印を持つ石材が4～5割前後の石垣は、中之馬場北石垣、三ノ丸土橋、三ノ丸石垣Ⅲ、作事所西・南石垣、鉄門北方石垣であり、おもに表側の高石垣やそれに準じた地点の石垣である。刻印を持つ石材が8割以上の石垣は、中之馬場南石垣と三ノ丸南石垣であり、門等に近い高石垣である。必ずしも一概には言えないが、門の近くや表側の高石垣等に多く、背後側の石垣や門から離れた地点には少ないため、人目につくような主要な地点に刻印を持つ石材を使用する傾向があるように見える。

刻印を持つ石材の配置は、網羅的な配置と島状配置に分かれる。さらに島状配置は、多くの刻印を持つ石材がまとまって大きな島を形成するものと、数点がまとまる程度のものに分けられる。単一種の刻印がこれらの配置となる場合は単純であるが、複数種の刻印が重複したり、網羅的配置と島状配置が混在したりすることで複雑化する。多くの場合、複数種の刻印による大小多数の島が重複する島状配置と網羅的配置が複合して複雑な状態となるため、配置原理の認識が困難となっているが、このような基本法則の下に刻印を持つ石材が配置されているようである。

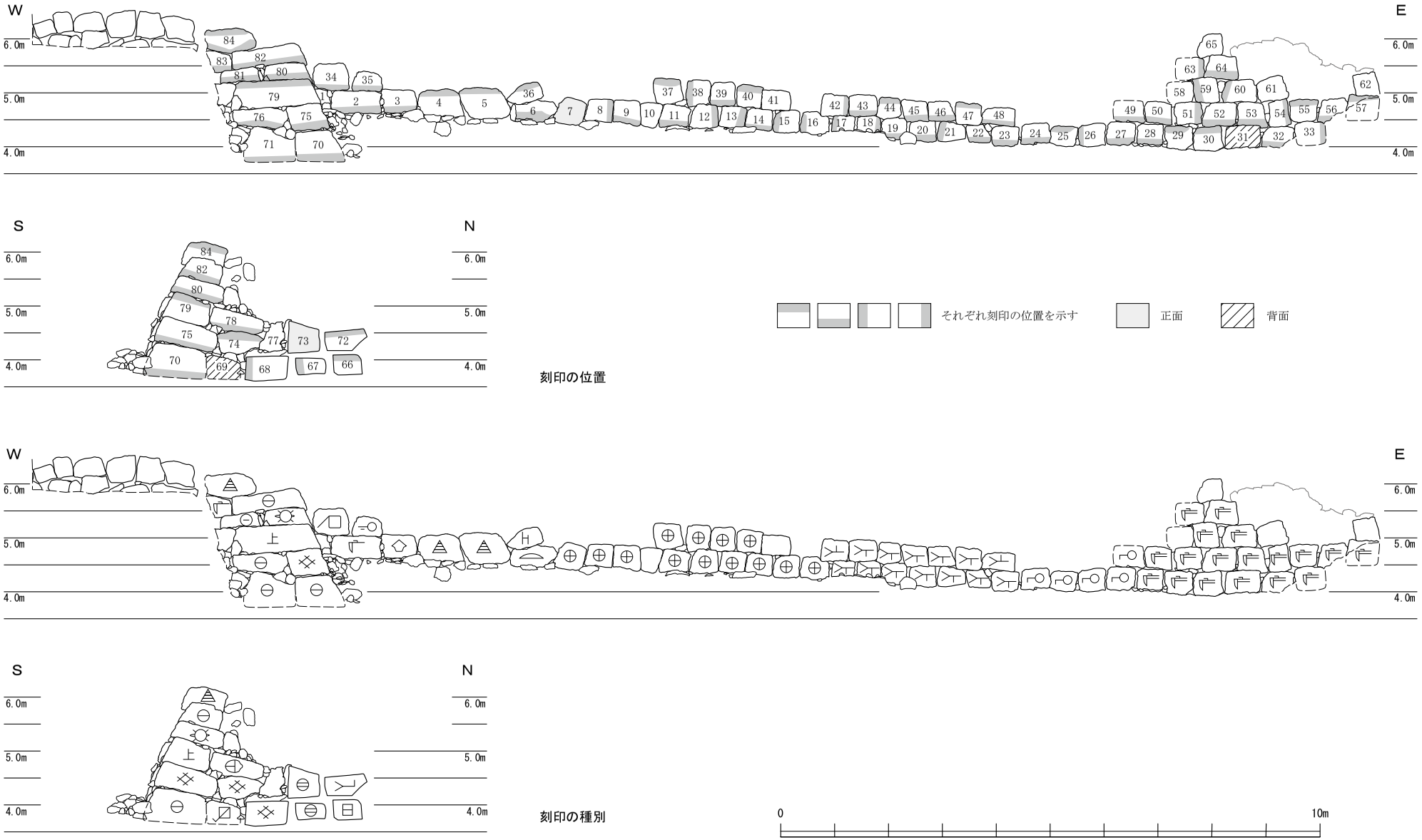
以上、各地点の石垣刻印の諸様相のうち、とくに刻印を持つ石材の向きや配置の確認から、石垣表面に露出する刻印が少ないこと、刻印を持つ石材は城の主要な施設付近に集まる傾向にあること、刻印を持つ石材の配置原理が見出された。刻印は、石垣造営に当たった集団やその請負範囲を示すものと考え

られるが、石垣表面に露出することが少ないことから、石垣の造営作業に関わる表示であり、完成後は役目を終えていると言える。また、刻印を持つ石材が門等の主要施設付近に多い傾向についても、刻印は表面に露出しないのであり、刻印の有無が石材の寸法や加工の仕方等に反映されないため、人目の有無は無関係である。この傾向が何に起因するのか明らかにし難いが、主要な施設付近の石垣は多数の集団により造営されたため、刻印を持つ石材が多く集まったということであろう。そして、刻印を持つ石材の配置に共通する法則性が認められることは、多種の刻印の存在から多数の集団が石垣造営作業に関わったことが考えられるが、それらの集団が共通の配置原理に則り作業に当たったことを示しており、石垣造営作業中における請負範囲や石材数等の確認のために刻印を持つ石材を配置して情報を視覚化したことが考えられる。石垣造営は複数の集団が関わる作業であり、隣接する丁場を担当する集団との情報の周知・共有の必要があったのだろう。なお、刻印を持つ石材の網羅的な配置の例は、中之馬場南石垣、三ノ丸南石垣、作事所南石垣等があげられ、このうち三ノ丸南石垣では多数の亜種を含む「鎌」系と「〒」形刻印、作事所南石垣ではおもに「大」系と「矢印（傘）」形の刻印が網羅的に配置される。三ノ丸南石垣は、それらの刻印が混在するような配置であり、双方の刻印を持つ石材も多数認められる。作事所南石垣では、それらの刻印がおおまかに上下に分かれて、その間に少数の別の刻印を持つ石材が配置される。どちらの場合も、複数の集団間で密接なやりとりをしながら石垣の造営作業に当たったものと思われる。中之馬場南石垣については、隅角部付近は複数の刻印が混在し、その東側は４種の刻印石が2.5 ～ 5mの範囲で積み分けられている(11)。このうち東側の状況は、単一種の刻印による網羅的配置の連続と位置付けられる。今のところ、福井城の石垣ではこのように整備された網羅的配置は他に確認されていない。

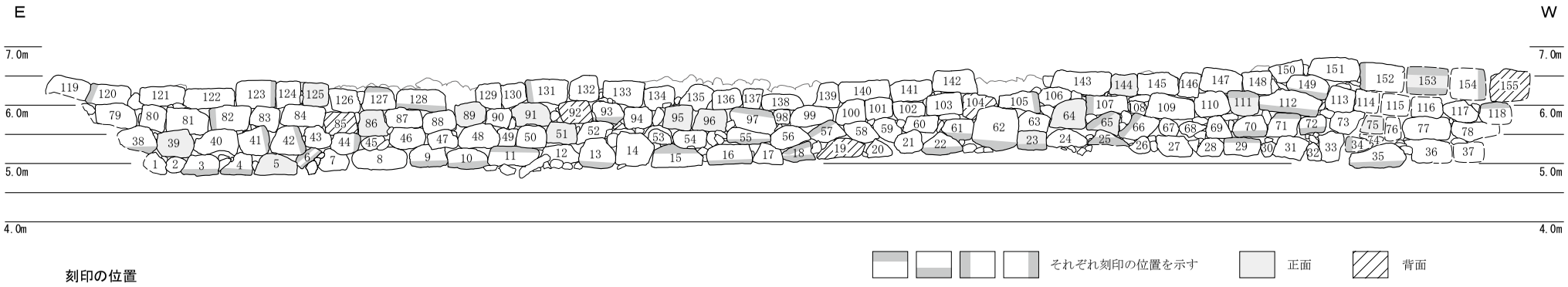
第４節　福井城の石垣刻印

福井城の石垣は共通する規則性に基づいて造営されている。しかし、地点によって様々な様相に見えるのは、多種多様の刻印が混在して複雑な配置構造となっているためだけでなく、各石垣の主要な刻印の種別やその組み合わせがそれぞれ異なることによる。そして、ほぼすべての石垣が崩され、埋没した部分しか残存せず、配置の全容が確認できないことが、それを助長している。

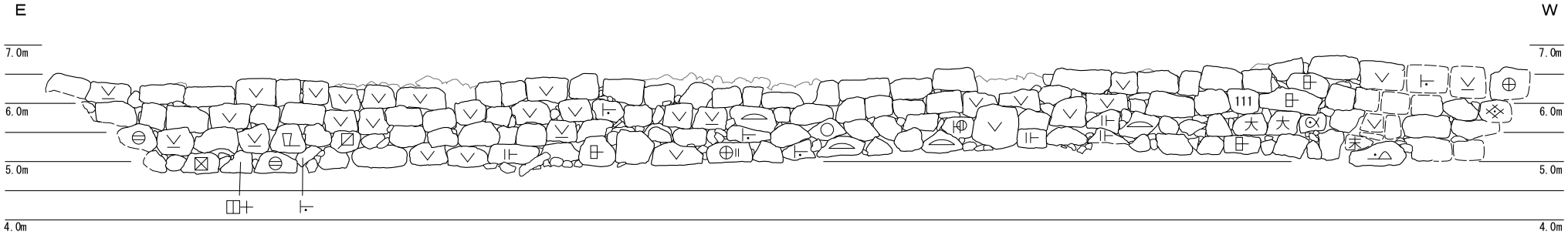
中之馬場南石垣の主要な刻印は「鎌」系や「Y」系の刻印である。中之馬場北石垣では「V」系と「丸に一つ星」系の刻印が多い。三ノ丸土橋は「大」形、次いで「丸に一つ星」系、「丸に一つ引き」形の刻印が多い。三ノ丸南・東石垣の主要な刻印は、多様な「鎌」系刻印と「〒」形刻印であり、大部分を占める。三ノ丸石垣Ⅲでは「丸に一つ星」系と多様な「Y」系刻印である。作事所周辺の石垣には「大」系刻印が多いが、作事所北石垣では「Y」系、作事所東石垣では「輪違い」形の刻印が主要な刻印である。このように見ると、主要な刻印が「鎌」・「Y」・「大」系等で揃うようであるが、同系の刻印でも異なる亜種であったり、使用する割合が異なったりする。例えば、中之馬場南石垣の「鎌」系刻印は２本線の柄に鉤が付く「鎌」形の刻印であるが、三ノ丸南石垣では13種の「鎌」形刻印があり、そのうち１本線の柄に鉤の付くものが中心となる。また、ここにあげた「大」形の刻印を主要とする石垣には、「大」に下線を付ける形の亜種がともに認められるが、それらの比率が石垣により異なる。三ノ丸土橋全体では「大」形43に対して下線付亜種１であり、作事所南土橋西石垣では「大」形と下線付亜種がほぼ同数である。この他、「大」形と下線付亜種の比率は、鉄門北方石垣ほぼ３：１、作事所西石垣約10：１、作事所南石垣約３：１である。鉄門北方と作事所南の比率が似るが、これ以外の刻印はほぼ共通せず、作事所南石垣にはもう



第163図　中之馬場南石垣の刻印（縮尺1/100）



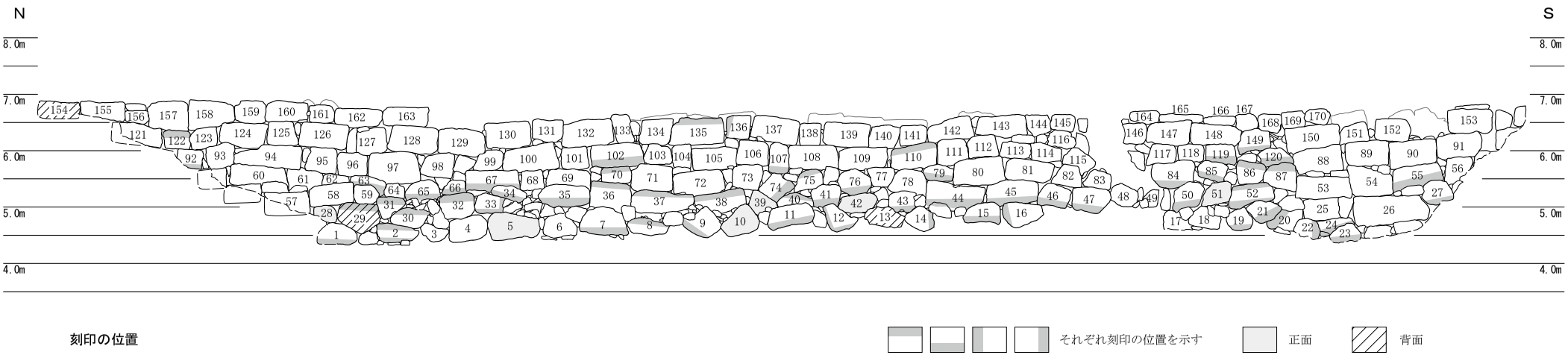
刻印の位置

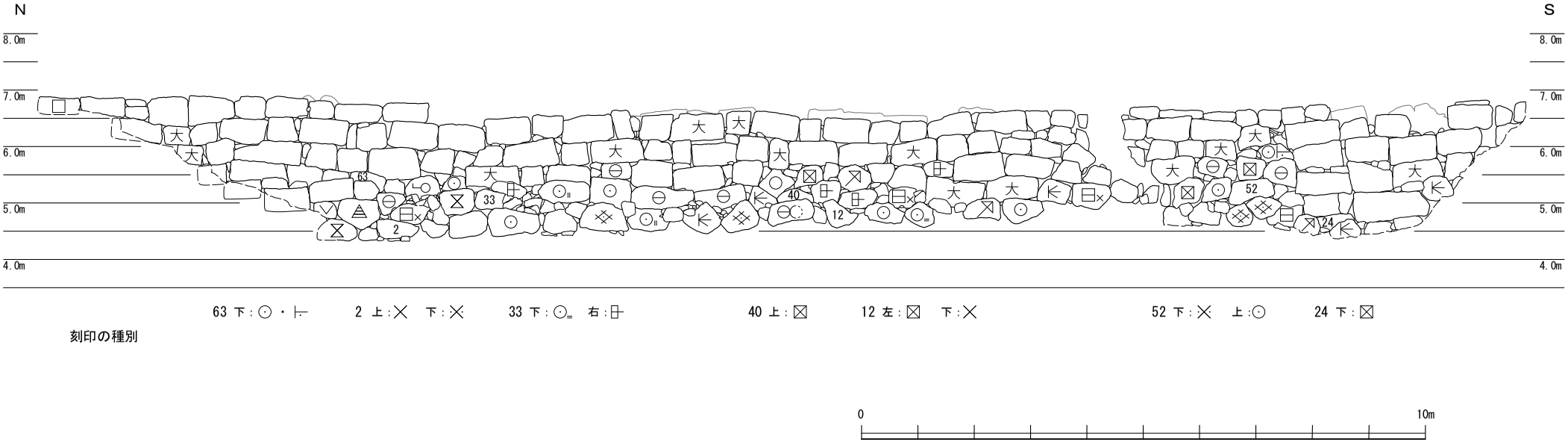


刻印の種別

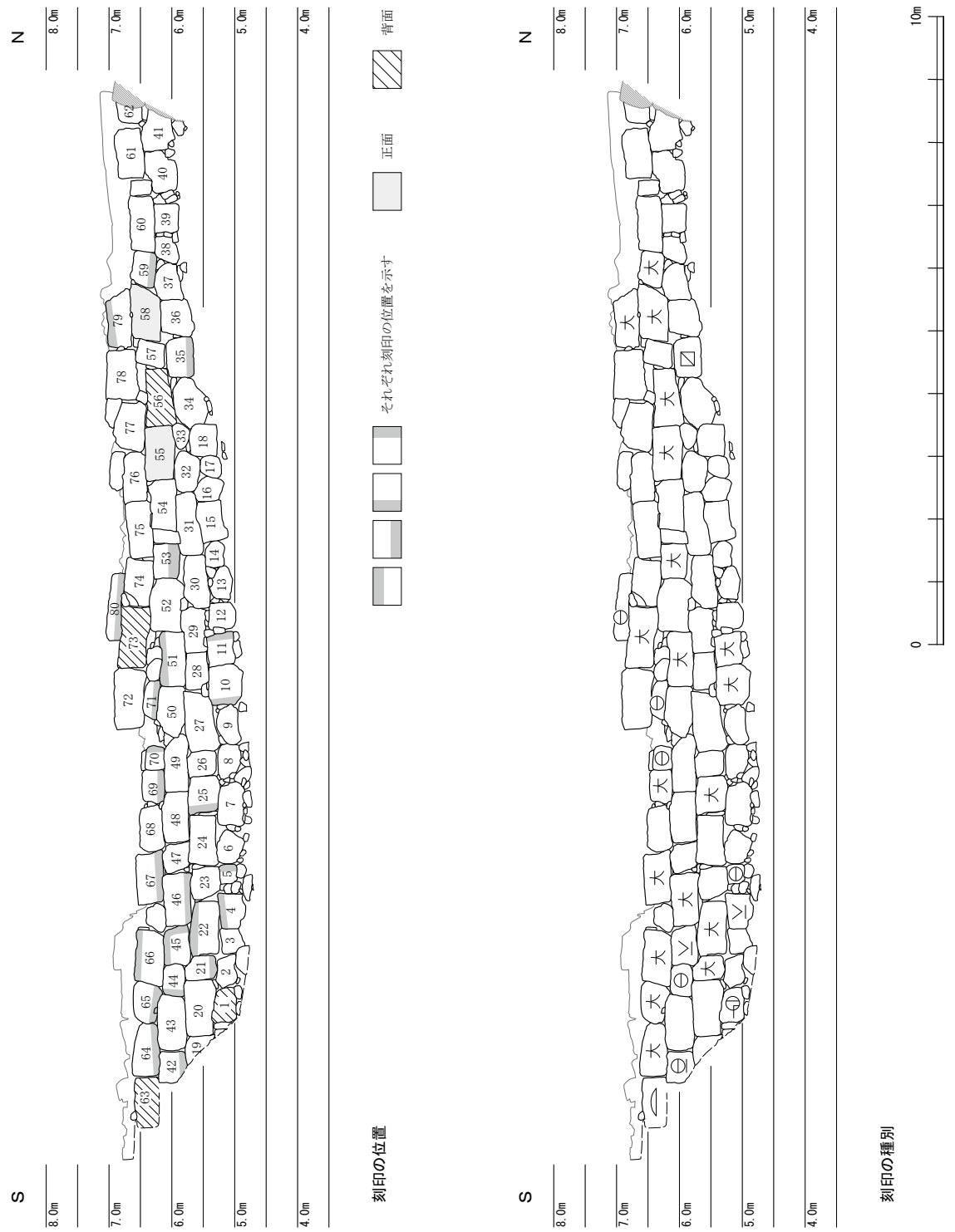


第164図 中之馬場北石垣の刻印（縮尺1/100）

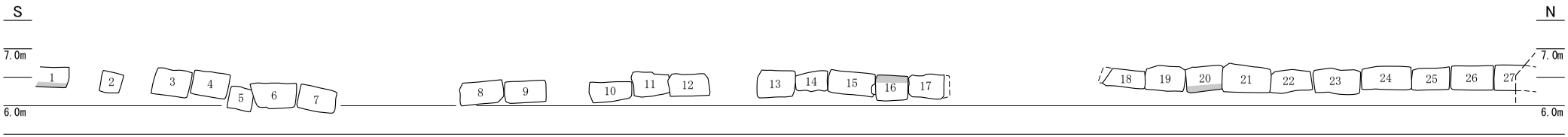




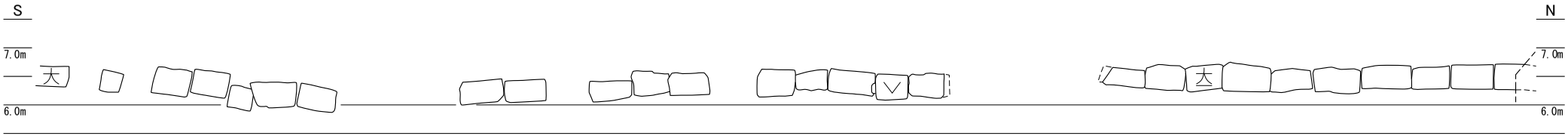
第165図　三ノ丸土橋西石垣の刻印（縮尺1/100）



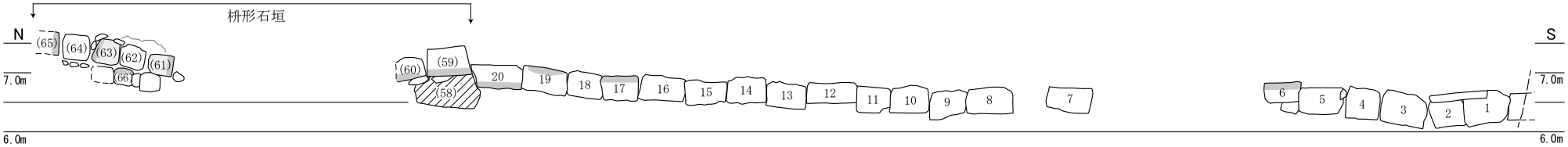
第166図　三ノ丸土橋東石垣の刻印（縮尺1/100）



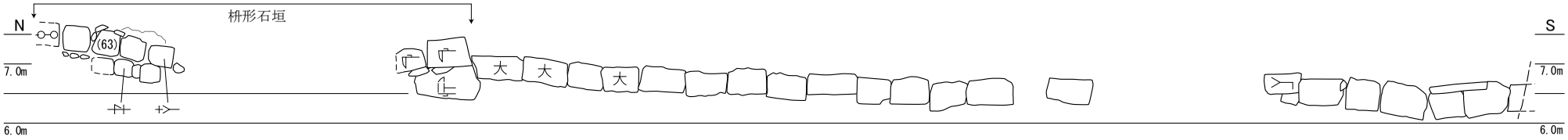
西縁石状延石列　刻印の位置



西縁石状延石列　刻印の種別



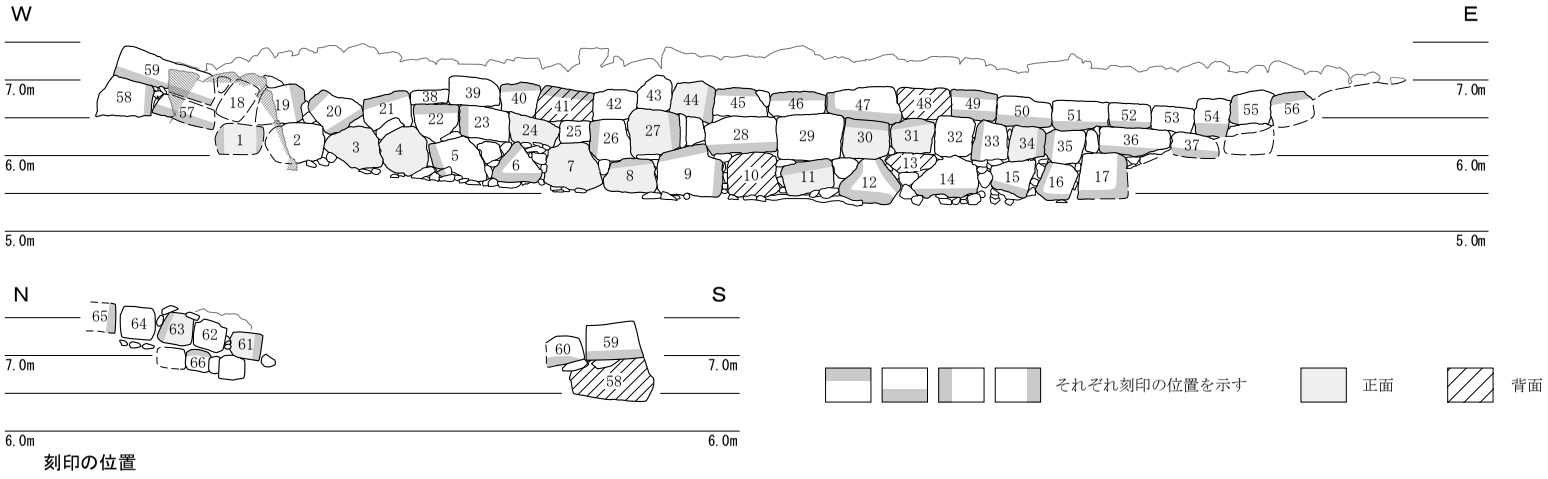
東縁石状延石列　刻印の位置



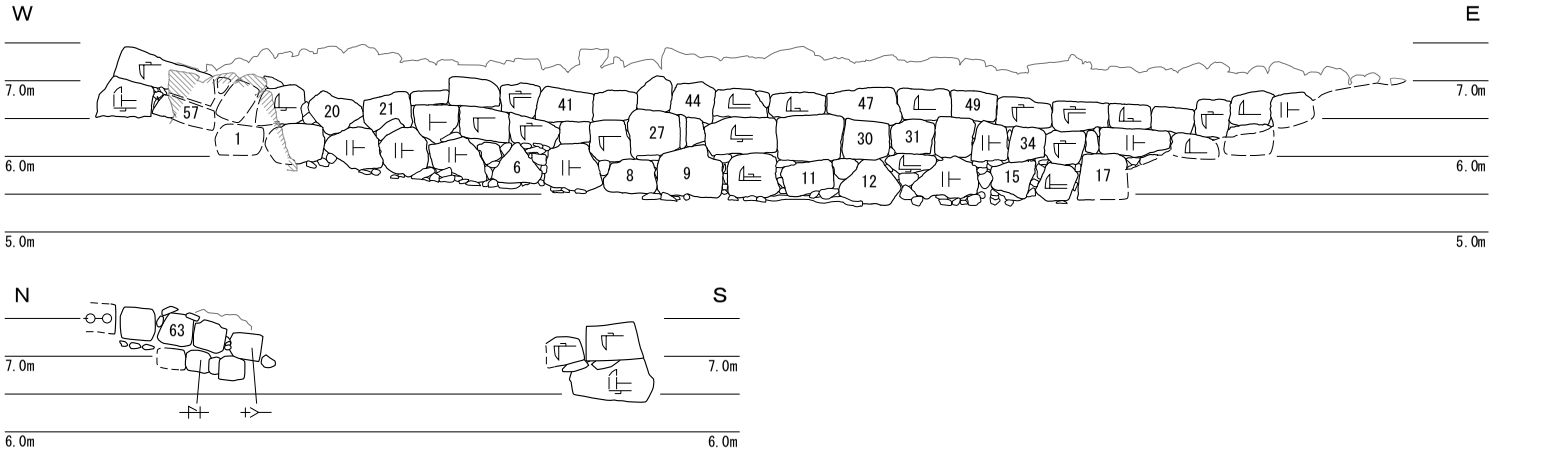
東縁石状延石列　刻印の種別　　(63) 正：⊙　左：⊙—⊙



第167図　三ノ丸土橋 縁石状延石列の刻印（縮尺1/100）



刻印の位置

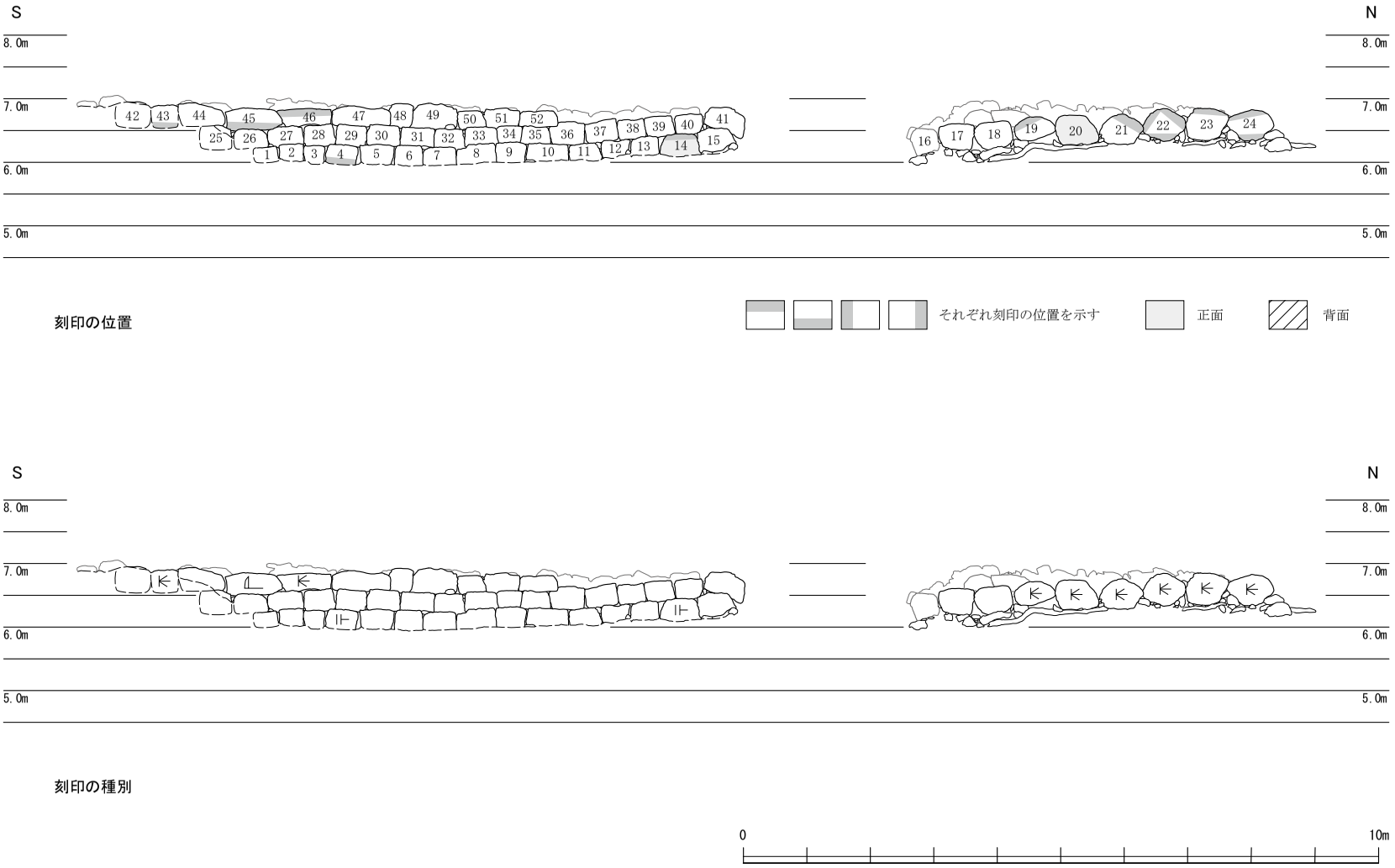


1　左・正：⊩ 右：⌜	6　下：⊩　左：⌜	11　正：⊩　上：⌞	30　上：⊩　正：⌜	15　下：⊩・⌜
20　左：⊩　右：⌜	8　上：⊩　正：⌞	12　右：⊩ 左：⌞ 下：⌞	31　正：⊩　上：⌞	17　下：⊩　右：⌜
21　上：⊩・⌞	9　右：⊩　上：⌞	27　正：⊢　右：⌜	47　左：⊩　下：⌜	34　右：⊩　正：⌜
57　下：⌜・墨書「十七」	41　背：⊩　上：⌞	44　正：⊢　右：⌜	49　下：⊩　上：⌜	63　左：○-○　正：⊙

刻印の種別

0　10m

第168図　三ノ丸南石垣・枡形石垣の刻印（縮尺1/100）



第169図　三ノ丸東石垣の刻印（縮尺1/100）

第５表　石垣石材観察表①

中之馬場南石垣（1）

No.	寸法（m）			刻印	備考
	幅	高さ	奥行		
1	0.3	0.4			隅角部付近
2	0.9	0.4	0.8	下面	隅角部付近
3	0.65	0.45	0.8	下面	隅角部付近
4	0.75	0.5	0.4 ～ 0.8	上面	隅角部付近
5	0.8 ～ 0.9	0.6	0.9	上面	隅角部付近
6	0.85	0.4	0.85	下面	隅角部付近
7	0.55	0.5	0.7	正面	
8	0.5	0.4	0.75	右面	
9	0.5	0.45	0.75	下面	
10	0.4	0.45	0.8		
11	0.55	0.45	0.75	下面	
12	0.55	0.45		右面	
13	0.5	0.4		右面	
14	0.55	0.4		下面	
15	0.5	0.4	0.7	左面	
16	0.55	0.45	0.65	左面	
17	0.45	0.35	0.55	左面	
18	0.5	0.35		右面	
19	0.5	0.4		下面	
20	0.55	0.4		下面	
21	0.5	0.4		左面	
22	0.5	0.35		下面	
23	0.55	0.4	0.7	下面	
24	0.55	0.35	0.7	下面	
25	0.55	0.4	0.7	下面	
26	0.55	0.45	0.7	下面	
27	0.55	0.45		下面	
28	0.5	0.4		下面	
29	0.55	0.45		上面	
30	0.55	0.45		上面	
31	0.7	0.45		背面	
32	0.6	0.4		下面	
33	0.55	0.4		右面	
34	0.7	0.55	0.65	下面	隅角部付近
35	0.6	0.4	0.5 ～ 0.65	下面	隅角部付近
36	0.55	0.35	0.65	上面	隅角部付近
37	0.55	0.5	0.7	上面	
38	0.45	0.5	0.7	左面	
39	0.45	0.45	0.7	下面	
40	0.5	0.45	0.6 ～ 0.65	上面	
41	0.55	0.4	0.7		
42	0.55	0.4	0.65	右面	
43	0.55	0.45	0.6	下面	
44	0.45	0.4	0.6	上面	

中之馬場南石垣（2）

No.	寸法（m）			刻印	備考
	幅	高さ	奥行		
45	0.5 ～ 0.55	0.4	0.7	下面	
46	0.4 ～ 0.55	0.4	0.6	下面	
47	0.5	0.4	0.6	上面	
48	0.65	0.35	0.8	下面	
49	0.6	0.25	0.7	下面	
50	0.5	0.4	0.7	下面	
51	0.55	0.4		右面	
52	0.5 ～ 0.65	0.45		下面	
53	0.55	0.65		下面	
54	0.4	0.5		右面	
55	0.5	0.4	0.5 ～ 0.6	上面	
56	0.5	0.5	0.6	下面	
57	0.55	(0.4)	0.6	上面	
58	(0.25)	0.4			
59	0.45	0.5		左面	
60	0.65	0.45	0.75	左面	
61	0.55	0.45	0.8		
62	0.45	0.5	0.5		
63	(0.35)	0.45	0.55	右面	
64	0.5 ～ 0.65	0.5	0.7	下面	
65	0.5	0.4	0.65		
66	0.7	0.4		上面	隅角部
67	0.6	0.5		左面	隅角部
68	0.9	0.5		左面	隅角部
69	0.75	0.4		背面	隅角部
70	1.1	0.6	0.9	下面	隅角部
71	1.1	0.6		下面	隅角部
72	1.0	0.35		上面	隅角部
73	0.7	0.5		正面	隅角部
74	0.8	0.45		上面	隅角部
75	1.15	0.45	0.65	下面	隅角部
76	1.05	0.4		下面	隅角部
77	0.35	0.5			隅角部
78	1.0	0.35		下面	隅角部
79	1.5	0.5	0.75	上面	楷書・隅角部
80	0.9	0.35	0.8	下面	隅角部
81	0.75	0.3		下面	隅角部
82	1.4	0.35	0.65	下面	隅角部
83	0.7	0.4		下面	隅角部
84	1.1	0.45	0.65	上面・右下面・左下面	同じ刻印３（上１・下２）隅角部

中之馬場北石垣（1）

No.	寸法（m）			刻印	備考
	幅	高さ	奥行		
1	0.45	0.4			
2	0.35	0.3			
3	0.35 ～ 0.65	0.35		下面	
4	0.35 ～ 0.55	0.4		下面	
5	0.5 ～ 0.75	0.4		正面	
6	0.45	0.2		左上面・右下面	同じ刻印２
7	0.55	0.4			
8	0.95	0.35			
9	0.55	0.4		下面	
10	0.7	0.4		下面	
11	0.85	0.4		上面	
12	0.65	0.35			
13	0.4 ～ 0.55	0.55		下面	
14	0.55	0.6			
15	0.9	0.4		上面	
16	0.8	0.35		下面	
17	0.4 ～ 0.55	0.55			
18	0.5	0.3		上面・下面	同じ刻印２
19	0.6 ～ 0.8	0.3		背面	
20	0.5	0.3			
21	0.5	0.4			
22	0.7	0.4		下面	
23	0.5	0.35		正面・下面	同じ刻印２
24	0.7	0.35			
25	0.75	0.3		下面	
26	0.4	0.3			
27	0.55	0.35			
28	0.45	0.3			
29	0.65	0.3		上面	
30	0.25	0.25			
31	0.5	0.35			
32	0.25	0.3			
33	0.4	0.55			
34	0.35	0.25		左面	楷書
35	1.0	0.4		下面	
36	0.75	0.4			
37	0.6	0.4			
38	0.7	0.5		下面	
39	0.65	0.45		正面	
40	0.75	0.45			
41	0.55	0.5		右面	

第６表　石垣石材観察表②

中之馬場北石垣（2）

No.	寸法（m） 幅	高さ	奥行	刻印	備考
42	0.4 ～ 0.65	0.5		右面	
43	0.45	0.4			
44	0.5	0.4		右面	
45	0.5	0.25			
46	0.65	0.4			
47	0.55	0.35			
48	0.75	0.45			
49	0.35	0.3			
50	0.55	0.4			
51	0.55	0.35		正面	
52	0.5 ～ 0.6	0.4			
53	0.45	0.3			
54	0.55	0.3			
55	0.75	0.25		下面	同一面に同じ刻印２
56	0.7	0.4			
57	0.6	0.35		左上面	
58	0.5	0.4			
59	0.45	0.4			
60	0.6	0.3			
61	0.55	0.35		下面	
62	0.8	0.8		下面	
63	0.55	0.35			
64	0.6	0.5		正面	
65	0.3 ～ 0.6	0.4		正面・上面	同じ刻印２
66	0.45	0.45		左面	
67	0.35	0.25			
68	0.45	0.3			
69	0.2 ～ 0.45	0.35			
70	0.6	0.35		下面 大	楷書風
71	0.55	0.4		上面 大	楷書風
72	0.5	0.25		下面	
73	0.55	0.4			
74	0.3	0.25			
75	0.25	0.25		背面	
76	0.35	0.35			
77	0.85	0.4			
78	0.8	0.35			
79	0.75	0.45			
80	0.45	0.4			
81	0.75	0.45			
82	0.65	0.45		左面	
83	0.5	0.35			

中之馬場北石垣（3）

No.	寸法（m） 幅	高さ	奥行	刻印	備考
84	0.75	0.35			
85	0.55	0.35		背面	
86	0.5	0.35		正面	
87	0.65	0.35			
88	0.55	0.35			
89	0.55	0.4		正面	
90	0.45	0.3			
91	0.65	0.4		正面	
92	0.55	0.4		背面	
93	0.55	0.35		下面	
94	0.5	0.35			
95	0.5	0.4		正面	
96	0.55	0.4		正面	
97	0.8	0.4		上面	
98	0.25	0.25			
99	0.75	0.35			
100	0.4 ～ 0.5	0.35			
101	0.5	0.35			
102	0.55	0.3			
103	0.6	0.35			
104	0.6	0.15 ～ 0.35		背面	
105	0.7	0.2 ～ 0.35		右面	
106	0.6	0.3			
107	0.7	0.3		左面	
108	0.35	0.35			
109	0.85	0.4			
110	0.6	0.4			
111	0.55	0.4		正面 上面 大	異なる刻印２
112	1.1	0.35		下面	
113	0.5	0.45			
114	0.4	0.35			
115	(0.6)	(0.4)			
116	0.55	(0.25)			
117	0.65	0.35			
118	(0.6)	0.35		上面	
119	0.75	0.4	0.35		
120	0.75	0.3	0.4	左面	
121	0.8	0.3	0.4		
122	0.85	0.3	0.4		
123	0.65	0.45	0.35	右面	
124	0.45	0.35	0.55		
125	0.45	0.4	0.55	正面	
126	0.55	0.4	0.6	下面	

中之馬場北石垣（4）

No.	寸法（m） 幅	高さ	奥行	刻印	備考
127	0.45 ～ 0.6	0.35	0.75	上面	
128	0.85	0.35	0.55	下面	
129	0.45	0.45	0.6		
130	0.4	0.4	0.65		
131	0.75	0.4	0.4	右面	
132	0.5	0.45	0.65 ～ 0.9		
133	0.7	0.45	0.4 ～ 0.5		
134	0.55	0.4	0.5		
135	0.55	0.4	0.65		
136	0.5	0.3	0.4		
137	0.35	0.35	0.4		
138	0.7	0.25	0.55		
139	0.4	0.4	0.65		
140	0.9	0.35	0.45		
141	0.7	0.4	0.5		
142	0.75	0.35	0.4		
143	1.05	0.4	0.4		
144	0.5	0.35	0.6	正面	
145	0.7	0.35	0.4		
146	0.35	0.4	0.65		
147	0.75	0.4	0.4		
148	0.5	0.35	0.7		
149	0.75	0.35		下面	
150	0.55	0.3	0.4		
151	0.9	0.4	0.35 ～ 0.55		
152	0.75	0.5	0.4	左面	
153	(0.7)	(0.45)		正面・上面・下面	同じ刻印３
154	(0.6)	(0.5)		右面	
155	0.65	0.55	0.55	背面	

第７表　石垣石材観察表③

三ノ丸土橋西石垣（1）

No.	寸法（m）			刻印	備考
	幅	高さ	奥行		
1	0.65	0.35		下面	同一面に同じ刻印２
2	0.75	0.35		上面 下面	異なる刻印２
3	0.5	0.35			
4	0.7	0.45			
5	0.9	0.5		正面	
6	0.6	0.4			
7	0.9	0.45		下面	
8	0.7	0.35		上面	
9	0.6	0.5		左下面	
10	0.65	0.45		正面	
11	0.85	0.35		下面	
12	0.6	0.4		下面 左面	異なる刻印２
13	0.7	0.4		背面	
14	0.5	0.4		右面	
15	0.65	0.4		下面	
16	0.7	0.45		左面	
17	0.5	0.35			
18	0.6	0.4			
19	0.5	0.4		下面	
20	0.55	0.4		左面	
21	0.5	0.4		右下面	
22	0.45	0.4		右面	
23	0.55	0.35		下面	
24	0.65	0.3		下面	
25	0.9	0.4			
26	1.3	0.5			
27	0.55	0.45		下面	
28	0.45	0.3		正面	
29	0.8	0.5		上面・背面	同じ刻印２
30	0.6	0.35		上面	
31	0.5	0.35		上面	
32	0.6	0.4		上面	
33	0.5	0.35		下面 右面	異なる刻印２
34	0.6	0.25		下面	
35	0.9	0.4		下面	
36	0.75	0.55		上面	
37	1.1	0.4		上面	
38	0.9	0.35		上面	
39	0.5	0.45		正面	
40	0.65	0.35		上面	

三ノ丸土橋西石垣（2）

No.	寸法（m）			刻印	備考
	幅	高さ	奥行		
41	0.55	0.5		下面	
42	0.7	0.35		正面	
43	0.55	0.4		下面	
44	1.05	0.45		下面 大	楷書風
45	0.95	0.45		下面 大	楷書風
46	0.6	0.4		下面	
47	0.65	0.45		下面	
48	0.5	0.4			
49	(0.6)	0.4			
50	0.55	0.45		下面	同一面に同じ刻印２
51	0.5	0.35		正面	
52	0.8	0.4		上面 下面	異なる刻印２
53	0.95	0.4			
54	0.75	0.4			
55	0.85	0.3		下面 大	楷書風
56	0.5	0.4			
57	0.8	0.4			
58	0.8	0.35			
59	0.45	0.3			
60	1.0	0.35			
61	0.65	0.4			
62	0.5	0.35			
63	0.65	0.4		下面	
64	0.4	0.35			
65	0,6	0.45		下面	
66	0.4	0.35		下面	
67	0.95	0.4		下面 大	楷書風
68	0.4	0.35			
69	0.8	0.4			
70	0.55	0.3		上面	
71	0.7	0.45			
72	0.9	0.45			
73	0.55	0.45			
74	0.5	0.45		右下面	
75	0.45	0.35		上面	
76	0.6	0.35		下面	
77	0.45	0.35			
78	0.65	0.4			
79	0.55	0.3		下面	
80	0.9	0.5			
81	0.85	0.4			
82	0.45	0.3			

三ノ丸土橋西石垣（3）

No.	寸法（m）			刻印	備考
	幅	高さ	奥行		
83	0.45	0.3			
84	0.85	0.45		下面 大	楷書風
85	0.55	0.35		下面	
86	0.55	0.4		上面	
87	0.6	0.35～0.5		上面	
88	0.85	0.4			
89	0.8	0.35			
90	0.85	0.45			
91	0.8	0.35			
92	0.45	0.35		下面 大	楷書風
93	0.5	0.4			
94	1.2	0.4			
95	0.55	0.45			
96	0.55	0.4			
97	0.9	0.5			
98	0.55	0.45			
99	0.5	0.35			
100	0.95	0.45			
101	0.5	0.35			
102	0.9	0.4		下面 大	楷書風
103	0.5	0.35			
104	0.35	0.45			
105	0.8	0.3			
106	0.55	0.35			
107	0.35	0.5		下面 大	楷書風
108	0.85	0.4			
109	0.9	0.4			
110	0.8	0.4		上面 大	楷書風
111	0.55	0.4			
112	0.5	0.4			
113	0.55	0.3			
114	0.55	0.2～0.3			
115	0.45	0.35			
116	0.45	0.3			
117	0.5	0.35			
118	0.45	0.25			
119	0.5	0.3		下面 大	楷書風
120	0.5	0.3		下面	
121	0.8	0.4			
122	0.5	0.3		上面 大	楷書風
123	0.5	0.35			
124	0.85	0.3～0.45			
125	0.5	0.4			
126	0.85	0.4			

第８表　石垣石材観察表④

三ノ丸土橋西石垣（4）

No.	寸法（m）			刻印	備考
	幅	高さ	奥行		
127	0.55	0.45			
128	0.85	0.45	0.45		
129	0.85	0.4	0.4 ～ 0.55		
130	0.8	0.4	0.55		
131	0.5	0.35	0.65		
132	0.9	0.4	0.5		
133	0.3	0.45	0.75		
134	0.55	0.35	0.7		
135	0.9	0.45	0.4 ～ 0.45	上面　大	楷書風
136	0.45	0.4	0.8	左面　大	楷書風
137	0.85	0.45	0.55		
138	0.4	0.4	(0.45)		
139	0.85	0.45	0.4		
140	0.55	0.35	0.85		
141	0.45	0.3	0.8		
142	0.8	0.35	0.4		
143	0.9	0.4	0.45		
144	0.45	0.35	0.45		
145	0.45	0.25	0.6		
146	(0.45)	0.35	(0.5)		
147	0.75	0.3 ～ 0.4			
148	0.9	0.3 ～ 0.4			
149	0.5	0.35		下面　大	楷書風
150	0.95	0.4	0.5		
151	0.5	0.35	(0.65)		
152	0.65	0.35	0.75		
153	0.8	0.4	0.45		
154	0.7	(0.35)	0.55	背面　□	
155	0.8	0.35	0.35 ～ 0.6		
156	0.45	0.25	0.7		
157	0.7	0.5	0.35 ～ 0.45		
158	0.8	0.25 ～ 0.5	0.4		
159	0.65	0.4	0.75		
160	0.75	0.35	0.4		
161	0.45	0.3	0.5 ～ 0.65		
162	0.85	0.3	0.25 ～ 0.55		
163	0.8	0.3	0.4 ～ 0.7		
164	0.5	0.2	0.75		
165	0.75	0.15	0.4		
166	0.6	0.15	0.4		
167	0.35	0.3	0.55		
168	0.45	0.3	0.55		
169	0.4	0.3	0.5		
170	0.45	0.3	0.45		

三ノ丸土橋東石垣（1）

No.	寸法（m）			刻印	備考
	幅	高さ	奥行		
1	0.55	0.45		背面	
2	0.45	0.3			
3	0.4	0.3			
4	0.55	0.4		上面	
5	0.3	0.3		右面	
6	0.45	0.4			
7	0.6	0.4			
8	0.5	0.4			
9	0.6	0.35			
10	0.6	0.55		左面　大	楷書風
11	0.5	0.4		右面　大	楷書風
12	0.4	0.45			
13	0.5	0.3			
14	0.4	0.3			
15	0.6	0.4			
16	0.4	0.4			
17	0.35	0.35			
18	0.5	0.4			
19	(0.5)	0.45			
20	0.9	0.45			
21	0.35	0.5		下面　大	楷書風
22	0.8	0.45		上面　大	楷書風
23	0.5	0.45			
24	0.8	0.4			
25	0.6	0.4		左面　大	楷書風
26	0.4	0.45			
27	0.95	0.45			
28	0.6	0.35			
29	0.7	0.35			
30	0.8	0.35			
31	1.0	0.35			
32	0.65	0.4			
33	0.4	0.25			
34	0.8	0.55			
35	0.65	0.4		下面	
36	0.55	0.5			
37	0.6	0.4			
38	0.4	0.35			
39	0.45	0.35			
40	0.7	0.5			
41	(0.75)	0.5			
42	0.5	0.45		下面	
43	0.85	0.45			
44	0.5	0.35		左面	

三ノ丸土橋東石垣（2）

No.	寸法（m）			刻印	備考
	幅	高さ	奥行		
45	0.55	0.4		上面・右面	同じ刻印２
46	0.85	0.4		下面　大	楷書風
47	0.45	0.4			
48	0.8	0.4			
49	0.85	0.35	0.6		
50	0.8	0.4	0.5		
51	0.85	0.35		上面　大	楷書風
52	0.85	0.45			
53	0.55	0.4		下面　大	楷書風
54	0.8	0.45			
55	0.85	0.45		正面　大	楷書風
56	0.9	0.4		背面　大	楷書風
57	0.4	0.45			
58	0.8	0.45		正面　大	楷書風
59	0.55	0.35		下面　大	楷書風
60	0.85	0.35			
61	0.8	0.4			
62	0.4	0.4			
63	0.65	0.35	(0.4)	背面	
64	0.85	0.4	0.4 ～ 0.55	下面　大	楷書風
65	0.65	0.4	0.6	下面　大	楷書風
66	0.85	0.45	0.35 ～ 0.5	上面　大	楷書風
67	0.8	0.35	0.3 ～ 0.45	下面　大	楷書風
68	0.7	0.35	0.5		
69	0.5	0.35	0.7	下面　大	楷書風
70	0.4	0.25	0.65	右面	
71	0.6	0.2		下面	
72	0.95	0.45	0.65		
73	0.95	0.45	0.6	背面　大	楷書風
74	0.75	0.45	0.55		
75	0.9	0.35	0.6		
76	0.75	0.35	0.6		
77	0.75	0.45	0.5		
78	0.8	0.45	0.5		
79	(0.9)	0.35	0.45	上面　大	楷書風
80	1.05	0.25	0.45	下面	

第９表　石垣石材観察表⑤

三ノ丸土橋西縁石状延石列

No.	寸法（m）			刻印	備考
	幅	高さ	奥行		
1	0.55	0.35	0.3～0.4	下面　大	楷書風
2	0.35	0.4	0.8		
3	0.65	0.4			
4	0.65	0.4	0.3		
5	0.4	0.4	0.3		
6	0.75	0.35	0.45		
7	0.6	0.4	0.35		
8	0.8	0.3	0.25		
9	0.7	0.3	0.3		
10	0.75	0.3	0.35		
11	0.65	0.35	0.3		
12	0.75	0.3	0.3		
13	0.65	0.25	0.35		
14	0.6	0.25	0.3		
15	0.8	0.4	0.2		
16	0.6	0.45	0.3	上面　∨	
17	0.55	0.3	0.25～0.4		
18	0.8	0.25	0.45		
19	0.65	0.35	0.4		
20	0.65	0.4	0.25	下面　大	楷書風
21	0.8	0.3	0.25		
22	0.75	0.35	0.3		
23	0.85	0.4	0.3～0.4		
24	0.85	0.35	0.35		
25	0.65	0.35	0.3		
26	0.75	0.35	0.3		
27	(0.5)	0.45	0.45		

三ノ丸土橋東縁石状延石列

No.	寸法（m）			刻印	備考
	幅	高さ	奥行		
1	0.8	0.45	0.55		
2	0.6	0.45	0.4		
3	0.8	0.4	0.35		
4	0.6	0.4	0.4		
5	0.7	0.35	0.3		
6	0.55	0.3	0.5	上面　＞	
7	0.6	0.35	0.35		
8	0.8	0.35	0.35		
9	0.6	0.25～0.4	0.35		
10	0.65	0.35	0.4		
11	0.5	0.3～0.4	0.45		
12	0.85	0.3	0.35		
13	0.65	0.35	0.35		
14	0.65	0.35	0.35		
15	0.7	0.3～0.4	0.35		
16	0.75	0.4	0.3		
17	0.65	0.35	0.35	上面　大	楷書風
18	0.55	0.4	0.45		
19	0.75	0.4	0.35	上面　大	楷書風
20	0.85	0.4	0.4～0.5	下面　大	楷書風

三ノ丸南石垣・枡形石垣（1）

No.	寸法（m）			刻印	備考
	幅	高さ	奥行		
1	(0.55)	(0.45)		正面・左面 右面	同じ刻印２ 異なる刻印１
2	(0.75)	0.52			
3	0.7	0.55		正面	
4	0.63	0.65		正面	
5	0.7	0.6		左面	
6	0.65	0.54		左上面 下面	異なる刻印２
7	0.8	0.65		正面	
8	0.7	0.44		正面 上面	異なる刻印２
9	0.9	0.65		上面 右面	異なる刻印２
10	0.65	0.6		背面	
11	0.7	0.4		正面 上面	異なる刻印２
12	0.8	0.63		右上面 左上面・下面	同じ刻印２ 異なる刻印１
13	0.65	0.25		背面	
14	0.85	0.55		正面・下面	同じ刻印２
15	0.6	0.55		下面	同一面に 異なる刻印２
16	0.5	0.5		下面・左面	同じ刻印２
17	0.65	0.6		下面 右面	異なる刻印２
18	(0.4)	(0.55)	0.6		
19	(0.6)	0.5	0.65	右面	
20	0.75	0.6	0.6	左上面 右下面	異なる刻印２
21	0.65	0.5	(0.65)	上面	同一面に 異なる刻印２
22	0.6	0.45		上面	
23	0.65	0.4		左面	
24	0.65	0.4		正面	
25	0.4	0.3			
26	0.55	0.58		左面	
27	0.65	0.65		正面 右面	異なる刻印２
28	0.95	0.5		下面	
29	0.9	0.65			
30	0.65	0.5		正面 上面	異なる刻印２
31	0.58	0.45		正面 上面	異なる刻印２

第10表　石垣石材観察表⑥

三ノ丸南石垣・枡形石垣（2）

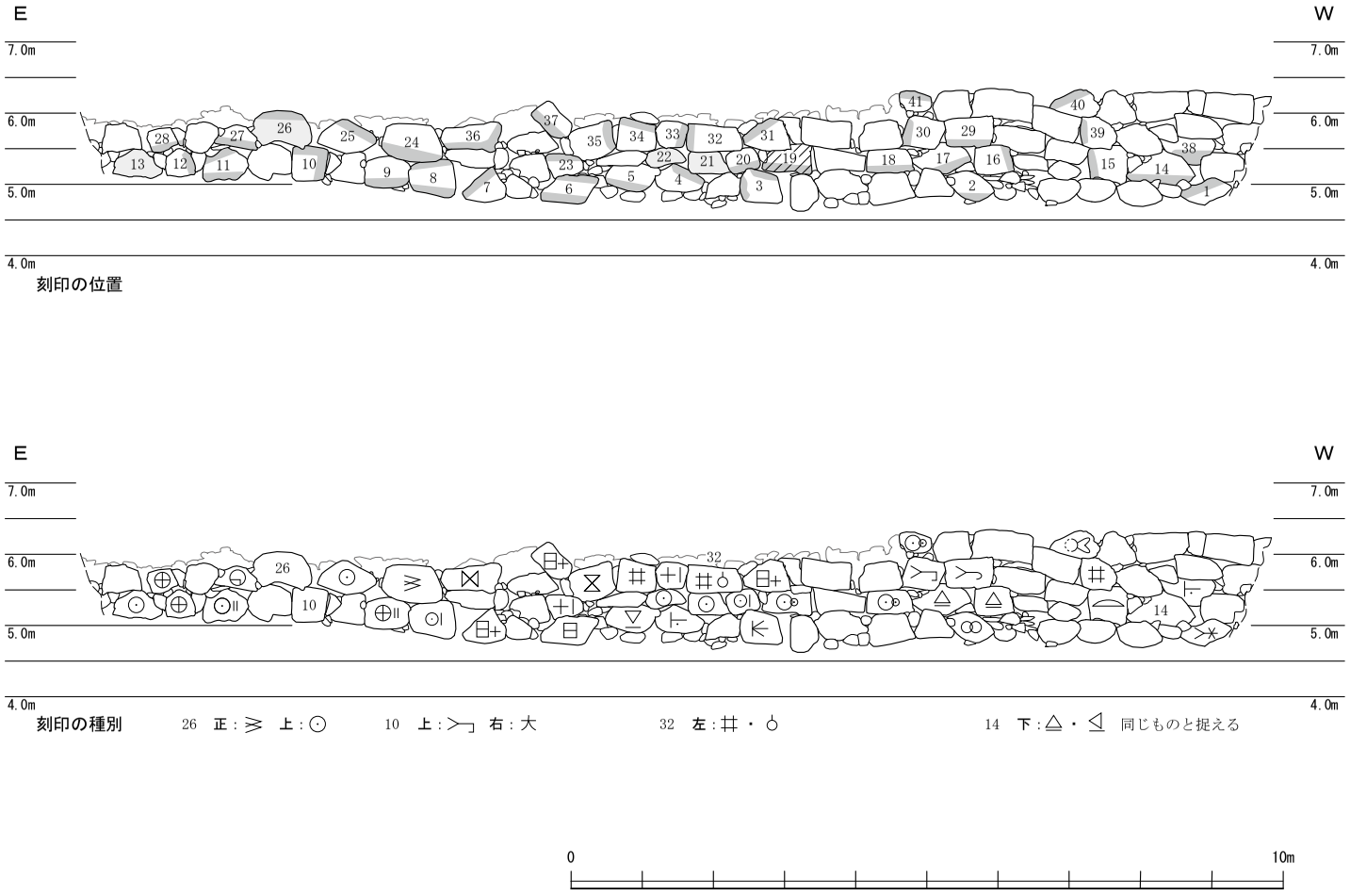
No.	寸法（m）			刻印	備考
	幅	高さ	奥行		
32	0.5	0.55			
33	0.45	0.5		左面 	
34	0.46	0.5		正面  右面 	異なる刻印２
35	0.54	0,45		左面 	
36	0.95	0.35		下面 	
37	(0.55)	(0.35)		下面 	
38	0.5	0.2	0.45		
39	0.7	0.35	0.6		
40	0.52	0.45	0.65	上面 	
41	0.76	0.5	0.45	上面  背面 	異なる刻印２
42	0.6	0.4	0.45		
43	0.45	0.45	0.6		
44	0.55	0.5	(0.55)	正面  右面 	異なる刻印２
45	0.75	0.4	0.65	上面 	
46	0.75	0.32	0.45	上面 	
47	0.95	0.45	0.45	下面  左面 	異なる刻印２
48	0.7	0.4	0.45	背面 	
49	0.6	0.4	0.4	上面  下面 	異なる刻印２
50	0.75	0.4	0.4	下面 	
51	0.75	0.4	0.45	下面 	
52	0.55	0.34	0.34	下面 	
53	0.53	0.34	0.35		
54	0.46	0.5	0.44	下面 	
55	0.55	0.45	0.55	左面 	
56	0.55	0.5	0.35	上面 	
57	(0.85)	0.3		下面 	下面に墨書「十七」
58	0.75	0.5	1.10	右面 	算木積み（南を正面とした）
59	1.38	0.45	0.7	下面 	算木積み（南を正面とした）
60	(0.5)	0.38	0.7	下面 	
61	0.45	0.35	0.9	正面・右面 	同じ刻印２
62	0.45	0.35	0.8		
63	0.4	0.4	0.7	正面  左面 	異なる刻印２
64	0.5	0.5	0.8		
65		0.4	0.8	右面 	
66	0.3	0.25		上面 	

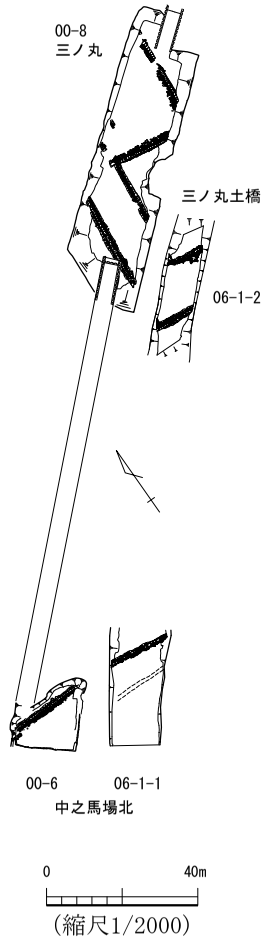
三ノ丸東石垣（1）

No.	寸法（m）			刻印	備考
	幅	高さ	奥行		
1	(0.45)	0.25			
2	0.4	0.3			
3	0.35	0.3			
4	0.5	0.34		下面	
5	0.55	0.3			
6	0.45	0.32			
7	0.55	0.3			
8	0.65	0.35			
9	0.48	0.34			
10	0.68	0.28			
11	0.5	0.3			
12	0.45	0.28			
13	0.45	0.28			
14	0.6	0.35		正面・上面	同じ刻印２
15	0.6	0.4	0.4		
16	0.4	0.4	0.55		
17	0.55	0.4	0.85		
18	0.6	0.45	1.0		
19	0.65	0.35	0.8	左上面	
20	0.65	0.48	0.95	正面	
21	0.7	0.45	0.85	右上面	
22	0.65	0.45	1.0	右上面・左上面・下面	同じ刻印３
23	0.65	0.5	0.8	上面	
24	0.75	0.45	1.1	上面・下面	同じ刻印２
25	(0.5)	(0.3)			
26	0.54	0.3			
27	0.58	0.28			
28	0.45	0.32			
29	0.48	0.32			
30	0.53	0.33			
31	0.52	0.28			
32	0.48	0.27			
33	0.53	0.25			
34	0.4	0.25			
35	0.4	0.25			
36	0.54	0.35	0.65		
37	0.52	0.35	0.55		
38	0.45	0.3	0.7		
39	0.45	0.3	0.65		
40	0.42	0.32	0.55		
41	0.4	0.3	0.65		
42	0.5	0.3	(0.7)		
43	0.5	(0.3)	0.75	下面 	

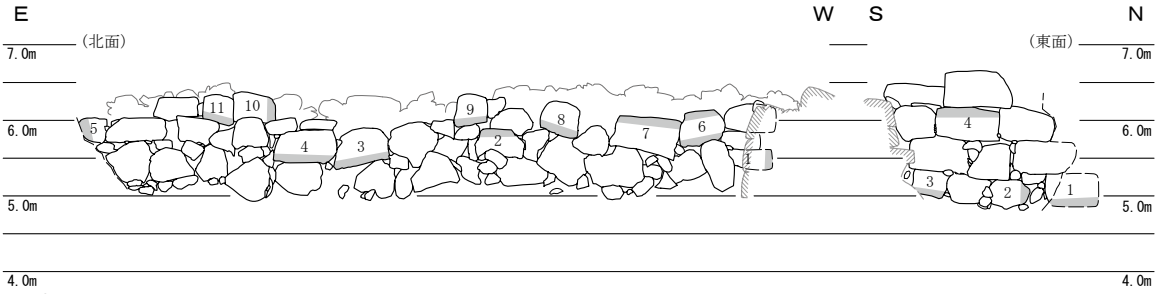
三ノ丸東石垣（2）

No.	寸法（m）			刻印	備考
	幅	高さ	奥行		
44	0.75	0.3	0.65		
45	0.9	0.34	0.6	下面	
46	0.85	0.25	0.45	上面	
47	0.9	0.3	0.55		
48	0.35	0.35	0.6		
49	0.7	0.37	0.6		
50	0.4	0.25	0.55		
51	0.53	0.26	0.55		
52	0.6	0.25	0.6		

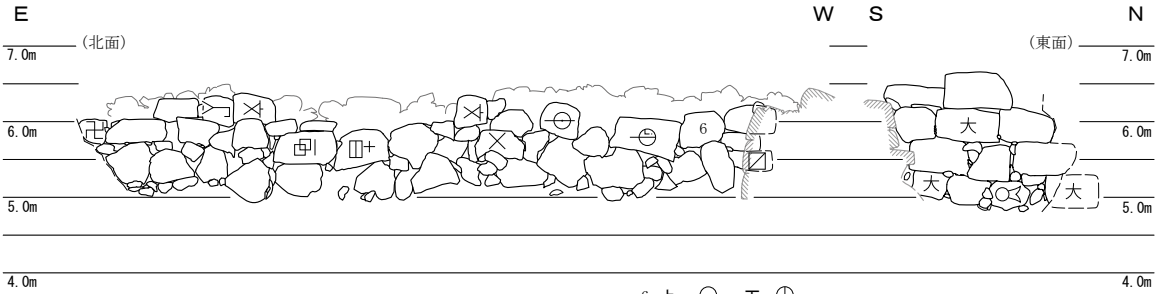




第170図　06－1－1 中之馬場北石垣の刻印（縮尺1/100）

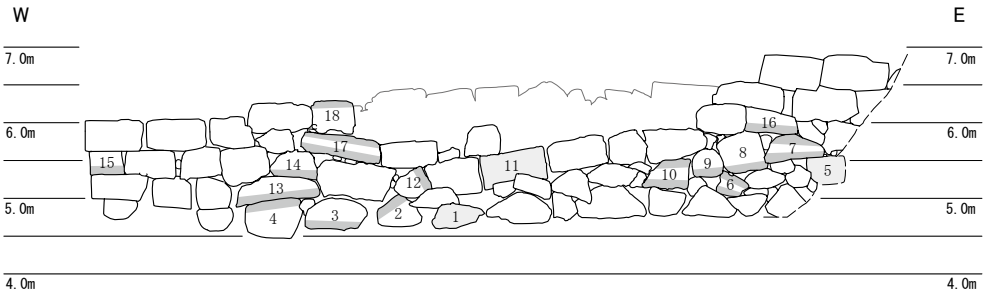


刻印の位置

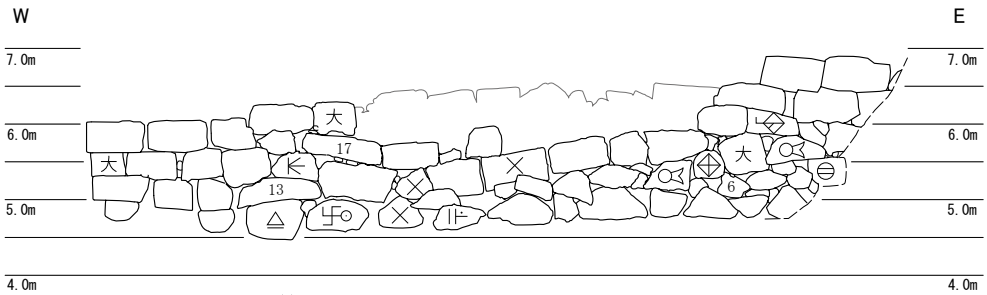


刻印の種別　　6　上：　下：

土橋北・東石垣

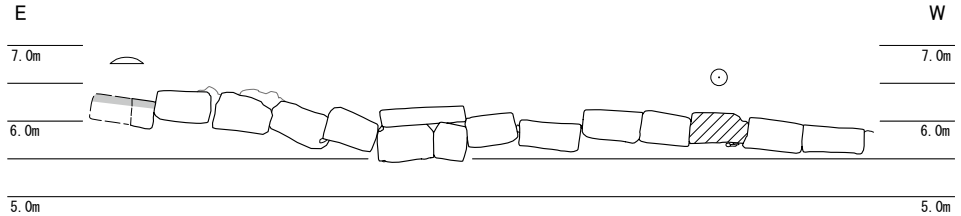


刻印の位置



刻印の種別　　13　下：　　17　上：　下：　と　　6　上・下：

土橋南石垣

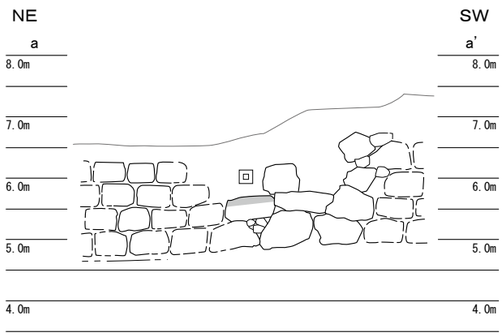


刻印の位置と種別

南縁石状延石列

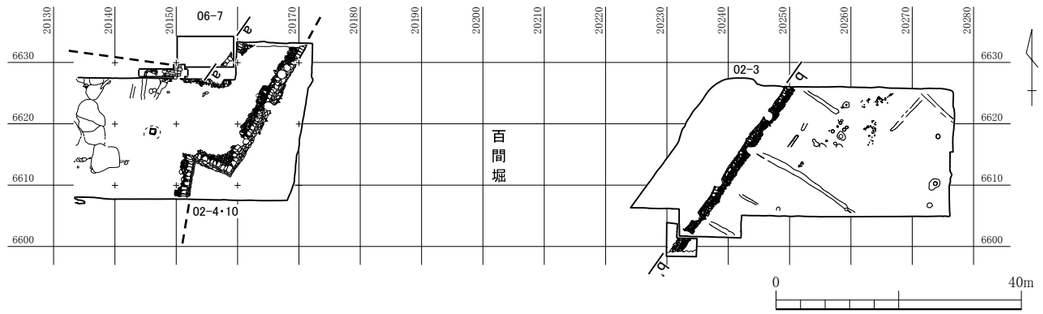
0　5m

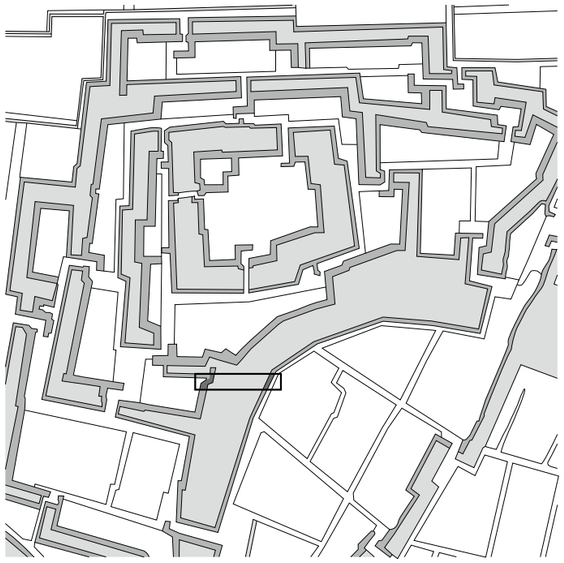
第171図　06－1－2 三ノ丸土橋石垣の刻印（縮尺1/100）

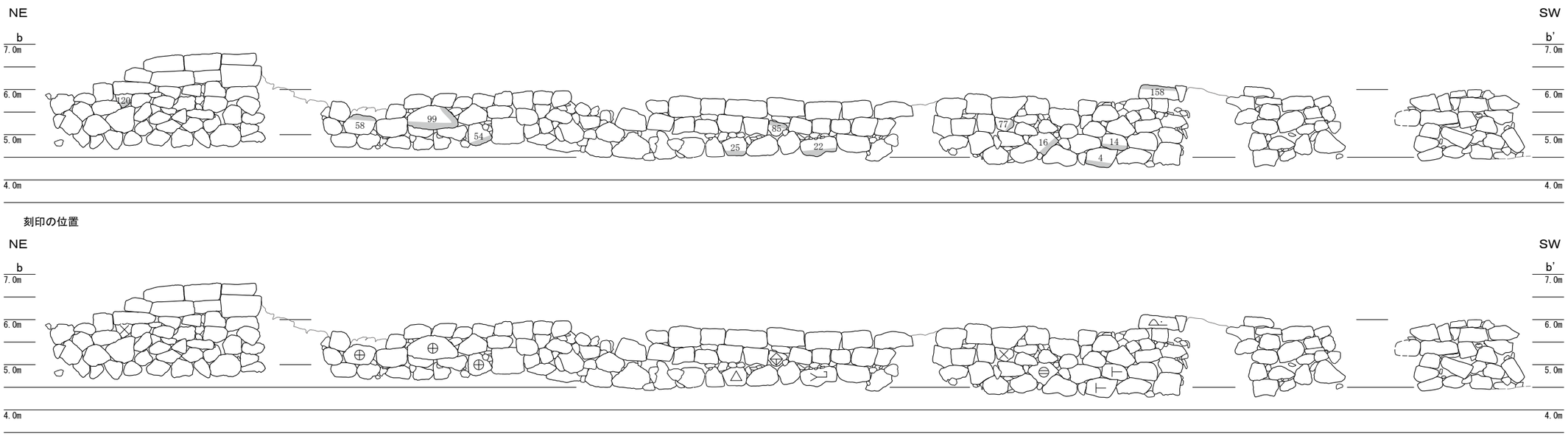


刻印の位置と種別

06-7 石垣X







刻印の位置

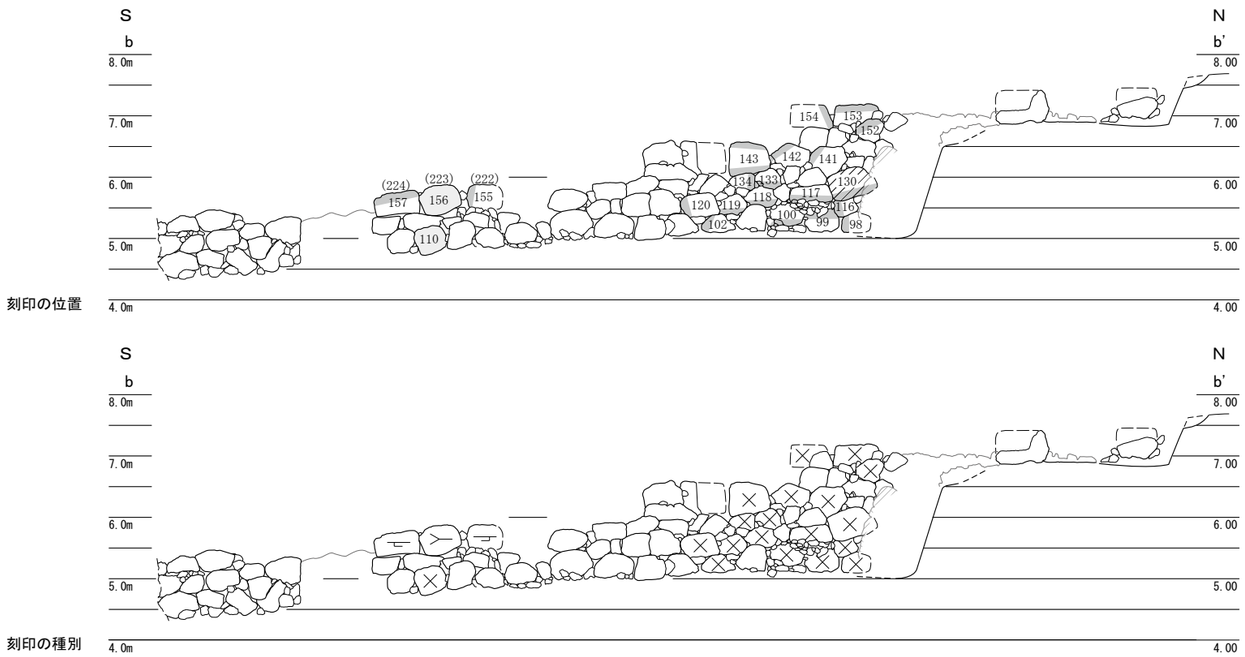
刻印の種別

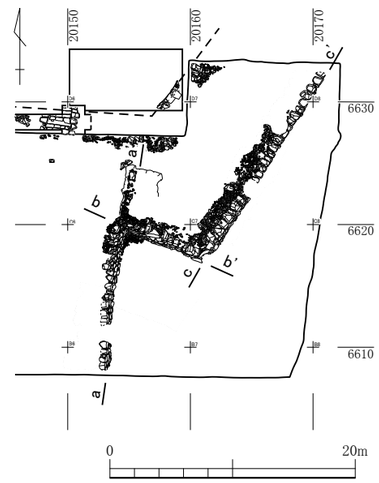
02-3 百間堀東 中之馬場西石垣

※石材番号は「福井城跡（福井駅西口地下駐車場地点）」の報告書と共通。

0 10m

第172図 02－3 中之馬場西石垣・06－7 石垣Xの刻印（縮尺1/100）

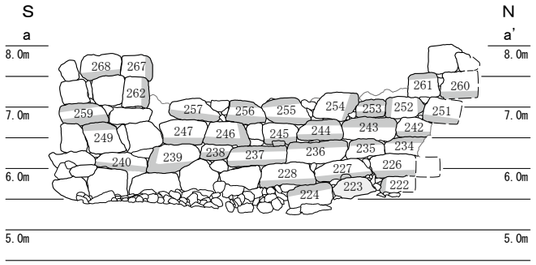




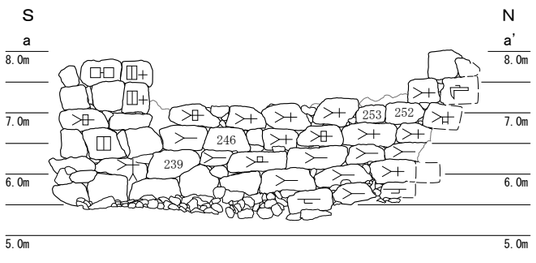
※石材番号は「福井城跡（福井駅西口地下駐車場地点）」の報告書と共通。

0 10m

第173図　02－4・10 三ノ丸石垣Ⅱの刻印（縮尺1/100）

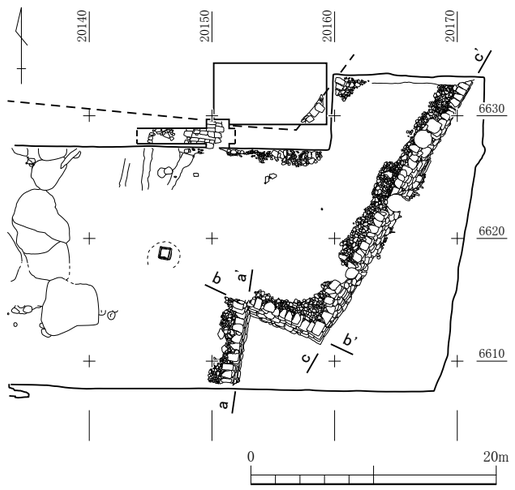


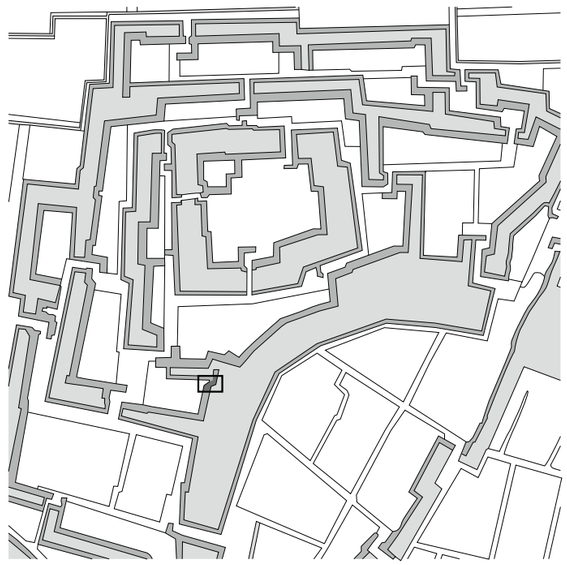
刻印の位置

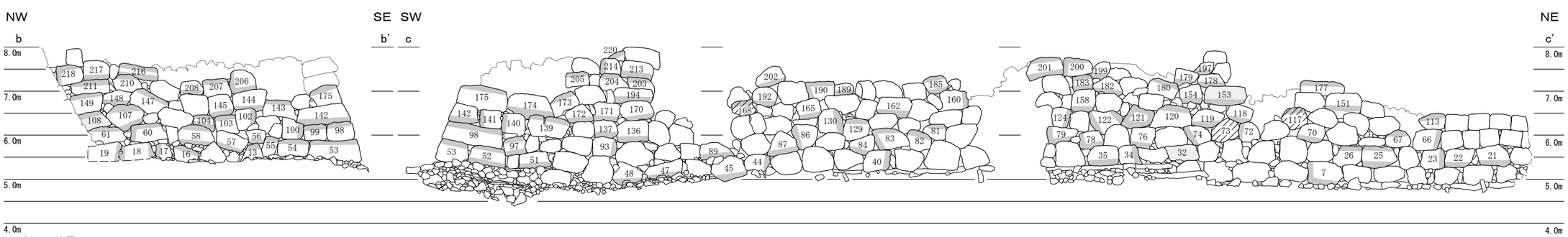


刻印の種別

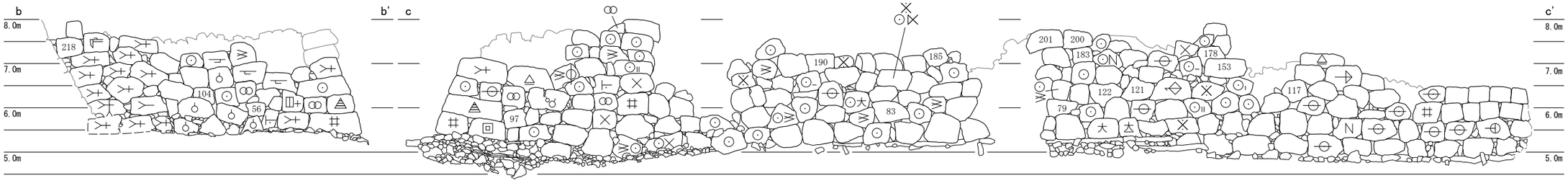
253　上：⊁　下：⊢
252　左：⊁　右：⊡
246　下：⊁　右：⊡
239　下：≻　左：⊡
237　上：≻　下：≻　同じものと捉える







刻印の位置



刻印の種別

218　上：⌐　左：⊩
104　上：△　下：⊙
56　下：≫・⊙・⊙
97　上：⊿　下：⊖
173　上：≫・⊖
139　上：大きさの異なる○2つ
47　下：×・⊙
48　下：≫・⊙
87　下：≫・⊙
83　左：≫　上：⊙
190　上：≫・⊙　左：⊙
185　上：⊙・⊢　下：⊡
162　下：⊙・⊠・×
129　上：⊙・大
200　上：⊙ⅱ　左：⊙
201　上：○　下：∨
183　上：○　下：∨
79　下：≫　左：⊙
124　右：≫　・　⊙
122　右：≫　左：⊙
121　上・下・左：≫　右：⊙
178　上：⊙　下：⊁
153　正：⊙₋　下：⊙　欠損の可能性あり
117　上：⊙　背：⊠

※石材番号は「福井城跡（福井駅西口地下駐車場地点）」の報告書と共通。

0　10m

第174図　02－4・10 三ノ丸石垣Ⅲの刻印（縮尺1/100）



A　中之馬場南石垣
B　中之馬場北石垣
C　中之馬場西石垣
D　三ノ丸土橋
　各石垣および土橋上縁石状延石列
E　三ノ丸南石垣
F　三ノ丸東石垣
G　三ノ丸石垣Ⅱ・Ⅲ
★　本丸北不明門の北西角
　「本多左門角」刻銘石垣石材
H　三ノ丸作事所北石垣
I　三ノ丸作事所西石垣
J　三ノ丸作事所南石垣
K　三ノ丸作事所東石垣
L　三ノ丸作事所南側土橋西石垣
M　鉄門北方の石垣
N　御座所西石垣

※1336「御城下絵図」松平文庫（福井県立図書館保管）を一部改変し使用。

第175図　石垣符号の調査を実施した地点

一つの主要な刻印として「矢印（傘）」形刻印がある。「Y」系刻印を主要な刻印とするのは、中之馬場南石垣、三ノ丸石垣Ⅲ、作事所北石垣であるが、多種多様な亜種が存在しており、各石垣相互に同じ亜種があることもあるが、石垣ごとに割合が様々である。このように、多種多様な刻印が様々な組み合わせになるため、刻印を持つ石材の配置原理が共通であっても、異なる様相に見えるのである。

なお、刻印を持つ石材の配置の規則性は福井城のみの特徴ではない。現存する城郭石垣の刻印は、ほとんどの場合表面観察にて確認されるのみであるため比較は困難であるが、刻印が石垣表面に網羅的に配置される箇所、散漫な分布となる箇所、ほとんど露出しない箇所があり、城郭内の位置や造営集団の違い等が反映されていると考えられる。とくに公儀普請の城郭石垣には、異なる刻印の境がほぼ垂直となり、明瞭に丁場境を示すものがある。福井城の中之馬場南石垣は、刻印を持つ石材の配置がこれと共通する。公儀普請は、作業の中で発生する集団間の技術交流により、各地の石垣構築技術の向上や並均化を促進した。福井城の石垣に多い「×」や「Y」系刻印が、大阪城の石垣に確認されることから、福井城の石垣に関わる主要な集団が派遣され、通有の石垣構築技術を還元したことが考えられる。

石垣符号の調査により確認された福井城の石垣刻印は189種、総数1212[(12)]が1114石の石材に刻まれていた。このうち最も広範囲に認められた刻印は「大」形刻印で、137石に確認された。これに次いで「丸に一つ星」形の刻印68石、「×」形刻印69石[(13)]がある。最も亜種の多い刻印は「Y」系刻印で基本形を含めて18種あり、総数は99石である。次いで多いのは「鎌」系刻印の14種であり、総数65石である。これまでの符号調査による刻印の集計では以上のとおりであるが、詳細に符号の調査がなされた石垣は僅かであり、調査された石垣はいずれも崩して埋められた残存部分でしかないため、同じ範囲であっても本来は刻印の種類、総数ともに多かったはずである[(14)]。そして、刻印がそれぞれ石垣造営に当たった集団を指すのだとすれば、実際に石材を積む作業に直接従事したか否かは明らかにしえないが、亜種を含むこれらの刻印数と同数の集団やグループが造営に関わったことになる。福井城全体では相当な数に上るとみられるが、その集団の実態は不明である。福井城の石垣に使用される石材は、笏谷石をはじめとする近隣で産出する淡い青緑色の凝灰岩で占められているため、その伐り出しから石垣の構築までに関わる者たちであろうが、一集団が全工程を担当したのか複数集団が工程を分担したか、刻印はどの段階で刻むのか、石垣を扱う集団は日常生活に使用する石製品も製造したのか等、不明な点が多い。また、今回対象とした石垣および石垣刻印は非常に限定された資料であり、推定を重ねて補完していることが多い。これらの解消、修正や新たな検討のためには資料の増加が必要である。

これまで、福井城石垣の調査は、工事立会をも含めると、点的ながら比較的広範囲にわたり実施されてきた。しかし、符号の調査まで詳細に実施した例は以上のとおりである。実際のところ、本格的な発掘調査で検出した石垣であっても、符号の調査を実施しない場合もあったようである。各石材の符号の位置が一定でないため確認には石垣の解体が必要であり、作業の方法や作業に危険が伴うこと等の様々な障壁があるためであろう。工事立会を含めてほとんどの場合、調査後に解体して消滅することになるのであり、現状では、石垣の調査をしたとしても符号に関する情報は失われる一方であると言える。今後の調査に際しては、調査後の石垣撤去作業にあわせて符号調査を実施できるような調査計画や調査体制の整備が必要となる。加えて、より安全な調査方法の確立が望まれる。そのうえで、今後の石垣符号の調査と資料の増加が期待される。

第11表　各石垣における各種刻印の出現率①

中之馬場南石垣

刻印石材数／検出総数		76／84　90.5%											
複数の刻印をもつ石材		1／76　1.3%			(1／84　1.2%)								
同じ面に同じ刻印		0					同じ面に異なる刻印		0				
異なる面に同じ刻印		1	1.3% (1.2%)	3面各1			異なる面に異なる刻印		0				
刻印の位置	正面	2	2.6% (2.4%)	背面	2	2.6% (2.4%)							
78面	右面	9	11.8% (10.7%)	左面	9	11.8% (10.7%)							
	上面	16	21.1% (19.0%)	下面	40	51.3% (47.6%)	同一の刻印を複数もつ石材についても各刻印の位置をカウントした。						
刻印の種類と数	23種 計76	18 23.7% (21.4%)		 13 17.1% (15.5%)		12 15.8% (14.3%)		 4 5.3% (4.8%)		 4 5.3% (4.8%)		 3 3.9% (3.6%)		3 3.9% (3.6%)
		2 2.6% (2.4%)		2 2.6% (2.4%)		 2 2.6% (2.4%)		 1 1.3% (1.2%)		 1 1.3% (1.2%)		 1 1.3% (1.2%)		1 1.3% (1.2%)
		 1 1.3% (1.2%)		 1 1.3% (1.2%)		 1 1.3% (1.2%)		 1 1.3% (1.2%)		 1 1.3% (1.2%)		 1 1.3% (1.2%)		 1 1.3% (1.2%)
		 1 1.3% (1.2%)		 1 1.3% (1.2%)		同一石材の同一刻印は複数あってもカウントしていない。							

※(　) 内は検出した石垣石材総数に対する割合。

中之馬場北石垣

刻印石材数／検出総数		65／155　41.9%											
複数の刻印をもつ石材		7／65　10.8%			(7／155　4.5%)								
同じ面に同じ刻印		1	1.6% (0.6%)	1面に2			同じ面に異なる刻印		0				
異なる面に同じ刻印		5	7.8% (3.2%)	2面各1：4、3面各1：1			異なる面に異なる刻印		1	1.6% (0.6%)	2面各1		
刻印の位置	正面	15	21.4% (9.7%)	背面	6	8.6% (3.9%)							
70面	右面	7	10.0% (4.5%)	左面	6	8.6% (3.9%)							
	上面	13	18.6% (8.4%)	下面	23	32.9% (14.8%)	同一の刻印を複数もつ石材についても位置が異なればカウントした。						
刻印の種類と数	21種 計65	24 39.6% (15.5%)		 6 9.2% (3.9%)		 5 7.7% (3.2%)		 4 6.2% (2.6%)		 4 6.2% (2.6%)		 4 6.2% (2.6%)		 3 4.6% (1.9%)
		 2 3.1% (1.3%)		 1 1.5% (0.6%)		 1 1.5% (0.6%)		 1 1.5% (0.6%)		 1 1.5% (0.6%)		 1 1.5% (0.6%)		 1 1.5% (0.6%)
		 1 1.5% (0.6%)		 1 1.5% (0.6%)		 1 1.5% (0.6%)		 1 1.5% (0.6%)		 1 1.5% (0.6%)		 1 1.5% (0.6%)		 1 1.5% (0.6%)
				同一石材の同一刻印は複数あってもカウントしていない。									

※(　) 内は検出した石垣石材総数に対する割合。

三ノ丸土橋西石垣

刻印石材数／検出総数		69／170　40.6%											
複数の刻印をもつ石材		7／69　10.1%			(7／170　4.1%)								
同じ面に同じ刻印		2	2.9% (1.2%)	1面に2：2			同じ面に異なる刻印		0				
異なる面に同じ刻印		1	1.4% (0.6%)	2面に各1			異なる面に異なる刻印		4	5.8% (2.4%)	2面各1：3		
刻印の位置	正面	6	8.2% (3.5%)	背面	3	4.1% (1.8%)							
73面	右面	5	6.8% (2.9%)	左面	4	5.5% (2.4%)							
	上面	18	24.7% (10.6%)	下面	37	50.7% (21.8%)	同一の刻印を複数もつ石材についても位置が異なればカウントした。						
刻印の種類と数	22種 計72	 14 19.4% (8.2%)		 7 9.7% (4.1%)		 6 8.3% (3.5%)		 6 8.3% (3.5%)		 5 6.9% (2.9%)		 5 6.9% (2.9%)		 4 5.6% (2.4%)
		 3 4.2% (1.8%)		 3 4.2% (1.8%)		 2 2.8% (1.2%)		 2 2.8% (1.2%)		 2 2.8% (1.2%)		 2 2.8% (1.2%)		 2 2.8% (1.2%)
		 2 2.8% (1.2%)		 1 1.4% (0.6%)		 1 1.4% (0.6%)		 1 1.4% (0.6%)		 1 1.4% (0.6%)		 1 1.4% (0.6%)		 1 1.4% (0.6%)
		 1 1.4% (0.6%)		同一石材の同一刻印は複数あってもカウントしていない。									

※(　) 内は検出した石垣石材総数に対する割合。

第12表　各石垣における各種刻印の出現率②

三ノ丸土橋東石垣

刻印石材数／検出総数		30／80　37.5%					
複数の刻印をもつ石材		1／30　3.3%		(1／80　1.3%)			
同じ面に同じ刻印		0			同じ面に異なる刻印	0	
異なる面に同じ刻印		1　3.3% (1.3%)　2面各1			異なる面に異なる刻印	0	
刻印の位置	正面	2　6.5% (2.5%)	背面	4　12.9% (5.0%)			
31面	右面	4　12.9% (5.0%)	左面	3　9.7% (3.8%)			
	上面	6　19.4% (7.5%)	下面	12　38.7% (15.0%)	同一の刻印を複数もつ石材についても各刻印の位置をカウントした。		
刻印の種類と数	7種 計30	 19　63.3% (23.8%)	 5　16.7% (6.3%)	 2　6.7% (2.5%)	 1　3.3% (1.3%)	 1　3.3% (1.3%)	 1　3.3% (1.3%)	 1　3.3% (1.3%)
		同一石材の同一刻印は複数あってもカウントしていない。						

※(　) 内は検出した石垣石材総数に対する割合。

三ノ丸土橋西縁石状延石列

刻印石材数／検出総数		3／27　11.1%			
複数の刻印をもつ石材		0			
刻印の位置	上面	1　33.3% (3.7%)	下面	2　66.7% (7.4%)	同一の刻印を複数もつ石材についても位置が異なればカウントした。
刻印の種類と数	3種 3	 1　33.3% (3.7%)	 1　33.3% (3.7%)	 1　33.3% (3.7%)	同一石材の同一刻印は複数あってもカウントしていない。

※(　) 内は検出した石垣石材総数に対する割合。

三ノ丸土橋東縁石状延石列

刻印石材数／検出総数		4／20　20.0%			
複数の刻印をもつ石材		0			
刻印の位置	上面	3　75.0% (15.0%)	下面	1　25.0% (5.0%)	同一の刻印を複数もつ石材についても位置が異なればカウントした。
刻印の種類と数	2種 4	 3　75.0% (15.0%)	 1　25.0% (5.0%)		同一石材の同一刻印は複数あってもカウントしていない。

※(　) 内は検出した石垣石材総数に対する割合。

三ノ丸南石垣・枡形石垣

刻印石材数／検出総数		54／66　81.8%						
複数の刻印をもつ石材		22／54　40.7%		(22／66　33.3%)				このうち2石は3面に刻印2種あり、2面に同じ刻印、1面に異なる刻印がある。
同じ面に同じ刻印		0			同じ面に異なる刻印	4　3.7% (6.1%)　1面に2：2、3面2種：2		
異なる面に同じ刻印		3　5.6% (4.5%)　2面各1：3			異なる面に異なる刻印	17　31.5% (25.8%)　2面各1：15、3面2種：2		
刻印の位置	正面	15　19.7% (22.7%)	背面	4　5.3% (6.1%)				
76面	右面	13　17.1% (19.7%)	左面	12　15.8% (18.2%)				
	上面	15　19.7% (22.7%)	下面	17　22.4% (25.8%)	同一の刻印を複数もつ石材についても位置が異なればカウントした。			
刻印の種類と数	19種 計72	 24　33.3% (36.4%)	 11　15.3% (16.7%)	 6　8.3% (9.1%)	 6　8.3% (9.1%)	 3　4.2% (4.5%)	 3　4.2% (4.5%)	 2　2.8% (3.0%)
		 2　2.8% (3.0%)	 2　2.8% (3.0%)	 1　1.4% (1.5%)	 1　1.4% (1.5%)	 1　1.4% (1.5%)	 1　1.4% (1.5%)	 1　1.4% (1.5%)
		 3　4.2% (4.5%)	 2　2.8% (3.0%)	 1　1.4% (1.5%)	 1　1.4% (1.5%)	 1　1.4% (1.5%)		
			同一石材の同一刻印は複数あってもカウントしていない。					

※(　) 内は検出した石垣石材総数に対する割合。

三ノ丸東石垣

刻印石材数／検出総数		11／52　21.2%					
複数の刻印をもつ石材		3／11　27.3%		(3／52　5.8%)			
同じ面に同じ刻印		0			同じ面に異なる刻印	0	
異なる面に同じ刻印		3　27.3% (5.8%)　3面各1：1、2面各1：2			異なる面に異なる刻印	0	
刻印の位置	正面	2　13.3% (3.8%)	背面	0			
15面	右面	2　13.3% (3.8%)	左面	2　13.3% (3.8%)			
	上面	4　26.7% (7.7%)	下面	5　33.3% (9.6%)	同一の刻印を複数もつ石材についても各刻印の位置をカウントした。		
刻印の種類と数	3種 計11	 8　72.7% (15.4%)	 2　18.2% (3.8%)	 1　9.1% (1.9%)	同一石材の同一刻印は複数あってもカウントしていない。		

※(　) 内は検出した石垣石材総数に対する割合。

第13表　各石垣における各種刻印の出現率③

06-1-1（新幹線）中之馬場北石垣

刻印石材数／検出総数	41／85　48.2%						
複数の刻印をもつ石材	10／41　24.4%　（10／85　11.8%）						
同じ面に同じ刻印	1　2.4%（1.2%）　1面に2			同じ面に異なる刻印	1　2.4%（1.2%）　1面に2		
異なる面に同じ刻印	6　14.6%（7.1%）　2面各1			異なる面に異なる刻印	2　4.9%（2.4%）　2面各1		
刻印の位置	正面	5　12.2%（5.9%）	背面	1　2.4%（1.2%）			
50面	右面	6　14.6%（7.1%）	左面	5　12.2%（5.9%）			
	上面	15　36.6%（17.6%）	下面	18　43.9%（21.2%）	同一の刻印を複数もつ石材についても位置が異なればカウントした。		
刻印の種類と数	25種 計44	 5　11.4%（5.9%）	4　9.1%（4.7%）	3　6.8%（3.5%）	 3　6.8%（3.5%）	3　6.8%（3.5%）	 2　4.5%（2.4%）	 2　4.5%（2.4%）
		 2　4.5%（2.4%）	2　4.5%（2.4%）	2　4.5%（2.4%）	 2　4.5%（2.4%）	 1　2.3%（1.2%）	1　2.3%（1.2%）	 1　2.3%（1.2%）
		 1　2.3%（1.2%）	1　2.3%（1.2%）	1　2.3%（1.2%）	 1　2.3%（1.2%）	 1　2.3%（1.2%）	1　2.3%（1.2%）	 1　2.3%（1.2%）
		 1　2.3%（1.2%）	1　2.3%（1.2%）	 1　2.3%（1.2%）	 1　2.3%（1.2%）	同一石材の同一刻印は複数あってもカウントしていない。		

※（ ）内は検出した石垣石材総数に対する割合。

06-1-2（新幹線）三ノ丸土橋北石垣

刻印石材数／検出総数	11／36　30.6%						
複数の刻印をもつ石材	1／11　9.1%　（1／36　2.8%）						
同じ面に同じ刻印	0			同じ面に異なる刻印	0		
異なる面に同じ刻印	0			異なる面に異なる刻印	1　9.1%（2.8%）　2面各1		
刻印の位置	正面	0	背面	0			
12面	右面	2　16.7%（5.6%）	左面	1　8.3%（2.8%）			
	上面	3　25.0%（8.3%）	下面	6　50.0%（16.7%）	同一の刻印を複数もつ石材についても位置が異なればカウントした。		
刻印の種類と数	10種 計12	 2　16.7%（5.6%）	2　16.7%（5.6%）	1　9.1%（2.8%）	 1　8.3%（2.8%）	 1　8.3%（2.8%）	 1　8.3%（2.8%）	 1　8.3%（2.8%）
		 1　8.3%（2.8%）	1　8.3%（2.8%）	1　8.3%（2.8%）	同一石材の同一刻印は複数あってもカウントしていない。			

※（ ）内は検出した石垣石材総数に対する割合。

06-1-2（新幹線）三ノ丸土橋東石垣

刻印石材数／検出総数	4／12　33.3%				
複数の刻印をもつ石材	0				
刻印の位置	正面	0	背面	0	
4面	右面	1　25.0%（8.3%）	左面	0	
	上面	1　25.0%（8.3%）	下面	2　50.0%（16.7%）	同一の刻印を複数もつ石材についても位置が異なればカウントした。
刻印の種類と数	2種 計4	 3　75.0%（25.0%）	 1　25.0%（8.3%）	同一石材の同一刻印は複数あってもカウントしていない。	

※（ ）内は検出した石垣石材総数に対する割合。

06-1-2（新幹線）三ノ丸土橋南石垣

刻印石材数／検出総数	18／58　31.0%						
複数の刻印をもつ石材	4／18　22.2%　（4／58　6.9%）　このうち１石は２面に刻印３種あり、同一面に異なる刻印、異なる面に異なる刻印がある。						
同じ面に同じ刻印	0			同じ面に異なる刻印	1　5.6%（1.7%）		
異なる面に同じ刻印	3　16.7%（5.2%）　2面各1：3			異なる面に異なる刻印	1　5.6%（1.7%）		
刻印の位置	正面	3　13.6%（5.2%）	背面	0			
22面	右面	1　4.5%（1.7%）	左面	0			
	上面	7　31.8%（12.1%）	下面	11　50.0%（19.0%）	同一の刻印を複数もつ石材についても位置が異なればカウントした。		
刻印の種類と数	15種 計20	 3　15.0%（5.2%）	3　15.0%（5.2%）	2　10.0%（3.4%）	 1　5.0%（1.7%）	 1　5.0%（1.7%）	 1　5.0%（1.7%）	 1　5.0%（1.7%）
		 1　5.0%（1.7%）	1　5.0%（1.7%）	1　5.0%（1.7%）	 1　5.0%（1.7%）	1　5.0%（1.7%）	1　5.0%（1.7%）	 1　5.0%（1.7%）
		 1　5.0%（1.7%）	同一石材の同一刻印は複数あってもカウントしていない。					

※（ ）内は検出した石垣石材総数に対する割合。

第14表　各石垣における各種刻印の出現率④

06-1-2（新幹線）三ノ丸土橋南縁石状延石列

刻印石材数／検出総数		2／15　13.3%				
複数の刻印をもつ石材		0				
刻印の位置	上面	1　50.0%（6.7%）	背面	1　50.0%（6.7%）	同一の刻印を複数もつ石材についても位置が異なればカウントした。	
刻印の種類と数	2種 計2	 1　50.0%（6.7%）	 1　50.0%（6.7%）	同一石材の同一刻印は複数あってもカウントしていない。		

※（ ）内は検出した石垣石材総数に対する割合。

02-4・10（福井駅西口地下駐車場）三ノ丸石垣Ⅲ

刻印石材数／検出総数		154／269　57.2%						
複数の刻印をもつ石材		43／154　27.9%　（43／269　16.0%）						
同じ面に同じ刻印		2　1.3%（0.7%）　1面に2、1面に3			同じ面に異なる刻印	7　4.5%（2.6%）　1面に2：4、1面に3：2、2面に2と1		
異なる面に同じ刻印		21　11.0%（7.8%）　2面各1：20、2面各1：1			異なる面に異なる刻印	13　8.4%（4.8%）2面各1：11、2面に2と1、4面に3と1		
刻印の位置 191面	正面	3　1.6%（1.1%）	背面	3　1.6%（1.1%）				
	右面	21　13.6%（7.8%）	左面	21　11.0%（7.8%）				
	上面	64　33.5%（23.8%）	下面	79　41.4%（29.4%）	同一の刻印を複数もつ石材についても位置が異なればカウントした。			
刻印の種類と数	42種 計184	 41　22.3%（15.2%）	 25　13.6%（9.3%）	 14　7.6%（5.2%）	 12　6.5%（4.5%）	 10　5.4%（3.7%）	 8　4.3%（3.0%）	 6　3.3%（2.2%）
		 5　2.7%（1.9%）	 4　2.2%（1.5%）	 4　2.2%（1.5%）	 4　2.2%（1.5%）	 3　1.6%（1.1%）	 3　1.6%（1.1%）	 3　1.6%（1.1%）
		 3　1.6%（1.1%）	 3　1.6%（1.1%）	 2　1.1%（0.7%）	 2　1.1%（0.7%）	 2　1.1%（0.7%）	 2　1.1%（0.7%）	 2　1.1%（0.7%）
		 2　1.1%（0.7%）	 2　1.1%（0.7%）	 2　1.1%（0.7%）	 1　0.5%（0.4%）	 1　0.5%（0.4%）	 1　0.5%（0.4%）	 1　0.5%（0.4%）
		 1　0.6%（0.4%）	 1　0.6%（0.4%）	 1　0.6%（0.4%）	 1　0.6%（0.4%）	 1　0.6%（0.4%）	 1　0.6%（0.4%）	 1　0.5%（0.4%）
		 1　0.5%（0.4%）	 1　0.5%（0.4%）	 1　0.5%（0.4%）	 1　0.5%（0.4%）	 1　0.5%（0.4%）	 1　0.5%（0.4%）	 1　0.5%（0.4%）
			同一石材の同一刻印は複数あってもカウントしていない。					

※（ ）内は検出した石垣石材総数に対する割合。

02-4・10（福井駅西口地下駐車場）三ノ丸石垣Ⅱ

刻印石材数／検出総数		48／157　30.6%						
複数の刻印をもつ石材		7／48　14.6%　（7／157　4.5%）						
同じ面に同じ刻印		0			同じ面に異なる刻印	2　4.2%（1.3%）　1面に2		
異なる面に同じ刻印		4　8.3%（2.5%）　2面各1			異なる面に異なる刻印	1　2.1%（0.6%）　2面各1		
刻印の位置 54面	正面	5　9.3%（3.2%）	背面	1　1.9%（0.6%）				
	右面	9　16.7%（5.7%）	左面	8　14.8%（5.1%）				
	上面	12　22.2%（7.6%）	下面	19　35.2%（12.1%）	同一の刻印を複数もつ石材についても位置が異なればカウントした。			
刻印の種類と数	12種 計48	 24　50.0%（15.3%）	 6　12.5%（3.8%）	 6　12.5%（3.8%）	 3　6.3%（1.9%）	 2　4.2%（1.3%）	 1　2.1%（0.6%）	 1　2.1%（0.6%）
		 1　2.1%（0.6%）	 1　2.1%（0.6%）	 1　2.1%（0.6%）	 1　2.1%（0.6%）	 1　2.1%（0.6%）	同一石材の同一刻印は複数あってもカウントしていない。	

※（ ）内は検出した石垣石材総数に対する割合。

02-3（福井駅西口地下駐車場）中之馬場西石垣

刻印石材数／検出総数		12／166　7.2%						
複数の刻印をもつ石材		1／12　8.3%　（1／166　0.6%）			異なる面に同じ刻印	1　8.3%（0.6%）		
刻印の位置 12面	正面	0	背面	0				
	右面	3　25.0%（1.8%）	左面	0				
	上面	2　16.7%（1.2%）	下面	7　58.3%（4.2%）	同一の刻印を複数もつ石材についても位置が異なればカウントした。			
刻印の種類と数	8種 計12	 3　25.0%（1.8%）	 2　16.7%（1.2%）	 2　16.7%（1.2%）	 1　8.3%（0.6%）	 1　8.3%（0.6%）	 1　8.3%（0.6%）	 1　8.3%（0.6%）
		 1　8.3%（0.6%）	同一石材の同一刻印は複数あってもカウントしていない。					

※（ ）内は検出した石垣石材総数に対する割合。

第15表　各石垣における各種刻印の出現率⑤

作事所西石垣

刻印石材数／検出総数		114／206　55.3%											
複数の刻印をもつ石材		5／114　4.4%　　(5／206　2.4%)											
同じ面に同じ刻印		1　0.9%（0.5%）　1面に2				同じ面に異なる刻印		3　2.6%（1.5%）　1面に2					
異なる面に同じ刻印		1　0.9%（0.5%）　2面各1				異なる面に異なる刻印		0					
刻印の位置	正面	2　1.8%（1.0%）	背面	11　9.6%（5.3%）									
114面	右面	14　12.3%（6.8%）	左面	14　12.3%（6.8%）									
	上面	31　27.2%（15.0%）	下面	42　36.8%（20.4%）									
刻印の種類と数	24種												
	計116	50　43.1%（24.4%）	14　12.1%（6.8%）	8　6.9%（3.9%）	6　5.2%（2.9%）	6　5.2%（2.9%）	5　4.3%（2.4%）	4　3.4%（1.9%）					
													
		3　2.6%（1.5%）	2　1.7%（1.0%）	2　1.7%（1.0%）	2　1.7%（1.0%）	2　1.7%（1.0%）	1　1.7%（1.0%）	1　1.7%（1.0%）					
													
		1　1.7%（1.0%）	1　1.7%（1.0%）	1　1.7%（1.0%）	1　1.7%（1.0%）	1　1.7%（1.0%）	1　1.7%（1.0%）	1　1.7%（1.0%）					
													
		1　1.7%（1.0%）	1　1.7%（1.0%）	1　1.7%（1.0%）									

同一の刻印を複数もつ石材についても各刻印の位置をカウントした。

同一石材の同一刻印は複数あってもカウントしていない。

※（　）内は検出した石垣石材総数に対する割合。

作事所南石垣

刻印石材数／検出総数		54／143　37.8%											
複数の刻印をもつ石材		5／54　9.3%　　(5／143　3.5%)											
同じ面に同じ刻印		0				同じ面に異なる刻印		2　3.7%（1.4%）　1面に2					
異なる面に同じ刻印		1　1.9%（3.2%）　2面各1				異なる面に異なる刻印		2　3.7%（1.4%）　2面各1					
刻印の位置	正面	0	背面	3　5.3%（2.1%）									
57面	右面	3　5.3%（2.1%）	左面	3　5.3%（2.1%）									
	上面	2　3.5%（1.4%）	下面	46　80.7%（32.2%）									
刻印の種類と数	20種												
	計57	14　24.6%（9.8%）	14　24.6%（9.8%）	4　7.0%（2.8%）	4　7.0%（2.8%）	3　5.3%（2.1%）	3　5.3%（2.1%）	2　3.5%（1.4%）					
													
		1　1.8%（0.7%）	1　1.8%（0.7%）	1　1.8%（0.7%）	1　1.8%（0.7%）	1　1.8%（0.7%）	1　1.8%（0.7%）	1　1.8%（0.7%）					
													
		1　1.8%（0.7%）	1　1.8%（0.7%）	1　1.8%（0.7%）	1　1.8%（0.7%）	1　1.8%（0.7%）	1　1.8%（0.7%）						

同一石材の同一刻印は複数あってもカウントしていない。

※（　）内は検出した石垣石材総数に対する割合。

作事所東石垣

刻印石材数／検出総数		53／－											
複数の刻印をもつ石材		8／53　15.1%											
同じ面に同じ刻印		0				同じ面に異なる刻印		8　15.1%　1面に2					
異なる面に同じ刻印		0				異なる面に異なる刻印		0					
刻印の種類と数	30種												
	計60	9　15.0%	7　11.7%	5　8.3%	4　6.7%	4　6.7%	3　5.0%	3　5.0%					
													
		2　3.3%	2　3.3%	1　1.7%	1　1.7%	1　1.7%	1　1.7%	1　1.7%					
													
		1　1.7%	1　1.7%	1　1.7%	1　1.7%	1　1.7%	1　1.7%	1　1.7%					
													
		1　1.7%	1　1.7%	1　1.7%	1　1.7%	1　1.7%	1　1.7%	1　1.7%					
													
		1　1.7%	1　1.7%										

同一石材の同一刻印は複数あってもカウントしていない。

※（　）内は検出した石垣石材総数に対する割合。

第16表　各石垣における各種刻印の出現率⑥

作事所北石垣

刻印石材数／検出総数	164／598 27.4%						
複数の刻印をもつ石材	15／164 9.1%	(15／598 2.5%)					
同じ面に同じ刻印	0				同じ面に異なる刻印	11 6.7%（1.8%） 1面に2	
異なる面に同じ刻印	1 0.6%（0.2%） 2面各1				異なる面に異なる刻印	3 1.8%（0.5%） 2面各1	
刻印の位置 159面 (+9)	正面	25 15.7%（4.2%）	背面	4 2.5%（0.7%）	位置不明９		
	右面	10 6.3%（1.7%）	左面	11 6.9%（1.8%）			
	上面	10 6.3%（1.7%）	下面	99 62.3%（16.6%）	同一の刻印を複数もつ石材についても位置が異なればカウントした。		
刻印の種類と数	55種 計178	 12 6.7%（0.2%）	 12 6.7%（0.2%）	 11 6.2%（1.8%）	 10 5.6%（1.7%）	 8 4.5%（1.3%）	 8 4.5%（1.3%）	 7 3.9%（1.2%）
		 6 3.4%（1.1%）	 6 3.4%（1.0%）	 6 3.4%（1.0%）	 6 3.4%（1.0%）	 5 2.8%（0.8%）	 5 2.8%（0.8%）	 5 2.8%（0.8%）
		 5 2.8%（0.8%）	 4 2.2%（0.7%）	 4 2.2%（0.7%）	 3 1.7%（0.5%）	 3 1.7%（0.5%）	 3 1.7%（0.5%）	 3 1.7%（0.5%）
		 3 1.7%（0.5%）	 2 1.7%（0.5%）	 2 1.7（0.5%）	 2 1.7%（0.75%）	 2 1.7%（0.5%）	 2 1.7%（0.5%）	 2 1.7%（0.5%）
		 2 1.7%（0.5%）	 2 1.7%（0.5%）	 2 1.7%（0.5%）	 2 1.7%（0.5%）	 1 0.6%（0.2%）	 1 0.6%（0.2%）	 1 0.6%（0.2%）
		 1 0.6%（0.2%）	 1 0.6%（0.2%）	 1 0.6%（0.2%）	 1 0.6%（0.2%）	 1 0.6%（0.2%）	 1 0.6%（0.2%）	 1 0.6%（0.2%）
		 1 0.6%（0.2%）	 1 0.6%（0.2%）	 1 0.6%（0.2%）	 1 0.6%（0.2%）	 1 0.6%（0.2%）	 1 0.6%（0.2%）	 1 0.6%（0.2%）
		 1 0.6%（0.2%）	 1 0.6%（0.2%）	 1 0.6%（0.2%）	 1 0.6%（0.2%）	 1 0.6%（0.2%）	 1 0.6%（0.2%）	
		同一石材の同一刻印は複数あってもカウントしていない。						

※（ ）内は検出した石垣石材総数に対する割合。

作事所南の土橋西石垣

刻印石材数／検出総数	37／254 14.6%						
複数の刻印をもつ石材	2／37 5.4%	(2／254 0.8%)					
同じ面に同じ刻印	0				同じ面に異なる刻印	1 2.7%（0.4%） 1面に2	
異なる面に同じ刻印	1 2.7%（0.4%） 2面各1				異なる面に異なる刻印	0	
刻印の位置 38面	正面	1 2.6%（0.4%）	背面	4 10.5%（1.6%）			
	右面	4 10.5%（1.6%）	左面	2 5.3%（0.8%）			
	上面	5 13.2%（2.0%）	下面	22 57.9%（8.7%）	同一の刻印を複数もつ石材についても位置が異なればカウントした。		
刻印の種類と数	21種 計38	 9 23.7%（3.5%）	 7 18.4%（2.8%）	 3 7.9%（1.2%）	 2 5.3%（0.8%）	 1 2.6%（0.4%）	 1 2.6%（0.4%）	 1 2.6%（0.4%）
		 1 2.6%（0.4%）	 1 2.6%（0.4%）	 1 2.6%（0.4%）	 1 2.6%（0.4%）	 1 2.6%（0.4%）	 1 2.6%（0.4%）	 1 2.6%（0.4%）
		 1 2.6%（0.4%）	 1 2.6%（0.4%）	 1 2.6%（0.4%）	 1 2.6%（0.4%）	 1 2.6%（0.4%）	 1 2.6%（0.4%）	 1 2.6%（0.4%）
		同一石材の同一刻印は複数あってもカウントしていない。						

※（ ）内は検出した石垣石材総数に対する割合。

鉄門北方石垣

刻印石材数／検出総数	25／71 35.2%						
複数の刻印をもつ石材	0						
刻印の位置 25面	正面	0	背面	0			
	右面	1 4.0%（1.2%）	左面	4 16.0%（5.6%）			
	上面	7 28.0%（9.9%）	下面	13 52.0%（18.3%）	同一の刻印を複数もつ石材についても位置が異なればカウントした。		
刻印の種類と数	8種 計25	 14 56.0%（19.7%）	 5 20.0%（0.7%）	 1 4.0%（1.4%）	 1 4.0%（1.4%）	 1 4.0%（1.4%）	 1 4.0%（1.4%）	 1 4.0%（1.4%）
		 1 4.0%（1.4%）	同一石材の同一刻印は複数あってもカウントしていない。					

※（ ）内は検出した石垣石材総数に対する割合。

第17表　各石垣における各種刻印の出現率⑦

御座所西石垣（西面部分）

刻印石材数／検出総数	57／125　45.6%						
複数の刻印をもつ石材	14／57　24.6%　　（14／125　11.2%）						
同じ面に同じ刻印	0			同じ面に異なる刻印	12　21.1%（9.6%）　1面に2		
異なる面に同じ刻印	1　1.8%（0.8%）　2面各1			異なる面に異なる刻印	1　1.8%（0.8%）　2面各1		
刻印の位置　59面	正面	2　3.5%（1.6%）	背面	1　1.8%（0.8%）			
	右面	10　17.5%（8.0%）	左面	13　22.8%（10.4%）			
	上面	13　22.8%（10.4%）	下面	20　35.1%（16.0%）	同一の刻印を複数もつ石材についても位置が異なればカウントした。		
刻印の種類と数	21種 計68	 21　30.9%（16.8%）	 7　5.7%（5.6%）	 7　5.7%（5.6%）	5　8.8%（0.8%）	 5　8.8%（4.0%）	4　7.0%（4.0%）	 4　7.0%（4.0%）
		 2　3.5%（1.6%）	 2　3.5%（1.6%）	 1　1.8%（1.8%）	1　1.8%（1.8%）	 1　1.8%（0.8%）	1　1.8%（0.8%）	1　1.8%（0.8%）
		 1　1.8%（0.8%）	 1　1.8%（0.8%）	 1　1.8%（0.8%）	1　1.8%（0.8%）	1　1.8%（0.8%）	1　1.8%（0.8%）	1　1.8%（0.8%）
			同一石材の同一刻印は複数あってもカウントしていない。					

※（　）内は検出した石垣石材総数に対する割合。

御座所西石垣（北面部分）

刻印石材数／検出総数	8／28　28.6%						
複数の刻印をもつ石材	3／8　37.5%　　（3／28　10.7%）　同じ面に異なる刻印を持つ石材のうち1石は、異なる面に同じ組み合わせの刻印がもう一組ある。						
同じ面に同じ刻印	0			同じ面に異なる刻印	3　37.5%（10.7%）　1面に2		
異なる面に同じ刻印	0			異なる面に異なる刻印	0		
刻印の位置　8面	正面	2　25.0%（7.1%）	背面	2　25.0%（7.1%）			
	右面	1　12.5%（3.6%）	左面	0			
	上面	1　12.5%（3.6%）	下面	2　25.0%（7.1%）	同一の刻印を複数もつ石材についても位置が異なればカウントした。		
刻印の種類と数	7種 計11	 2　18.2%（7.1%）	 2　18.2%（7.1%）	 2　18.2%（7.1%）	 2　18.2%（7.1%）	1　9.1%（3.6%）	1　9.1%（3.6%）	 1　9.1%（3.6%）
			同一石材の同一刻印は複数あってもカウントしていない。					

※（　）内は検出した石垣石材総数に対する割合。

註・引用文献

1　刻印の石材ごとの検出位置は、石垣の表面となる小口を「正面」、その対面を「背面」、石垣に向かって右側を「右面」、逆を「左面」、上下を「上面」「下面」とした。

2　a）藤井重夫　1982　「大坂城石垣符号について」『大坂城の諸研究』日本城郭史研究叢書８　名著出版
　b）田中哲雄　1999　「付載　石垣符号」『城の石垣と堀』日本の美術 第403号　至文堂

3　a）石橋晋一　1983　「福井城、昭和の大修理終る‼」『福建』福井県建設技術協会
　b）小林 巌　1988　「福井城本丸の石垣 －基本的構造と刻印－」『笏谷石文化』福井の文化財を考える会

4　慶長18年（1613）・安永４年（1775）の福井城下絵図とは、それぞれ松平文庫の整理番号1309・1336の絵図である。 いずれも外曲輪区割でいう「大名広路」に本多左門の屋敷が見える。ただし、屋敷地は異なる。

5　御嶽貞義編　2008　『福井城跡 －福井駅西口地下駐車場整備事業に伴う発掘調査－』福井県教育庁埋蔵文化財調査センター P45図21 石垣Ⅱ石材の墨書（写真）

6　前掲（5）P314　御嶽貞義「石垣符号について」

7　このほか、1982年の本丸石垣修復時に刻印の種類と数が記録されたようである（前掲3a）。総数約9000石のうち約３割の2771石に437種の刻印を確認したとされるが、詳細の報告はない。

8　前掲（2a）P300 第５表

9　福井市教育委員会　1992　『福井城跡Ⅰ』・1997　『福井城跡Ⅲ』
　三ノ丸作事所周囲の石垣と土橋の西側石垣、土橋が南接する鉄門北方の石垣は『福井城跡Ⅰ』に、御座所西石垣は『福井城跡Ⅲ』に報告されている。ただし、掲載される図や写真を今日的な視点で見直し、刻印と認められないものは排除した。また、近代以降に積み替えられた部分の刻印についても対象としていない。そのため、上記の報告書に記載される数値と異なる。

10　福井城の石垣石材は笏谷石とみられる凝灰岩の切石であり、切り出された段階で石材の形状から石垣に使用する際の向きがおおまかに認識できる状態で、少なくとも小口か否かの区別は付いたものと考えられる。そのため、どのような段階で刻印を刻んだとしても、刻印が石垣表面に露出しない位置を選ぶことは可能であった。ただし、刻印のある位置は石材の下面が最も多く、次いで上面が多いことから、単に広い面を選んで刻んだ結果であったのかもしれない。

11　４種の刻印が占める範囲が一定ではないことから、担当する者により施工範囲が異なったことがわかる。

12　189種のうち６種は三ノ丸石垣Ⅱにのみ認められる刻印である。また、1212石のうち48石が三ノ丸石垣Ⅱの石材である。

13　三ノ丸南石垣Ⅱの分を除くと38石である。

14　堀内に落下した石材や、工事立会で１度見かけただけの刻印を持つ石材等もあったが、きちんと記録され、報告されているもの以外は対象としていない。

第６章　城の橋通地点の調査

平成16 ～ 18年度に、高架排水路設置工事や街路整備工事・電線共同溝設置工事に伴い、県道５号福井加賀線（通称：城の橋通）で立会調査を実施した（第177図）。その成果を事業毎に記す。

第１節　高架排水路設置工事に伴う立会調査

高架線路上の雨水処理管を県道下に埋設する工事に伴い調査を行った。ただし、掘削幅が狭いため「城下絵図」から推定される石垣付近についての立会調査とした。調査年度によりFKJ04－2a ～ eおよび05－7・06－9の調査番号を付した。

調査区は城下絵図によると、17世紀初頭まで吉野川（後に百間堀）と足羽川が合流する河原であったが、17世紀前半に武家屋敷地として整備され、福井城南側を守る出丸としての機能を果たしたと考えられている（第176図）。また、北庄城の本丸推定地（柴田神社）に隣接するため、この時期の重要な遺構の存在も期待できる地点であった。なお、以下の文章中にある石造遺構の素材は全て笏谷石である。

1）FKJ04－2a調査区（第178図）

この地点は城下絵図によると舟蔵門のある曲輪の北面に当たる。東西に延びる石垣が検出されたが、工事掘削範囲にほぼ並行するため、調査・図化は困難を極めた。石垣は底部に角柱１列の胴木を据え、切石を５段積みとする。胴木直上で標高5.5m、石垣上端で標高7.0mを測る。胴木が１列のみで２本並列ではないのは、防御用の高石垣ではないためとも考えられる。また、下部２段の石材に対し、上部３段の石材が小振りで、この部分は積み足し、もしくは積み直しが行われた可能性がある。

2）FKJ04－2b調査区（第179図）

この地点は城下絵図によると武家屋敷地内に当たる。福井城期の遺構面より低い標高6.5mより下で３つの集石が確認された。西の集石は、長辺0.7 ～ 0.8mの長方形石材を階段状に組み、下段の石材前に２本の角杭を打ち込む。階段状構造の東側には袖状の石積を平面Ｌ字状に配する。石材の小口長辺で0.3m前後と小振りな石材を使用し、１～２段積みである。東西列の石材下には角材の胴木を据える。東に離れた２つの集石は、石材が組み合っておらず、大きさも小振りである。出土状況から、投棄、もしくは石垣裏込めが残存したものである。西の集石は、その形状から堀側に降りる階段と考えられ、袖部の石材が小振りなことから石垣は高石垣ではなかったと思われる。この階段状石積は、福井城期の石垣推定位置より南側に位置する。また、石積のベースとなる堆積土や袖部の裏側から古瀬戸後期から大窯期の灰釉陶器片等が出土しており、肥前陶磁器は含まれなかった。このことから、北庄城期もしくは福井城期初期の遺構と考えられ、17世紀半ば以降に埋められたものとみられる。

3）FKJ04－2c調査区（第179図）

この地点は城下絵図によると舟蔵門のある曲輪の東側に当たり、付近に百間堀に面する石垣があったと想定される。調査区を横断して南北列の石垣が確認された。標高6.1m付近に角柱１列の胴木を据え、切石を２段積みとする。石材は、正面から見ると他の石垣同様の大きさだが、奥行き方向は極めて浅い。近世の石垣では通常1.0m前後の控えがあることから、近代のものの可能性がある。

4）FKJ04－2d調査区（第182図）

この地点は城下絵図によると百間堀の東岸に当たる。調査区を横断して南北方向に２つの石垣および石列が確認された。東側の石垣は、底部に角柱１列の胴木を据え、切石を１～２段積む。西側の石列は、

近代になって百間堀が徐々に埋め立てられ、幅が狭められて以降のものである。西側に面を持ち縁石状に並ぶことから、道路と百間堀跡地との境や木造建物の基礎と考えられる。

5）FKJ04－2e調査区（第180・182・183図）

この地点は城下絵図によると城ノ橋の町屋地に当たり、南の道路側が表、北の堀に面した側が裏になる。堀は福井城期以降、近代まで存在する。調査では、堀に面した東西方向の石垣が確認され、西端で南に折れて調査区外へ続いていた。標高5.0mまで石積を確認したが、底部には至らなかった。石材は大きさで3つに分類でき、大は小口0.75×0.5mで大ぶり、中は同0.5m×0.4m、小は同0.3×0.2mである。大は百間堀の他の調査地点でも確認されており、築城期に作られたと考えられる石垣に多い。中は城下の石垣石材では一般的な大きさである。小は布積みだが、大・中の欠損部を補充するように使用され、近代以降の積み直しの可能性も考えられる。石垣西端には橋脚が2基検出された。その南側の陸上では東西1間（1.6m）、南北2間（4.6m）の規模で礎石が並び、一部の礎石上では柱状石材が据えられた状態で出土した。橋の取り付き部がかなり陸側に入り込んでいたことが分かる。

6）FKJ05－7調査区（第181図）

この地点はFKJ04－2e地点から続く堀に当たる。FKJ05－7地点では東西方向の3つの石垣が確認された。北列の石垣は堀の北岸に当たり、標高5.0mまで4段の石積みを確認したが、底部はこれより深くなる。2～3段間で石材の積み方が異なる。下部は石材の小口が0.6×0.4mで、積み方も含め城下の石垣では類例が多い。上部はFKJ04－2e地点と同様、近代の積み直しが考えられる。中列の石垣は、積み方から近代に堀が狭められた時期のものとみられ、南列の石垣も近代の建物基礎の可能性がある。

7）FKJ06－9調査区（第181図）

この地点もFKJ04－2e地点から続く堀の南岸石垣に当たる。標高4.3mまで6段の石積みを確認したが底部には至らなかった。石材はFKJ04－2e地点の小に類することから、この部分は全て積み直しの可能性がある。なお、調査区は石垣裏込め部分のため、立面図は裏込め側から計測した。

第２節　街路整備工事に伴う立会調査

ＪＲ北陸線を跨ぐ高架道路を地平に降ろすため、高架道路撤去部分を調査対象とした。当初、遺構は高架道路建設時に破壊されているものと考え、確認調査は行われなかった。しかし、付近の調査結果から、橋脚部以外は良好な状態で遺構が残存すると推定され、道路撤去後に確認調査を行ったところ、遺構面が良好な状態で検出された。しかし、工期優先のために調査は工事掘削が及ぶ深度までの立会調査とされ、全面発掘を行うことができなかった。調査番号はＪＲ北陸線の東側調査区をFKJ04－3、西側調査区を04－4とした。

調査地点は、城下絵図によると福井城の南に位置し、城ノ橋下町と称される町屋地である（第177図）。福井から大野を経て美濃に至る街道の起点に当たる。城郭内にあり、周囲を武家屋敷地に囲まれるという立地から、その成立が福井城期以前に遡る可能性も考えられている。

1）FKJ04－3調査区（第184～187図）

礎石等の比高差から4つの遺構面を想定したが、家ごとに短期間で小規模な修築を繰り返しており、実際は1、2+3、4面の3面とも考えられる。主な遺構は道路および建物の礎石・井戸等で、3軒分の町屋に当たっていると考えられる。そこで、便宜上東からＡ・Ｂ・Ｃ家と名付けた。以下、遺構面毎に出土遺構を紹介する。

第１面　礎石列が３つ確認された。礎石列02aは礎石が起こされて土塁状となっている。道路側にある礎石列南端の礎石は、Ｂ・Ｃ家の礎石が接して据えられていた。礎石列03aは、Ｂ家側では小振りの石を並べ、Ａ家側では柱部分のみ礎石を据える。礎石列南端の礎石は、Ａ・Ｂ家の礎石が接して据えられていた。井戸01は、１面の段階では埋められていたとみられ、上部が板石で塞がれていた。

第２面　焼土・炭混じり土層をベースに生活面を形成する。Ｃ家ではベース層を0.1ｍ程掘り込んで底面に黄色粘質土で床面を作り、黄色砂質土を充填する。礎石列02bは02aの直下で２石のみを確認した。礎石間隔は半間（約0.9m）である。礎石列03bはＡ家建物の礎石南北列３石、東西列１石を検出した。礎石間隔は南北列が半間（約0.9m）、東西列は1.3ｍである。井戸01はＢ家建物内の東寄りに位置する。井戸の地上部分に現れる化粧側の下半部が組まれた状態で検出された。井戸側は４枚の板石を方形に組み合わせたもので、同構造の井戸はFKJ02－10（駅前地下駐車場）地点でみられる。

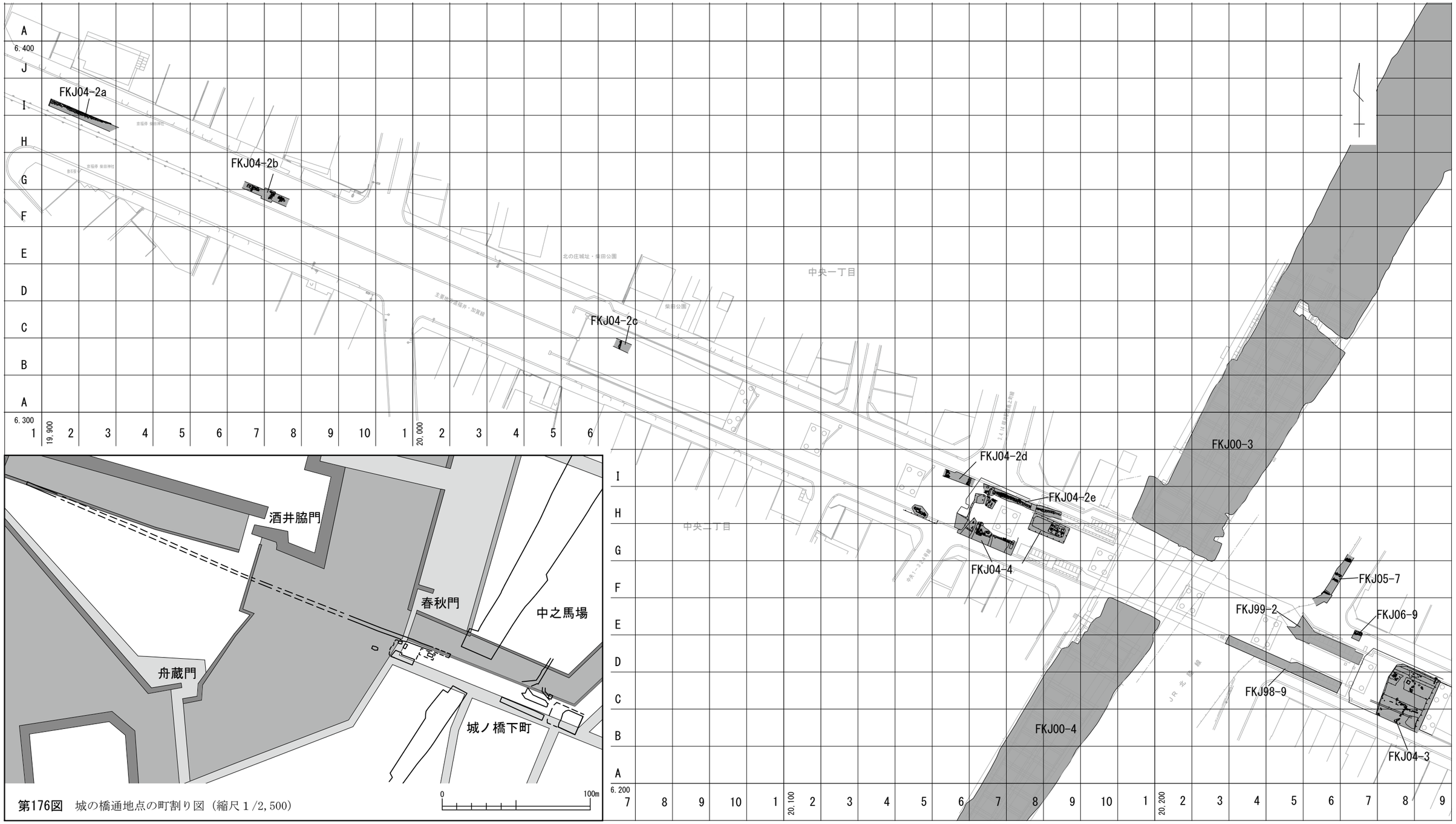
第３面　焼土・炭混じり土層（２面のベース）直下を生活面とする。３面のベースとなる整地層内より、呉須染付碗や初期伊万里等17世紀前半の遺物が出土した。礎石列03cのうち、Ｂ家建物に伴うのは礎石３石で、礎石間隔は0.9 ～ 0.3ｍである。Ａ家建物に伴う礎石は、道路に面する東西列で２石確認された。礎石間隔は3.0ｍである。Ｂ家建物と同じ高さのＡ家建物の南北列礎石は確認できなかったが、２面の礎石列03bとの高さの違いは5cm程度であり、家毎に修築時期が違っていたとすれば礎石列03bと03cが併存する可能性が高い。礎石列04cは方形の礎石を0.9m間隔で据え、礎石間を長方形の石でつなぐ。03cとの間隔からＡ家建物の礎石であろう。石列05cは東西方向に並び、建物軒先と道路の境を示すものと考えられる。Ａ家前には石製Ｕ字溝が埋設され、Ｂ家前には小型の石を並べる。道路遺構は東側で砂利敷き舗装を確認した。また、道路を南北に直交する石列06cは、礎石列03cの延長上に位置する。長辺0.1 ～ 0.2m前後の小さい石を並べるが、礎石とおぼしき石もみられる。石列が溝状に２本並ぶ部分があるが、溝の掘り込みは確認できなかった。また、礎石状の石があることから、木戸の可能性や、古い段階では道幅が狭く建物がさらに南側まで伸びていたことなどが考えられるが、現状では不明である。

第４面　時間的制約により充分な調査が行えず不明点が残った。礎石列04dは長辺0.7ｍの大型の長方形石を据える。FKJ99－２（地下道）地点でも町屋境に同様の大型の石が使用される。石列05dは05c直下で確認された。05cより大振りな石を使用する。石列07dはＢ家建物の南面礎石と考えられるが石が小振りのため問題点が残る。礎石間隔は2.1ｍである。直下には少しずれて石列07eも確認された。

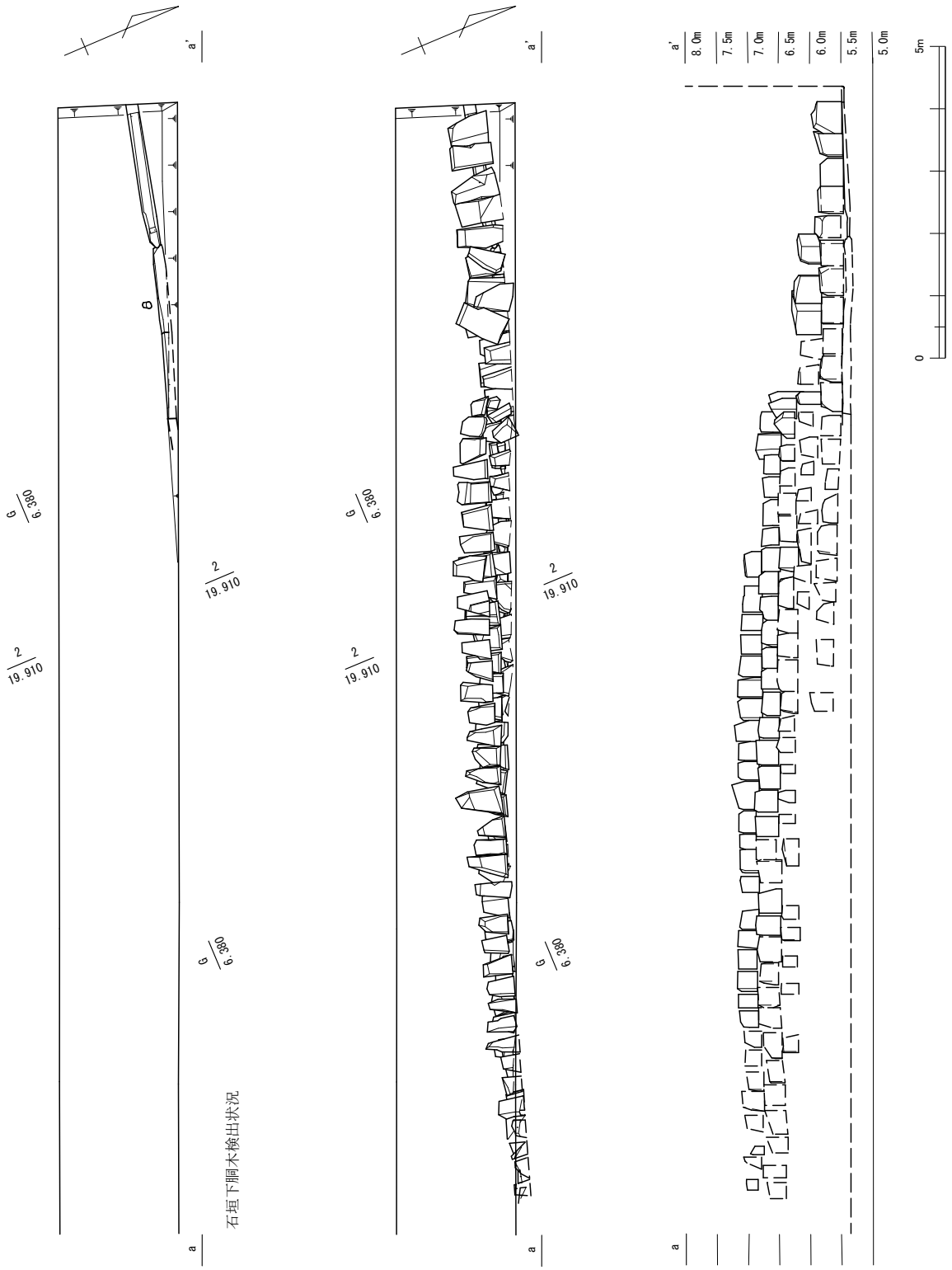
２）FKJ04－４調査区（第182・183図）

屋敷地の中央部は高架道路の橋脚により破壊されていたが、旧道路に面した町屋の正面部分の遺構は良好に残されていた。南北礎石列10は、礎石は失われるが根石が残っていた。礎石間隔は半間（約0.9m）である。東西礎石列11は、細かい石を並べた西部と、延石を並べた東部で大きく状況が異なる。時期や建物（住人）の違いによるものと考えられる。なお、東西礎石列11の西の延長上より、石製Ｕ字溝に蓋石を被せた暗渠も確認された。西側に傾斜をつけて水を流す構造であった。南北礎石列12・13は栗石を敷いて足元を固めた上に延石を据える、背後（北側）の堀に近く、造成土上の軟弱地盤のため選ばれた工法と考えられる。同じ工法はFKJ99－２（地下道）地点でも見られる。礎石列12と13の間隔は1.2ｍであった。

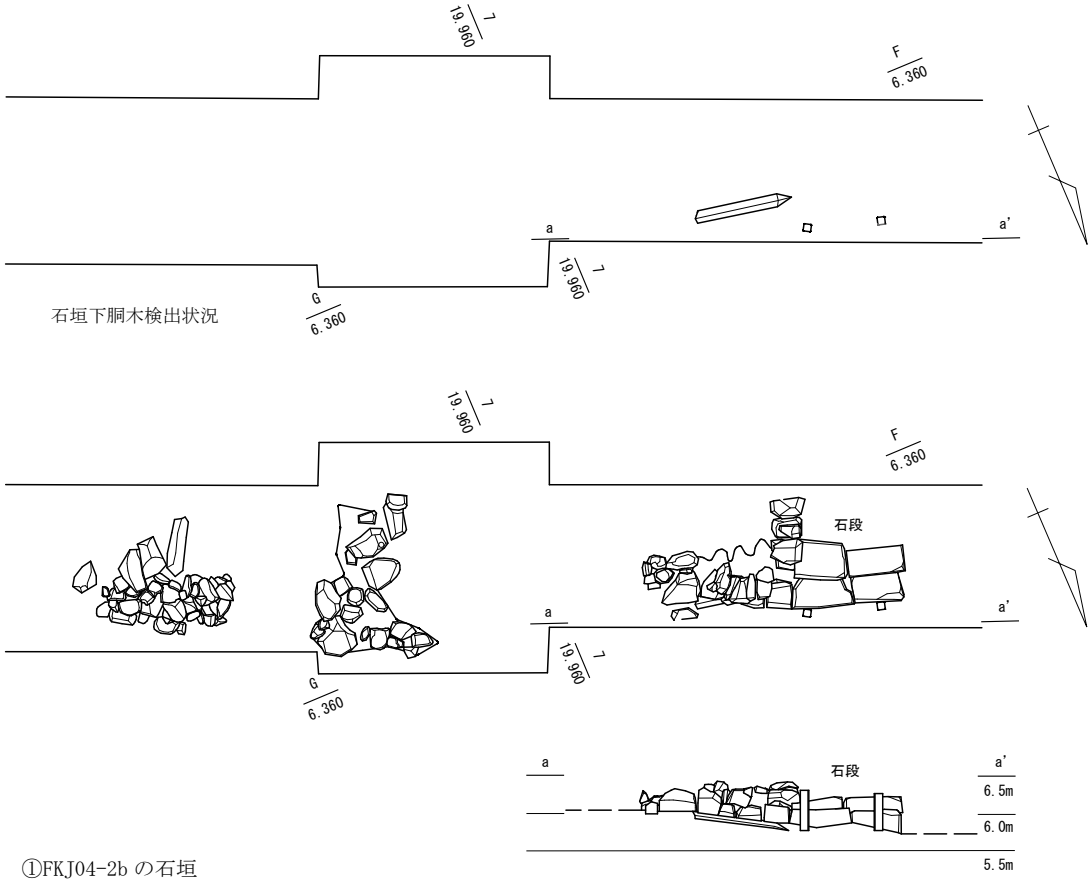
第176図　城の橋通地点の町割り図（縮尺１/2,500）



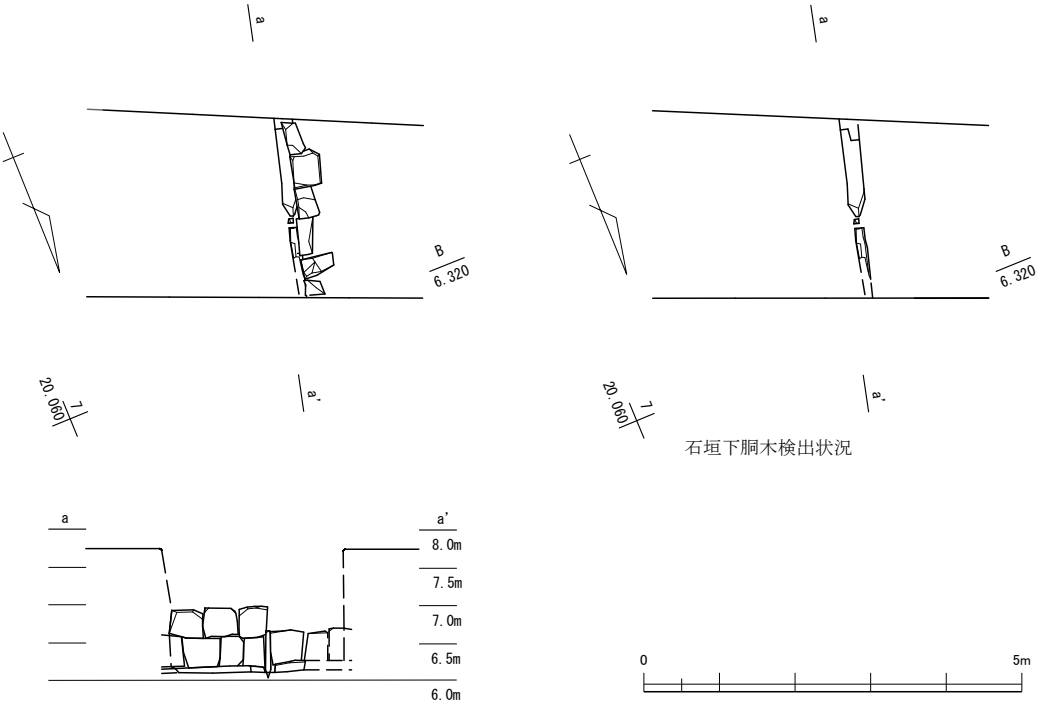
第177図　城の橋通地点の調査位置図（縮尺１/1,000）



第178図　FKJ04－2aの石垣（縮尺1/100）

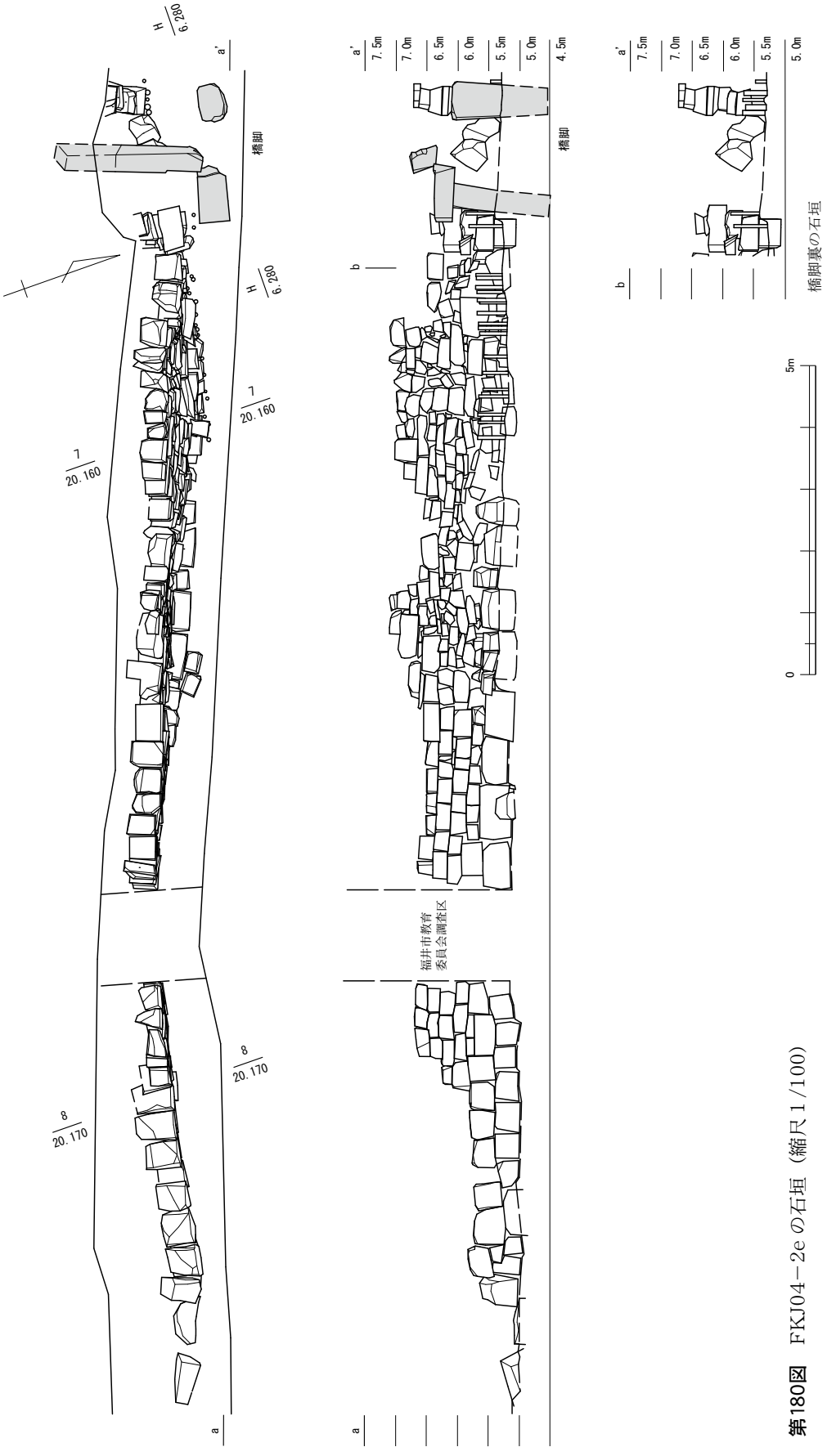


①FKJ04-2b の石垣

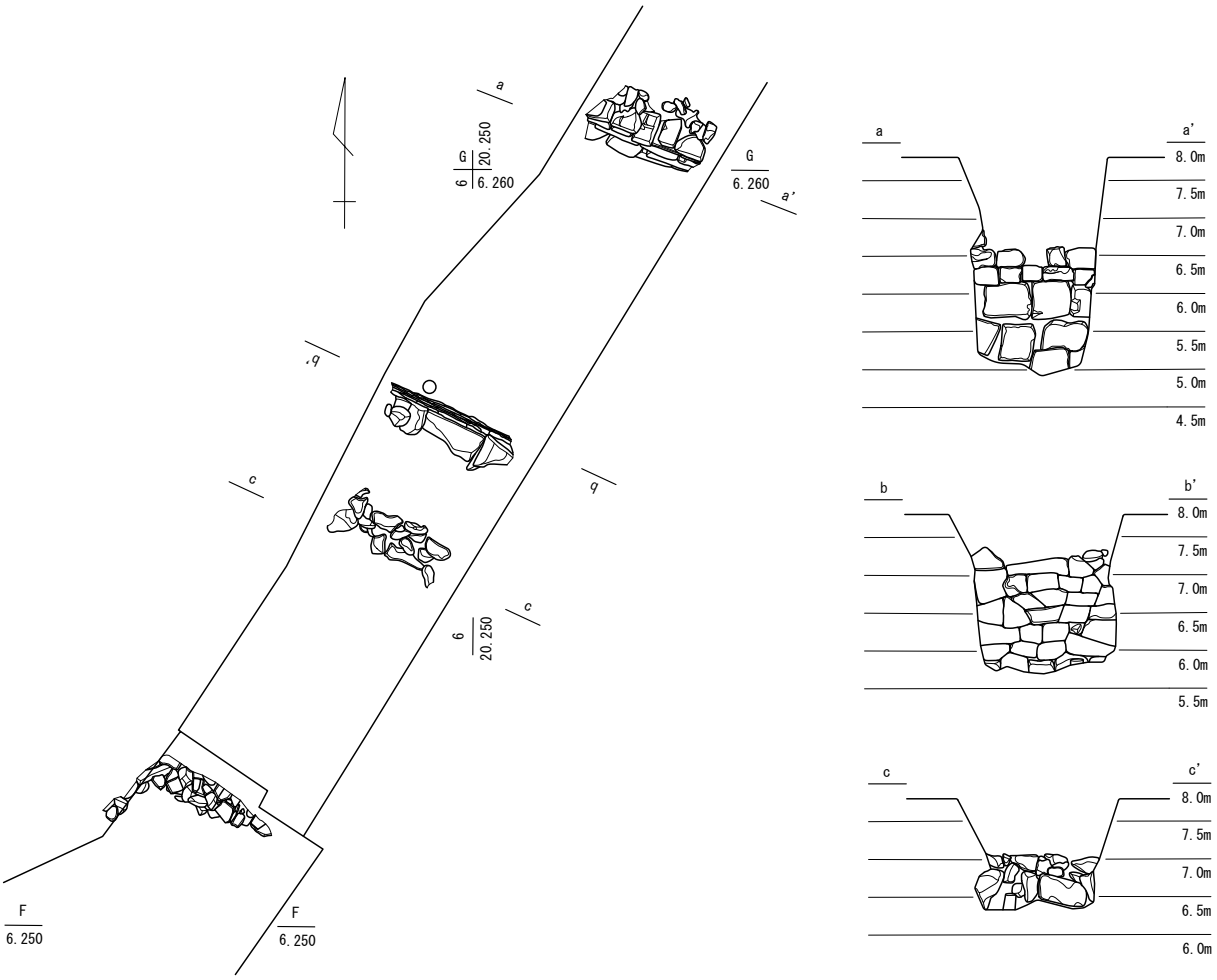


②FKJ04-2c の石垣

第179図　FKJ04－2b・c の石垣（縮尺１/100）



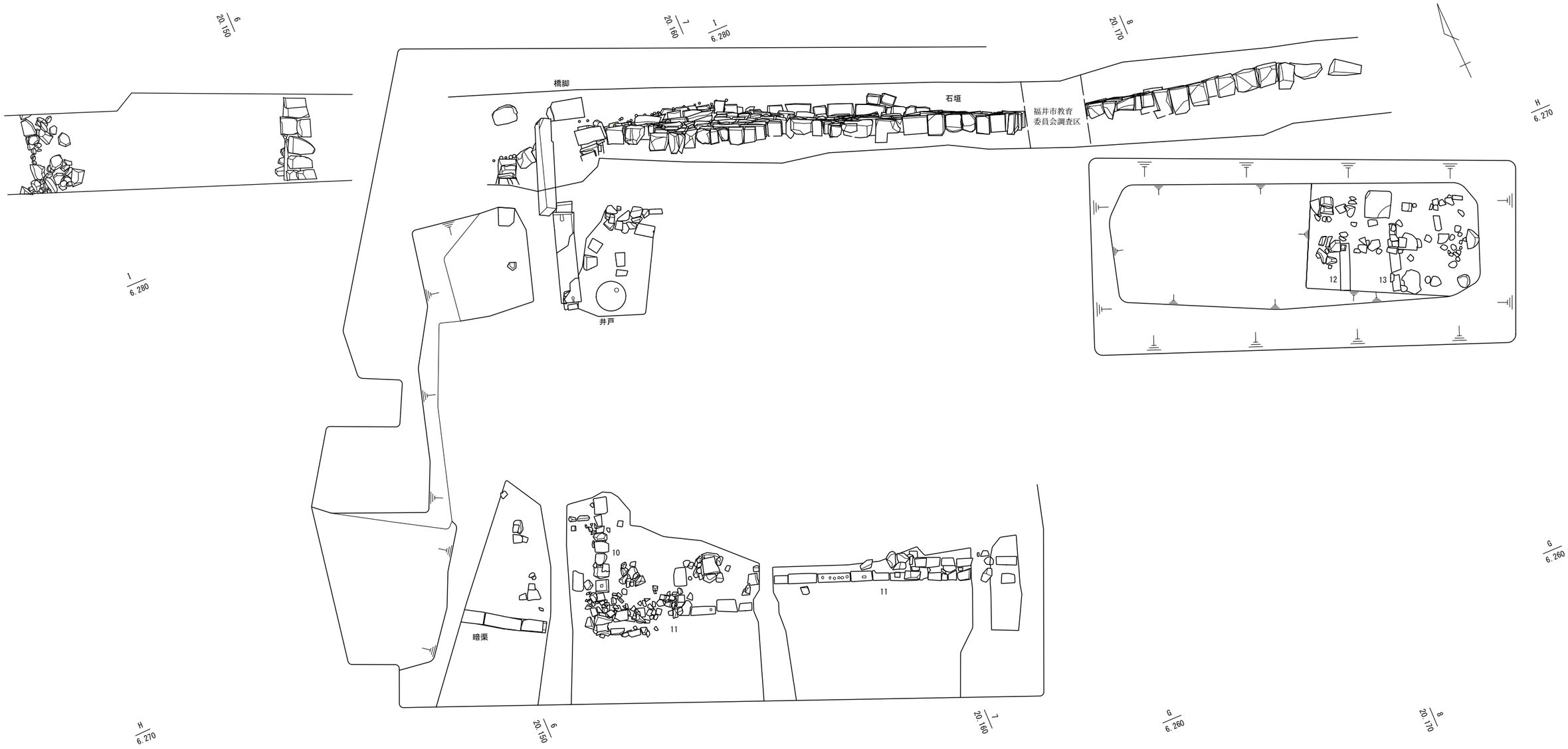
第180図　FKJ04－2eの石垣（縮尺1/100）



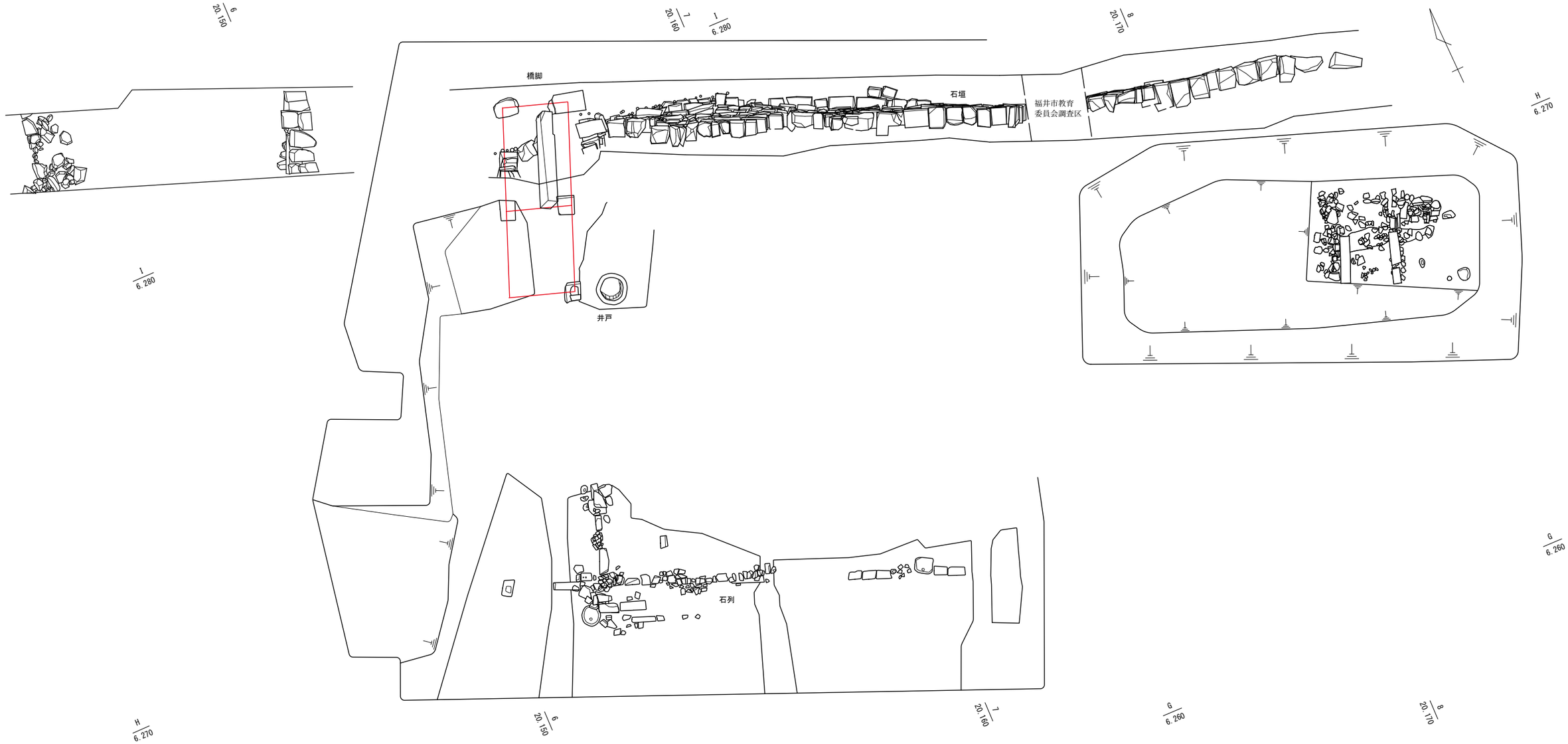
①FKJ05-7 の石垣

②FKJ06-9 の石垣

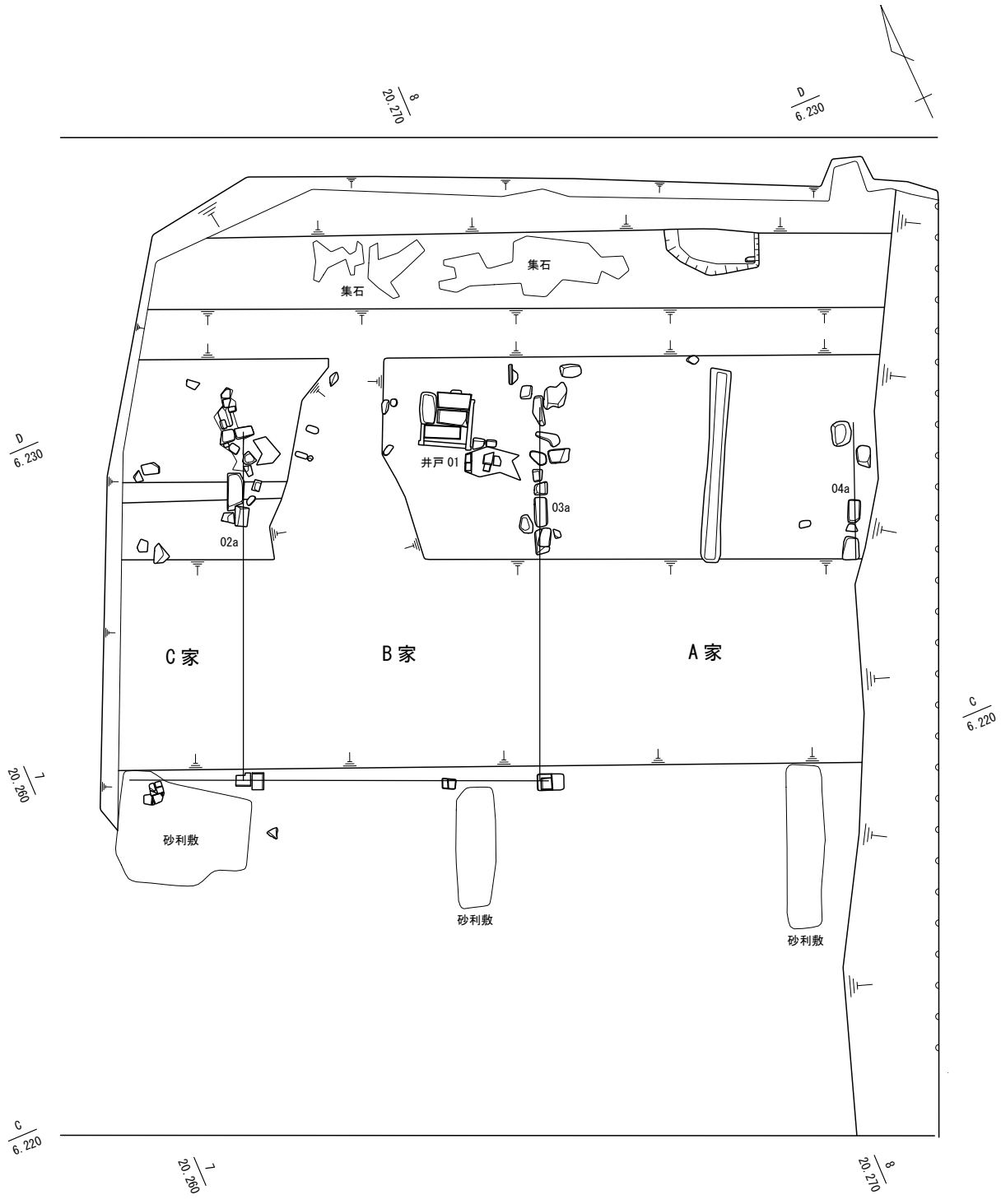
第181図　FKJ05－7・06－9 の石垣（縮尺 1 /100）



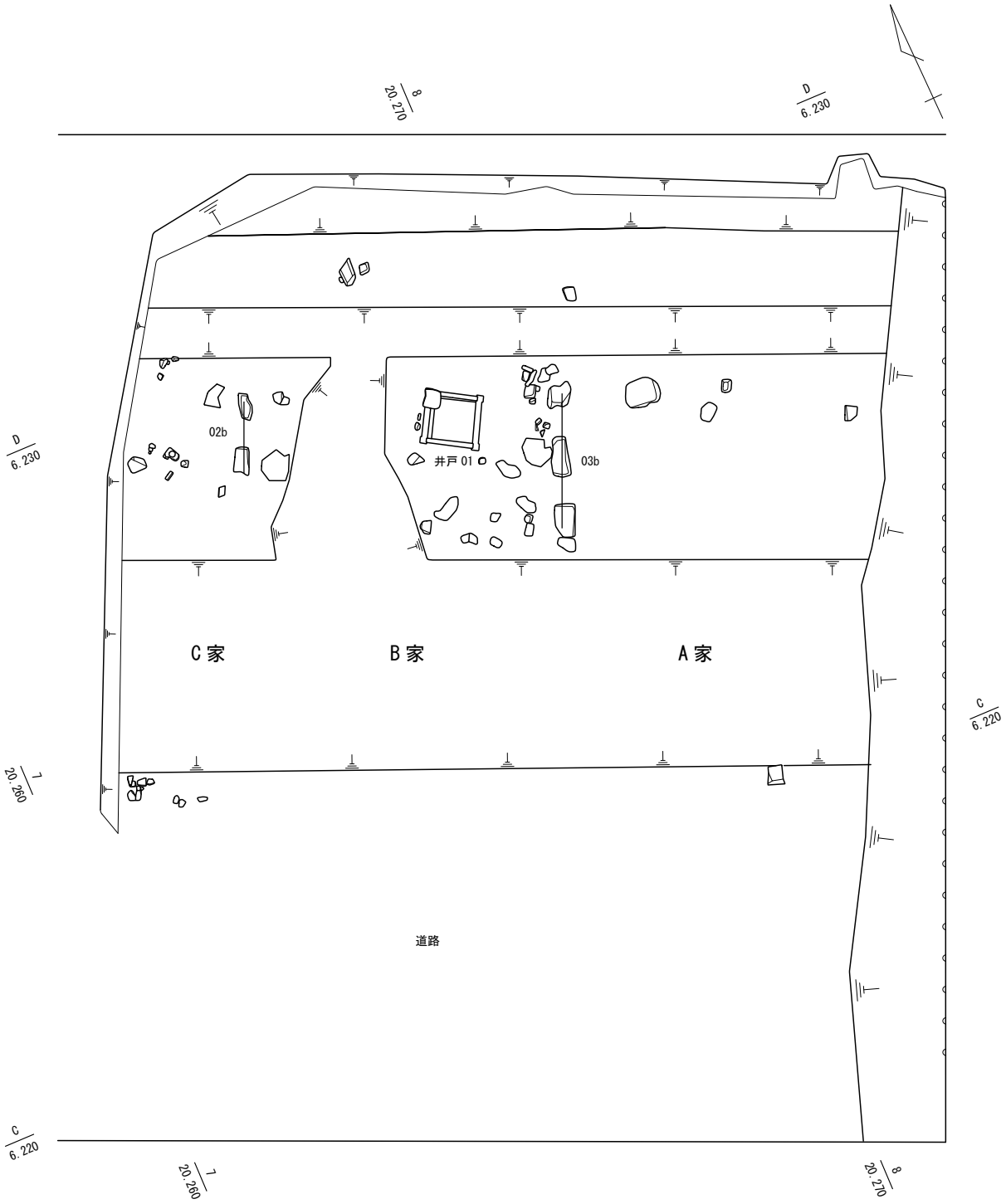
第182図　FKJ04－2・4の上層遺構配置図（縮尺１/100）



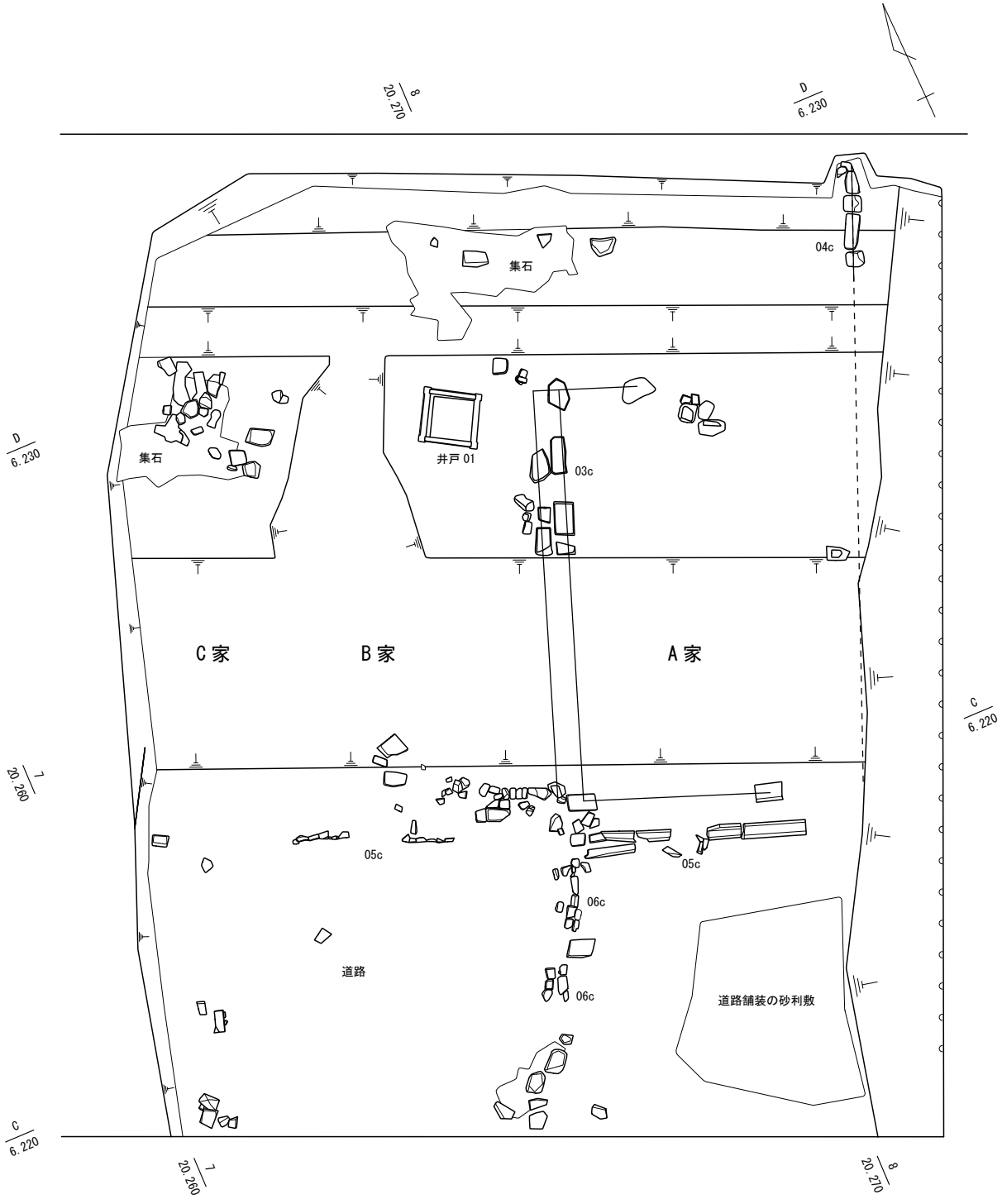
第183図　FKJ04－2・4の下層遺構配置図（縮尺１/100）



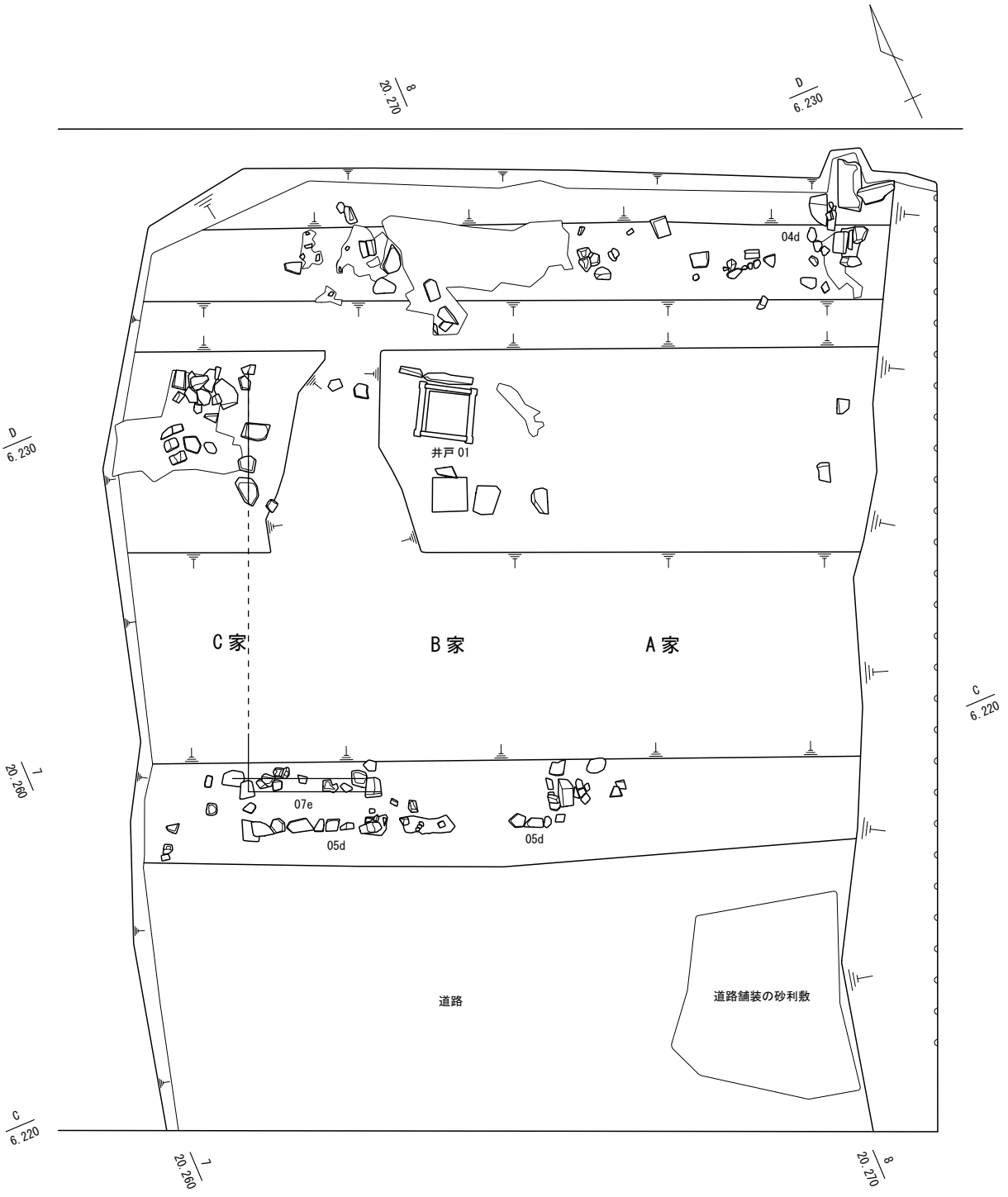
第184図　FKJ04－3の1面遺構配置図（縮尺1/100）



第185図　FKJ04－3の2面遺構配置図（縮尺1/100）



第186図　FKJ04－3の3面遺構配置図（縮尺1/100）



第187図　FKJ04－3の4面遺構配置図（縮尺1/100）

第 18 表　屋敷地Ⅰ－１・２遺構観察表

屋敷番号	遺構番号	地　区	遺構種別	時　期	法量（単位:m）		主な遺物	備　考
					長辺	短辺		
道路1	道路1	A-1・2	道路	17C初～明治		幅(5.00)	伊】碗、皿、瓶、盃。京】端反碗。	面的には確認できなかったが、調査区東壁で砂利舗装を確認。
Ⅰ－1	4116	D-2	土坑	19C	1.55	(1.25)	土】七輪、人形、壺。伊】碗、紅皿。	須恵器（9C)混じる。
Ⅰ－1	4117	D-2	土坑	17C後	(1.75)	1.45	土】皿、土埵。越】甕。京】皿。	
Ⅰ－1	4118	D-2	土坑	19C	(1.10)	(0.70)	土】皿。伊】碗。	
Ⅰ－1	4119	D-2	土坑	19C中	(0.95)	0.75	土】皿。伊】碗。瀬】太白手。	
Ⅰ－1	4120	B～C-1	土坑	17C～19C	(3.10)	(1.20)	土】皿 (C)、鍋蓋。伊】碗。唐】刷毛目碗。瀬】織部碗、碗。	
Ⅰ－1	4121	D-2～3	土坑	17C前～後	1.85	1.10	土】皿 (C)。	
Ⅰ－1	4123	D-2	(集石下)	19C前			伊】広東碗、半筒碗、大皿。	
Ⅰ－1	4124	C-2	(石列下)	～明治			土】皿、七輪。伊】碗。越】擂鉢。	
Ⅰ－1	4128	D-3	土坑		1.90	0.90		
Ⅰ－1	4129	D-3	土坑		1.70	0.90		
Ⅰ－1	4130	C-2	土坑	17C後(大火後)	(5.60)	(3.30)	土】皿。伊】碗、青磁皿、蓋、蓋付碗。唐】呉器手碗、瓶、大皿。瀬】碗。越】甕。	瓦中心(黒・赤)。
Ⅰ－1	4131	C-2	土坑	17C後	1.20	(1.00)	土】皿。伊】碗、皿、瓶。唐】呉器手碗、瓶。京】碗。越】甕、擂鉢。瓦】黒 - 丸。	瓦多い。土師皿(金沢形・糸切り)
Ⅰ－1	4132	C-2	土坑	～17C後	(4.50)	(1.80)	土】皿、土埵。伊】碗、皿、大鉢、水滴。唐】呉器手碗、瓶。瀬】天目、志野皿。京】皿。信】壺。備】筒碗。越】甕、擂鉢。	混入品があるが、全体として17C後半に収まる。
Ⅰ－1	4133	C-2	土坑	18C後	1.00	1.00	土】皿 (G)。伊】皿。京】碗。	
Ⅰ－1	4134	C-2	溝	～明治	4.00	(0.50)		
Ⅰ－1	4135	D-2	桶下土坑	17C後～18C前	1.60	1.50	土】皿 (D)。伊】皿、人形。唐】呉器手碗、京風碗、鉢、瓶。信】壺。京】皿。越】甕。	この時期の良いまとまり。肥前の京風碗は萩の可能性あり。
Ⅰ－1	4141	C-2	溝	奈良・平安	(4.00)	1.00		
Ⅰ－1	4142	D-2	溝	奈良・平安	(4.50)	1.00		
屋敷地境	4101	D～F-3	溝	17C後～明治	(13.20)	5.10	土】皿 (C、G)、人形。伊】皿、青磁碗、瓶、陶胎染付。唐】皿、鉢、水甕。越】擂鉢、甕。瀬】天目。京】半筒碗、蓋。信】碗、壺。瓦】赤 - 平。	屋敷地Ⅰ-1と2の境溝で深さは0.6ｍ。廃絶時に一度に埋められている。
Ⅰ－2	4149	G-5	土坑	17C中・後	0.85	0.70	土】皿 (B)。伊】碗。	

第 19 表　屋敷地Ⅰ－３遺構観察表

屋敷番号	遺構番号	地　区	遺構種別	時　期	法量（単位:m）		主な遺物	備　考
					長辺	短辺		
屋敷地境	4102	G-4・5	溝	19C前～中	(4.20)	1.10	土】皿、人形。伊】碗、紅皿。唐】呉器手碗、皿。	屋敷地Ⅰ-2と3の境溝。4102が上層、4152が下層。
	4152	G-4・5	溝	18C～19C	(6.50)	0.30	土】皿 (G)。伊】碗、皿、蓋。	
Ⅰ－3	Ⅰ3-1	H・I-6	礎石建物	19C	4.50	4.30		建物内に灰穴と甕4211がある。
Ⅰ－3	4103	G-4・5	土坑	18C後	2.80	(2.20)	土】皿(C、G)。伊】紅皿、瓶。唐】皿。信】碗。	
Ⅰ－3	4104	H-5	土坑	19C中～明治	3.20	1.60	土】焜炉。伊】広東碗、半筒碗、大皿、仏飯器、段重、水滴。瀬】端反碗、小碗。越】甕、壺、鉢。瓦】黒 - 丸・平、赤 - 平。	須恵器混じる。
Ⅰ－3	4107	H-5	土坑	19C	4.40	1.65	土】皿。伊】段重。越】甕、擂鉢。	
Ⅰ－3	4108	H・I-5	土坑	19C	1.30	(1.00)	土】皿。伊】碗、坏。越】甕、擂鉢。	
Ⅰ－3	4109	H・I-5	溝	18C後～	(3.40)	0.90	土】皿 (G)。伊】皿。丹】瓶。越】甕、壺。	
Ⅰ－3	4110	G・H-5	土坑	19C～明治			土】皿 (G)。伊】碗、皿、瓶。唐】碗、瓶。信】碗。越】壺、擂鉢。瀬】瓶。	伊万里碗に型紙製品あり。
Ⅰ－3	4111	H-5	土坑	19C前			土】皿 (G)。伊】酒坏、紅皿。越】甕。	
Ⅰ－3	4112	H-5	土坑	19C～明治			土】皿、人形。伊】碗。唐】碗、瓶。越】甕。	
Ⅰ－3	4113	H-5	土坑	17C前	1.80	0.70	土】皿 (C)	
Ⅰ－3	4138	H-5	土坑	17C前	0.70	0.70	土】皿 (C)	
Ⅰ－3	4146	H・I-5	土坑	17C初	5.20	(2.20)	土】皿。唐】呉器手碗。	伊万里は混入品か。
Ⅰ－3	4147	G-5	土坑	17C～18C	1.30	(1.00)	越】擂鉢、甕。京】碗。	京の碗は乾山風。
Ⅰ－3	4148	G-5	土坑	17C中～後	2.30	(2.00)	土】皿 (C)。伊】碗。唐】呉器手碗。京】碗。中】白磁皿。	
Ⅰ－3	4150	G-5	土坑	19C前	(1.65)	1.00	土】皿 (G)。伊】碗、紅皿。唐】碗、甕。越】甕、擂鉢。	伊万里に山型・手描き五弁花あり。
Ⅰ－3	4151	G-4	土坑	19C初	0.90	0.80	伊】碗。	伊万里に手描き五弁花あり。
Ⅰ－3	4154	H-5	土坑	17C前～中	3.20	2.40	土】皿 (C、G)。瀬】碗。越】擂鉢。	
Ⅰ－3	4155	H-5	柱穴		0.60	0.55	土】皿。	柱根、礎石残る。
Ⅰ－3	4156	H-5・6	土坑	17C初			土】皿 (C)。瀬】向付、香炉。	

屋敷番号	遺構番号	地　区	遺構種別	時　期	法量（単位：m）		主な遺物	備　考
					長辺	短辺		
Ⅰ－3	4205	I-6	土坑	18C後～19C前			土】皿（R）。伊】端反碗、陶胎染付碗。 唐】呉器手碗。瀬】端反碗。京】半球碗。 瓦】黒 - 平。	
Ⅰ－3	4206	Ⅰ・J-6	土坑	18C後～	4.00	2.70	土】皿（R）。伊】陶胎染付碗。越】甕。 中】皿。	
Ⅰ－3	4207	J-7	瓦溜	18C後～明治			土】皿、土埦。伊】陶胎染付碗。唐】皿、呉器手碗。京】小杉碗。越】甕、擂鉢。	
Ⅰ－3	4209	I-6	井戸	19C～明治	4.40	1.60	越】甕。	
Ⅰ－3	4211	I-5・6	埋設甕	19C前～中	0.50	0.35	伊】碗、皿。唐】鉢。越】甕。瀬】陶胎茶碗。	
Ⅰ－3	4231	J-7	井戸	17C後	1.05	0.85	唐】皿。瀬】天目。越】擂鉢。	
Ⅰ－3	4236	J-7	土坑		0.45	0.45		
Ⅰ－3	4237	J-7	溝	17C後	(12.50)	(1.00)	土】皿。伊】碗、皿、壺。唐】碗。	伊万里あり。被災遺物あり。
Ⅰ－3	4251	I-6	土坑	17C後	1.20	0.85	伊】碗、皿。唐】皿。中】漳州皿。越】壺。	
Ⅰ－3	4253	I-6	土坑		6.20	4.50		
Ⅰ－3	4259	I-6	土坑	17C後	1.50	1.40	土】皿。伊】碗。	
Ⅰ－3	4260	I-6	土坑		1.00	0.60		
Ⅰ－3	4261	I-6	土坑	17C前～後	2.60	1.60	土】皿。伊】白磁皿。越】擂鉢。唐】皿。	
Ⅰ－3	4265	J-7	土坑	17C後	0.90	0.70	伊】碗。	
Ⅰ－3	4291	H-6	灰溜	19C中	0.50	(0.50)	土】皿。伊】端反碗。唐】皿。	
Ⅰ－3	4295	I-6	土坑	17C前？	0.80	0.50	土】皿。越】擂鉢。瀬】小杯。	
Ⅰ－3	4297	I-6	土坑	17C前？	0.90	0.60	土】皿。	
Ⅰ－3	42110	J-6・7	石列	17C中	(5.00)	0.20		正方形の石の間は門か。
Ⅰ－3	42112	H-6	ピット	17C初～前	0.40	0.30	土】皿。唐】鉢。	
Ⅰ－3	42116	J-6	土坑	17C後	(1.50)	(1.50)	伊】碗。	
Ⅰ－3	42117	I-5	土坑		0.90	0.80		
屋敷地境	42123	I～J-6	溝	17C初	(10.00)	1.50	瀬】天目、織部。唐】碗 。越】擂鉢。	青唐津あり。17C初の良いまとまり。
Ⅰ－3	42124	J-6	土坑	17C後			土】皿。伊】碗。唐】皿。備】壺。	
屋敷地境	42125	J-6	溝	17C初	(6.50)	0.80	土】皿（C）。唐】皿。	

第 20 表　屋敷地Ⅰ－４遺構観察表

屋敷番号	遺構番号	地　区	遺構種別	時　期	法量（単位：m）		主な遺物	備　考
					長辺	短辺		
Ⅰ－４	4208	J-7	井戸	18C後	0.70	0.65	土】皿。伊】碗、皿、瓶。	ともに直径0.7ｍ程の桶を使用した上水井戸。竹樋4252によってつながる。
Ⅰ－４	4228	J-7	井戸	18C後～明治	1.30	(1.20)	伊】半筒碗、陶胎染付碗、香炉。信】碗。 京】小杉碗。越】壺、鉢。	
Ⅰ－４	4229	Ⅰ・J-6・7	土坑	～明治	(10.00)	(4.55)	土】皿。伊】蓋物碗、皿、段重、徳利、陶胎染付碗。唐】碗、土瓶。越】甕。瀬】碗。 陶】土瓶、七輪。	この付近が屋敷地Ⅰ-3と４の境界か。17C後のものが混入。土瓶・鉢多く、擂鉢は少ない。
Ⅰ－４	4237	J-7	溝	17C後	(12.50)	(1.00)	土】皿。伊】碗、皿、壺。唐】碗。	屋敷地Ⅰ-3と４の境溝か。伊万里あり。被災遺物あり。
Ⅰ－４	4242	J ～ A-7	土坑	(17C)～19c	1.55	1.35	土】皿。伊】碗、紅皿、青磁香炉。唐】呉器手碗。越】植木鉢。瀬】碗。京】小碗。	
Ⅰ－４	4252	J-7	竹樋	19C前	(5.20)	0.80	土】皿、鉢。伊】半筒碗、蓋。唐】蓋、呉器手碗。瀬】刷毛目碗。京・信】碗。	井戸4228と4208をつなぐ竹樋。
Ⅰ－４	4254	A-7	石垣	17C後半～	(4.10)	0.75	土】皿。伊】碗。	石を２段程積んだ石垣。
Ⅰ－４	4276	J-7	土坑	17C前			土】皿。伊】碗。肥】呉器手碗。唐】皿、鉢。 京・信】碗。越】擂鉢、甕。中】染付皿。	18C後のものは混入品か。
旧河川	42133	A-7・8	自然河川	～17C前	(12.00)	15.00	土】皿。伊】碗、皿、蓋物、小杯、瓶。 唐】碗、皿、鉢、瓶。瀬】碗。中】小杯、香炉。 備】壺。越】甕、擂鉢。 瓦】黒 - 軒丸、赤 - 軒丸。	元は自然河川か。寛文大火後、焼土・被災遺物で埋められる。19Cの混入品あり。鉢・皿に中国製品多い。

第 21 表　屋敷地Ⅰ－５遺構観察表

屋敷番号	遺構番号	地　区	遺構種別	時　期	法量（単位：m）		主な遺物	備　考
					長辺	短辺		
屋敷地境	4269	A-7～8	石列	17C後半～	3.50	0.30		古い時期の屋敷地Ⅰ-4と５の境界か。Ⅰ-4側が一段高い。
Ⅰ－5	Ⅰ5-1	B・C-8	礎石建物	19初～	6.60	1.90		礎石に笏谷切石を使用。
Ⅰ－5	Ⅰ5-2	B・ C-7・8	礎石建物	18C後～ 19C初	5.40	2.00		礫敷上に笏谷切石の礎石を据える。礎石建物Ⅰ5-1の下層にあり。
Ⅰ－5	4204	C-8～9	石列	18C	3.00			

屋敷番号	遺構番号	地　区	遺構種別	時　期	法量（単位:m）		主な遺物	備　考
					長辺	短辺		
Ⅰ－5	4232	B-7	（ゴミ穴）	18C後～19C中	2.95	(1.80)	土】皿 。伊】くらわんか碗、広東碗、皿、小杯、油壺。 唐】碗。瀬】志野碗。越】擂鉢。京】端反碗、鉢。信】碗。萩】碗。越】甕。	生活用品多い。
Ⅰ－5	4243	B-8	溝	19C前	0.50	(2.00)	土】皿、火鉢。 伊】半筒碗、皿、蓋、壺。越】甕、鉢。唐】刷毛目大皿、土瓶。京・信】碗。	瀬戸の陶胎染付あり。
Ⅰ－5	4244	B-7	（ゴミ穴）	18C末～19C中	1.40	(1.40)	土】七輪。伊】くらわんか碗、半筒碗。唐】碗、皿。越】擂鉢、植木鉢。瀬】端反碗。	
Ⅰ－5	4245	B～C-7	ゴミ穴	18C後～19C中	1.55	1.20	土】皿 七輪。伊】碗、皿。唐】片口。瀬】半筒碗、植木鉢。京】碗。信】碗。中】碗、皿。越】擂鉢。	伊万里に手描き五弁花あり。
Ⅰ－5	4246	B-7	ゴミ穴		1.60	1.30		
Ⅰ－5	4266	B-7～8	石組溝	18C後～19C初	(2.30)	(1.70)	土】皿、七輪。伊】半筒碗、皿。唐】呉器手碗。瀬】碗。越】擂鉢。瓦】赤 - 平。	
Ⅰ－5	4281	C-9	土坑	18C末～19C	1.20	(0.50)	土】人形。伊】碗、皿、赤絵皿。唐】碗、刷毛目皿 。信】軟質陶器碗。越】鉢。瀬】天目。	
Ⅰ－5	4284	C-9	土坑	18C後～19C	1.50	(1.40)	伊】半筒碗。唐】碗、皿、鉢。越】甕、擂鉢。京・信】碗。	
Ⅰ－5	4286	B-8	井戸	17C	2.90	2.25	土】皿。伊】碗。唐】碗、皿、向付。中】皿。瀬】碗、織部。越】擂鉢、甕。	深さ2.5m以上。直径0.8mの桶の上に1辺0.85m、高さ0.38mの笏谷石板石を組んだ井戸側を2段重ねる。
Ⅰ－5	4287	B-7・8	土坑	19C前	2.15	1.15	伊】半筒碗。瀬】鉄釉碗。	
Ⅰ－5	4288	B-8	土坑	17C後	0.95	0.85	土】皿。伊】皿。唐】皿。京・信】碗。	19Cの混入品あり。
Ⅰ－5	4290	B-8	石列	17C前？	4.00	1.50	伊】碗。唐】向付、皿、甕。瀬】黄瀬戸鉢。越】擂鉢、甕。土】皿。	礎石建物の下層にあり。
Ⅰ－5	4293	C-8	石列・溝	17C後～18C末	7.00	4.00	土】皿（G）。伊】陶胎染付碗。越】鉢、甕。唐】碗、皿、鉢。京・信】碗。中】漳州皿。	礎石建物Ⅰ5-2の土留めと排水路か。
Ⅰ－5	4294	B～C-8	石組溝	17C前～17C中	(9.00)	0.30	伊】碗、皿。唐】擂鉢、甕。瀬】碗、仏飯器、天目、青磁香炉。肥】呉器手碗。越】甕、壺、擂鉢。土】皿。瓦】赤 - 丸、黒 - 平。中】漳州碗。	礎石建物の下層にあり。
Ⅰ－5	42105	C-8	土坑	17C中～後	0.90	0.80	伊】皿。唐】碗。越】擂鉢、甕。瀬】向付。	
Ⅰ－5	42106	B-8	土坑	17C初	1.60	1.20	土】皿。唐】皿、片口。越】擂鉢、甕。	
Ⅰ－5	42107	B-8	井戸	17C後	1.50	1.50	土】皿。伊】碗、皿。唐】鉄釉碗。瀬】志野菊皿。越】擂鉢。瓦】赤 - 軒丸。	17C初を中心とする伊万里が出土したが、被災遺物から寛文大火後の遺構。
Ⅰ－5	42108	C-8	土坑	17C前	1.60	1.10	土】皿（C）。越】壺。中】漳州皿。	
Ⅰ－5	42115	C-8～9	溜桝	17C後	(1.00)	(0.80)	土】火鉢。唐】瓶。越】擂鉢。瀬】天目、灰釉皿。	石垣42120以北のかさ上げ後に作られる。遺物は古いが、17世紀後半の遺構。
Ⅰ－5	42118	B-8	溝		1.00	0.10		井戸4286の排水溝。
Ⅰ－5	42119	C-9	土坑	17C初	(0.95)	0.85	唐】皿。	
Ⅰ－5	42120	C-8	石垣	～17C後	8.60	0.90		溝4220付近が低かった時の石垣。17世紀後半に埋められる。
Ⅰ－5	42122	C-9	ピット		0.65	0.55	越】お歯黒壺。	
Ⅰ－5	42128	B-8	土坑	17C初	1.05	0.65	土】皿。唐】皿、水指。越】擂鉢。	唐津に胎土目積みあり。
Ⅰ－5	42130	C-8	土坑	17C初	(2.10)	1.00	土】皿（C）。唐】皿。	
Ⅰ－5	42134	B-8	土坑	17C初			土】皿（C）。唐】大皿。瀬】灰釉皿。	
Ⅰ－5	42136	C-8	井戸	17C中～後	0.85	0.85	伊】碗、皿。中】染付皿。	
Ⅰ－5	42137	B-8	土坑	17C前			土】皿（C）、焼塩壺。	
Ⅰ－5	42138	B・C-9	土坑	17C初～前			土】皿（C）。備】船徳利 。	
Ⅰ－5	42143	C-8	井戸	17C初	1.50	1.20	唐】皿。	深さ2mの素掘り井戸。
Ⅰ－5	42322	B-7	土坑	18C後～	1.75	1.40		
Ⅰ－5	42326	B-7	土坑	18C後～	(1.50)	(1.50)		

第22表　屋敷地Ⅰ－6遺構観察表

屋敷番号	遺構番号	地　区	遺構種別	時　期	法量（単位:m）		主な遺物	備　考
					長辺	短辺		
屋敷地境	4220	C-8～9	石組溝（上層）	17C～19C明治	(14.00)	0.65	土】皿、植木鉢。伊】陶胎染付碗、皿、香炉。唐】飴釉碗、呉器手碗、皿、鉢、瓶、甕、向付。瀬】黄瀬戸鉢、志野、織部、碗、天目。越】甕、擂鉢。	屋敷地Ⅰ-6の南境。下層の石組溝を埋めて胴木を置き、笏谷切石を積む。西端を直角に屈折させる。深さは1.0m。
屋敷地境	4220	C-8～9	石組溝（下層）	17C中～後	(14.00)	0.65	土】皿。伊】瓶。唐】鉄絵碗、絵唐津皿、水指、擂鉢。越】擂鉢。 備】瓶。瀬】天目、黄瀬戸鉢、志野菊皿、緑釉皿。中】漳州皿。	下層の石組溝は調査区西端で屈折せず直進する。

屋敷番号	遺構番号	地　区	遺構種別	時　期	法量（単位：m）		主な遺物	備　考
					長辺	短辺		
Ⅰ－6	Ⅰ6-1	E-9	礎石建物	19C	(6.00)	(2.80)		井戸4123付近は土間。道路2側が表の平入り建物か。
Ⅰ－6	Ⅰ6-2	D・E-9	礎石列	17C中	(6.60)	0.42		笏谷切石の礎石列（一列のみ）。
Ⅰ－6	Ⅰ6-3	D・E-9	礎石建物	17C前	(3.50)	(3.20)		炉跡群4305と関係する建物か。
Ⅰ－6	Ⅰ6-4	D-8・9	礎石建物	17C前	(7.00)	4.96		礎石の標高差が0.5m近くあり、同一の建物か。
Ⅰ－6	Ⅰ6-5	D-9	礎石建物	17C前	(8.00)	(4.50)		礎石3石のみ残る。
Ⅰ－6	Ⅰ6-6	D-9	礎石列		(4.00)	(2.88)		この屋敷地の最下層の遺構。
Ⅰ－6	4213	D-9	石組井戸	17C中～18C	5.80	1.15	土】皿。伊】青磁。唐】皿。越】擂鉢。	深さ4.0mの石組井戸。
Ⅰ－6	4213	D-9	井戸掘方	17C前	1.65	1.60	土】皿。唐】皿。越】擂鉢。	越前の擂鉢完形品出土。
Ⅰ－6	4214	D-10	土坑	19C	0.55	0.40	土】皿（G）。瀬】志野。	4249、4250と浅い掘り込みが並ぶ。
Ⅰ－6	4216	D-9	石列	18C末～			土】皿。唐】碗。越】甕。	
Ⅰ－6	4217	D-9	石列	17C後			土】皿。唐】皿。中】漳州碗。	唐津の皿砂目積み。
Ⅰ－6	4218	D-9	暗渠	19C	2.50	0.30	土】皿。伊】印判碗。唐】碗。	笏谷石の石樋を3つ並べ、荒く加工した笏谷石で蓋をする。
Ⅰ－6	4222	D-9	井戸	17C末～明治	1.60	1.50	土】皿。伊】鉢。唐】大碗、皿、小杯。 丹】いっちん瓶。越】壺、擂鉢。	深さ2.0m。石組み（上部0.7m）と桶側（下部1.3m）の井戸。
Ⅰ－6	4223	D-9	井戸	17C前～中	2.00	1.90	唐】碗、刷毛目大皿。越】擂鉢。中】白磁。	深さ3.4mの石組井戸。下から0.7mは桶側。
Ⅰ－6	4225	D-8	石敷	18C後～	2.30	0.80		笏谷切石の石敷き。
Ⅰ－6	4226	D-8	石敷		2.00	1.20		
Ⅰ－6	4235	D-9	石敷		2.00	1.50		井戸4318の上層。
Ⅰ－6	4238	D-10	屋敷境石列	17C～明治	(8.00)	0.35	土】皿。伊】紅皿。唐】碗、皿。越】擂鉢。	道路3に面する屋敷境石列。時代が下るに従い、屋敷境が前進。
Ⅰ－6	4239	E-10	屋敷境石列	17C～１８C	(11.00)	0.35	土】皿(G)、人形。唐】呉器手碗、甕。伊】碗。越】鉢。	道路2に面する屋敷境石列。時代が下るに従い、屋敷境が後退。
Ⅰ－6	4240	D-9	排水溝	18C?	1.00	0.30		石樋を据える。
Ⅰ－6	4241	D・E-9	石組溝	17c中～後	(8.70)	0.35	土】皿。伊】碗。唐】碗、皿。越】壺、擂鉢。中】漳州皿。	町屋境溝。井戸4213の排水を兼ねる。
Ⅰ－6	4247	D-9	土坑	17C初～後	1.80	(1.40)	土】皿。唐】大皿。瀬】天目。	唐津の皿胎土目積み。
Ⅰ－6	4248	D-10	ピット	17C前～中	0.30	0.25	伊】皿。瀬】志野菊皿。越】擂鉢。	
Ⅰ－6	4249	D-10	ピット	17C	0.35	0.30	土】皿。	
Ⅰ－6	4250	D-10	ピット	19C	0.40	0.25	土】皿。	
Ⅰ－6	4256	D-9	土坑	17C後	0.85	0.75	伊】皿。瀬】天目。	
Ⅰ－6	4257	D-10	石列	17C前～中	(7.80)	0.30	伊】碗。唐】皿、壺。越】擂鉢。	唐津の皿砂目積み。
Ⅰ－6	4261	D-9	土坑	17C前～後	2.60	1.60	土】皿。伊】白磁皿。越】擂鉢。唐】皿。	
Ⅰ－6	4262	E-10	土坑	17C後	(1.30)	0.85	土】皿、人形。伊】皿。唐】皿。陶】狛犬。	
Ⅰ－6	4263	D・E-9	石敷直下	17C後～18C			土】皿。伊】碗。唐】碗、皿。瀬】天目。 備】壺。中】染付皿。	
Ⅰ－6	4302	D-10	土坑	17C初	0.85	0.75	土】皿。唐】大皿。瀬】天目、灰釉皿、鉢。越】擂鉢。中】碗。	越前の擂鉢は15Cのもの。
Ⅰ－6	4305	D-9	炉跡群	17C	0.60		土】皿（C）。	直径0.6m～0.7mの炉が4基あり。炉4を切って炉1が作られている。
Ⅰ－6	4307	D-8	井戸	17C後	1.00	1.00		掘方径は2m。
Ⅰ－6	4308	E-10	土坑	17C中～後	(1.30)	0.75	土】皿。唐】呉器手碗、皿。伊】坏、猪口、碗、皿、波佐見青磁皿。越】擂鉢。	
Ⅰ－6	4310	D-9	石組溝	17C初～後			伊】碗、皿。唐】碗、絵唐津皿、壺。 瀬】天目、志野皿、鉢。越】擂鉢。	町屋境溝。割石を2石程積む。
Ⅰ－6	4311	D-10	土坑	17C初	1.00	0.90	唐】皿。	
Ⅰ－6	4313	D-9	石垣	17C初	5.70	0.7(H)	唐】皿、大皿、鉢、壺。 瀬】天目、志野菊皿、鉢。越】擂鉢。	溝4220付近が低かった時の石垣。埋立て後、井戸4222によって破壊。
Ⅰ－6	4315	C-9	土坑	17C中	1.10	0.70	土】皿。越】擂鉢。	
Ⅰ－6	4316	D-9	井戸	17C中	1.30	0.70		
Ⅰ－6	4318	D-9	井戸	17C中	1.35	1.35	土】皿（G）。	直径0.6mの桶側が2段残る。
Ⅰ－6	4319	D-9	土坑	17C初	1.15	1.10	唐】飴釉碗、皿、青唐津。	唐津の飴釉碗は大型で古い。
Ⅰ－6	4322	E-9	土坑	17C初	1.55	(1.45)	土】皿。唐】碗。瀬】志野皿。	
Ⅰ－6	4326	E-9	土坑	17C初	0.80	0.70	土】皿。唐】大皿。越】大甕。	
Ⅰ－6	4331	D-10	井戸	17C前～中	4.20	3.80	土】皿。伊】皿。唐】天目、大皿、瓶。 越】擂鉢。瀬】小天目。	直径0.7m、深さ2.8m以上の石組井戸。唐津は胎土目積み。
道路2	道路2	E-10	道路	17C初～明治	(12.00)	(3.00)		大野街道。時代が下ると、幅が広くなる。
道路3	道路3	D・E-10	道路	17C初～明治	(15.00)	(5.00)		大野街道とはT字に交わる道路。時代が下ると、幅が狭くなる。

第 23 表　中之馬場南石垣・屋敷地Ⅱ－ 1 遺構観察表

屋敷番号	遺構番号	地　区	遺構種別	時　期	法量（単位:m）		主な遺物	備　考
					長辺	短辺		
中之馬場南石垣	3100	G・H-2	石垣	17C前～明治	(25.00)		土】七輪、皿（G）。伊】平碗、小杯、仏飯器。唐】京風碗、擂鉢。瀬】形染付、徳利。越】壺。陶】汽車土瓶。	西端で屈折する。
Ⅱ－1	Ⅱ1-1	B-5	礎石列	～明治	(2.10)	(2.10)	土】皿（C）。陶】土瓶、徳利。瓦】赤 - 平（近代）。	礎石が 3 石残る。 1 石は土坑 3128 内にある。
Ⅱ－1	Ⅱ1-2	A-4	礎石列	19C	(2.25)		土】皿（C）。	柱穴 3119・3120 の中に礎石あり。門の遺構か。
Ⅱ－1	3102	A-4	溝	17C後～18C	(4.00)	0.30	瀬】腰サビ。唐】甕（タタキ）。	
Ⅱ－1	3103	J～B-4^5	溝	19C前～中	(32.00)	1.50	土】皿（G、C- 古）。伊】陶胎染付、八角鉢。信】碗。瀬】染付端反碗。陶】急須蓋、土瓶。	深さ 0.6ｍ程の南北溝。19C 中の遺構だが、16C 末～ 17C 初のものが多く混じる。下層遺構の混入か。
Ⅱ－1	3104	A-4	溝	19C～中	(6.00)	(1.00)	土】皿（G、C）。伊】陶胎染付碗、筒碗（五弁花 - コンニャク・手描）、水滴。信】油差。瀬】染付端反碗。陶】土瓶（柿釉）。	
Ⅱ－1	3108	A・B-4	溝	18C後～19C	(1.40)	0.60	土】皿（G、H）。信】碗、徳利。越】大甕、ロクロ小壺、鉢（台形）。	
Ⅱ－1	3109	A-4	ピット	19C前	0.50	0.40	土】皿（G）。伊】筒碗。信】油差。	
Ⅱ－1	3110	A-4	土坑	19C前	3.25	2.70	土】皿（G、C）。伊】碗、蓋。唐】絵唐津大皿。信】筒鉢。	深さ 0.75m。
Ⅱ－1	3111	J・A-3・4	井戸	19C前	0.60	0.60	土】皿（G）。伊】広東碗、猪口。唐】京風碗、皿。越】擂鉢。	深さ 2.5ｍ。直径 0.6ｍ、高さ 0.7ｍの桶側が 3 段残る。
Ⅱ－1	3111	J・A-3・4	井戸掘方	17C中～後	3.10	2.60	土】土堰。伊】碗。越】小壺。	
Ⅱ－1	3112	J-3	溝	19C	(2.40)	0.40	土】皿。伊】蓋。陶】土瓶。	
Ⅱ－1	3113	A-4	土坑		(1.20)	(1.00)		
Ⅱ－1	3114	J-3	溝	19C前	(2.30)	0.70	土】皿（G）。伊】広東碗。陶】土鍋。	
Ⅱ－1	3121	J-3・4	土坑	17C後～18C後	(1.90)	(1.20)	土】皿（G）。伊】小坏、陶胎染付碗。唐】飴釉碗。	
Ⅱ－1	3122	J-3・4	土坑	18C後	(1.50)	(1.10)	土】皿（G）。信】碗。瀬】鉄釉小皿。	16C 末のものが混じる。
Ⅱ－1	3123	J-3・4	土坑	18C中～後	(2.20)	(1.80)	土】皿（D、G）。伊】大皿、中皿、ソバ猪口。中】染付碗。唐】刷毛目碗、飴釉碗、二彩甕。瀬】灰釉碗。越】鉢、小甕（ロクロ）。	18C 中～ 19C の良い一括資料
Ⅱ－1	3124	A-5	土坑	～17C中	(5.40)	(0.50)	土】皿（C）。伊】水滴、碗。	土師皿が大半を占める。
Ⅱ－1	3125	B-5	土坑	19C	(1.00)	(0.70)	土】皿（G）。	
Ⅱ－1	3126	J-4	土坑	18C中～19C前	(2.20)	(1.60)	土】皿（D）。伊】水滴？、小碗、カブト鉢。	
Ⅱ－1	3131	J-3	土坑	18C前	2.90	(1.00)	土】皿（C、D）。唐】二彩甕、呉器手。	
Ⅱ－1	3132	I・J-3	土坑	17C後～19C中	1.50	(1.40)	土】皿（C、G）。伊】青磁香炉、広東碗、筒碗。唐】皿（砂目）、刷毛目碗。備】徳利。	17C 前と、19C 前以降のものが一定量あり、二つの遺構が混じるか。
Ⅱ－1	3133	I-3	土坑	19C前	(4.50)	(1.80)	土】皿（D、G）。伊】大皿、筒碗（コンニャク）。越】甕。信】腰白壺。瀬】水鉢。	伊万里は端反なし。
Ⅱ－1	3134	I・J-2・3	大土坑	17C中～後	(10.20)	(9.40)	土】皿（C、D）。伊】筒碗、平碗、皿、瓶、碗。越】擂鉢。唐】刷毛目碗（現川）、二彩香炉。瀬】瓶（椿手）。瓦】赤 - 軒丸。	深さ 3ｍ近い大土坑。17C 中～後のものが中心。
Ⅱ－1	3135	J-3	土坑	17C後	(1.70)	(1.30)	土】皿（C、D）。伊】碗、皿。唐】刷毛目大皿、呉器手。	
Ⅱ－1	3136	A-3・4	土坑	16C末～17C後	(1.40)	(1.10)	土】皿（C）。中】染付皿。唐】刷毛目大皿。越】擂鉢。	土師皿や唐津から 17C 中と推定。
Ⅱ－1	3137	J-4	土坑	17C中	(2.60)	(2.50)	土】皿（C）。	
Ⅱ－1	3138	A-4	土坑	～19C中	(3.80)	(2.80)	土】皿（G）。信】半球碗。瀬】染付碗。	
Ⅱ－1	3139	I-3	土坑上層	18C後～	(2.40)	1.20	土】皿（G）。越】鉢（ロクロ）。	
Ⅱ－1	3139	I-3	土坑下層	17C後	(2.40)	1.20	土】皿（C）。伊】碗。唐】呉器手、刷毛目碗。中】青磁小皿（16C）	
Ⅱ－1	3140	I-3	土坑	18C	(3.10)	(1.40)	土】皿（C）。信】碗？	
Ⅱ－1	3141	A-4	土坑	18C後	0.80	(0.70)	土】皿（D、G）。伊】碗（コンニャク）。信】甕。	
Ⅱ－1	3143	A-4	ピット	18C後	0.40	0.30	土】皿（G）。伊】陶胎染付。	
Ⅱ－1	3144	A-5	ピット	17C後		0.60	土】皿（C）。伊】碗（白磁鉄釉流し）。	
Ⅱ－1	3145	A-5	ゴミ穴	17C後	(2.00)	(1.00)	土】皿（金沢、C）。唐】飴釉碗。	
Ⅱ－1	3146	A-4	ゴミ穴	17C～中	0.30	0.30	土】皿（C）。伊】青磁碗。	
Ⅱ－1	3147	A-4	土坑	17C後	(1.00)	(0.70)	伊】色絵碗。瓦】黒 - 平。	
Ⅱ－1	3148	A-5	ゴミ穴	17C初～後	(4.00)	(3.40)	土】皿（C）。伊】天目、瓶？唐】皿（胎土目）、碗、大皿。中】染付碗。	17C 初のものが中心 。伊万里は混入品か。
Ⅱ－1	3149	A-4	土坑	17C中～後	1.00	0.70	唐】大皿。	
Ⅱ－1	3150	I・J-4	ピット	18C後	(0.40)	(0.30)	伊】小鉢（高台蛇目）。唐】碗（現川）。越】擂鉢（高台）、浅鉢。	越前の浅鉢は比較的古いか。

屋敷番号	遺構番号	地　区	遺構種別	時　期	法量（単位：m）		主な遺物	備　考
					長辺	短辺		
Ⅱ－1	3151	I-3	土坑	19C前	(1.70)	(1.10)	土】皿（G）。伊】筒碗（見込コンニャク）。瀬】緑釉瓶掛。	
Ⅱ－1	3152	A5	土坑	17C初	(2.20)	(1.20)	土】皿（C）。瀬】志野皿。	
Ⅱ－1	3153	J4	溝	17C中～後	(3.60)	(1.30)	土】皿（C）。唐】皿、呉器手。伊】碗。軟】小瓶。	
Ⅱ－1	3155	J3	土坑	17C中～後	(3.30)	(3.30)	土】皿（C、D）。伊】白磁香炉、大皿、青磁香炉。唐】刷毛目鉢、二彩大皿。	17C中～後の良いまとまりだが量は少ない。
Ⅱ－1	3156	A4～A5	土坑	～17C初	4.50	1.10	土】皿（C）。唐】碗。中】染付皿（16C）。	17C初のもの中心。
Ⅱ－1	3157	A-5	土坑	17C前	(0.80)	(0.80)	土】皿（C）。唐】碗。	
Ⅱ－1	3158	A-5	土坑	17C初～前	(1.20)		土】皿（C）。唐】皿（胎土目）。中】染付皿。	
Ⅱ－1	3160	I・J-3	土坑	17C中・後	(3.40)	(2.00)	土】皿（C）。伊】皿。唐】刷毛目二彩大皿。	伊万里あり。被災遺物あり。
Ⅱ－1	3162	A-4	井戸	18C後	(1.90)	(1.05)	土】皿（G、C）。伊】徳利、大鉢、皿。越】擂鉢、鉢。京】サビ絵大皿。中】染付小杯。信】色絵小碗。瀬】黒織部碗。	深さ3.3ｍ。直径0.6ｍ、高さ1.9ｍの桶側が残る。
Ⅱ－1	3163	J～A-3・4	溝	17C後	(13.50)	0.50	土】皿（C）。伊】皿、碗、青磁小壺。唐】大皿、飴釉碗、呉器手。瀬】碗。越】甕。	16C末のもの混じる。
Ⅱ－1	3164	J-4	土坑	18C前～後	(0.70)	(0.60)	土】皿（G、R、D）。伊】鉢（高台蛇目）。唐】刷毛目碗。	
Ⅱ－1	3165	I-3	土坑	18C後	(1.60)	(0.90)	土】皿（D）。陶】徳利。	
Ⅱ－1	3166	J-4	土坑	18C	1.80	(1.60)	土】皿。信】碗？	
Ⅱ－1	3167	J-3・4	土坑	17C後～18C	(1.00)	(2.00)	土】皿（D、C）多い。伊】蓋。越】擂鉢。瓦】黒－平。	
Ⅱ－1	3168	I-3・4	土坑	18C後～19C前	(2.30)	(2.20)	土】皿（G）、人形頭。伊】碗。越】擂鉢（台形－浅）。信】碗、土鍋。	
Ⅱ－1	3171	I-4	土坑	19C前	(2.60)	(2.30)	土】皿（G）。伊】碗（瓔珞文・見込手描）、ソバ猪口。唐】徳利。	
Ⅱ－1	3172	J-3	土坑	17C中～後	1.30	1.10	土】皿（C、D）。伊】青磁香炉。唐】碗。	
Ⅱ－1	3173	J-3・4	土坑	18C？	1.70	1.30	土】皿（D）。	
Ⅱ－1	3182	A-4	土坑	17C初～中			土】皿（C）。唐】皿。越】擂鉢。中】染付皿。	
Ⅱ－1	3194	B-4	井戸	16C末～17C前	(2.30)	(1.70)	土】皿（B、C、K）。唐】溝縁皿、刷毛目碗。瀬】天目。中】漳州碗。	深さ3.5ｍ。直径0.7ｍ、高さ1.0ｍの桶側が残る。
Ⅱ－1	3196	A･J-2･3	ゴミ穴	19C中	6.30	3.45	伊】広東碗、くらわんか碗。瀬】陶胎染付半球碗、染付端反碗。	19C中の一括資料。明らかに明治の遺物はない。
Ⅱ－1	31100	I-3・4	土坑	17C初			土】皿（C-大）。瀬】鉢。	
Ⅱ－1	31101	B-4	土坑	～17C初	(1.80)	(1.20)	土】皿（C）。瀬】黄瀬戸鉢、灰釉皿、天目。中】染付皿、碗、白磁端反皿。	天目や黄瀬戸は16C末か17C初。
Ⅱ－1	31105	J-3	土坑	～17C初	1.20	0.65	土】皿（C）。唐】刷毛目皿。	唐津は混入品か。
Ⅱ－1	31110	A-4	溝		(1.70)	0.70	土】皿（C）。瀬】灰釉香炉。	
Ⅱ－1	31119	A-4	土坑	17C初	(1.10)	(0.90)	土】皿（C）。	
Ⅱ－1	31120	A-4	土坑	16C～17C?	(1.60)	(0.80)	土】皿。古】高坏。	
Ⅱ－1	3201	D～F-4～7	池	17C～19C中	(24.50)	(20.00)	土】皿、手付受皿(G)、焙烙、七輪、涼炉、瓦質火鉢。伊】大・中瓶、御神酒徳利、油瓶、小皿、碗、半球碗、湯飲、筒碗、くらわんか、皿、鉢、なます鉢、盃、陶胎染付碗、形物小皿。唐】現川碗。信】腰白壺。瀬】灰釉碗、絵瀬戸、染付筒碗、半球碗、皿、形物小皿。瓦】赤・だるま－軒桟・軒平、黒－丸。	17C前半に作られ、17C後半に拡張された。その後少しづつ埋まりながら幕末まで存続。　伊万里の鉢、碗、皿等に組み物なし。瀬戸の端反小碗あり。
Ⅱ－1	3202	I・J-2	土坑	19C中～明治	(8.80)	(3.60)	土】皿（C、G）。伊】碗、皿、くらわんか、陶胎染付。越】擂鉢、鉢。唐】刷毛目碗（薄－現川）、二彩甕、小擂鉢、青緑釉皿。瀬】染付筒碗、小角皿、天目（大窯）、灰釉皿。備】瓶？瓦】赤、黒、だるま。	
Ⅱ－1	3207	I・J-2	土坑	(17C後～)19C中	(8.80)	(3.60)	土】施釉植木鉢。伊】広東碗、皿、小坏、青磁香炉、青磁大皿。越】甕、擂鉢、鉢（逆台形）。唐】呉器手、刷毛目碗、二彩大甕。信】腰白壺、碗、土瓶。	3202の下層か。17Cの伊万里に見るべきものあり。
Ⅱ－1	3209	C-4	大土坑	17C後(18C後)	(7.00)	6.00	土】皿（C）。伊】くらわんか碗、瓶。越】擂鉢（三角）。唐】大皿。	32166の上層。17C後が中心だが18Cのものが混じる。伊万里あり。
Ⅱ－1	3210	B-3	土坑	18C後～	(1.10)	0.80	土】皿（G）。伊】碗。越】鉢	
Ⅱ－1	3211	B-3	土坑	18C後	1.20	(1.10)	土】皿（G）。伊】筒碗、陶胎染付。唐】甕？信】色絵半球碗、油差。	18C後の良いまとまり。
Ⅱ－1	3214	B-4	土坑	18C後	(2.10)	0.40	土】皿（G）。伊】碗（コンニャク）。	
Ⅱ－1	3215	B-3	井戸	19C中～明治	3.30	2.70	土】皿（C、G）。伊】碗、皿。越】甕（便所）、鉢（台形）、擂鉢。陶】鉢（形紙）。唐】大皿。中】小坏、漳州大皿。	深さ3ｍ。直径0.8ｍ、高さ1.5ｍの桶側が残る。底板があり、桶内に莚や小石を敷いた濾過装置あり。
Ⅱ－1	3216	B-3	井戸	18C後	(2.00)	(1.50)	土】皿（G）。伊】皿、碗、陶胎染付。越】擂鉢。唐】呉器手。瀬】香炉、碗。	深さ3.7ｍ。直径0.6ｍ、高さ0.9ｍの桶側が残る。
Ⅱ－1	3217	B-3	土坑	18C後	(0.70)	(0.60)	土】皿（G）。伊】碗（一重アミ）。	

屋敷番号	遺構番号	地　区	遺構種別	時　期	法量（単位：m）		主な遺物	備　考
					長辺	短辺		
Ⅱ－1	3218	B-3	土坑	17C初	4.40	2.20	瀬】天目、黄瀬戸？	
Ⅱ－1	3219	A-3	土坑	17C後～18C前	1.00	0.90	土】皿（C- 新）。伊】碗、青磁大皿。唐】呉器手。越】擂鉢。瀬】灰釉皿	
Ⅱ－1	3220	A～J -2～3	土坑？	19C中			土】皿（C- 新、G）。伊】広東碗、碗、鉢、半球碗（手描五弁花）、大皿。越】鉢、擂鉢。唐】京風碗。瀬】端反碗（蓋付）×４以上、火鉢。瓦】赤 - 軒丸・軒平。	溝 3271 の上層か。端反碗、鯉絵鉢は組み物。19C中の一括資料か。
Ⅱ－1	3221	B-3	溝		2.65	0.20		
Ⅱ－1	3222	B-3	土坑	17C後	0.60	(0.50)	土】皿（C?）。伊】白磁碗。	
Ⅱ－1	3224	B-3	ピット	18C後～19C	0.40	0.30	土】皿。伊】碗、瓶。越】擂鉢、壺。信】碗、蓋、火入れ、鉢、青磁香炉。瀬】尿瓶、端反碗。瓦】赤 - 丸・平、黒 - 丸・平。	
Ⅱ－1	3225	B-3	土坑	17C前～中	0.60	0.50	土】皿。唐】溝縁皿。	
Ⅱ－1	3227	B-3	土坑	17C	2.50	0.50	土】皿（C）。	
Ⅱ－1	3232	B-3	土坑	17C	1.10	0.50	土】皿（C）。	
Ⅱ－1	3237	B-3	ピット	17C	(0.50)	(0.30)	土】皿（C）。唐】二彩大皿？	
Ⅱ－1	3239	C-3	土坑	17C後	1.00	0.80	土】皿（C- 新）。伊？】小坏。	
Ⅱ－1	3240	C-3	土坑	17C後	0.60	0.60	土】皿（C）。伊】瓶。越】甕。	
Ⅱ－1	3242	C-3・4	井戸	19C	1.20	1.10	土】皿（G）。越】擂鉢、甕。瀬】水鉢。中】染付小碗。	深さ 2.5 m。上部は笏谷石製の直径 0.8 m、高さ 0.4 mと 0.6 mの井戸側が２段、下部には直径 0.7 m、高さ 1.8 m桶側を据える。底には円形に加工した笏谷板石を敷く。
Ⅱ－1	3243	C-4	土坑	18C後	(1.10)	(0.70)	土】皿（G）。越】甕、擂鉢。信】碗。	
Ⅱ－1	3245	C-3	井戸	19C前	2.30	2.20	土】皿（G）。伊】皿。越】擂鉢（丸）、鉢。瀬】灰釉水鉢、陶胎染付。	井戸 3242 の掘方。
Ⅱ－1	3247	B-3	土坑		1.10	(0.50)		井戸 3216 の北側に直径 0.5 m～1m程の小土坑が多数あるが、建物等にまとまらず。
Ⅱ－1	3248	C-4	土坑		0.60	0.60		
Ⅱ－1	3250	C-3・4	土坑	17C	(0.80)	(0.50)	土】皿（C）。越】甕。	
Ⅱ－1	3258	B-3・4	土坑		0.90	0.45		
Ⅱ－1	3259	B-3	甕	17C後	0.50	0.40	越】甕、擂鉢。	
Ⅱ－1	3260	J-2	土坑	19C	(1.10)	(0.80)	土】皿（G）。伊】広東碗、筒碗。越】擂鉢（丸）、鉢（台形）。信】灯明皿、白磁端反碗。瀬】水鉢、染付蓋。	
Ⅱ－1	3261	B-3	溝？	18C	(1.60)	0.60	信】サビ絵灰吹。	
Ⅱ－1	3262	J-3	土坑	17C後	1.60	1.40	土】皿（C、D）。伊】碗、瓶。越】擂鉢。唐】サビ釉皿、二彩大皿。瀬】土鍋？	伊万里あり。
Ⅱ－1	3263	A-3	土坑	17C後～18C前	1.90	1.10	土】皿（D、G、K）。伊】壺、小碗。越】擂鉢。瀬】擂鉢、染付端反碗。	17C 後～ 18C 前のものが中心だが、19C の混入品あり。
Ⅱ－1	3264	B-3	土坑	17C後	(0.50)	0.40	土】皿（C）。伊】青磁大皿。唐】呉器手。	
Ⅱ－1	3265・3266	A～B-3	大土坑	17C後～18C前（19C混じる）	(7.60)	(3.70)	土】皿（C- 新、D）。伊】壺、瓶、碗、皿（コンニャク）、鉢、色絵皿。越】甕、壺（19C）、鉢、擂鉢（三角）。唐】二彩甕、大皿、斑唐津大皿、緑釉壺、壺、呉器手、青緑釉大皿。信】色絵碗。瀬】灰吹、天目。須】甕、坏。中】漳州大皿、景徳鎮皿（セット）、小坏、カブト鉢、瑠璃釉小皿。瓦】赤 - 軒丸。	溝 3271 の上層。被災遺物多い。伊万里あり。伊万里の皿は 11 組以上。唐津は大皿、壺も４個体以上。18 Ｃ～19 Ｃのものが混じる。
Ⅱ－1	3267	J-3	溝	18Ｃ前～19C	(1.50)	0.30	土】皿（D、K）。伊】碗、皿。越】擂鉢（三角 - 丸）、甕。唐】呉器手。	京焼？の四方茶碗あり（19Ｃ？）。
Ⅱ－1	3268	A-3	土坑	18Ｃ前	1.50	1.40	土】皿（C）、土鈴、施釉皿。伊】皿、蓋。唐】呉器手、碗、皿。	土師質の施釉皿（緑釉、糸切り）はこの時期のものか。
Ⅱ－1	3269	A-3	土坑	～17Ｃ初	0.80	(0.50)	土】皿（C - 古）。瀬】鉄釉瓶。中】染付皿。	
Ⅱ－1	3270	B-3	土坑	17Ｃ～18Ｃ前	1.30	1.10	土】皿(D)。伊】皿(コンニャク五弁花、古)。越】擂鉢（丸）、甕。唐】刷毛目碗（薄）。	
Ⅱ－1	3271	J・A-2	溝（下層）	17C中	(20.00)	3.00	土】皿（C）。伊】皿（初期）、白磁香炉、碗。唐】皿（砂目）。瀬】天目。中】色絵碗。	土坑 3134 につながるが、後に埋められる。初期伊万里あり。
Ⅱ－1	3271	J・A-2	溝（上層）	17C後～18C前	(30.00)	3.00	土】皿（C）。伊】碗、白磁小坏、大皿、キセル？ 越】擂鉢（段丸）、甕。唐】二彩大皿、鉢、飴釉碗。瀬】灰釉皿。中】筒碗、漳州大皿、青磁稜花碗。	土師質皿は古い。
Ⅱ－1	3272	J-3	井戸	17C中～後	(1.20)	(1.10)	土】皿（C- 新）。伊】碗。須】甕。瓦】赤 - 丸	深さ 4.0 m。直径 0.6 m、高さ 0.9 mの桶側３段残る。
Ⅱ－1	3275	A-3	溝	17C中	(12.00)	1.30	土】皿（C）。	土師質皿完形品３点出土。
Ⅱ－1	3279	A-3	土坑	17C後	1.20	0.70	土】皿（G）。越】甕。唐】二彩大皿。瓦】赤 - 軒平。	
Ⅱ－1	3284	B-4	土坑	17C前	6.60	0.70	土】皿（C）。唐】皿（砂目）。	
Ⅱ－1	3285	B-3	土坑	17C後	(2.10)	(1.40)	土】皿（C、D）。伊】色絵皿、碗。越】擂鉢。唐】刷毛目碗。中】漳州赤絵皿、大皿。	

屋敷番号	遺構番号	地　区	遺構種別	時　期	法量（単位：m）		主な遺物	備　考
					長辺	短辺		
Ⅱ－1	3287	B-3	土坑	17C後	(2.10)	(2.10)	土】皿。伊】蓋、小碗。越】甕。 唐】溝縁皿、甕、呉器手。瀬】天目、擂鉢。	伊万里あり。
Ⅱ－1	3288	C-4	土坑	17C中～後	0.60	(0.60)	土】皿（C、K）。伊】皿、碗。	
Ⅱ－1	3289	B-3	土坑	17C後	1.00	0.40	土】皿（C）。越】甕。京・信？】碗。	
Ⅱ－1	3293	E-6・7	石敷	17C前	4.00	1.30		池3201の古い時期の護岸か。
Ⅱ－1	32100	D-5	土坑	18C前	(3.60)	(2.30)	土】皿（C、D）。伊】瓶。越】甕。唐】京風碗。 信】腰白壺。中】漳州赤絵大皿。	池32127埋め立て後の土坑。
Ⅱ－1	32101	D-5	土坑	17C後	7.30	3.40	土】皿（D）。伊】白磁輪花鉢、皿、色絵皿。 越】甕、擂鉢。唐】鉢。瀬】鉄釉小壺、小天目、志野小皿。中】景徳鎮皿、小坏。	池32127埋め立て後の土坑。中国製品多い。優品多い。伊万里あり。
Ⅱ－1	32102	D-4	土坑	17C	(1.40)	(1.20)	土】皿。唐】皿。	
Ⅱ－1	32106	F-7	土坑	17C中	6.40	3.00	土】皿（C）。伊】筒碗。越】擂鉢（13C）。	
Ⅱ－1	32107	E-7	土坑	17C後	1.80	1.30	土】皿（C）。	
Ⅱ－1	32108	F-6	土坑	17C	(3.90)	0.50	土】皿（C）。伊】皿。	
Ⅱ－1	32109	E-5	護岸	17C	(7.60)			池3201の護岸。
Ⅱ－1	32110	E-6	護岸	17C	4.20	0.30		池3201の護岸。護岸上に杭列あり。
Ⅱ－1	32124	F-6	土坑	17C初	1.80	0.70	土】皿（C）。唐】ワラ灰釉小坏（白土）。 唐？】飴釉徳利。	油煙跡のない土師質皿が大量出土。伊万里なし。
Ⅱ－1	32125	E-7	護岸	17C	2.00	0.40		池3201の護岸。
Ⅱ－1	32127	D-5	池（上層）	17C後	10.00	4.50	土】皿（C、D、B、K）。伊】皿、青磁瓶。 越】擂鉢。唐】皿。瀬】天目、織部。 中】漳州碗、皿。瓦】黒－軒平。	池3201の規模拡大に伴って埋め立てられたか。
Ⅱ－1	32127	D-5	池（下層）	17C初～17C前	9.50	4.50	土】皿（C-古）。越】擂鉢。唐】皿（砂目）。 瀬】鉄釉瓶（椿手）、天目。	
Ⅱ－1	32128	D-6	土坑	17C後	1.30	(0.80)	土】皿（C-大）。伊】小坏。瀬】天目。	伊万里あり。
Ⅱ－1	32131	B-4	溝	17C初	(1.50)	(0.30)	土】皿。	
Ⅱ－1	32132	C-4	土坑	17C初？	(0.60)	(0.60)	越】擂鉢。	
Ⅱ－1	32133	A-3	溝	17C前	(8.20)	0.40	土】皿（C）。越】擂鉢。唐】大皿。瀬】天目。 中】染付碗。	
Ⅱ－1	32134	B-3・B-4	溝	～17C初	(3.50)	0.60	越】擂鉢、甕（無釉）。唐】絵唐津大皿。	
Ⅱ－1	32135	C-3	大土坑	17C初	(5.20)	(1.80)	土】焼塩壺、皿（C-古、C-古-大）。 越】擂鉢（三角）。唐】絵唐津皿。 瀬】天目、灰釉皿、擂鉢。中】染付碗。	17C初の典型的なまとまりだが、16Cのもの混じる。
Ⅱ－1	32136	J-3	井戸	17C前	(1.40)	0.55	土】皿（C）。越】擂鉢（三角）。	深さ2.1ｍの素掘りの井戸。地震のため大きく変形。
Ⅱ－1	32137	A-3・J-2	溝	～17C初	(1.60)	(0.50)	土】皿（C）。越】甕。中】染付碗。	
Ⅱ－1	32138	A-3	溝	17C前	(8.40)	0.50	土】皿（C）。越】擂鉢（16C）。 唐】刷毛目皿、大皿。中】染付碗。	溝内に杭列があり、堰があったか。唐津刷毛目皿は古手。
Ⅱ－1	32139	A-3	土坑	～17C初	2.40	1.00	越】擂鉢（三角-溝）。中】漳州皿。	
Ⅱ－1	32140	B-3	土坑	17C前？	1.20	0.90	土】皿。	
Ⅱ－1	32164	C-4	柱穴	17C？	0.70	0.50	土】皿。	
Ⅱ－1	32165	C-4	柱穴	17C	0.80	0.60	土】皿（C）。	
Ⅱ－1	32168	C-6	土坑	17C後	1.00	0.80	伊】碗。唐】大鉢（丹波？）。	
Ⅱ－1	32169	C-6	ゴミ穴	17C初？	(1.60)	(1.40)	土】皿（C）。伊？】皿。越】甕。唐】甕（タタキ）、大鉢（丹波？）。中】白磁端反皿。	伊万里は最初期のものか。
Ⅱ－1	32172	E-6	土坑	17C初			土】皿（C）。唐】斑唐津小坏、鉢。瀬】天目。	土師質皿は全て油煙痕なし。
Ⅱ－1	32173	E-6	溝？	17C初	(8.00)	3.50	土】皿（C）。越】擂鉢。唐】碗、皿、絵唐津大皿。瀬】菊皿、鉄釉皿。中】染付皿、碗。	16C末～17C初の良いまとまり。
Ⅱ－1	32177	E-6～7	甕	17C初	1.70	1.50	越】甕、擂鉢。	池3201の底で検出。
Ⅱ－1	32192	C-4	土坑	17C初	1.10	0.70	土】皿（C）。越】甕。	
Ⅱ－1	32210	D-4	（溝）	17C初	(19.00)	1.40	土】皿（C）。中】白磁小坏。	
Ⅱ－1	32212	C-4	土坑	17C前	1.00	0.50	土】皿（C）。中】染付皿。	

第24表　屋敷地Ⅱ－2遺構観察表

屋敷番号	遺構番号	地　区	遺構種別	時　期	法量（単位：m）		主な遺物	備　考
					長辺	短辺		
屋敷地境	3205	F-5～7	溝	17C後～18C前	22.00	2.40	土】皿（C、D）。伊】鶏形水滴、碗、皿、腰張碗×4。越】擂鉢（三角）、甕。唐】呉器手。 京】角小皿。瓦】赤-軒平。	溝北側西端に石垣3290あり。遺物は17C後~18C前の良いまとまり。
屋敷地境	32118	F-5～7	溝	17C初	(3.00)	0.50	土】皿（C）。瀬】志野菊皿、天目。 中】染付碗。	溝3205以前の屋敷境溝か。伊万里なし。
屋敷地境	3303	J-8・9	土塀基礎	16C後～19C	(27.50)	1.20	土】皿。越】甕、擂鉢、鉢。 唐】飴釉碗。陶】土瓶。中】染付皿。 瓦】だるま。信】端反碗（白-六角カット）。	屋敷地Ⅱ-2の北側土塀基礎。屋敷地Ⅱ-3にかけて続く。

屋敷番号	遺構番号	地　区	遺構種別	時　期	法量（単位：m）		主な遺物	備　考
					長辺	短辺		
Ⅱ－2	Ⅱ2-1	I-7	礎石列		3.20			礎石が４石並ぶ。
Ⅱ－2	3206	G～H-6～7	土坑	17C前～後	(5.00)	(4.80)	越】擂鉢。瀬】天目、灰釉皿、志野。 信】茶壺。中】染付小盃。土】皿（K、G、C）。 伊】小坏、香炉、碗、皿、青磁大皿。 唐】呉器手、二彩五耳壺。京】角皿。 瓦】黒－軒丸、赤－軒丸・軒平・丸	焼土で覆われる。 優品多数含む（特に伊万里）。瓦（赤瓦の軒丸瓦）多数含む。17C後のものが中心だが、19Cの混入品あり。
Ⅱ－2	3290	F-5	石垣	19C中	3.80	2.20		
Ⅱ－2	3291	G・H-7	階段	18C～19C前	1.80	1.10		池3308に下りる階段。４段あり。
Ⅱ－2	3292	G-7	石垣		8.50	1.00		池3208中・下層の東側護岸石垣。南側の石垣は壊されたか。
Ⅱ－2	3294	F-6	溝	17C後～19C	(6.50)	1.70	土】皿（G）。伊】瓶、碗。越】擂鉢。唐】瓶、呉器手。中】漳州大皿。瓦】黒－軒丸。	
Ⅱ－2	3295	F～G-5～7	溝	17C中～後	(18.00)	(2.00)	土】皿（C、K）。伊】碗。越】擂鉢。 唐】皿、絵唐津大皿、溝縁皿。 瀬】天目、鉄釉碗、灰釉小坏、志野蓋、茶入。 備】小壺。高取？】ワラ灰釉把手。 中】染付皿。	当初は溝33256に接続していたが、池3308が作られると、その排水溝となる。優品多く、擂鉢・甕は少ない。伊万里は古い。天目４点あり。
Ⅱ－2	3296	F-6	土坑	18C ～ 19C	0.90	0.60	土】皿。	
Ⅱ－2	3298	F-6	溝	17C後～18C前	(4.30)	0.60	土】皿（D）。伊】皿。京・信】筒碗。 瓦】赤－丸。軟】碗。	
Ⅱ－2	3299	F-6	土坑	～18C前	1.60	0.40	土】皿。伊】皿。中】染付小坏。	
Ⅱ－2	32103	G-6	土坑	17C	1.70	0.90	土】皿。中？】皿。	
Ⅱ－2	32104	G-6	土坑	17C後	2.00	1.70	越】甕。唐】呉器手碗。瀬】灰釉皿。	
Ⅱ－2	32105	G-6	土坑	～17C中	(7.80)	5.40	土】皿。伊】碗。伊賀】花瓶？　越】擂鉢（三角）。唐】皿。中】染付小坏、漳州大皿。	
Ⅱ－2	32112	G-7	護岸		2.60	0.40		池3308中・下層の西側護岸。
Ⅱ－2	32113	F-7	土坑	17C後	1.40	0.90	土】皿（D）。中】染付皿。	
Ⅱ－2	32114	F-6	土坑	17C後～18C前	3.90	2.80	土】皿（C）。伊】碗、油瓶。唐】大皿、溝縁皿。 瀬】天目。瓦】赤－軒丸、黒－軒丸。	
Ⅱ－2	32115	F-7	ピット	17C	0.30	0.20	土】皿（C）。中】染付小坏。	
Ⅱ－2	32116	G-6	土坑		1.40	1.00	土】皿（C）。唐】皿、呉器手。京】皿（音羽）。	
Ⅱ－2	32119	F-7	土坑		1.50	0.90		
Ⅱ－2	32126	H-6	不整形土坑	17C初	(2.90)	(2.70)	土】皿（C）。越】甕。 唐】絵唐津鉢、小坏、斑唐津碗。須】坏蓋。 瀬】灰釉皿。中】染付碗。軟】碗。	33293と同じ土坑か。 伊万里なし。
Ⅱ－2	32151	G-7	土坑	17C後			土】皿。伊】小坏。瀬】灰釉皿。	
Ⅱ－2	32160	F-5・6	溝	17C初	(10.00)	2.00	越】擂鉢。唐】天目、皿。瀬】天目、灰釉皿。	伊万里なし。
Ⅱ－2	32182	F-7	土坑	17C前	1.60	0.90	土】皿（C）。越】甕。中】白磁端反皿。	
Ⅱ－2	3308	F-7～H-8	池	17C後～19C中	(13.20)	(4.60)	伊】鉢、碗、腰張碗。越】擂鉢。 唐】呉器手碗。瀬】織部向付、志野蓋。 瓦】赤－軒平・平、黒－丸・平、だるま。	瓦多く混じる。17Cの遺物多く混じるが、この遺構の埋め立ては19C中である。
Ⅱ－2	3309	G-7～H-8	ゴミ穴	19C中～近代	(5.60)	(4.60)	土】皿(G)。伊】大皿、鉢。瀬】形角小皿、端反碗。唐】壺。瓦】赤-軒丸・平、黒-丸・平。	
Ⅱ－2	3326	G-7	土坑？	17C～19C	1.40	0.40	土】皿（G）。伊】筒碗（コンニャク）、半球碗（見込手描）。越】甕。瓦】黒－平・丸、赤、だるま。陶】土鍋（鉄釉）。	
Ⅱ－2	3369	H-7	石段		2.00	0.30		池3308に向かって下りる石段。
Ⅱ－2	3393	F・G-7	石垣	18C後半	10.40			池3308上層の西側護岸石垣。
Ⅱ－2	3394	G-7	石垣	18C後半	5.60			池3308上層の北側護岸石垣。
Ⅱ－2	3398	H-7	瓦溜	19C			土】皿（G）。伊】碗。唐？】小壺。 堺？】擂鉢（小）。瓦】赤－軒丸。	
Ⅱ－2	33175	I-7	溝？		3.30	0.60		
Ⅱ－2	33248	I-7	ゴミ穴		3.60	0.70		
Ⅱ－2	33249	J-8	石列	19C前	(3.60)	(2.80)	土】皿（D、G）、焼塩壺。伊】広東碗。信】茶壺。瀬】鉄釉徳利。	上部は石列、下部は溝状。石列は土塀基礎か。
Ⅱ－2	33250	I-8	石列	17C後	(2.00)	(0.80)	伊】青磁大皿、碗、腰張碗、小坏、瑠璃釉合子蓋。中】染付碗。	被災遺物混じる。
Ⅱ－2	33251	J-8	石列		1.00	0.60		
Ⅱ－2	33253	H・I-7・8	ゴミ穴	18C後～19C	2.10	1.70	土】皿（G）。伊】重鉢（モチ形）、瓶。 信】筒碗。	
Ⅱ－2	33254	H・I-7・8	ゴミ穴	19C前	12.30	4.80	土】皿（G）、カンテラ、風炉。伊】碗、ソバ猪口（17C）、広東碗。越】鉢（台形）、擂鉢。 信】碗、小杉碗。瀬】腰サビ碗。中】青磁碗。 瓦】赤－軒丸、黒－軒丸。陶】土鍋（鉄釉）、植木鉢。	伊万里の広東碗含み、瀬戸の磁器なし。端反碗のない19C前の様相。

屋敷番号	遺構番号	地　区	遺構種別	時　期	法量（単位：m）		主な遺物	備　考
					長辺	短辺		
Ⅱ－2	33256	H･I-7･8	溝	17C後～19C	12.00	1.50	土】皿（G、D）、焼塩壺、土埦。伊】青磁香炉、瓶、半球碗、小坏、碗、形小鉢、中風皿。越】甕、擂鉢。唐】仏飯器、呉器手碗、皿（砂目）、京風碗。備】瓶。中】染付皿。	被災遺物含む。33257と一連の溝。33257は18Cには埋められたが、33256は19Cまで残ったか。
Ⅱ－2	33257	J-7･8	溝	17C後	(6.90)	(2.55)	土】皿（D、C- 新）。伊】碗。越】擂鉢、甕。唐】大皿、皿、碗。瀬】志野菊皿。	17C後半の良い一括資料。
Ⅱ－2	33258	I-8	ゴミ穴	19C	1.00	0.50	土】皿（G）。伊】瓶、蓋。越】鉢。 唐】呉器手碗。陶】土鍋（鉄釉）。	
Ⅱ－2	33260	H･I-7･8	ゴミ穴	19C	4.00	2.35	土】皿（G、C）。伊】碗。越】鉢（カメ形）。 唐】火入？。瓦】赤 - 軒平。	17Cのもの混じる。
Ⅱ－2	33262	I-7	溝		4.40	0.40		
Ⅱ－2	33279	H-7	ゴミ穴	18C後～ 19C前	3.70	(3.40)	土】皿（G）。伊】陶胎染付、皿。信】筒碗、蓋。 瀬】煎じ碗、大水鉢。	
Ⅱ－2	33286	J-7	集石		1.20	0.80		
Ⅱ－2	33290	H･I-7	ゴミ穴	17C初～前	2.80	1.70	土】皿（C）。越】甕。唐】皿（砂目）、水指、溝縁皿、片口鉢。瀬】天目。中】染付碗。	優品が多く、日用品が少ない。伊万里なし。
Ⅱ－2	33292	I･J-8	溝	17C後	(5.00)	1.50	土】焼塩壺蓋、皿（C）。伊】腰張碗、皿、小坏、蓋。越】甕。唐】小坏、呉器手碗。瀬】天目。 中】皿。備】茶入？	
Ⅱ－2	33293	H-6･7	土坑	17C初	(8.50)	2.80	土】皿（C）。唐】大皿、甕（タタキ）、皿（胎土目）、徳利、絵唐津沓茶碗。瀬】鉄釉碗。 中】染付皿、カブト鉢、青磁碗、交趾？	32126と同じ土坑か。中国製染付皿と鉢が組で出土。良い一括資料。
Ⅱ－2	33294	H-8	ゴミ穴	19C	(3.40)	3.10	土】皿（G）。伊】ソバ猪口、香炉、碗。	
Ⅱ－2	33299	E-7	石垣		3.00	0.30		溝3325の護岸石垣
Ⅱ－2	33312	H-7	土坑	17C前	1.30	1.10	土】皿（C）。	
Ⅱ－2	33321	J-7･8	ゴミ穴		(2.65)	2.40	土】皿（B、C）。唐】碗、溝縁皿。 瀬】志野大鉢、鉄釉碗。中】染付皿、小坏。	
Ⅱ－2	33339	I-7	土坑	17C初	2.00	1.30	土】皿（C- 古）。越】甕、擂鉢。唐】青唐津皿、甕（タタキ）。瀬】志野（四方向付、茶碗）、天目、古瀬戸深鉢。中】染付皿、白磁軟質小皿。瓦】赤 - 軒丸。	伊万里なし。赤瓦は混入品か。
Ⅱ－2	33394	J-7･8	ゴミ穴	17C後	3.70	2.60	土】皿（D）。伊】皿、小坏。越】甕。 唐】皿（胎土目）。瀬】白天目。瓦】赤 - 軒平。	
Ⅱ－2	33395	J-8	土坑	17C初	(2.00)	(0.80)	瀬】織部皿。中】染付皿。	
				17C後	(2.00)	(0.80)	越】擂鉢（三角）。唐】壺（タタキ）。信】壺？	
Ⅱ－2	33397	J-7	土坑		3.80	2.50		
Ⅱ－2	33418	G･H-7	土坑		2.70	2.00		

第 25 表　屋敷地Ⅱ－３遺構観察表

屋敷番号	遺構番号	地　区	遺構種別	時　期	法量（単位：m）		主な遺物	備　考
					長辺	短辺		
屋敷地境	32123	F-8	溝	17C初			土】皿（C、K）。伊】腰張碗。唐】碗、大皿。 瀬】天目、灰釉皿。中】染付碗。	17C初の3205の続き。伊万里は混入品。
屋敷地境	3303	J-8･9	土塀基礎	16C後～19C	(27.50)	1.20		屋敷地Ⅱ-3の北側土塀基礎。
屋敷地境	3325	F ～ J-7 ～ 8	溝	16後・17後 ~19C	(47.40)	2.70	土】皿（G）。伊】広東碗、筒碗、青磁香炉。瀬】土鍋、壺、水注。信】小杉碗、柄杓。越】擂鉢。瓦】黒 - 軒丸・平瓦、赤 - 軒丸。	北庄城期からの溝。屋敷地Ⅱ-2と３の境界。一部に護岸石垣が残る。元は自然流路か。
屋敷地境	33255 (3325)	J-8	溝	16C末～ 17C後	(6.50)	(1.40)	土】皿（C、D）。伊】皿。唐】碗？瀬】黄瀬戸、灰釉皿。越】甕、擂鉢。中】小坏、染付碗。	溝3325の一部
Ⅱ－3	3301	G-8	ピット	17C後	0.50	0.30	土】皿（C）。伊】鉢、碗、青磁瓶。唐】碗。	
Ⅱ－3	3302	I-10	溝	17C後	2.05	0.40	土】皿（G）。瓦】赤 - 平。	
Ⅱ－3	3305	H-9	土坑	17C後	3.10	1.80	土】皿（C）。伊】半球碗、碗。唐】二彩大皿。 信】壺。	33244と重なる。
Ⅱ－3	3306	I-9	土坑	~19C	1.00	0.90	信】油差。陶】鉢。 瓦】黒 - 平・丸、赤 - 軒丸。	
Ⅱ－3	3307	H-8 ～ 9 J-8	集石	19C	(4.50)	(0.85)	土】皿（G）、焜炉（墨書有）。伊】碗。越】甕。瀬】ヨロイ手碗。伊】皿、碗（二重アミ）。越】擂鉢（三角）。瓦】黒 - 平・丸。	
Ⅱ－3	3312	I ～ J-8 ～ 9	石列	18C	3.70	1.00	伊】碗、皿（17C）。越】擂鉢（小）。陶】土鍋（鉄釉）。瓦】黒 - 平・丸、赤 - 丸、だるま。	池3315の州浜。
Ⅱ－3	3313	H-9	土坑	19C中～近代	2.00	0.80	土】皿（G）。伊】碗。信】端反小碗。陶】大鉢。越】擂鉢、鉢、植木鉢（灰釉）。瓦】黒 - 丸・平、赤 - 平・軒丸、だるま。ガラス。	瓦多く含む。 中心は19C~明治期。
Ⅱ－3	3314	I-9	井戸	19C	0.70	1.10	伊】くらわんか碗。越】甕、鉢。瓦】赤 - 丸・平・軒平、黒 - 軒平・丸・平、だるま。	深さ1.1mの上水井戸か。

屋敷番号	遺構番号	地　区	遺構種別	時　期	法量（単位：m）		主な遺物	備　考
					長辺	短辺		
Ⅱ－3	3315	H～J-8～9	池	18C	3.70	2.70	土】皿（C、G）。伊】碗、皿。信】碗。瀬】鬢盥、天目。瓦】赤 - 丸・平、黒 - 丸・平。	半島状の州浜があり、水際は杭で土留めをしている。19C中の埋土に17Cの瓦が大量に含まれる。
Ⅱ－3	3316	H-9	集石	18C後～	2.90	0.60	伊】くらわんか碗。越】擂鉢、鉢。瀬】角小皿。瓦】黒 - 平・丸、だるま - 平、赤 - 平。	瓦（黒瓦）中心。被災遺物あり。
Ⅱ－3	3323	I-8	集石	18C後～	(2.55)	0.95	土】皿（G）。伊】碗（コンニャク）。瀬】灰釉水鉢。瓦】黒 - 丸・平、赤 - 平、だるま。	直径0.9mの桶を2つ並べる。
Ⅱ－3	3327	I-8	集石	～19C	3.20	0.70	土】皿（G）。伊】蓋、半球碗。染付半球碗。瓦】赤 - 平・丸、黒 - 平、だるま。	瓦多い。
Ⅱ－3	3328	I-8	集石	18C後～19C	(2.00)	1.70	土】皿（G）。伊】青磁鉢？、碗。越】甕、擂鉢（小）。瓦】黒 - 丸・平、赤 - 平。	瓦多い。
Ⅱ－3	3331	I-8・9	集石	18C後～19C	3.25	1.50	土】皿（G）。伊】碗（コンニャク）。越】鉢（カメ形）。信】色絵碗。瓦】赤、黒、だるま。	被災遺物多い
Ⅱ－3	3332	I-9	土坑	19C	1.05	0.60	土】皿。越】壺（ロクロ）。唐】呉器手碗。	
Ⅱ－3	3333	H-8	土坑	17C後	1.00	1.00	土】皿（C）。伊】皿。唐】呉器手碗。	
Ⅱ－3	3334	H-9	土坑	～19C	1.50	1.40	土】皿。伊】筒碗。越】甕。瓦】黒 - 平。	
Ⅱ－3	3342	J-10	土坑	～19C	(2.75)	(2.50)	瀬】水鉢。瓦】赤 - 平・丸、だるま。	
Ⅱ－3	3343	J-10	土坑	～18C後	2.50	(2.35)	伊】碗（コンニャク）、陶胎染付。	
Ⅱ－3	32123	F-8	土坑	17C初	(2.70)	(2.70)	土】皿（C、K）。伊】腰張碗。唐】碗、大皿。瀬】天目、灰釉皿。中】染付碗。	伊万里は混入品。
Ⅱ－3	33242	H-8	護岸石垣	17C後～19C	4.50	0.80		溝3325の護岸石垣。
Ⅱ－3	33243	H-9	ゴミ穴		1.20	0.90		
Ⅱ－3	33244	H・I-9	ゴミ穴	17C後	2.50	2.50	土】皿（C、K）。伊】色絵筒碗。越】擂鉢。唐】壺（タタキ）。中】漳州赤絵鉢。	3305と重なる。被災遺物あり。
Ⅱ－3	33245	I-9・10	ゴミ穴	17C後	4.00	3.30	土】皿（C、K）。伊】大皿、碗、皿。越】擂鉢（三角 - 溝）。唐】二彩甕。中】漳州大皿、染付小坏、南蛮鉢？瓦】赤 - 軒丸・軒平・丸、黒 - 軒丸・丸・平・菊小。	被災遺物多い。高級品（伊万里、南蛮または中国製）多い。複数のゴミ穴が集まったもの。
Ⅱ－3	33247	I-8	集石		3.20	0.90		
Ⅱ－3	33252	F-8	護岸石垣	17C後	(5.60)	0.70	土】皿。伊】碗。唐】二彩刷毛目甕、碗。	溝3325の護岸石垣。
Ⅱ－3	33278	G-9	集石		2.20	1.40		
Ⅱ－3	33287	I-8	（土坑）	18C	0.90	0.55	土】皿（D）。瀬】古瀬戸瓶。	
Ⅱ－3	33288	H-9	ゴミ穴	17C後	1.10	0.90	土】皿（C）。伊】碗。唐】溝縁皿（砂目）。	
Ⅱ－3	33289	G-8	井戸	19C	0.70	0.70		上総掘りの井戸。桶底から深さ3mにわたって竹筒を確認。
Ⅱ－3	33296	F-8 G-8	ゴミ穴	（17C～）19C	(2.00)	1.20	土】皿（G）、焙烙。伊】碗、小徳利、半球碗。越】甕。唐】刷毛目碗？　信】碗？	
Ⅱ－3	33300	F-8	ゴミ穴		1.20	1.20		
Ⅱ－3	33331	I-9	集石	17C後	1.70	0.50	土】皿（C）。伊】大皿。越】擂鉢。唐】大皿。	
Ⅱ－3	33332	I-9	ゴミ穴		2.10	0.80		
Ⅱ－3	33334	I-10	ピット	17C中	0.80	0.45	土】皿（C）。伊】碗（初期）、皿。唐】皿（胎土目）。	初期伊万里あり。
Ⅱ－3	33337	J-8	ゴミ穴	17C初	0.55	0.50	土】皿（C）。越】擂鉢（三角 - 溝）。唐】絵唐津皿？、青磁碗。	伊万里なし。
Ⅱ－3	33338	J-8	土坑	17C初	(1.60)	(0.95)	土】皿（C）。越】擂鉢。瀬】志野碗、鉄釉瓶。	伊万里なし。
Ⅱ－3	33359	H-8	溝	17C初			土】皿（C）。越】壺、甕、擂鉢。唐】大皿。瀬】鉄釉徳利？、灰釉皿。	伊万里なし。
Ⅱ－3	33384	G-8	溝	17C初～中			土】皿（C-新）。唐】皿。	伊万里なし。
Ⅱ－3	33396	J-8	井戸	17C後～18C	0.70	0.60	土】皿（C）。伊】碗。越】鉢。唐】呉器手、京風。	
Ⅱ－3	33407	H-9	土坑	～17C初			土】皿（C-古）。唐？】小片。瀬】天目（大窯？）。中】白磁端反皿、青磁小坏。	16C末～17C初のまとまり。
Ⅱ－3	33411	G-8	土坑	17C前～後			土】皿（C-新）。越】甕。唐】溝縁皿。	
Ⅱ－3	33419	J-9	ゴミ穴	17C初	(1.50)	(1.50)	越】擂鉢（三角 - 溝）。	
Ⅱ－3	33422	I～J-9	溝		(10.20)	(2.25)		
Ⅱ－3	33426	I-9	溝	17C	2.30	0.30	越】甕。古】弥生土器？	
Ⅱ－3	33427	I-9	ピット		1.75	(1.45)	越】甕。	
Ⅱ－3	33429	I-9	ピット	17C前～後	0.70	0.55	土】皿（C）。須】坏？ 瀬】天目。	
Ⅱ－3	33433	I-9・10	溝	～17C	3.10	0.80	土】皿（C）。中】染付碗。	
Ⅱ－3	33436	I-10	溝	17C	2.70	0.85	土】皿（C）。瀬】天目。	
Ⅱ－3	33438	H-9	土坑	17C			瀬】鉄釉皿、灰釉皿。中】白磁皿。	
Ⅱ－3	33445	I-9	土坑	17C～19C			伊】碗。唐】溝縁皿。陶】土鍋（鉄釉）。	
Ⅱ－3	34210	J-9	土坑	17C後～	0.80	0.75	伊】皿。	被災遺物あり。
Ⅱ－3	34383	J-9	土坑	19C			土】皿（G）。伊】碗、小碗（瀬戸？）。	
Ⅱ－3	34491	J-8	土坑	17C			土】皿（C）。瀬】古瀬戸深鉢？、天目。	

屋敷番号	遺構番号	地　区	遺構種別	時　期	法量（単位：m）		主な遺物	備　考
					長辺	短辺		
Ⅱ－3	34867	J-8	暗渠	17C～19C	2.00	0.30		溝3325と道路４南側溝をつなぐ暗渠。土塀基礎3303の下をくぐる。

第 26 表　道路４・屋敷地Ⅲ－１遺構観察表

屋敷番号	遺構番号	地　区	遺構種別	時　期	法量（単位：m）		主な遺物	備　考
					長辺	短辺		
道路4	3390	A-8 J-9･10	道路４の1面砂利層上	19C	(28.00)	6.30	土】皿（G､D）。伊】蓋、筒碗、広東碗、半筒碗、色絵碗。越】甕。信】灯明皿。 瀬】志野皿。陶】植木鉢。 瓦】黒－軒丸、赤－軒平、だるま。	砂利舗装が５面あり。
道路4	4-1	J-9･10	道路４の基準杭列	17C初	(13.80)			道路４最下層中央の杭列。施工時の基準杭と考えられる。
道路4	3409	A-9	道路側溝	19C	(1.50)	0.30		道路４の北側溝。笏谷切石が溝の両側に長さ1.2ｍ分残る。
屋敷地境	3304	J～A-8～10	土塀基礎	17C後～18C後	(28.00)	1.20	土】皿（C､G）。伊】くらわんか碗。 越】擂鉢（三角）。瀬】茶入。	道路４に面する土塀基礎。19Cに修築され、道路側に切石を並べる。
屋敷地境	3339	A-1～10	溝	17C初～中	22.50	0.50	土】皿（C）。越】擂鉢。唐】碗、二彩大皿。 瀬】志野碗。陶】急須。中】白磁小杯。	屋敷地Ⅲ-1の東境。伊万里なし。
屋敷地境	3339	A-1～10	土塀基礎	~19C･近代	22.50	0.50	伊】陶胎染付、鉢（近代）。越】擂鉢、甕。 唐】鉄釉壺。瓦】だるま－軒。	当初は溝だったが、17世紀後半に埋められて土塀となった。
屋敷地境	3427	B～D-1	土塀基礎	~19C	17.50	1.50	土】皿（D､C）。伊】広東碗、碗（二重アミ）。 越】擂鉢、甕。唐】蘭鉢。瀬】灰釉皿。陶】土瓶。瓦】黒－平、赤－軒丸・丸。	屋敷地Ⅲ-1の東境。3339から続く土塀基礎か。
屋敷地境	34140	C･D-1	溝	17C～19C	(9.40)	1.20	土】皿（G）。唐】碗、京風皿。信】合子。 中】染付皿。	34170より古い屋敷境溝。19Cのものが混じる。
屋敷地境	34170	C･D-1	溝	17C後（19C）	17.50	1.50	土】皿（C-新）。伊】腰張碗、皿（19C）、色絵碗。越】擂鉢（丸-16C）。瀬】天目。	屋敷地Ⅲ-1の東境。3427の下層。19Cのものが混じる。
屋敷地境	34172	D-1 E-1･10	溝	～19C	(15.40)	0.70	土】皿（G）。伊】半球碗、蓋、皿（砂目）。 越】鉢、擂鉢（丸）。唐】呉器手、擂鉢。 信】色絵碗、端反碗。瀬】天目。 三田？】青磁植木鉢、雀合子。中】青磁碗。	17後半からあるが、19Cのものが中心。
屋敷地境	36131	E-1	溝	19C	(7.30)	0.60	土】皿（G）。伊】鉢、筒碗、陶胎染付。 越】甕、鉢、擂鉢。信】蓋。陶】灰釉土瓶。	屋敷地Ⅲ-1の北境。
Ⅲ－1	Ⅲ1-1	B～D-9･10	礎石建物	17C～18C後	(12.70)	(3.65)	土】皿（G）。伊】小碗（紅用）。唐】皿。 中】染付碗。	礎石の根石が残る。間隔は1間＝６尺５寸。3367他。
Ⅲ－1	Ⅲ1-2	B-9～10	礎石建物	18C後～	3.60	2.70		
Ⅲ－1	Ⅲ1-3 (34266)	J-10	門	18C後～	2.50	1.00		屋敷地Ⅲ-1の門。薬医門型式。
Ⅲ－1	Ⅲ1-4	D-1	掘立柱建物		1.85	1.85		1間四方の掘立柱建物。屋敷地東北隅にあり、屋敷神の祠の可能性。
Ⅲ－1	Ⅲ1-5	C-9	礎石列		3.90			礎石には笏谷石の切石が混じる。34473他。
Ⅲ－1	3317	A～B-9	砂利敷	18C後～	5.50	3.20	伊】大皿。唐】大皿、現川碗。瓦】黒－軒丸。	時期の特定難しい。
Ⅲ－1	3320	A-9	土坑	19C中	1.20	0.50	土】皿。伊】端反碗、広東碗、皿。唐】碗。 瀬】蓋。越】擂鉢。中】碗、小杯。	
Ⅲ－1	3322	A-9	井戸	18C後	1.00	0.80	伊】碗（くらわんか？）。	直径0.9ｍの桶を２つ重ねる。深さは1.3ｍ。下の桶には底板があり、上の桶から東に竹樋が延びる。
Ⅲ－1	3341	A-10	土坑	17C後～	4.05	0.80	土】皿（G）。瓦】赤－平・丸。	瓦多い。
Ⅲ－1	3362	E-1･10	土坑	19C中～明治	3.15	2.70	土】皿（G）、風炉。伊】筒碗、瓶、皿、蓋。 越】平鉢、鉢、擂鉢、お歯黒壺。唐】甕（タタキ）、刷毛目碗（現川）。信】鉄釉碗、鉄釉擂鉢、端反碗。瀬】端反碗、筒碗、形皿、鉢、緑釉火鉢？。陶】鍋。瓦】だるま。	
Ⅲ－1	3364	C～E-10･1	土坑	～19C中			土】皿（G､C）。軟】人形。伊】筒碗、くらわんか、大皿、色絵大皿。越】鉢、擂鉢、甕。 唐】二彩大皿、碗、斑唐津碗。信】碗。 瀬】蓋、色絵小碗。黄瀬戸大鉢。陶】土瓶。	大きい落ち込み（整地層か）。17C後のものも多い。
Ⅲ－1	3368	D-10	瓦溜	19C~近代	5.50	2.20	土】皿（K､C）。伊】碗、皿、徳利。越】甕、擂鉢。唐】二彩大皿、刷毛目碗（現川）。 信】灯明皿。瀬】施釉植木鉢。中】白磁鉢、染付皿、漳州碗。 瓦】黒－軒丸・丸・平、赤－軒丸・軒平。	
Ⅲ－1	3371	A-8	便所	19C中～明治	1.50	1.30	土】七輪（丸形）、五徳。越】鉢（逆台－深）。 京・信】皿「なんぜんじ」。瀬】形紙皿。	直径0.9ｍの桶が２つ並ぶ。
Ⅲ－1	3372	B-8･9	石列	～19C	2.40	1.90	伊】皿、碗。越】鉢。瓦】赤－軒平、だるま。	長さ0.5ｍの笏谷石が２石並ぶ。

屋敷番号	遺構番号	地　区	遺構種別	時　期	法量（単位：m）		主な遺物	備　考
					長辺	短辺		
Ⅲ－1	3373	B-9	井戸	18C後	(1.30)	(0.70)	伊】小杯、蓋、陶胎染付。	直径0.6ｍ、深さ0.6ｍの桶が残る。便所の可能性もあり。
Ⅲ－1	33171	A-9	便所？	18C後～19C前	3.75	3.20	土】植木鉢？ 伊】くらわんか鉢、碗、筒碗（手描五弁花）。越】甕、鉢、擂鉢。唐】呉器手、擂鉢。瀬】陶質緑釉植木鉢。	
Ⅲ－1	33172	A-9	ピット	18C後～19C	0.15	0.15	土】皿（G）。越】鉢、甕。信】鉢？	
Ⅲ－1	33198	A-8	土坑	18C前～後	1.15	1.10	土】皿（D）。越】鉢（17C ？）。瀬】陶胎染付、灰釉碗。瓦】黒 - 軒丸。	
Ⅲ－1	33199	A-8	土坑	18C後～			土】皿（G）。伊】碗。	
Ⅲ－1	33201	A-8	溝	19C前	(3.25)	0.40	土】皿（G）。伊】鉢。唐】ワラ灰釉大皿。	
Ⅲ－1	33202	A-8	土坑	～19C中			越】鉢（逆台）。信】白磁小碗。中】半球碗。瓦】黒 - 軒丸。唐】現川碗。	
Ⅲ－1	33238	A-8	土坑	19C中	2.10	1.00	土】皿（G）。伊】筒碗、色絵鉢。越】甕。唐】碗。瀬】陶胎染付筒碗、端反碗。陶】鉢。	
Ⅲ－1	33240	A-9	土坑	17C後～19C	1.50	1.30	土】皿（C、D）。伊】小杯（17C）。越】甕。陶】土瓶。	
Ⅲ－1	3420	B-10・1	土坑	19C～近代	2.00	0.70	土】七輪、小風炉。伊】皿、碗（二重アミ）、陶胎染付碗。越】鉢、灰釉鉢。瀬】染付蓋。瓦】だるま、黒 - 平、赤 - 平。	幕末～明治期の典型的な組成。
Ⅲ－1	3429	C-1	土坑	17C後	1.50	1.20	伊】碗（一重アミ）。唐】小坏。瓦】赤 - 軒平、黒 - 軒丸	
Ⅲ－1	3433	B-10	土坑	18C後	0.70	0.50	土】皿（G）。	
Ⅲ－1	3443	E-10	土坑	18C後～	1.10	1.05	土】皿（G）。越】擂鉢。	
Ⅲ－1	3444	E-1	土坑	18C後～	1.50	0.80	土】皿。越】鉢。唐】刷毛目碗（現川）。	
Ⅲ－1	3446	D・E-1	土坑	18C後～	(5.65)	2.20	土】皿（G- 中・小）。伊】大皿、蓋、碗、鉢、皿（砂目）、広東碗。越】甕、擂鉢（19C）、鉢。唐】斑唐津碗、呉器手。信】鉄絵碗、灯明皿。陶】土瓶。中】染付皿（16C）。	中国製品は完形品が6点出土。19C中以降のものは無い。
Ⅲ－1	3447	D-10	土坑	17C後～18C前	1.35	(0.70)	土】皿（D）。唐】二彩三島。	
Ⅲ－1	3448	D-10	土坑	17C後～18C前	1.05	0.65	土】皿（D）。伊】碗。唐】刷毛目碗。須】甕。	
Ⅲ－1	3449	D-10	土坑	17C後～18C前	1.70	1.60	土】皿（D）、焙烙。伊】香炉（17C）、瓶。越】擂鉢（三角）。唐】呉器手。信】色絵。中】染付碗？ 瓦】赤 - 軒丸。	18Cのものが混じるが、全体としては17C後の良いまとまり。
Ⅲ－1	3450	D-10	土坑	17C後～18C前	1.30	1.15	土】皿（C）。越】擂鉢（三角）。唐】大皿。瀬】黄瀬戸大鉢（17C ～）。	黄瀬戸は少し時代が降る。擂鉢は18Cのものか。
Ⅲ－1	3454	A-10	土坑	18C前			土】皿（D）。唐】刷毛目碗。	
Ⅲ－1	3458	A-9	土坑	17C～19C			伊】くらわんか碗、火入？ 越】擂鉢。唐】現川碗。信】碗。瀬】灰釉ソギ皿。	
Ⅲ－1	3459	A-9	土坑	17C後～18C前	1.35	1.10	土】皿（D）。伊】碗。軟】灯明皿。瓦】赤 - 軒丸。	
Ⅲ－1	3462	A-9	土坑	19C中			土】皿（G）。瀬】染付端反碗。	
Ⅲ－1	3467	B-10	土坑	18C～19C			唐】刷毛目碗。信】碗。	
Ⅲ－1	3472	A-10	土坑	19C中～	(4.75)	(3.90)	信】餌入れ。陶】皿。	
Ⅲ－1	3474	A-9	土坑	18C後			伊】色絵碗、陶胎染付。越】擂鉢（三角）。	
Ⅲ－1	3496	J-10	土坑	17C後～			土】皿（C- 古、C）。越】擂鉢、鉢（逆台形）。	
Ⅲ－1	3498	B-9	土坑	17C初			唐】皿（胎土目）。	
Ⅲ－1	3499	A-1	土坑	19C中～近代	2.30	1.30	土】皿（G）。唐】斑唐津大皿。信】亀甲小碗、餌入れ。瀬】赤絵小碗、端反碗、志野皿。陶】おはじきの駒。	
Ⅲ－1	34100	A-10	土坑	19C中～近代	(3.60)	(1.20)	土】皿（C- 新、D、G）。伊】壺、碗。越】擂鉢、甕。唐】刷毛目大皿。信】碗。瀬】黒織部茶碗。陶】土瓶、土鍋。	34111と重なる。
Ⅲ－1	34101	A-10	集石	17C後～19C前	(1.00)	(0.80)	土】皿（B、D、G）。伊】半球碗。越】擂鉢。唐】鉢、絵唐津大皿。瀬】半球碗。	土塀基礎3339の一部か。17C後～18C前が中心。
Ⅲ－1	34109	B-10 ～C-10・1	瓦溜	17C後（大火後）	12.00	4.00	土】皿（K- 大、C、D）。伊】碗、皿、徳利、皿（砂目）、青磁香炉。越】擂鉢（三角・丸）、壺（タイ？）。唐】青緑釉壺蓋、飴釉印花大皿、呉器手碗、刷毛目碗、飴釉徳利、壺、朝鮮唐津碗。瀬】御深井向付、志野碗。中】染付小皿、皿、青磁碗、アミカゴ形花瓶、染付合子蓋。瓦】赤 - 丸・丸（小径）・軒丸・軒平・平、黒 - 丸・平・軒平・軒丸・鬼。	軒瓦多く、鬼瓦も含まれる。赤瓦が多い。
Ⅲ－1	34110	A-10	ゴミ穴	19C中	6.00	4.70	土】皿（G）。越】擂鉢。瀬】灰釉水鉢。陶】灰釉土瓶、土鍋蓋。	17Cのものが多い。
Ⅲ－1	34111	A・B-1・10	ゴミ穴	～19C中	(3.00)	(1.30)	土】皿（G）、七輪。伊】色絵蓋、碗。越】鉢、擂鉢。瀬】志野織部瓶。陶】水鉢。	34100と重なる。

屋敷番号	遺構番号	地　区	遺構種別	時　期	法量（単位：m）		主な遺物	備　考
					長辺	短辺		
Ⅲ－1	34112	B-1・10	ゴミ穴	(17C～)19C	(3.30)	(2.10)	土】皿（C）。伊】蓋。越】鉢（逆台形）。陶】土鍋。	
Ⅲ－1	34113	B-1・10	土坑	17C～18C後	(2.60)	1.80	土】施釉人形、皿（G）。伊】碗、陶胎染付。越】擂鉢。唐】壺、擂鉢。瓦】赤 - 軒丸。	
Ⅲ－1	34114	A-10	土坑	17Ｃ初	(2.00)	1.85	土】皿（Ｃ）。越】擂鉢（三角）。唐】皿（胎土目）、天目、絵唐津皿、絵唐津大皿。信】茶壺。中】染付小坏。	伊万里なし。中国製陶磁器多い。
Ⅲ－1	34115	A-10	土坑	17C後	1.00	0.60	土】皿。	
Ⅲ－1	34116	B-10	ピット	17C後	0.65	0.60	伊】碗（一重アミ）。	
Ⅲ－1	34117	B-10	土坑	17C後	1.40	0.95	土】皿（C- 新）、土埦。伊】皿。瀬】志野碗。中】染付小坏。	
Ⅲ－1	34118	B-10	土坑	17C	0.80	0.75	越】擂鉢。	
Ⅲ－1	34119	B-10	土坑	～17C初	0.70	0.60	中】染付皿。	
Ⅲ－1	34120	C-9	土坑	17C初	0.80	0.70	唐】絵唐津大皿。瀬】天目。	伊万里なし。
Ⅲ－1	34124	A-10	土坑	19C中	(5.10)	(2.15)	土】皿（G）。伊】くらわんか碗。越】擂鉢（三角 - 溝）、甕。唐】飴釉碗。信】灯明皿。瀬】端反碗、天目（17C）、織部瓶（17C）。陶】土鍋、擂鉢。	17Cのものが混じる。
Ⅲ－1	34125	A・J-10	石組み	17C中～後	1.30	1.05	土】皿（C- 新、D、K、B）。唐】碗。中】染付皿？	
Ⅲ－1	34126	A-9	土坑	17C中～後	3.30	2.10	土】皿（C- 大・中）。伊】筒碗（古）。越】擂鉢。唐】小甕、碗、皿（砂目）、青緑釉碗、呉器手。須】甕。瀬】天目。	土師質皿多い。
Ⅲ－1	34127	A-9	土坑	17C中	0.65	0.50	越】壺。唐】溝縁皿、碗。瀬】黄瀬戸菊形皿。中】染付鉢？	伊万里が流通する前か。唐津の碗は高台施釉。
Ⅲ－1	34128	B-10	土坑	17C初	1.90	(1.60)	土】皿（C）。越】壺。唐】皿。	
Ⅲ－1	34129	B-10	土坑		(2.40)	0.60	土】皿（B）。越】甕？（無釉）。	
Ⅲ－1	34131	A-9	土坑	17C中～後	(2.30)	(1.50)	土】皿（K、C- 新）。	土師質皿のみ。
Ⅲ－1	34132	A-9	土坑	17C中～後	(1.90)	(1.05)	土】皿（K、C）。伊】碗、大皿。	
Ⅲ－1	34134	B-1	土坑	17C後	(2.50)	(2.00)	土】皿（G- 小、C- 新）。伊】碗（一重アミ）、小徳利。唐】甕（タタキ）。中】白磁碗。	
Ⅲ－1	34137	B・C-1	土坑	17C後	(4.45)	(2.70)	土】皿（C、D）。伊】碗（二重アミ）。唐】碗。瀬】志野茶碗、灰釉皿。	17C初~19Cのもの混じるが、中心は17C後。
Ⅲ－1	34138	B-1	土坑	17C前～17C後	2.50	(1.30)	土】皿（C）。越】擂鉢。唐】溝縁皿、大皿？中】染付皿？	
Ⅲ－1	34139	C-1	土坑	17C初～前	(2.20)	(1.70)	土】皿（C）。唐】大皿。瀬】天目、碗。中】染付皿。	伊万里なし。
Ⅲ－1	34141	C-1	撹乱	17C後・19C	2.00	0.70	土】皿（G）。伊】腰張碗、広東碗。唐】刷毛目碗。瀬】鉄釉碗、志野碗。信】亀甲端反碗。中】皿。瓦】赤 - 軒平、黒 - 軒平。	17C後と19Cのものが混じる。
Ⅲ－1	34144	C-10	土坑	17C後	(5.20)	(1.30)	伊】小坏。中】染付皿。	
Ⅲ－1	34146	C-10	土坑	～19C	0.70	0.60	伊】碗。中】染付碗。	
Ⅲ－1	34149	B-10	土坑	17C初～前	1.30	(0.70)	土】皿（C）。唐】絵唐津鉢。	
Ⅲ－1	34151	B-10	土坑	17C中～後	(1.80)	(1.30)	唐】水指（蓋付）。瀬】擂鉢。伊】香炉。中】染付鉢。	伊万里あり。
Ⅲ－1	34152	B-10	土坑	17C中～後	(1.00)	1.00	越】擂鉢（丸）。中】染付鉢。	擂鉢は完形で、サビ塗りあり。
Ⅲ－1	34153	C-1	土坑	17C初	(1.00)	1.00	土】皿（C）。越】擂鉢（とがり）。	
Ⅲ－1	34157	B・C-1	土坑	17C初	4.60	0.80	土】皿。唐】斑唐津碗？瀬】灰釉天目？ 中】漳州大皿。	伊万里なし。
Ⅲ－1	34158	C-10	土坑	17C初	2.70	2.50	土】皿（C、K、D- 古）。唐】飴釉大徳利、碗。越】壺。中】染付皿、小皿。南】耳付壺。	伊万里なし。
Ⅲ－1	34159	C-10	土坑	17C後	1.90	1.80	伊】腰張碗。越】擂鉢（内丸）。唐】小徳利、甕。中】青磁刻蓮鉢。	34158の遺物と混じる。
Ⅲ－1	34162	A-1・10	土坑	17C後			土】皿（C）、土埦。伊】大皿。唐】碗。瀬】天目、志野向付。中】染付碗。瓦】黒 - 軒丸。	
Ⅲ－1	34163	A-10	土坑	17C中～後	(1.45)	1.40	土】皿（C- 新・中・大、D）。唐】碗、中皿（砂目）。中】染付小杯。	
Ⅲ－1	34165	A-8	土坑	～19C中	(5.35)	0.80	土】皿（G）。伊】くらわんか碗。越】擂鉢。信】碗。瀬】端反碗、織部鉢。瓦】赤 - 軒丸。	
Ⅲ－1	34171	D-1	土坑	17C後～18C後	(6.00)	(1.75)	土】皿（K、D）、施釉皿。伊】筒碗、皿。越】擂鉢。瀬】碗、天目。瓦】赤 - 軒丸。	17C後のものが中心。
Ⅲ－1	34173	C-10	土坑	18C前	0.60	0.30	土】皿（E）。	
Ⅲ－1	34194	C-10	土坑		7.00	3.60		
Ⅲ－1	34195	C-10	土坑	17C後～18C	2.05	1.40	土】皿（C）。伊】青磁鉢？ 唐】小碗。信】碗。中】青磁（天竜寺手？）、漳州大皿。	時期の特定が難しい。

屋敷番号	遺構番号	地　区	遺構種別	時　期	法量（単位：m）		主な遺物	備　考
					長辺	短辺		
Ⅲ－1	34198	D-1・10	土坑	17C後	2.90	2.40	土】皿（K、D、C- 新）。伊】鶏形水滴、碗、小坏。瀬】御深井葉形向付、花形向付。 備】徳利。南？】施釉大壺、壺、徳利？	被災遺物有り。大火後の遺構。
Ⅲ－1	34203	D-1	井戸内	17C後	0.75	0.60	土】皿（K）。伊】碗、青磁香炉、人形、皿（砂目）。唐】朝鮮唐津小瓶、飴釉碗、瓶。	
Ⅲ－1	34203	D-1	井戸掘方	17C後	4.20	2.90	土】皿（K）。伊】碗、色絵碗。越】擂鉢（三角）。唐】大皿、呉器手。瀬】天目。	
Ⅲ－1	34204	D-1	土坑	17C後	0.70	0.50	土】皿（C- 新）。伊】白磁碗。唐】大皿。 瀬】天目。	
Ⅲ－1	34205	C-1	溝	17C後	(0.50)	0.40	土】皿（C）。伊】青磁花瓶？	
Ⅲ－1	34207	E-10	土坑	16C後～17C初	(1.20)	(1.00)	土】皿（C）。伊】小坏？信？】鉢。 瀬】天目（大窯？）。	伊万里なし。時期の特定が難しい。
Ⅲ－1	34208	D-1	土坑	16C？	2.10	1.50	越】甕。	
Ⅲ－1	34217	C-1	土坑	17C前～後	(1.60)	(1.20)	土】皿。唐】片口鉢、碗。	
Ⅲ－1	34218	C-1	土坑	17C前～後	0.90	0.80	土】皿（C）。唐】斑唐津碗（大）。	
Ⅲ－1	34219	C-1	土坑	17C初～後	(2.40)	1.10	土】皿（C）。伊】内青磁碗。 越】擂鉢（三角）。瀬】志野向付。	
Ⅲ－1	34220	C-1	土坑	～17C初	(0.90)	0.90	土】皿（C、B）。唐】碗。	
Ⅲ－1	34221	D-10	土坑	17C前～後			伊】小坏？。唐】皿。瀬】天目。	
Ⅲ－1	34222	D-10	土坑	17C前～中	2.60	1.80	土】皿（C）、焼塩壺蓋。伊】青磁四方碗。 越】擂鉢（三角）。唐】碗、皿、片口。 瀬】天目、碗。中】カブト鉢、染付碗、小坏、色絵小坏、青磁碗、呉須手鉢。	伊万里は1点のみ（初期伊万里）。残りの磁器は中国製。17C前～中の良いまとまり。
Ⅲ－1	34223	C-9・10	土坑	17C初	1.50	1.50	伊】碗。越】擂鉢。唐】斑唐津大皿。 瀬】灰釉皿、灰志野小香炉。	伊万里は混入品か。
Ⅲ－1	34240	D-10	土坑	18C後	1.90	1.25	土】皿（G）。	
Ⅲ－1	34241	C-10	石列	17C			土】皿（C）。中】白磁小坏？	
Ⅲ－1	34243	C-9	土坑	17C	1.35	0.80	土】皿（C）。	
Ⅲ－1	34245	D-1・10	土坑	17C	2.40	2.00	土】皿（C- 新、D）。伊】碗。越】擂鉢（三角）。瀬】志野丸碗、擂鉢。	
Ⅲ－1	34246	D-1	土坑	17C後	(1.50)	1.20	土】皿（K）、受皿。伊】碗。越】甕。 唐】香炉。瀬】天目。	
Ⅲ－1	34262	C-9	土坑	17C初	0.70	0.65	土】皿（C）。	
Ⅲ－1	34291	D-10	集石下	17C後	1.05	0.70	土】皿（C、K、D）、受皿。伊】皿。越】擂鉢。	
Ⅲ－1	34295	B-10	溝	17C？	(6.30)	0.60	土】皿。	
Ⅲ－1	34296	B-10	土坑	17C初	0.90	0.85	土】皿（C）。唐】碗。	
Ⅲ－1	34297	B-10	石列	18C後半～	(1.80)			
Ⅲ－1	34335	B-10	土坑	～18C前	(2.00)	(1.90)	土】皿（C、C- 古）。伊】碗（一重アミ）。越】擂鉢（三角 - 溝）。唐】碗、碗（内白 - 外黒）。 瀬】灰釉段碗、鉄釉碗。瓦】黒 - 軒丸。	
Ⅲ－1	34344	A-9	土坑	17C中～後	2.20	2.10	土】皿（C）。唐】碗。	
Ⅲ－1	34348	A-9	土坑	17C後	3.00	2.50	土】皿（K）。伊】碗、水滴、ソギ小杯。 唐】呉器手碗、皿。瀬】天目。瓦】赤 - 軒平。	土師質皿多い。
Ⅲ－1	34350	A・B-9	土坑	17C前			土】皿。越】壺。唐】天目、皿。中】染付皿。	伊万里なし。
Ⅲ－1	34373	A・B-8・9	溝	17C初	120.00	2.00	土】皿（B、C）、焼塩壺。越】擂鉢（三角溝）。 唐】皿（胎土目）、大皿、沓碗、青唐津碗。 須】坏。瀬】絵志野碗、灰釉皿、天目。 備】大徳利。中】漳州碗。	逆L字状の溝。建物跡か。伊万里なし。
Ⅲ－1	34375	B-10	集石内	17C初			越】擂鉢（三角）。瀬】天目。	
Ⅲ－1	34377	A-10	土坑（下層）	17C初	1.60	1.20	土】皿（C）。越】擂鉢（スス多量に付着）。 唐】皿（胎土目）、碗。瀬】茶入、鉄釉碗、志野大皿。中】染付碗、小杯。	17C初の良いまとまり。
Ⅲ－1	34377	A-10	土坑（上層）	17C前～中～後	1.60	1.20	土】皿（C- 中、大）。伊】碗、小碗。 越】擂鉢（三角）。唐】大皿（砂目）、碗。 信？】擂鉢（堺？）。中】染付皿。	
Ⅲ－1	34378	A-10	土坑	17C初～前	1.20	1.00	土】皿（C）。唐】碗。瀬】鉄釉碗。 中】染付碗。	伊万里なし。
Ⅲ－1	34393	A-9	ピット	17C初	0.40	0.30	土】皿（朝倉D）。越】甕。	
Ⅲ－1	34411	A-10	土坑	17C初			土】皿（C）。	
Ⅲ－1	34419	A-10	集石	17C初	(1.20)	0.65	越】擂鉢（三角）。	
Ⅲ－1	34420	A-10	土坑	17C初			土】皿（C）。瀬】天目。中】染付碗。	伊万里なし。
Ⅲ－1	34422	A-10	ピット	17C初	0.25	0.20	土】皿。越】擂鉢？	
Ⅲ－1	34423	A-10	ピット	17C初	0.40	0.40	中】染付皿。	
Ⅲ－1	34425	A-10	溜桝	17C初	0.50	0.50	瀬】茶入。	
Ⅲ－1	34444	A-9	土坑	17C初	(1.90)	1.25	土】皿（C）。越】擂鉢。唐】大皿、溝縁皿、沓茶碗。瀬】志野中皿、擂鉢。 中】染付鉢、漳州碗。	伊万里なし。1620～30年代か。

屋敷番号	遺構番号	地　区	遺構種別	時　期	法量（単位：m）		主な遺物	備　考
					長辺	短辺		
Ⅲ－1	34445	A-9	柵列？	～17C初			土】皿（C）。	
Ⅲ－1	34451	A-9	土坑	17C初～前			土】皿（C）。唐】溝縁皿、碗。 中】青磁碗、染付碗。越】擂鉢。瀬】志野皿。	伊万里なし。
Ⅲ－1	34453	A-10	土坑	17C初			土】皿（C- 大、中）。唐】斑唐津皿。	唐津の皿は胎土に特色がある。
Ⅲ－1	34454	A-10	土坑	17C初～前	0.80	0.50	唐】皿。	伊万里なし。
Ⅲ－1	34474	C-1	土坑	17C初	(1.20)	(0.50)	土】皿（C）。唐】斑唐津碗。中】染付碗。	伊万里なし。
Ⅲ－1	34475	C-1	土坑	16C末～ 17C前	1.20	(0.60)	土】皿（C- 古 - 大・中・小）。伊】碗（軟質）。 唐】甕（タタキ）。	
Ⅲ－1	34476	D-1	土坑	17C後	1.70	1.30	土】皿（C- 新）。伊】筒碗。唐】二彩大皿。 備】舟徳利。	
Ⅲ－1	34479	C-10～1	井戸		1.30	1.15		瓦溜の下層にある。
Ⅲ－1	34485	C-10	土坑	17C初～中			土】皿（C）。伊】筒碗、青磁輪花皿。越】擂鉢。唐】皿（胎土目）。中】染付皿。	伊万里あり。 土師質皿は17C後か。
Ⅲ－1	34488	A-10	土坑	～17C初	0.70	0.60	土】皿。中】白磁皿。唐】碗	
Ⅲ－1	34490	B-8	土坑	17C初			土】皿（C）。唐】朝鮮唐津。中】漳州皿。	
Ⅲ－1	34504	C-10	土坑	17C前～後			土】皿（C）。唐】壺（タタキ）。瀬】天目。	
Ⅲ－1	34523	C-1	土坑	16C末～ 17C初			土】皿（C- 古）。唐】絵唐津碗、飴釉瓶。 瀬】天目（大窯後）。	
Ⅲ－1	34548	B-10	土坑	17C初～前			土】皿（C）。越】擂鉢。瀬】天目。 中】染付皿？	伊万里なし。
Ⅲ－1	34704	D-1	ピット	17C？	0.30	0.30	土】皿。	
Ⅲ－1	34716	D･E-1	ピット	17C後			土】皿（C- 新）。	
Ⅲ－1	34721	D-10	土坑		0.90	0.80		
Ⅲ－1	34727	C-9 ～ D-10	土坑	17C初～中	(7.40)	0.75	土】皿（C）。伊】碗。越】擂鉢（三角 - 溝）。 瀬】天目。	
Ⅲ－1	34728	D･E-10	溝	17C前～後	(6.90)	0.90	土】皿（C- 新）。唐】白唐津碗？、片口鉢。	

第 27 表　屋敷地Ⅲ－２遺構観察表

屋敷番号	遺構番号	地　区	遺構種別	時　期	法量（単位：m）		主な遺物	備　考
					長辺	短辺		
屋敷地境	3336	A-1～10	溝	18C後～ 19C中	(17.00)	(1.05)	土】皿（G）。伊】八角鉢、鉢、白磁香炉。唐】 壺（17C ？）。陶】薄手徳利。中】青磁稜花皿、青緑釉皿。瓦】黒 - 桟？（印あり）。	
屋敷地境	3414	B-1	溝･石列	17C、19C	(2.85)	0.55	土】皿（C）、七輪、七輪さな。伊】大鉢（雉絵）、陶胎染付、鉢、碗。越】壺、擂鉢（丸）。 唐】絵唐津大皿、呉器手碗。信】碗。 陶】碗、鉄釉土鍋。中】漳州赤絵鉢。 瓦】黒 - 平、だるま	屋敷地境溝3425の南半分。 2期に分かれる。
屋敷地境	3425	C･D-2	溝	～19C中	(32.50)	(1.70)	土】皿（G）、施釉鉢。伊】大皿。越】擂鉢、甕。 信】柄杓、人形頭部。瀬】碗、蓋。 陶】土瓶、徳利、蓋。瓦】だるま。	一度に埋められている。
Ⅲ－2	3337	A-1	土坑	17C後、 19C中	(2.85)	(2.30)	土】皿。伊】広東碗、碗（17C 後）。 唐】呉器手。信】白磁小碗。	17C後～ 18C前のものが中心。
Ⅲ－2	3338	A-1	土坑	～18C前	(4.90)	(2.45)	土】皿（D、C- 浅）。伊】碗（17C）。	
Ⅲ－2	3340	A-1	土坑	17C後～	1.20	0.80	伊】碗。越】擂鉢。瓦】赤 - 平。	
Ⅲ－2	3407	C-2	土坑	（17C後） 19C前	(2.80)	2.15	土】皿（G、G- 赤漆）。伊】半球碗、筒碗、大皿、碗（17C）。越】甕、壺、擂鉢。唐】刷毛目碗（薄）。信】碗、灯明皿。瀬】色絵広東碗、腰サビ碗。陶】土瓶、長与三彩？花瓶、水鉢。中】染付碗。	17C後のものが混じる。端反碗はない。
Ⅲ－2	3421	F-3	集石	18C前～19C	0.60	0.50	土】皿（D）。越】甕、擂鉢。唐】刷毛目大皿。 瀬】筒碗。	
Ⅲ－2	3422	C-2	土坑	19C中	3.40	3.10	伊】鉢、広東碗、大皿、菊形鉢。越】擂鉢、鉢。 唐】刷毛目片口鉢、斑唐津大皿。信】端反湯飲、大徳利。瀬】端反碗、尿瓶。陶】植木鉢、土鍋蓋、鉄釉土鍋。備】徳利？ 瓦】だるま、黒 - 平、赤 - 丸・軒丸・平・軒平。	幕末～明治期の典型的な組成。
Ⅲ－2	3424	C･D-2	ゴミ穴	～19C中	(5.45)	2.45	土】皿（G）。伊】碗、皿、くらわんか碗。 越】壺、鉢（逆台形）。唐】二彩鉢。信】湯飲（亀甲カット）。瀬】天目、織部向付。 瓦】黒 - 平、赤 - 軒丸・丸・平。	
Ⅲ－2	3428	B-1	土坑	（17C後～） 近代	2.80	(1.30)	信】鉄釉碗。瀬】小植木鉢、徳利？ 瓦】赤 - 軒平、黒 - 丸。	
Ⅲ－2	3431	F-3	土坑	19C中	2.20	0.65	土】皿（G、D）。越】鉢（逆台形）、擂鉢。 唐】刷毛目大皿。瀬】小坏（上絵）。 中】青磁碗。瓦】赤 - 平・丸、黒 - 丸。	

屋敷番号	遺構番号	地　区	遺構種別	時　期	法量（単位：m）		主な遺物	備　考
					長辺	短辺		
Ⅲ－2	3434	A-1	土坑	(17C後～) 19C前	(4.00)	(1.50)	土】皿（D- 大）。伊】半球碗、色絵油壺。 唐】大皿。瀬】腰サビ碗、志野菊皿。 瓦】赤 - 棟・平・丸、黒 - 平・丸。	瓦多い。
Ⅲ－2	3439	B-1	石列	19C	2.10	0.60	伊】半球碗。越】壺。唐】呉器手碗。 瓦】赤 - 軒丸。	近代の遺構か。
Ⅲ－2	34103	B-1	土坑	19C～近代	(2.30)	1.10	土】皿（G）。伊】碗、油壺。越】擂鉢。 陶】土鍋。中】形角皿、碗。	
Ⅲ－2	34104	A･B-1	土坑	18C後			土】皿。伊】半球碗。越】壺。中】染付皿。	越前の壺は朝倉期のもの。
Ⅲ－2	34105	B-1	土坑	18C後～ 19C	2.30	(1.60)	土】皿（D、C）。伊】くらわんか碗、半球碗、ソバ猪口。越】擂鉢（三角 - 溝、丸）。 唐】刷毛目蓋（現川）、碗、擂鉢。信】碗。 瀬】天目（連房）。瓦】赤 - 軒丸。	17C後のものも多い。
Ⅲ－2	34106	B-1	土坑	17C後～ 19C中			土】皿（C）。伊】碗、半球碗。 越】小壺、擂鉢（三角）。唐】呉器手、青緑釉皿、刷毛目碗（現川）、斑唐津小徳利。 瀬】端反碗。備】徳利。	
Ⅲ－2	34107	A-1	井戸	～ 19C	1.70	1.70	伊】皿。越】擂鉢。唐】青唐津皿。 瀬】灰釉碗？ 中】白磁碗（玉縁）。	直径0.7ｍ、深さ1.2ｍの桶が残る。底板に直径5cmの穴がある。
Ⅲ－2	34108	A-1	ゴミ穴	～ 18Ｃ前			土】皿（D、K）。伊】香炉。唐】青緑釉皿。	
Ⅲ－2	34136	B-1	土坑	17C初～前	(3.65)	(0.75)	土】皿（C）。伊】碗。越】擂鉢、甕。唐】片口、皿。瀬】鉄釉碗、織部碗。中】漳州皿、碗、飴釉碗、耳付壺。	伊万里が混じる（17C中～後）。瀬戸・漳州窯の製品あり。
Ⅲ－2	34138	B-1	土坑	17C初～ 17C後	1.20	1.20	土】皿（C、E）。唐】碗。越】擂鉢。 唐】溝縁皿、大皿？ 中】染付皿？	
Ⅲ－2	34168	C-1	土坑	～ 17C初	(2.90)	(2.00)	土】皿（C- 古）。唐】大皿。中】染付碗。	伊万里なし。
Ⅲ－2	34196	C-2	土坑	17C初～後	1.55	1.50	土】皿（C）。伊】大皿、碗、広東碗、青磁碗。 越】甕、お歯黒壺。唐】絵唐津皿、大皿、青唐津皿、溝縁皿（胎土目）、飴釉碗。 信】四耳壺。瀬】天目（連房）、志野茶碗。 中】染付碗、鉢。	伊万里は初期のものが多い。 絵唐津（17C初）も多いが、唐津の飴釉碗（17C後）も混じる。
Ⅲ－2	34197	C-2	土坑	17C初～ 19C	4.20	2.70	土】皿（C- 大々・中・小）。伊】皿（17C）、碗（17C）。越】擂鉢（三角）。唐】灰釉碗、サビ釉天目、碗（現川）、絵唐津皿、溝縁皿、呉器手。須】甕。瀬】志野皿、天目。 中】染付碗。	幅広い時期のものが混じる。 上層は19C、下層は17C初か。
Ⅲ－2	34206	C-1 D-1	土坑	17C後	(2.90)	1.80	土】皿（D、K）。伊】碗。唐】呉器手。瀬】御深井。備】小瓶。李】堅手碗。瓦】赤 - 軒平。	
Ⅲ－2	34209	D-1	土坑	17C後	(3.15)	0.60	土】皿（D）。唐】呉器手、飴釉碗、青唐津碗。 中】染付小坏。	
Ⅲ－2	34214	C･D-1･2	土坑	17C後～ 18C前	(2.35)	(2.20)	土】皿（D、G、K）。伊】青磁皿、碗。 越】甕、擂鉢。唐】斑唐津大徳利、刷毛目碗。 瀬】織部徳利、鉄釉碗。	18C後のもの混じる。
Ⅲ－2	34235	B-1	土坑	18C後～	(1.80)	0.80	伊】筒碗、陶胎染付。越】擂鉢。	
Ⅲ－2	34236	B-1	土坑	18C後	(1.90)	0.65	伊】陶胎染付。唐】刷毛目絵唐津碗。 信】碗。瀬】灰釉鉢。陶】蓋。瓦】赤 - 軒丸。	
Ⅲ－2	34237	C-1	土坑	17C初～ 17C後	(3.00)	1.75	土】皿（C、D）。伊】皿（砂目）、碗。越】擂鉢。 唐】溝縁皿、碗、徳利。瀬】天目。 中】染付碗、白磁鉢。	
Ⅲ－2	34239	C･D-1	溝	17C後	(9.55)	2.05	伊】青磁火入、青磁鉢。土】皿（C）。 唐】呉器手。	屋敷地境溝か
Ⅲ－2	34357	D-2	溝	17C後	(3.30)	(0.65)	土】皿（D）。伊】蓋。唐】二彩甕。	
Ⅲ－2	34358	C･D-2	土坑	17C初	(2.00)	0.80	唐】碗。中】青磁鉢。	
Ⅲ－2	34481	C-2	土坑	～ 17C初	(2.00)	(1.70)	土】皿（C- 古 - 大）。唐】碗。	
Ⅲ－2	34483	C-1	土坑	17C後	2.30	2.10	唐】斑唐津碗、飴釉把手。中】染付皿。	
Ⅲ－2	34534	C-2	土坑	19C ～近代	1.10	1.10	越】鉢。唐】片口鉢。陶】緑釉輪花鉢。	
Ⅲ－2	34701	D-1	ゴミ穴 （上層）	17C後	(5.70)	(2.80)	土】皿（C- 新）。越】擂鉢（三角）。唐】碗。 瀬】鉄釉碗（大・中）。	
Ⅲ－2	34701	D-1	ゴミ穴 （中･下層）	17C前～中	(5.70)	(2.80)	越】擂鉢（三角）。唐】片口鉢、碗、絵唐津皿。 瀬】志野磁器写皿。中】染付碗。	
Ⅲ－2	34702	D-2	ゴミ穴 （上層）	17C中～後	(4.80)	3.75	土】皿（C- 新）。伊】ソギ碗、小坏、碗、筒碗、小徳利、香炉。唐】舟徳利（タタキ）、碗、斑唐津鉢？、二彩大皿。瓦】黒 - 軒丸。 瀬】天目、鉄釉碗。中】染付碗、小坏。	瀬戸の天目・中国製品多い。古伊万里含む。土師質皿はC-新のみ。
Ⅲ－2	34703	E-1･2	ゴミ穴	17C後	4.00	1.95	土】皿（C）。伊】碗。越】擂鉢。唐】碗。 瀬】灰釉香炉、灰釉鉢、天目。中】染付皿。	
Ⅲ－2	36049	D-2･3	溝	～ 19C中	(4.50)	0.65	土】皿。伊】碗。瀬】小碗？	
Ⅲ－2	36076	D-E-1･2	土坑	17C後	(4.00)	(4.00)	土】皿（D、C）。伊】腰張碗、筒掛茶入。	
Ⅲ－2	36161	D-2	土坑	17C後	4.10	2.75	土】皿（C- 新、K）。伊】碗（一重アミ）。 唐】擂鉢、刷毛目大皿、鉄釉碗。瓦】黒 - 平。	伊万里碗多い。陶器ほとんどなし。

屋敷番号	遺構番号	地　区	遺構種別	時　期	法量（単位：m）		主な遺物	備　考
					長辺	短辺		
Ⅲ－2	36162	D-2	土坑	17C後（19C）	（1.55）	0.90	伊】仏飯器、碗、半球碗。越】鉢（逆台形）。瓦】黒 - 平、赤 - 平・丸。	19Cのもの混じる。

第 28 表　屋敷地Ⅲ－３遺構観察表

屋敷番号	遺構番号	地　区	遺構種別	時　期	法量（単位：m）		主な遺物	備　考
					長辺	短辺		
屋敷地境	3410	E・F-2	石列・溝	19C中	（14.50）	1.80	土】皿（G、D）。伊】小碗、くらわんか碗。越】お歯黒壺、擂鉢、鉢。唐】刷毛目碗。瀬】筒碗、半球碗、灰釉水鉢。陶】土瓶。中】漳州大皿。瓦】赤 - 平・丸・軒丸、黒 - 平・丸、だるま。	屋敷地Ⅲ-3の南・東境。土塀基礎か。
屋敷地境	3412	F-3	溝（下層）	17C後～	（17.50）	0.50	土】皿。越】壺。唐】刷毛目皿、青緑釉碗。	屋敷地Ⅲ-3と４の境溝。
	3412	F-3	溝（上層）	19C中	（17.50）	0.50	土】皿（G）。越】鉢。瀬】灰釉鉢。陶】土瓶。瓦】赤 - 平・丸。	
屋敷地境	3346	I-3	石列	～19C中	（5.00）	0.50		屋敷地Ⅲ-3の北境。土塀基礎か。
屋敷地境	33134	I-4	石列	～19C中	（2.00）			屋敷地Ⅲ-3の北境。土塀基礎か。
屋敷地境	36069	H-4	土塀基礎	～19C中	（2.20）	1.70		屋敷地Ⅲ-3の北境。内側に溝が付く。
Ⅲ－3	Ⅲ3 - 1	I-3	建物	18C	3.40	（1.50）		溝の中に根石がある。
Ⅲ－3	Ⅲ3 - 2	G-3	柱穴列	17C後～18C前	9.50			36146 を基点に西へ 9m にわたって延びる。
Ⅲ－3	Ⅲ3 - 3	I-3・4	門	16Ｃ末～17Ｃ初	4.00	1.70		36097 他の柱穴で構成。間口 4m。
Ⅲ－3	3344	G-4 H-4	土坑	～19C中	（3.50）	（1.60）	土】皿（G、D）。伊】碗（コンニャク）、陶胎染付、半球碗、青磁鉢、青磁香炉、鶏形水滴、青磁大皿、色絵中皿。越】擂鉢（丸、三角）、甕、小壺。唐】二彩大鉢、刷毛目碗、磁質（白土）碗。信】碗、鉄釉油差。瀬】碗、ヨロイ手碗。備】徳利。中】染付中皿。	端反碗等が含まれ新しい様相を示す。17C後半のものも多く混じる。
Ⅲ－3	3345	F-1	土坑	17C後～19C前	（3.15）	1.95	土】皿（G）。伊】色絵碗、碗（一重アミ）、角皿（17C）、陶胎染付。越】甕、擂鉢。唐】呉器手。瀬】陶胎染付広東碗、腰サビ碗。瓦】黒 - 平。	17Cのものが多い。
Ⅲ－3	3347	G-3	土坑	17C後	0.80	0.70	土】皿（C、D）。伊】皿。唐】皿、大皿、甕（タタキ）、飴釉碗、斑唐津小壺。	
Ⅲ－3	3353	G-3	土坑	～19C前	1.85	1.20	土】皿（G）。伊】くらわんか碗、色絵小坏。越】鉢（ロクロ）。唐】青緑釉皿。信】茶壺。	完形の土師質皿が大量に出土。
Ⅲ－3	3355	H-3	土坑	19C中	（3.05）	（2.00）	土】皿（G）。伊】筒碗、碗（二重アミ）。越】甕、鉢、擂鉢。唐】蛇蝎唐津碗？信】サビ釉碗。瀬】ヨロイ手碗、壺。	
Ⅲ－3	3357	G-1～2	集石	17C（19C）	（6.10）	（2.85）	土】皿（C）、焼塩壺、土埦。伊】瑠璃釉八角皿、皿、碗。越】甕、擂鉢（三角）。唐】絵唐津皿。瀬】黒織部茶碗。中】染付皿	17Cのものが中心。被災遺物混じる。19Cのものは混入品か。
Ⅲ－3	3358	G・H-3・4	土坑	～19C中	4.00	（3.00）	土】皿（G）。伊】くらわんか碗、筒碗、蓋、半球碗。越】鉢、擂鉢（三角、巻）、甕。唐】青唐津碗。信】煎じ碗。瀬】天目、ヨロイ手碗、染付壺？、皿？（しぼり手風）。中】染付小坏、青磁稜花皿。	土師質皿多い。
Ⅲ－3	3359	H-4	土坑	17C～19C	2.00	7.10	土】皿（G、C、D、C-K）。伊】小碗、陶胎染付。越】鉢（カメ形）、擂鉢（三角、三角 - 溝）。唐】皿。瀬】天目。中】染付皿。	
Ⅲ－3	3363	E-10	土坑	～19C中	2.00	1.20	土】皿（G）。伊】碗。信】鉢（逆台形）。瀬】湯飲。瓦】だるま。	
Ⅲ－3	3365	F-1	土坑	～19C	7.20	2.00	土】皿（G）、七輪？。伊】半球碗、蓋、皿、水滴。越】鉢、擂鉢。唐】呉器手。瀬】半球碗。陶】土瓶。瓦】だるま、黒 - 軒丸。	3408と同一か。
Ⅲ－3	33104	H-4	土坑	18C後	1.45	（0.95）	土】皿（G、D）。伊】くらわんか碗、筒碗（コンニャク）。唐】擂鉢。信】碗。瀬】鉄釉皿。中】白磁軟質小坏。	
Ⅲ－3	33105	H-4	土坑	17C後	（2.45）	（1.50）	土】皿（C）。伊】外鉄釉碗、青磁碗？越】甕、擂鉢（三角）。唐】青唐津皿、飴釉碗。須】甕。瀬】天目。中】染付小坏。	
Ⅲ－3	33106	H-4	土坑	17C～18C	0.95	0.80	土】皿（C、D ？）。	
Ⅲ－3	33107	I-3	土坑	17C後	1.30	（1.05）	土】皿（D）。伊】瓶（17C）。越】甕。	土師質皿が大半を占める。
Ⅲ－3	33109	I-3	土坑	16C後～17C中	1.50	1.00	土】皿（C、G、C-K）。唐】徳利。瀬】天目、鉄釉瓶、黄瀬戸鉢。中】白磁軟質小坏。	19Cのものが混じる。
Ⅲ－3	33110	I-3	ピット	17C～19C	0.50	0.40	土】皿（C、G）。伊】大皿、半球碗。越】擂鉢、甕。瀬】織部筒向付。陶】灰釉碗。	

屋敷番号	遺構番号	地　区	遺構種別	時　期	法量（単位：m）		主な遺物	備　考
					長辺	短辺		
Ⅲ－3	33112	I-3	土坑	17C後～18C前	1.00	0.80	土】皿（C ？）。越】甕。	
Ⅲ－3	33119	H-2	ピット	16C後～18C？	0.40	0.35	土】皿（C ？）。越】擂鉢（丸）。瀬】碗、灰釉皿。中】白磁端反皿。	
Ⅲ－3	33120	H-2	ピット	17C初～後	(0.80)	0.60	伊】碗。越】擂鉢（三角）。唐】青唐津碗。	
Ⅲ－3	33124	H-2	溝？	16C後	1.45	0.30	土】皿（C-古）。中】青磁碗？	
Ⅲ－3	33125	H-2	石列	18C	1.20	0.80		
Ⅲ－3	33129	H-2	ピット	17C	(0.60)	0.35	土】皿（A、C）。越】甕。	
Ⅲ－3	33132	G-4	土坑	17C後	1.05	(0.90)	土】皿（C）。伊】白磁菊皿。	
Ⅲ－3	33133	I-3	土坑	17C初～前	1.70	1.60	土】皿（C）。唐】青唐津皿。	
Ⅲ－3	33135	H-2・3	ピット	17C中～後	0.55	0.40	土】皿（C-新）。唐】白唐津大皿（内野山）。	
Ⅲ－3	33136	H-2	ピット	17C後	0.45	0.40	土】皿（C-新）。伊】腰張碗。越】擂鉢（三角）。唐】飴釉碗。	17C後の典型的な組成。
Ⅲ－3	33137	H-3	井戸	～19C中	0.70	0.60	土】皿（G）。伊】大皿。信】端反碗（貫入）。瀬】小碗。	直径0.7ｍ、高さ1.9ｍの桶が一段残り、下には石積みの井戸側がある。
Ⅲ－3	33138	G-3 H-3	井戸掘方	17C初～後	4.60	2.70	土】皿（C、G）。伊】外青磁碗（古）、皿、碗（一重アミ）。越】甕、擂鉢（三角）。唐】刷毛目大皿、斑唐津碗、呉器手。瀬】小碗、飴釉瓶、天目、鉄釉皿。丹波？】サビ釉徳利。中】漳州赤絵皿。	古伊万里、漳州窯の赤絵等優品が多いが、少し新しいものも混じる。
Ⅲ－3	33139	G-3	土坑	18C前？	1.20	(0.65)	土】皿（C ？）。唐】京風碗（新）。	
Ⅲ－3	33140	H-3	土坑	17C後	1.00	0.25	土】焙烙。伊】腰張碗、皿。越】擂鉢。唐】呉器手。瀬】天目、小坏。	
Ⅲ－3	33210	H-3	土坑	17C後～18C前	0.90	0.60	土】皿（D）。伊】碗。唐】刷毛目碗。	
Ⅲ－3	33211	H-2	ピット	～18C前	0.35	0.20	土】皿（C-新？、D ？）。越】擂鉢。	
Ⅲ－3	33212	H-2	ピット	17C初	0.50	0.40	土】皿（C-古）。唐】斑唐津小徳利。瀬】灰釉折縁皿。	唐津あり。
Ⅲ－3	33213	G-2	土坑	17C前～中	1.15	1.00	土】皿（C）。伊】碗。越】擂鉢（三角）。唐】皿（胎土目、砂目）。瀬】志野碗、天目。中】染付碗、鉢。	伊万里古い。
Ⅲ－3	33214	H-2	土坑	17C初～17C後	(1.40)	(1.05)	土】皿（C）。伊】鉢？、菊形皿。越】甕、擂鉢（三角）。唐】皿、碗。瀬】灰釉菊皿。	伊万里あり。
Ⅲ－3	3408	E・F-1・2	ゴミ穴	19C中	(12.00)	(5.00)	土】皿（B、C、D、G）。伊】徳利、瓶、青磁大皿、葉形皿、大香炉、小碗、広東碗、色絵碗。唐】呉器手碗、京風碗、緑釉碗、甕（ロクロ）、大皿、大鉢。瀬】広東碗、半球碗、筒碗、形物皿、緑釉瓶、水鉢、鉄釉油壺、陶胎染付。備】徳利。中】染付皿、碗、漳州皿、小杯。陶】土鍋、土瓶、鉄釉徳利。	陶磁器が大量に出土。明治期直前のもの。
Ⅲ－3	3426	F-2	土坑	～19C	(1.50)	(1.30)	土】皿（G）。伊】碗（コンニャク）。瀬】皿。瓦】黒-平。	
Ⅲ－3	36001	I-3	土坑	17C？	1.35	1.10	土】皿（G ？）。	
Ⅲ－3	36002	H-3	土坑	17C後～18C後	1.80	0.70	土】皿（C）。伊】くらわんか碗。瓦】赤-軒丸。唐】サビ釉碗。緑】皿。	
Ⅲ－3	36003	H-3	土坑	17C後～18C	(1.60)	(1.50)	土】皿（C）、瓦質火鉢？ 伊】ソギ小坏、皿、陶質（白土）油瓶。越】擂鉢（三角、19C）、壺。唐】瓶。瀬】茶入底？	越前擂鉢は混入品か。
Ⅲ－3	36004	H-3	ピット	17C後～18C前	0.45	0.40	土】皿（C-新、D ？）。伊】皿（見込蛇目）、碗（被災）。唐】青緑釉碗。	
Ⅲ－3	36005	H-3・4	土坑	17C後	0.80	0.70	土】皿（C-新）。伊】碗？ 越】擂鉢。唐】瓶。中】染付碗。	
Ⅲ－3	36006	H-4	土坑	19C中	0.90	0.80	土】皿（G）。越】甕。信】碗。瀬】ヨロイ手碗。	
Ⅲ－3	36007	H-4	土坑	18C後	2.10	1.10	土】皿（G、D）。伊】碗（二重アミ）、陶胎染付。越】甕。	
Ⅲ－3	36008	H-4	土坑	17C後～18C後	2.40	1.90	土】皿（G、C-新）。伊】染付碗、陶胎染付筒碗。唐】皿（胎土目）、青唐津小坏、飴釉瓶、呉器手瓶。信】煎じ碗。瀬】灰釉碗（17C）、灰釉御深井小碗。備】大平鉢。中？】青磁碗。	17C後のもの多く混じる。
Ⅲ－3	36010	F-1	土坑	17C後	2.10	1.45	土】皿（D）。伊】皿、腰張碗。越】擂鉢。唐】刷毛目碗、擂鉢。	唐津の碗（18C）は混入品か。
Ⅲ－3	36012	I-3	土坑	17C中～後	(1.55)	1.50	土】皿（C-新）。	
Ⅲ－3	36015	I-3	土坑	16C後	1.80	0.40	土】皿。越】擂鉢。瀬】灰釉反皿。	
Ⅲ－3	36016	F-2	土坑	19C	(2.00)	(0.70)	土】皿（G、D）。伊】腰張碗、くらわんか碗。越】擂鉢。信】碗、灯明皿。	
Ⅲ－3	36017	F-2	土坑	19C	0.70	0.50	土】皿（G）。伊】色絵皿、碗。信】碗。	

屋敷番号	遺構番号	地　区	遺構種別	時　期	法量（単位：m）		主な遺物	備　考
					長辺	短辺		
Ⅲ－3	36018	I-3	土坑	16C～17C	2.00	(1.10)	越】甕、擂鉢。	
Ⅲ－3	36022	G-2	炉	17C後	0.60	0.75	土】皿（D）。 唐】皿（砂目）、呉器手、飴釉碗。	被熱した凹みの両側に焚口の一部と考えられる石が立つ。
Ⅲ－3	36023	G-3	炉	17C後	0.60	0.60		
Ⅲ－3	36024	G-2	土坑	17C後	0.60	0.60	土】皿（D）。唐】皿（砂目）、呉器手。	
Ⅲ－3	36026	F-3	土坑	17C後～18C前（大火後）	(1.80)	(1.40)	土】皿（B、D）、瓦質獣脚、七輪。 伊】皿（蛇目）、碗、陶胎染付碗（古）。 越】擂鉢、壺、甕。唐】呉器手、京風碗。 瀬】灰釉丸皿、天目、鉄釉碗。備】徳利。 中】青磁碗、漳州碗。瓦】赤－軒丸。壁土。	土師質皿種類多い。天目多い。伊万里陶胎染付碗は古い。
Ⅲ－3	36027	F･G-3	井戸	19C～明治	0.70	0.60	土】皿（G）。伊】半球碗（矢羽）、鉢（盃洗？）、瓶。唐】呉器手、三島唐津碗。瀬】陶胎染付半球碗、染付端反碗、色絵端反碗、灰釉折縁皿、白磁火鉢。陶】土瓶、土鍋（飛カンナ）。 中】青磁盃台？瓦】赤－軒丸、だるま。	
Ⅲ－3	36028	F-3	土坑	18C前	(1.25)	(1.00)	土】皿（D）。伊】猪口、色絵大皿。 越】甕。唐】三島唐津碗、二彩大皿。	
Ⅲ－3	36031	F-3	土坑	17C後～18C前	(1.60)	(1.21)	土】皿（C-新）。伊】半球碗（17C）。 越】甕。唐】呉器手。信】小坏。	
Ⅲ－3	36032	F-2	土坑	17C後～18C前	(2.40)	0.90	土】皿（D）。伊】腰張碗、鉢、皿（蛇目）。 唐】呉器手。信】茶壺。	土師質皿が大量に出土し、完形品が多い。
Ⅲ－3	36033	F-2	土坑	19C	1.05	0.25	信】灰釉鉢（唐津風）。	
Ⅲ－3	36034	F-3	土坑	16C末（19C）	(1.30)	1.00	土】皿（C）。伊】くらわんか碗、半球碗。 瀬】鉄釉筒碗（大窯）、灰釉皿。	
Ⅲ－3	36036	F-2	土坑	17C後～18C前	1.00	0.80	土】皿（D）。伊】小碗、色絵碗（雨ふり文－古）、碗。唐】碗、皿（胎土目）。 瀬】志野筒向付。備】小壺。	
Ⅲ－3	36037	F-2	土坑	17C後	4.00	3.50	土】皿（C）。伊】腰張碗、碗（一重アミ）、皿。 唐】刷毛目大皿。	
Ⅲ－3	36043	F-2･3	土坑	19C	0.70	0.50	土】皿（G）。伊】半球碗。信】端反碗（貫入）。 瀬】八角皿。陶】益子風瓶。	
Ⅲ－3	36044	F-3	土坑	18C後	2.40	1.80	土】皿（G）。伊】青磁碗、陶胎染付。 越】擂鉢（三角）、中甕。唐】呉器手、刷毛目碗（現川）、香炉。瓦】だるま。	
Ⅲ－3	36045	H-3	土坑	17C後～	0.60	0.60	土】皿（C-新？）。	
Ⅲ－3	36046	H-3	集石	17C後	0.50	0.50	土】皿（C-新）。伊】碗。越】擂鉢（三角）、甕。 唐】青唐津皿。	
Ⅲ－3	36048	F-2	土坑	18C後～19C前	0.80	0.70	土】皿（G）。伊】半球碗。	
Ⅲ－3	36050	F-2	土坑	19C	1.25	0.85	土】皿（D、G）。伊】青磁小碗？、小半球碗。 唐】呉器手。瀬】陶胎染付半球碗。	土師質大々皿は中世のものか。
Ⅲ－3	36051	F-2	土坑	19C	(0.75)	0.50	土】皿（G）。伊】筒碗、水滴。信】鉄絵碗。	
Ⅲ－3	36052	H-3	土坑	17C初～前	1.10	0.60	土】皿（C）。越】擂鉢。唐】青唐津碗、斑唐津皿、絵唐津四方皿、三島唐津皿、擂鉢。 瀬】志野小碗。中】染付碗、小坏。	伊万里なし。唐津と瀬戸および中国製品で占める。土師質皿多い。
Ⅲ－3	36053	H-4	土坑	17C前～後	(3.60)	1.80	土】皿（C）。伊】二彩アミ碗、碗。 越】擂鉢（三角）。唐】飴釉碗、碗（砂目）、呉器手。瀬】鉄釉碗、灰釉皿、天目（大窯？）。 中】漳州大皿、染付鉢？	17C前のものも混じるが、伊万里等から17C後の様相を示す。
Ⅲ－3	36054	G･H-4	土坑	17C後	3.80	(3.50)	土】皿（C、D）。伊】碗（「大明」外青内白）。 越】擂鉢。唐】呉器手碗、飴釉片口、堅手風天目、サビ釉舟徳利。 瀬】天目、灰釉皿。中】染付小坏。	伊万里あり。瀬戸の灰釉皿多い。土師質皿も多い。茶陶が多く含まれる。
Ⅲ－3	36055	G･H-4	土坑	17C後～18C前	(1.05)	(1.05)	土】皿（C-新－中・小、D？）。 伊】青磁香炉、小碗、鉢、碗。越】擂鉢。 唐】呉器手、京風碗。瀬】天目、灰釉皿。	
Ⅲ－3	36057	F･G-2	土坑	19C前	1.30	0.70	土】焙烙、皿（G）。伊】ソバ猪口、碗。	
Ⅲ－3	36058	F-3	土坑	～18C前	(0.90)	0.45	土】皿（C）。伊】碗（17C）。唐】青緑釉皿。	
Ⅲ－3	36059	F-3	土坑	18C後～19C前	1.35	(1.10)	土】皿（施釉ロクロ）。越】小擂鉢。 唐】大皿。	
Ⅲ－3	36061	H-4	土坑	17C後	1.80	1.20	土】皿（D、C-新）。伊】碗（一重アミ）。 越】擂鉢。唐】碗。信】色絵小碗。	
Ⅲ－3	36062	I-3	焼土	17C初	0.15	0.15	土】皿（C）。唐】片口鉢、碗。 瀬】黄瀬戸？、鉄釉碗。中】染付皿。	伊万里なし。
Ⅲ－3	36063	G-2	土坑	19C	0.80	0.25	伊】仏飯器。信】土瓶（灰釉鉄絵）。	
Ⅲ－3	36064	G-2	ピット	～19C中	0.50	0.30	伊】碗。瀬】刷毛目平碗、ヨロイ手碗。	
Ⅲ－3	36065	G-2	ピット	18C後	0.45	0.30	越】小壺（ロクロ）。	
Ⅲ－3	36066	G-2	土坑	～19C前	0.70	0.40	伊】筒碗、小坏。	
Ⅲ－3	36067	F-2	溝	17C後～18C前	(1.20)	0.30	越】甕。	

屋敷番号	遺構番号	地　区	遺構種別	時　期	法量（単位：m）		主な遺物	備　考
					長辺	短辺		
Ⅲ－3	36068	G-2	ピット	19C	0.40	0.40	土】皿（G）。伊】碗。	
Ⅲ－3	36070	F-2 G-2	土坑	18C後～19C	0.65	0.55	越】甕、中壺（ロクロ）、小壺。	
Ⅲ－3	36074	F-2・3	ピット	～19C	0.50	0.40	土】皿（G、D）。伊】菊絵皿。 越】擂鉢（19C）。唐】絵唐津皿。	
Ⅲ－3	36075	F-3	ピット	18C後～19C	0.30	0.30	土】皿（C、D）。伊】仏飯器、陶胎染付。 越】擂鉢（三角）。瀬】小碗？	
Ⅲ－3	36076	E-2	土坑	17C後	3.90	1.90	土】皿、瓦質風炉。伊】皿、鉢、碗、小坏（菊）、天目ソギ碗、鶏形水滴。越】擂鉢。唐】呉器手大皿、刷毛目碗（薄）、二彩大皿、絵唐津大皿、瓶、擂鉢。瀬】美濃伊賀花瓶？ 備】大平鉢。中】染付皿。南？】四耳壺。瓦】赤－平・丸・軒平・軒丸。	寛文大火後の遺構。呉器手含む。上・下層で土師質皿の形式違う（上層D3、下層C-新）。
Ⅲ－3	36077	F-3	ピット	17C後～ 18C前	(0.60)	0.60	土】皿（C、D）。唐】皿（砂目）、京風（高台施釉）。信】壺？ 備】小瓶。	
Ⅲ－3	36081	F-3	土坑	17C後～ 18C前	(2.80)	(2.50)	土】瓦質ツバ付火鉢、皿（C、D）。 伊】小碗、碗、陶胎染付、大皿。越】擂鉢、甕。 瀬】黒織部沓茶碗。備】徳利（イモ）。	時期の特定難しい。
Ⅲ－3	36082	F-2	土坑	17C後～18C前	1.00	0.50	土】皿（D）。伊】腰張碗。唐】絵唐津皿。	
Ⅲ－3	36084	G-3	土坑	17C後～ 18C前	1.10	1.10	土】皿（D）。伊】腰張碗。越】擂鉢。 唐】京風碗（「清水」、印なし）、呉器手。	
Ⅲ－3	36085	H-3	土坑	17C後～18C	3.50	3.10	土】皿（G）。伊】鉢、くらわんか碗、腰張碗。越】擂鉢、甕。唐】鉄釉小片口鉢、刷毛目碗（現川）、刷毛目大皿、青緑釉皿。 瀬】織部火入？、天目。瓦】黒－丸。	17C後が中心だが、18Cのものが混じる。
Ⅲ－3	36086	H-3	土坑	17C後 （～19C）	2.10	1.60	土】皿（D）。伊】半球碗（瓔珞）。 唐】徳利、呉器手、青緑釉皿、井戸写碗。 瀬】天目。中】染付皿。	17C後中心だが、１９Cのものが混じる。
Ⅲ－3	36087	H-4	土坑	18C後～19C前	0.80	0.50	土】皿（G）。伊】くらわんか碗。	
Ⅲ－3	36089	H-3	土坑	～18C前	1.00	1.00	土】皿（D）。伊】皿。唐】刷毛目碗。 瀬】灰釉皿。	
Ⅲ－3	36090	H-3	土坑	17C後～18C	0.60	0.50	土】皿（C ？）。伊】皿？	
Ⅲ－3	36091	F-2・3	土坑	17C初	(0.70)	0.70	瀬】黒織部沓茶碗。	
Ⅲ－3	36093	G-1	ピット	17C～18C	0.55	0.40	唐】碗。信】小碗。	
Ⅲ－3	36094	G-1	石組み		3.00	(1.50)		
Ⅲ－3	36095	G-1	溝	17C後～18C前	(3.10)	0.50	土】皿（D）。伊】鉢（17C）。	
Ⅲ－3	36096	G-3	土坑	17C後	0.60	0.40	伊】碗。越】甕。	
Ⅲ－3	36097	I-3	柱穴	17C初	0.50	0.40	唐】皿、甕（タタキ）？ 瀬】茶入？	門Ⅲ3-3の柱穴。
Ⅲ－3	36098	H-3	ピット	16C末～17C前	0.60	0.50	土】皿（C）。瀬】灰釉大皿。	
Ⅲ－3	36099	I-3・4	土坑	17C前 （19C）	0.65	0.65	土】皿（C）。伊】半球碗。越】擂鉢（三角－溝）。瀬】灰釉小碗（17C ～）。	19Cのもの混じる。時期の特定難しい。
Ⅲ－3	36100	I-3	土坑	17C	0.70	0.70	土】皿（C）。越】壺。唐】碗。	
Ⅲ－3	36102	I-3	ピット	17C初	0.50	0.30	土】皿（C）。唐】皿（胎土目）。瀬】灰釉皿。	
Ⅲ－3	36103	H-2・3	ピット	17C	0.60	0.30	越】甕、擂鉢。	
Ⅲ－3	36104	H-3・4	土坑	18C後～19C	0.80	0.50	土】皿（G）。伊】碗。越】甕。 瀬】天目（連房）。	
Ⅲ－3	36105	F-2	土坑	17C後～18C前	0.90	0.40	土】皿（D）。伊】碗。	
Ⅲ－3	36106	H-3	ピット	17C前～中	0.40	0.20	土】皿（C、B）。伊】碗（天目形）、外瑠璃釉碗。越】擂鉢（三角）、甕。唐】擂鉢。 瀬】天目、大海茶入、志野織部筒碗、擂鉢。 中】染付碗（饅頭心）、漳州大皿。	中国製品多い。天目多い。優品中心の遺物群。
Ⅲ－3	36107	G-3	ピット	17C後～18C前	0.40	0.30	土】皿（D）。越】甕。	
Ⅲ－3	36108	G-2	ピット	18C後～	0.50	0.40	土】皿（G）。中】白磁小坏。	
Ⅲ－3	36110	G-4	土坑	～19C前	0.80	0.60	土】皿（G）。伊】筒碗。越】擂鉢。瀬】筒碗。	
Ⅲ－3	36111	I-3	ピット	17C前～中	0.50	0.45	土】皿（C）。唐】甕底？	
Ⅲ－3	36115	H-3	ピット	17C初～前	0.30	0.25	越】擂鉢（三角－溝）。	
Ⅲ－3	36118	I-3	ピット	16C末～ 17C初	0.35	0.35	唐】壺（赤土）。瀬】天目、擂鉢。 中】青磁稜皿（景徳鎮系）。	
Ⅲ－3	36119	I-3	土坑	17C初	1.30	1.00	土】皿（C）。中】白磁皿。	
Ⅲ－3	36120	I-3	土坑	17C初～前	(1.25)	1.00	土】皿（C）。中】染付小坏。	
Ⅲ－3	36123	H-3	土坑	17C前～中	1.10	0.80	土】皿（C）。越】擂鉢。須】甕。 瀬】鉄釉碗。中】染付皿。	伊万里なし。
Ⅲ－3	36124	H-3	ピット	17C	0.50	0.40	土】皿（C）。伊】小坏？ 越】擂鉢。	伊万里が中国製品の可能性あり。
Ⅲ－3	36125	H-3	ピット	17C初～中	0.70	0.70	土】皿（C）。越】甕。唐】青唐津小坏。 中】染付皿。	伊万里なし。

屋敷番号	遺構番号	地　区	遺構種別	時　期	法量（単位：m）		主な遺物	備　考
					長辺	短辺		
Ⅲ－3	36126	G-3 H-3	土坑	17C初～中	1.20	0.90	土】皿（C）。唐】皿、碗。瀬】灰釉皿。	伊万里なし。
Ⅲ－3	36127	H-3	ピット	17C初～中	0.60	0.30	土】皿（C、G？）。唐】瓶（タタキ）。	伊万里なし。
Ⅲ－3	36130	I-3	土坑	17C初	0.70	0.60	土】皿（C-古）。	
Ⅲ－3	36133	F-3	ピット	17C後～ 18C前	0.70	0.40	土】皿（D）。伊】碗、小坏。唐】皿（砂目）、呉器手。信】サビ釉碗。	
Ⅲ－3	36135	H-3	土坑	16C末～ 17C初	(1.80)	1.00	土】皿（C、D）。越】擂鉢。唐】皿。瀬】折縁皿、灰釉火入。中】染付小坏、白磁皿。	唐津あり。
Ⅲ－3	36136	H-3	土坑	17C初	0.80	0.80	越】擂鉢。唐】皿（胎土目）、甕、朝鮮唐津徳利、刷毛目皿。瀬】灰釉皿。 中】染付皿、碗、小坏、漳州碗。	伊万里なし。17C初の良いまとまり。
Ⅲ－3	36137	H-3	土坑	17C前～後	1.65	0.90	土】皿（C）。伊】碗。越】鉢（ロクロ）。 唐】刷毛目大皿。中】青磁碗。	越前の鉢は混入品。
Ⅲ－3	36138	H-3	土坑	17C後	2.00	0.70	土】焙烙、皿（C）。 伊】皿、碗（一重アミ）。瀬】折縁皿。	
Ⅲ－3	36139	H-4	土坑	17C初	2.45	1.60	土】皿（C-古）。越】甕、擂鉢、小甕。 唐】青唐津皿、斑唐津鉢、鉢、小杯。信】壺。 瀬】志野皿、小碗、白天目。中】漳州碗、染付碗、小坏、青磁稜花皿。瓦】黒-軒丸。	唐津・中国製品中心。 大変良いまとまり。
Ⅲ－3	36140	H-4	土坑	17C初	0.70	0.50	土】皿（C）。瀬】鉄釉碗。	
Ⅲ－3	36145	G-3	土坑	～18C前	1.10	0.60	土】皿（D-大）。	
Ⅲ－3	36148	G･H-3	土坑	～17C前	(3.40)	2.70	土】皿（C-古）。唐】白唐津皿。中】漳州碗。	白唐津皿は李朝の可能性もあり。
Ⅲ－3	36149	G-3	溝	～17C初	1.80	0.60	土】皿。唐】皿。瀬】志野鉢。中】染付碗。	
Ⅲ－3	36150	H-3	土坑	17C後	0.90	(0.80)	土】皿（D）。伊】碗。中】染付徳利。	
Ⅲ－3	36154	G-3	土坑	17C後	0.30	(0.25)	伊】青磁瓶。越】擂鉢。唐】鉢。	
Ⅲ－3	36156	H-3	ピット	17C	0.35	0.25	土】皿（D？）。	
Ⅲ－3	36157	I-3	土坑	～17C初	0.90	0.60	土】皿（C）。瀬】灰釉稜花皿。	
Ⅲ－3	36158	E-1	土坑	17C前～中	2.15	(1.55)	土】皿（C-古-大）。伊】碗。越】擂鉢（三角-溝）。瀬】擂鉢、天目。中】青磁碗。	
Ⅲ－3	36175	H-3	土坑	16C末～17C初	0.90	0.70	土】皿（C-古、B、G、）。伊】碗、大瓶？ 越】甕（16C後）、擂鉢。唐】碗。 瀬】天目、卸皿、黄瀬戸？鉢。 中】染付小坏、皿、白磁端反皿。	溝34244埋没後の遺構。中国製品多い。ほとんどが17C初のもの。伊万里は混入品か。
Ⅲ－3	36176	H-2	土坑	17C初	1.70	1.70	土】皿（C）。唐】甕、香茶碗。中】染付碗。	
Ⅲ－3	36178	G-2	土坑	17C後			土】皿（K）。伊】碗（一重アミ、外青）、瓶、筒碗、小坏（蘭）。唐】絵唐津大皿、飴釉碗。 瀬】天目。備】擂鉢。	
Ⅲ－3	36180	F-2	土坑	17C後～19C	1.70	1.20	土】皿（D）。伊】鉢（盃洗？）、陶胎染付香炉、皿、碗。唐】呉器手、刷毛目大鉢。	土師質皿は17C後～18C前のもの。19Cのものは混入品か。
Ⅲ－3	36181	F-2	土坑	17C後～19C	2.80	2.50	土】皿（G、C-新）、風炉。瀬】古瀬戸灰釉瓶？ 伊】皿、碗（一重アミ）、筒碗、碗。 唐】呉器手碗。信】茶壺。陶】土瓶蓋。	
Ⅲ－3	36191	H-3	土坑	17C後	(1.70)	(1.00)	土】皿（C）、焼塩壺蓋。瓦】赤-丸。	
Ⅲ－3	36192	I-4	ピット	17C（後?）	0.50	0.50	土】皿（K）。越】擂鉢。	
Ⅲ－3	36196	H-2･3	土坑	17C前～後	1.90	1.70	土】皿（C）。伊】鉢。越】大平鉢。 備？】徳利。中】染付小坏。	
Ⅲ－3	36198	G･H-3	土坑	16C後	0.65	0.60	土】皿（C）。伊】碗。越】擂鉢。	
Ⅲ－3	36200	G-3	土坑	17C初?	0.60	0.60	瀬】天目。	
Ⅲ－3	36205	G-3	土坑	17C（初～） 中～後	(2.10)	(2.00)	土】皿（C、D）。伊】碗、皿。 越】擂鉢（内傾、三角）。唐】青唐津碗、皿（胎土目）、徳利、大皿。中】青磁鉢？	伊万里は古いものが多い。
Ⅲ－3	36211	H･I-4	土坑	16C後～ 17C初	1.20	1.10	土】皿（C）。越】擂鉢。唐】皿（胎土目）、碗。 瀬】鉄釉皿。中】染付鉢、青磁稜花皿。	
Ⅲ－3	36213	G･H-3･4	土坑	～17C初	(4.50)	(1.20)	土】皿（C-古、G）。信】煎じ碗。瀬】天目。	18C以降のものは混入品。
Ⅲ－3	36215	G-3	土坑	17C初～中	(3.40)	(1.30)	土】皿（C）、焼塩壺（方印）。伊】碗、瑠璃釉皿。越】擂鉢、甕。唐】飴釉大瓶、皿（胎土目）、瓶。瀬】鉄釉碗（連房）、灰釉皿、天目、灰志野徳利。中】染付皿、碗。	伊万里は古いものが多い。中国製品も多い。
Ⅲ－3	36217	G-3	土坑	17C後～ 18C前	(1.35)	(0.90)	土】皿（D）。伊】碗。 唐】大皿、中徳利（赤土）、青緑釉皿。 瀬】天目。瓦】黒-平、赤-平。	
Ⅲ－3	36219	G-3	土坑	～19C	1.70	1.10	土】皿（G、C）。伊】碗。瀬】碗（「清」印）。	
Ⅲ－3	36220	H-3	土坑	17C中～後	1.50	1.00	土】皿（C）。伊】碗。越】甕、擂鉢。唐】青唐津皿、徳利（赤土）。中】白磁軟質小坏。	
Ⅲ－3	36221	H-3	土坑	17C後	2.15	1.30	土】皿（C）。伊】碗。	
Ⅲ－3	36226	G-3･4	ピット	17C初	0.60	0.45	土】皿（C）。越】擂鉢。唐】碗。瀬】鉄釉皿。	伊万里なし
Ⅲ－3	36229	H-3･4	ピット	17C～19C	0.50	0.40	土】皿（C、G）。伊】碗。中】漳州碗。	

屋敷番号	遺構番号	地　区	遺構種別	時　期	法量（単位:m）		主な遺物	備　考
					長辺	短辺		
Ⅲ－3	36236	G-2･3	土坑	～17C後	3.30	3.15	土】皿（C、B）。伊】碗。越】甕、擂鉢。唐】印花壺、鉢、碗。瀬】天目。中】漳州大皿。	伊万里あり。
Ⅲ－3	36238	H-2 I-2	土坑	17C初	(2.85)	2.40	土】皿（C）。越】擂鉢。唐】輪花鉢。 瀬】灰釉皿、志野小坏、天目。 中】染付小坏、漳州赤絵皿。	伊万里なし。
Ⅲ－3	36239	H-2	土坑	17C初～前	(2.70)	1.75	土】皿（C）。越】甕。唐】青唐津皿？。 須】甕。瀬】志野皿？。中】染付小坏。	伊万里なし。
Ⅲ－3	36240	H-2	井戸	～17C前	2.90	(2.30)	土】皿（C、B）。越】擂鉢、お歯黒壺、甕、鉢（ロクロ）。唐】碗、皿。信】甕？ 瀬】黄瀬戸天目、天目。中】染付皿、碗、青磁稜花皿、白磁軟質坏。軟】碗。	中国製品多い。17C初の典型的な組成だが、19Cのものが混じる。
Ⅲ－3	36242	I-3	土坑	17C初	(1.10)	0.95	土】皿（C）。越】甕？唐】碗。	
Ⅲ－3	36247	H-2	井戸	18C～近代	2.60	(1.90)	土】皿（C）。越】擂鉢。唐】刷毛目碗。 瀬】灰釉煎じ碗。京】小坏。	深さ２m。直径0.8m、高さ1.7mの桶側が一段残る。
Ⅲ－3	36250	I-3	土坑	～17C初	(1.70)	1.00	土】皿（C）。越】擂鉢。唐】斑唐津皿。	
Ⅲ－3	36274	F-3	土坑	～18C後	(1.55)	1.10	伊】陶胎染付。越】甕。	
Ⅲ－3	36278	F-3	井戸	19C	1.10	0.80	土】皿（C）。越】甕。唐】皿、斑唐津碗。 瀬】天目。	竹筒だけが検出されており。 上総掘りの井戸か。

第 29 表　屋敷地Ⅲ－４・道路５遺構観察表

屋敷番号	遺構番号	地　区	遺構種別	時　期	法量（単位:m）		主な遺物	備　考
					長辺	短辺		
Ⅲ－4	3348	G-4	大土坑	18C前～中	(6.20)	(3.20)	土】皿（C、G、G- 手、D）。伊】碗、鉢、皿、半球碗、色絵おしどり水注。越】甕、擂鉢。唐】刷毛目碗（現川）、青緑釉皿、壺、呉器手碗、京風碗（新）、呉器手擂鉢。信】サビ絵碗、色絵碗、灰釉茶壺。瀬】半筒碗、鉄釉碗、天目、灰釉皿、祖母懐茶壺。中】青磁碗。瓦】赤 - 軒丸。	
Ⅲ－4	3349	G-4	土坑	18C (～ 19C)	(5.55)	2.65	土】皿（C、D）。伊】青磁大皿、形紙皿、小坏、半球碗。越】甕、擂鉢、鉢（ロクロ）。唐】皿、刷毛目鉢、青緑釉皿、青緑釉香炉、刷毛目碗、大皿。信】色絵碗、宝船水注。瀬】碗、鉄釉碗、織部向付。備】徳利。瓦】赤。	
Ⅲ－4	3351	H-4	土坑	19C中	(2.85)	(1.75)	土】皿（D- 新、C、G）。伊】角大皿、なます鉢、半球碗。越】甕、擂鉢、鉢。 唐】京風碗（印有）、皿（砂目）。 瀬】端反碗、志野角向付。中】染付皿。	
Ⅲ－4	3352	H-4	土坑	～19C中	2.75	2.25	土】角焜炉、皿（G）。伊】皿、蓋、半球碗。越】擂鉢、甕、壺（ロクロ）。唐】呉器手、京風（印有）、刷毛目碗。瀬】碗、灰釉皿。 瓦】だるま - 軒（印）、赤 - 軒。	
Ⅲ－4	3360	G-4 H-4・5	土坑	19C中～近代	4.20	(4.10)	土】皿（G）、土人形、火鉢、焜炉。伊】急須、蓋、瓶。越】擂鉢、中壺（ロクロ）。唐】大皿、皿。信】白磁端反碗。瀬】形紙角皿、陶胎染付碗、梅文端反碗。陶】灰釉土瓶、行平、青緑釉土瓶。中】染付皿、漳州大皿。瓦】赤 - 軒丸・軒平・丸・平、だるま - 軒。	
Ⅲ－4	3402	D-2・3 E-2・3	土坑	～19C中	3.85	1.80	土】皿（G）。伊】筒碗、蓋、半球碗。越】擂鉢、鉢。信】碗、色絵碗。瀬】鉄釉皿、刷毛目平碗、緑釉火鉢、灰釉片口。陶】徳利。瓦】赤 - 丸・平、黒 - 平。	
Ⅲ－4	3405	E-2・3	土坑	19C中～近代	(3.50)	3.15	土】皿（E）、七輪（角）。伊】皿、鉢。 越】擂鉢（18C）、鉢。唐】京風碗（「清水」印）。瀬】蓋、ひだ皿、天目。陶】土瓶。 中】染付瓶？（元風）、青磁小香炉。 瓦】赤 - 軒丸。	土師質皿の完形品が多い。18C前のものが多い。
Ⅲ－4	3418	E-3	土坑	18C前～後	2.30	1.25	土】皿（D）。伊】腰張碗、小ソバ猪口、蓋。 唐】刷毛目碗（薄）。瓦】赤 - 平・丸。	
Ⅲ－4	36030	F-3	土坑	17C後～18C前～19C	2.00	1.30	土】皿（C- 新）。伊】碗（コンニャク）、青磁水鉢？。越】擂鉢（19C）、甕。 唐】蛍手碗、サビ釉甕。陶】土瓶。備】徳利。	
Ⅲ－4	36035	F-2・3	溝	～17C後	(3.60)	(0.55)	伊】瓶（17C）。越】甕。	
Ⅲ－4	36038	F-3	土坑	18C後	(1.10)	(0.80)	土】皿（D）。伊】仏飯器、陶胎染付碗。 越】擂鉢（三角）。唐】刷毛目碗（現川）。	
Ⅲ－4	36039	F-3	土坑	18C後	1.00	0.80	土】皿（G）。伊】碗。越】擂鉢。 信】碗。瀬】鉄釉碗。	
Ⅲ－4	36041	H-4	土坑	17C後	1.25	1.10	土】皿（C、K、R）。伊】鉢、碗、青磁香炉、皿、角小皿。唐】呉器手、二彩大皿。	伊万里多い。土師質皿は珍しいタイプを含む。17C後の良いまとまり。

屋敷番号	遺構番号	地　区	遺構種別	時　期	法量（単位：m）		主な遺物	備　考
					長辺	短辺		
Ⅲ－4	36042	E-2・3	土坑	18C中	3.20	2.00	土】皿（G）。伊】腰サビ瓶、碗、蓋。越】甕、鉢。唐】二彩甕、サビ釉大皿。信】半球碗。	
Ⅲ－4	36047	G-3・4	土坑	17C後	(4.20)	1.65	土】皿（D）。伊】大碗。越】擂鉢。 唐】皿、碗。瀬】鉄釉碗、志野。	
Ⅲ－4	36056	G-4	土坑	17C後	2.25	0.90	土】皿（C）。伊】皿。唐】京風碗。	碗・皿は優品。
Ⅲ－4	36078	F-3	土坑	17C後	1.00	0.80	土】皿（D）。唐】二彩大皿。	
Ⅲ－4	36079	F-3	土坑	17C後～ 18C前	(0.85)	0.65	土】皿（D）。伊】碗、小坏（被災）、香炉。 越】擂鉢（三角）。唐】呉器手。	寛文大火後の遺構。
Ⅲ－4	36080	F-3	土坑	18C後～ 19C前	1.90	1.85	土】皿（D、G）。伊】くらわんか碗、腰張碗。 越】甕、擂鉢。唐】刷毛目碗（現川）。信】鉢。 瓦】赤 - 丸・平・軒丸。	土師質皿は18C後のもの。越前の甕はほぼ完形。
Ⅲ－4	36083	E-2	土坑	17C後	(1.90)	0.40	伊】小坏。越】擂鉢。唐】絵唐津大皿。	
Ⅲ－4	36092	E-3	土坑	17C後～18C後	0.90	0.90	土】皿（G、D）。伊】碗。越】鉢。唐】呉器手。	
Ⅲ－4	36141	G-4	土坑	17C後～ 18C前	(1.75)	1.30	土】皿（D）。伊】碗、白磁小坏。越】擂鉢（三角）、甕。唐】呉器手、二彩甕。信】色絵半球碗（京？）。陶】鉄釉土瓶。瓦】赤 - 軒平。	17C後～18C前の良いまとまり。土瓶等は混入品。
Ⅲ－4	36142	F-4 G-4	土坑	17C初 （～19C）	(5.00)	1.80	土】皿（G、C）、焙烙。伊】碗、大皿（17C被災）、くらわんか碗。越】擂鉢（三角、三角 - 溝、丸）。唐】皿（砂目、胎土目）、碗、大皿、青緑釉皿、刷毛目碗、絵唐津火入、甕。 瀬】鉄釉碗、げんこつ碗、志野大ドラ鉢。 中】染付碗。瓦】赤 - 軒丸・軒平。	3348の下層。唐津多い。17C～19Cまで色々混じる。19Cは少し。擂鉢多い。17C初中心。
Ⅲ－4	36143	G-4	土坑	17C中～後	(2.50)	2.10	土】皿（C、D）。伊】碗、皿、油壺、碗（17C中、コンニャク）。越】擂鉢、甕。 須】甕。瀬】天目、灰釉折縁皿。中】白磁。	
Ⅲ－4	36151	F-3	土坑	18C前	1.60	0.40	土】皿（D）。伊】碗（コンニャク）。 越】擂鉢。瓦】赤 - 平・丸・軒丸。	伊万里は上質のコンニャク印判製品。
Ⅲ－4	36152	F-3	土坑	18C前	1.50	(0.90)	越】甕。唐】刷毛目碗（薄）。 瀬】刷毛目甕。瓦】赤 - 丸。	
Ⅲ－4	36155	G-3･4	土坑	17C初～後	1.60	1.40	土】皿（K、D）。越】擂鉢。唐】皿（胎土目）。 瀬】鉄釉碗、灰釉皿。	伊万里なし。
Ⅲ－4	36159	F-3 G-2・3	土坑	17C前 （～19C）	2.65	1.85	土】皿（C、B）、焼塩壺。伊】皿、碗、ソバ猪口。越】擂鉢、甕、ひも付き壺。唐】大平鉢、皿（胎土目、砂目）、碗、井戸風碗。信】壺？ 瀬】碗、鉄釉碗、天目、折縁皿。 中】碗、皿、青磁大皿、染付小坏。	瀬戸・唐津・中国製品多い。17C初のものが中心だが、19Cまでのものが少量混じる。
Ⅲ－4	36188	F-3･4	土坑	17C後 （大火後）	3.80	2.30	土】皿（D）。伊】腰張碗（コンニャク）、碗、皿。唐】甕、呉器手。 瓦】黒 - 平。赤 - 丸・軒丸	
Ⅲ－4	36252	F-3	土坑	16C後～ 17C後	(4.80)	(1.50)	越】甕。唐】呉器手。中】白磁皿。	
			道 （1面目 砂利層）	19C･19C中			土】皿（G）。伊】半球碗。瀬】鉢、緑釉火鉢。 瓦】だるま。	
			道 （1面目下）	～19C中			土】皿（G）。伊】碗？、蓋、端反碗、陶胎染付。 越】擂鉢、鉢。信】灯明皿。	
			道 （2面目 砂利層）	19C	5.00	2.80	土】皿（G）、鉢。伊】小碗、半球碗。 越】擂鉢。瀬】緑釉火鉢、白＋緑釉徳利。	

第30表　屋敷地Ⅳ－1遺構観察表

屋敷番号	遺構番号	地　区	遺構種別	時　期	法量（単位：m）		主な遺物	備　考
					長辺	短辺		
Ⅳ－1	3504	B-6	土坑	17C ～ 19C	(1.30)	(0.85)	土】皿（C）。伊】筒碗。信】蓋。 瀬】大海茶入。	
Ⅳ－1	3506	J-6	土坑	17C前～後	1.70	1.30	土】皿（C）。伊】碗。越】甕。	
Ⅳ－1	3507	A-6	溝	17C前～後	(3.50)	2.70	土】皿（C）。伊】碗。	
Ⅳ－1	3509	A-6･7	土坑	17C初～後	1.40	0.85	土】皿（C）。伊】鉢？　越】平鉢？、擂鉢（三角）。唐】絵唐津大皿。中】染付小坏。	伊万里は少ない。
Ⅳ－1	3511	A-7	土坑	17C初	0.65	0.65	土】皿（C- 古）。	土師質皿のみ。
Ⅳ－1	3517	A-6	土坑	17C初	(3.00)	(2.70)	土】皿（C）。軟】碗。越】擂鉢。 唐】青唐津皿、碗。瀬】灰釉皿、志野鉢。 中】染付皿。	17C初の良いまとまり。伊万里なし。
Ⅳ－1	3518	A-6	土坑	17C初	0.80	0.60	土】皿（C、B）。唐】碗。 瀬】志野盃？、灰釉皿、灰釉徳利？	
Ⅳ－1	3519	J-6	土坑	～17C初	0.60	0.50	土】皿（C）。瀬】灰釉皿。	唐津なし。

屋敷番号	遺構番号	地　区	遺構種別	時　期	法量（単位：m）		主な遺物	備　考
					長辺	短辺		
Ⅳ－1	3521	A-6	土坑	～17C初	1.20	1.00	土】甕、皿（C、B）。伊】碗。越】擂鉢。 唐】碗、皿（胎土目）、鉢。瀬】灰釉皿。 中】染付碗？	基本的に17C初のものだが、17C後の伊万里碗が1点混入。
Ⅳ－1	3522	A-6	土坑	17C～18C	0.55	(0.50)	土】皿（C）。伊】白磁小ソバ猪口。	
Ⅳ－1	3523	A・B-7	土坑	～19C	(2.00)	(1.00)	土】皿（G）、碗、七輪。伊】碗。越】鉢。 唐】皿（胎土目）。瀬】織部鉢、志野小皿。 三田】青磁四方小皿。陶】土瓶。瓦】黒－丸。	
Ⅳ－1	3524	J-5	溝	17C後	8.60	1.50	伊】碗。唐】皿。信】碗。中】染付小碗。	伊万里は混入品か。
Ⅳ－1	3530	A-6	土坑	17C～19C	0.60	0.55	土】皿（C-新）。信】碗。壁土。	基本的には17C後(大火後)のもの。
Ⅳ－1	3534	A-6	土坑	～17C初	(1.20)	0.60	土】皿（C）。	
Ⅳ－1	3566	A-5･6	土坑	～19C	1.40	0.70	伊】花瓶、蓋。越】鉢。陶】灰釉土鍋。	
Ⅳ－1	3567	A-7	土坑	～19C	1.70	1.40	土】皿（G）。伊】碗。越】壺。陶】灰釉土鍋。	
Ⅳ－1	3585	J-5･6	土坑	17C	2.35	1.15	土】皿（C）。瀬】赤絵小碗。中】白磁端反皿。	19Cのものが混じる。
Ⅳ－1	3586	J-6	土坑	～17C初	1.30	0.80	土】皿（C）。越】擂鉢（三角－溝）。	
Ⅳ－1	35113	A･B-5	溝	17C初～後	5.90	0.30	土】皿。越】擂鉢（三角－溝）、甕。	
Ⅳ－1	35114	A･B-5	溝	～19C	5.50	0.30	土】皿（G）。伊】小坏。越】鉢。瓦】だるま。	
Ⅳ－1	35115	A･B-5	溝	～19C前	5.75	0.30	土】皿（D、G）。伊】碗。	
Ⅳ－1	35117	B-6	土坑	17C後～19C中	(4.50)	(3.40)	土】人形（大）、皿。伊】碗、赤絵蓋、色絵瓶。 瀬】湯飲、碗。	
Ⅳ－1	35129	A-5	土坑	17C後	1.50	1.00	伊】半球碗。信】擂鉢。中】漳州碗。	
Ⅳ－1	35130	A-5	土坑	18C後～	(2.40)	1.40	土】皿（G、D）。伊】碗、鉢、陶胎染付。	
Ⅳ－1	35132	A-6	土坑	17C前～後	(1.50)	1.20	土】皿（C）。伊】皿。唐】徳利。 瀬】灰釉猪口。	
Ⅳ－1	35148	A-5	土坑	19C前	1.10	0.90	土】皿（G）、焼塩壺。伊】碗、大鉢、筒碗、陶胎染付、青磁鉢。越】擂鉢、甕。唐】刷毛目中皿。信】茶壺、鉄絵碗、色絵碗。陶】土瓶。	上下層に遺物の時期差はない。
Ⅳ－1	5100	A-4	暗渠		3.70	0.20		
Ⅳ－1	5104	B-4	土坑	17C後	(2.80)	2.70	土】皿（C）。伊】碗。越】甕。唐】呉器手。 瀬】天目。	
Ⅳ－1	5107	A-4	土坑	17C後～18C前	(4.20)	(3.20)	土】皿（C-新）。伊】碗、小坏、徳利。 越】擂鉢。唐】呉器手、皿（砂目）、飴釉碗。 瀬】織部向付、天目。中】染付小坏、白磁碗。	
Ⅳ－1	5109	B-4･5	土坑	19C	(11.80)	8.05	土】皿（G、D）。伊】皿、土瓶蓋、筒碗、合子蓋、大皿、碗、鳥形水滴、陶胎染付。越】鉢、小擂鉢、甕。唐】刷毛目大皿、呉器手、刷毛目碗（現川）。信】志野風平鉢、色絵丸碗。 瀬】瀬戸黒茶碗、織部向付。中】染付鉢。 瓦】赤－平、黒－軒丸。	
Ⅳ－1	5126	B-5	土坑	17C後～18C前	(5.00)	2.30	土】皿（D、C）、焼塩壺。伊】碗、皿。越】擂鉢。唐】小坏、皿、絵唐津大皿、呉器手、壺（タタキ）。瀬】天目。中】漳州碗。	
Ⅳ－1	5154	B-5	土坑	17C後	1.80	1.30	土】皿（E）。伊】瓶。越】甕。唐】皿。	
Ⅳ－1	5155	B-5	土坑	17C後～18C前	1.50	1.40	土】皿（E、C）。伊】色絵碗、広東碗。 唐】刷毛目大皿。	19Cのものは混入品か。
Ⅳ－1	5159	A-4	土坑	18C前～中	1.90	1・3		
Ⅳ－1	5160	A-4･5	土坑	～19C前	(4.00)	(2.30)	土】皿（G）。伊】碗、筒碗、広東碗。越】鉢。 唐】飴釉片口、刷毛目甕。信】鉄絵小炉。 瀬】緑釉水鉢、ゲンコツ碗。陶】土瓶。	
Ⅳ－1	5161	A･B-4	土坑	17C～19C	(4.30)	3.70	土】皿（G）、火鉢、風炉。軟】土瓶。 伊】蓋、碗、筒碗、広東碗、小皿、鉢、陶胎染付、丸碗、青磁香炉。越】擂鉢（三角）、鉢（逆台形）。唐】呉器手碗。信】小坏。 瀬】端反碗、ゲンコツ碗、灰釉碗。陶】土瓶。	
Ⅳ－1	51114	A-4	溝	19C～近代	(1.50)	0.75	土】皿（G）。伊】碗。陶】青緑釉植木鉢。	

第31表　屋敷地Ⅳ－2遺構観察表　　屋敷地Ⅳ-2・3は17世紀後半以降、1つの屋敷地となった。

屋敷番号	遺構番号	地　区	遺構種別	時　期	法量（単位：m）		主な遺物	備　考
					長辺	短辺		
屋敷地境	5122	F-7	溝	17初～前	6.50	0.50	土】皿（C）。唐】徳利。瀬】織部徳利。	屋敷地Ⅳ-2と3の境溝。
屋敷地境	5127	B･C-5	溝	17C後	(10.20)	1.20	土】皿（G）。伊】油瓶、陶胎染付。 唐】呉器手。	屋敷地Ⅳ-1とⅣ-2・3の境溝。 一度に埋められた。
Ⅳ－2	3531	A-6 B-6・7	土坑	～19C中	(0.85)	(0.65)	土】人形、土埦、皿（G、K、D）。伊】鉢、碗、赤絵徳利、色絵蓋。越】擂鉢、鉢。唐】刷毛目碗（現川）、碗、壺（タタキ）。信】刷毛目碗。伊賀】水指。陶】土鍋、土瓶、植木鉢。 備】擂鉢。中】染付碗、皿。	17C初のものが混じる。

屋敷番号	遺構番号	地　区	遺構種別	時　期	法量（単位：m）		主な遺物	備　考
					長辺	短辺		
Ⅳ－2	5130	C-5	土坑	17C前～中	3.30	(3.20)	土】皿（C、D）。伊】碗。越】擂鉢。 唐】絵唐津皿、大皿、皿（砂目）。瀬】灰釉皿。 中】染付鉢。	伊万里はほとんどなし。
Ⅳ－2	5164	F-7	土坑	17C初	(1.95)	(1.15)	土】皿（C）。唐】碗。中】白磁軟質小皿。	
Ⅳ－2	5178	C-5・6	土坑	～17C初	2.60	1.15	土】皿（C- 大）。瀬】灰釉皿。	
Ⅳ－2	5180	C-5	土坑	17C初	0.90	0.80	土】皿（C）。唐】斑唐津皿。瀬】灰釉皿。	
Ⅳ－2	5182	C-6	土坑	17C初	2.20	1.80	土】皿（C）。伊】碗。唐】絵唐津大皿。	伊万里は混入品。
Ⅳ－2	5183	C-6 D-6	土坑	17C初	1.85	1.50	土】皿（C- 古、C）。軟】水滴？ 瀬】絵志野丸皿、灰釉皿。	
Ⅳ－2	5190	C-5	土坑	17C初	1.15	1.00	土】皿（C）。唐】碗、絵唐津皿。瀬】織部。	

第32表　屋敷地Ⅳ－３遺構観察表

屋敷地Ⅳ- 2・3は17世紀後半以降、1つの屋敷地となった。

屋敷番号	遺構番号	地　区	遺構種別	時　期	法量（単位：m）		主な遺物	備　考
					長辺	短辺		
Ⅳ－3	3512	C-8	土坑	17C初	0.75	0.70	越】擂鉢。唐】碗。中】染付鉢。	伊万里なし。
Ⅳ－3	3514	C-7・8	土坑	17C初	1.50	1.30	土】皿（C）。越】平鉢。唐】皿。 瀬】織部向付。中】染付皿。	伊万里なし。
Ⅳ－3	3520	C-7	土坑	17C初	0.60	0.50	土】皿。唐】大皿。瀬】灰釉香炉。	
Ⅳ－3	3525	B-7	ピット	17C中	0.75	0.60	土】皿（C- 新、B- 中）。	油煙痕のある土師皿はない。
Ⅳ－3	3535	C-7	ゴミ穴（下層）	17C初	5.15	2.95	土】皿（C）。越】甕、擂鉢。唐】青唐津。 瀬】灰釉香炉、志野皿、鼠志野向付。 中】染付皿。	伊万里なし。
Ⅳ－3	3538	E-8	土坑	17C初	1.10	0.90	土】皿（C）。瓦】赤 - 軒平。	
Ⅳ－3	3545	D・E-7	溜桝	17C初	1.10	0.90	土】皿（C、C- 古）。 瀬】碗。 中】染付皿。	深さ0.9ｍ。石を２～３石積上げる。土師質皿は16C末～17C初と古い。
Ⅳ－3	3549	B-7	土坑	17C	(0.90)	(0.70)	土】皿（C ？）。	
Ⅳ－3	3569	D-8	土坑	17初	5.40	3.75	土】焼塩壺、皿。中】染付皿、碗。唐】天目、絵唐津向付、斑唐津碗、絵唐津大鉢。 瀬】黒織部沓茶碗、志野鉢、志野丸皿、灰釉皿。信】壺。越】鉢、擂鉢。備】徳利。	3551と遺物の組成が似る。伊万里なし。
Ⅳ－3	3570	D-8	土坑	～17C初			土】皿（C、D）。唐】皿。瀬】灰釉皿。 中】青磁稜花皿、染付鉢？、白磁軟質小坏。	全体に古い様相だが唐津が混じる。
Ⅳ－3	3572	E-8	土坑	～17C初	3.35	3.20	土】皿（C- 古 - 大）。越】甕、擂鉢。唐】斑唐津碗。瀬】志野向付。中】染付碗、小皿。	全体に古い様相だが唐津が混じる。
Ⅳ－3	3573	E-8	土坑	17C前	1.60	0.90	土】皿（C）。唐】甕（タタキ）、溝縁皿。	
Ⅳ－3	3576	C-7	土坑	16C末～17C初	(4.40)	4.00	土】皿（C- 古、B）。越】擂鉢（三角）。唐】斑唐津皿、水指？　瀬】灰釉徳利、天目（連房）、灰釉ソギ皿。中】染付小坏、菊形皿。	伊万里出現前の典型的なまとまり。土師質皿多い。
Ⅳ－3	3577	E-8	土坑	17C初	2.70	1.70	土】皿（C）。 唐】鉢、皿（胎土目）、絵唐津向付、斑唐津皿。 瀬】鼠志野向付。中】染付皿。	土師質皿は口径に大中小の３種あり。
Ⅳ－3	3589	D-7	ピット	17C	0.65	0.45	土】皿（D ？）。越】甕。	
Ⅳ－3	3592	D-8	土坑	17C初	2.95	1.80	土】皿（C）。越】擂鉢。唐】絵唐津皿。 瀬】志野、御深井向付、灰釉皿。中】色絵鉢。	少量だが良いまとまり。伊万里なし。
Ⅳ－3	3595	D-7	土坑	17C初	(1.70)	0.60	土】皿（C- 古）。伊】碗。越】甕。瀬】鼠志野。	伊万里は混入品。
Ⅳ－3	3597	D-7	ピット	17C初	0.80	0.60	土】皿（C）。越】甕。唐】碗。	
Ⅳ－3	35103	B-7	土坑	17C前～中	(4.20)	(2.60)	土】皿（C）。越】擂鉢。	
Ⅳ－3	35105	D-6・7	土坑	17C初	1.60	1.50	土】皿（C）。越】壺（ロクロ）。唐】斑唐津碗、絵唐津碗？　瀬】黒織部沓茶碗、志野鉢、織部徳利。備】大平鉢。中】白磁皿。	優品が多く良いまとまり。土師質皿は小が多い。伊万里なし。
Ⅳ－3	35109	B-7 C-7	土坑	17C初	5.90	(3.40)	土】皿（C- 古）。越】擂鉢（三角）。 唐】碗、耳付壺？　備】擂鉢。	
Ⅳ－3	35110	E-8	土坑	17C前～中	(0.90)	0.75	土】皿（B、C）。越】擂鉢。唐】皿。 中】染付皿、小坏。	伊万里はないが、土師質皿は新しい。
Ⅳ－3	35121	E-8	土坑	17C初	(1.40)	(0.60)	土】皿（C- 古、D- 古）。伊】青磁大皿。 越】甕、擂鉢。唐】皿、青唐津碗。瀬】鼠志野、志野鉢。中】染付小坏、皿、青磁輪花皿。	17C初の典型的なまとまり。土師質皿は大が多い。
Ⅳ－3	35135	E-7	土坑	～17C初	1.30	(0.75)	土】皿（C- 古）。越】壺？　中】染付小坏。	
Ⅳ－3	35152	C-6	土坑	17C初	(3.70)	(2.40)	土】皿（C）。唐】絵唐津碗、絵唐津丸皿、絵唐津向付、斑唐津皿、盃。瀬】鼠志野向付。	絵唐津多い。優品が多く良いまとまり。
Ⅳ－3	5121	F-7	土坑	16C末～17C初	0.90	(0.40)	土】皿（C- 古）。越】甕？　須】甕。	
Ⅳ－3	5213	F-9	土坑	17C?	(1.50)	(1.10)	土】皿（D ？）。	
Ⅳ－3	5214	F-9	溝	17C初	(17.30)	0.65	土】皿（G、D）。唐】絵唐津皿。中】染付皿。	伊万里なし。
Ⅳ－3	5216	F-9	土坑	17C?	(1.25)	0.75	土】皿。	

屋敷番号	遺構番号	地　区	遺構種別	時　期	法量（単位：m）		主な遺物	備　考
					長辺	短辺		
Ⅳ－3	5225	E・F-9	土坑	17C初	(5.40)	1.90	土】皿（D）。越】甕、擂鉢。唐】刷毛目大皿、瀬】鼠志野向付、織部向付、志野皿、碗。中】白磁皿、染付小皿、漳州皿。	17C初の典型的なまとまり。伊万里なし。

第33表　屋敷地Ⅳ－２・３遺構観察表　　屋敷地Ⅳ- ２・３は17世紀後半以降、１つの屋敷地となった。

屋敷番号	遺構番号	地　区	遺構種別	時　期	法量（単位：m）		主な遺物	備　考
					長辺	短辺		
Ⅳ−2・3	Ⅳ2-1	E・F-7	柵列	19C	13.00			
Ⅳ−2・3	Ⅳ3-1	D・E-7	掘立柱建物		(6.50)	(5.00)	陶】土瓶の耳	柱穴3547他で構成。間隔が不ぞろい。
Ⅳ−2・3	3503	B-6	土坑	～19C	5.20	(3.30)	土】皿（G）。伊】小坏。唐】皿。	
Ⅳ−2・3	3515	B・C-7	溝	17C初～後	0.50	0.30	土】皿（C）。瀬】志野徳利。瓦】黒 - 丸。	遺物は古いが、瓦・壁土が入るため、埋められたのは17C後（大火後）か。
Ⅳ−2・3	3516 (3532)	B-7	土坑	19C	(1.30)	(0.90)	土】焼塩壺、皿（G、D）。伊】陶胎染付香炉、碗、色絵蓋。越】擂鉢。唐】刷毛目大皿。信】煎じ碗、色絵灰吹、灯明皿。	
Ⅳ−2・3	3505	B-7	土坑	17C後～19C	(2.70)	(2.60)	土】皿（G）。伊】小坏、色絵碗。唐】皿（砂目）。中】漳州皿。陶】壺（焼締）。	17C後のものが中心。
Ⅳ−2・3	3527	D-8	土坑	17C後	2.65	(1.65)	土】皿（C- 古）、土埦。軟】小香炉？伊】白磁小坏、碗、瓶。唐】皿（砂目）、二彩大皿、三島唐津大皿。瀬】鼠志野、天目、灰釉折縁皿。中】染付鉢、白磁輪花皿。	伊万里があるが土師質皿は古い。17C初と後の要素あり。
Ⅳ−2・3	3533	D-7	土坑	16C～18C末	0.60	0.50	土】皿（C）、焼塩壺。越】甕、鉢、擂鉢。信】甕。瀬】灰釉鉢。	
Ⅳ−2・3	3535	C-7	ゴミ穴（上層）	19C～近代	5.15	2.95	土】皿（D、K）。伊】青磁香炉、徳利、小皿、大皿。越】擂鉢、鉢、壺。唐】飴釉小碗。信】色絵碗。瀬】小碗、盃洗、志野皿、向付、灰釉皿。陶】土鍋。中】漳州大鉢。	19C～近代のものが中心だが、古いものも多く混じる。
Ⅳ−2・3	3539	E-8	溝	17C後～18C	(5.20)	0.45	土】皿（D）。伊】碗。越】壺。唐】碗。瀬】鼠志野。陶】刷毛目碗。中】染付小坏。	
Ⅳ−2・3	3540	E-7・8	土坑	17C後～18C後	1.20	1.20	土】皿（G、D）。伊】碗。越】甕。唐】刷毛目碗。	土師質皿（G）が入るので18C後まで下がる。
Ⅳ−2・3	3541	E-8	土坑	17C中～後	1.20	0.70	土】皿（D、C）。伊】色絵碗。唐】皿（砂目）。信】腰白茶壺。瀬】鼠志野鉢。中】染付鉢。	
Ⅳ−2・3	3542	E-7	土坑	17C後～18C前	2.45	2.10	土】皿（C- 新）、軟質施釉皿。伊】碗、瓶。越】擂鉢（三角）。唐】青緑釉大皿。瀬】小天目、灰釉大鉢（御深井系？）。	土師質皿が多様で、軟質施釉のものも入る（地元産か）。
Ⅳ−2・3	3543	E-8	土坑	17C後	(1.25)	0.90	土】皿（C）。伊】小坏。瀬】志野小皿。	
Ⅳ−2・3	3546	D-7	ピット	17C中～後	0.50	0.35	伊】皿。唐】徳利、大皿。中】染付小碗。	伊万里は組み物。
Ⅳ−2・3	3548	D-7	ピット	～19C中	0.30	0.30	越】甕。信】亀甲小碗。瀬】黒織部、灰釉鉢。	
Ⅳ−2・3	3550	C-6	土坑	17C初～後	5.50	4.40	土】皿（C）。伊】碗。越】擂鉢。唐】呉器写。瀬】志野小坏、絵志野皿、茶入、志野中鉢、黄瀬戸向付。中】染付カブト鉢。瓦】黒 - 平。	17C初のものが中心だが、伊万里もある。やや時期巾広い。
Ⅳ−2・3	3552	E・F-8	土坑	17C後	0.80	0.60	土】皿（D ？）。伊】碗。	
Ⅳ−2・3	3554	E-8	土坑	18C			越】甕。信】色絵碗。	
Ⅳ−2・3	3555	E-7	ピット	17C～18C	0.45	0.45	土】皿（C、D）。伊】半球碗。唐】刷毛目碗。	
Ⅳ−2・3	3557	E-7	ピット	18C前	0.60	0.55	土】皿（C）。伊】形紙皿。	
Ⅳ−2・3	3558	E-8	土坑	～17C後			土】皿（C）。伊】碗、徳利。唐】絵唐津大皿、朝鮮唐津瓶（タタキ）。南】長頸壺。	
Ⅳ−2・3	3563	D-7	土坑	17C後～18C前	(2.75)	1.80	土】皿（C）。伊】半球碗、壺、鉢。越】鉢、甕。唐】皿、刷毛目碗。中】青磁碗。瓦】黒 - 丸。	
Ⅳ−2・3	3564	D-7	土坑	17C初～19C			土】皿（C）。伊】大皿？瀬】古瀬戸深鉢。陶】鉄釉土鍋。瓦】だるま。	土師質皿は古いが、瓦等が新しい。
Ⅳ−2・3	3571	E-8	ピット	17C後	0.50	0.40	土】皿（C- 中、K）。越】擂鉢、甕。	
Ⅳ−2・3	3574	E-8	ピット	17C後	0.75	(0.40)	土】皿（D、G）。	
Ⅳ−2・3	3575	E-7・8	土坑	17C後	2.30	2.15	土】皿（C、D- 大々）。伊】碗。越】甕。唐】青緑釉大皿、溝縁皿。中】染付。	
Ⅳ−2・3	3584	C-6	土坑	17C～19C	(1.30)	0.40	土】皿（C）。伊】筒碗、皿。越】擂鉢	
Ⅳ−2・3	3588	B- 7	土坑	～19C	1.10	0.45	土】皿（G、D ？）。伊】小碗。唐】呉器手（古）。陶】灰釉土瓶。	
Ⅳ−2・3	3590	D-7	土坑	17C後	1.20	0.85	土】皿（K）。伊】形紙皿、瓶、仏飯器。越】甕。	
Ⅳ−2・3	3591	B-6	土坑	17C～19C	6.80	4.00	土】人形、皿（G、B、D）。伊】碗、小碗、白磁人形。唐】皿。瀬】天目。中】染付鉢。	時期巾が広い。
Ⅳ−2・3	3593	B-7	土坑	17C前～後	(1.20)	0.80	土】皿（C）。伊】碗。越】甕。中】染付碗。瓦】黒 - 平。	

屋敷番号	遺構番号	地　区	遺構種別	時　期	法量（単位：m）		主な遺物	備　考
					長辺	短辺		
Ⅳ−2・3	3596	D-7 E-7	土坑	(17C初～) 17C後	2.00	1.90	土】皿（K、C）。伊】皿、白磁小坏。越】甕。唐】大徳利。中】染付皿。	
Ⅳ−2・3	3599	C-7	土坑	17C初～ 18C後	(2.50)	1.50	土】皿（C、G）。唐】斑唐津皿。 中】白磁小坏。	
Ⅳ−2・3	35100	C-7	土坑	17C初～後	2.85	2.30	土】皿（C- 古）。伊】碗。瀬】鉄釉碗。	17C初のものが中心。
Ⅳ−2・3	35102	B-7	土坑	18C前	1.00	0.90	土】皿（D）。伊】碗？	
Ⅳ−2・3	35104	B-7	土坑	18C ～ 19C	2.40	1.10	土】皿（C）。伊】碗、皿。越】甕。備】徳利。	
Ⅳ−2・3	35106	D-6	土坑	17C初～後	(4.60)	2.30	土】皿（C）。伊】瑠璃釉葉形皿、碗。唐】絵唐津沓茶碗。瀬】志野丸皿。中】染付小坏。	17C後（大火後）の遺構。伊万里あり。土師質皿は17C初のもの。
Ⅳ−2・3	35111	D-7	土坑	17C ～ 18C	1.20	(0.60)	土】皿。信】碗？ 瀬】古瀬戸燭台。	
Ⅳ−2・3	35112	B-6 C-6	土坑	19C	(3.50)	1.35	土】七輪、皿（G）。伊】鉢、筒碗、青磁鉢、皿、蓋。越】甕、鉢、擂鉢。信】碗。瀬】梅花端反碗。陶】土瓶。備】徳利。萩】小碗。	
Ⅳ−2・3	35119	E-9	土坑	18C後～	(1.50)	(1.20)	伊】くらわんか碗、紅皿。越】鉢。	
Ⅳ−2・3	35125	E-8	土坑	17C中～ 19C中	3.20	3.20	土】皿（G、C、D）。伊】碗、菊皿、筒碗。越】擂鉢。唐】刷毛目碗、京風碗、大皿、甕（タタキ）、擂鉢。陶】急須。中】染付小坏、碗。	伊万里は古い。中国製品が多い。
Ⅳ−2・3	35126	E-8	ピット	18C後～	0.70	0.60	土】皿（D ？）。伊】皿、蓋（19C）。越】甕。	
Ⅳ−2・3	35127	E-7	土坑	17C初～後	1.90	1.10	土】皿（C- 古）。伊】重鉢。瀬】志野菊皿。瓦】赤 - 平。	伊万里あり。
Ⅳ−2・3	35128	E-8	ピット	17C ～ 19C	0.60	0.50	土】皿（D）。伊】碗。信】色絵碗。瀬】天目。	
Ⅳ−2・3	35134	F-8	土坑	17C ～ 19C中	2.75	2.55	土】皿（G、D、C）。伊】半球碗、鉢。越】擂鉢。唐】呉器手。瀬】天目、腰サビ碗。陶】鉄絵土瓶。中】染付碗、皿。遊具】筆立て。	19Cのものが中心。
Ⅳ−2・3	35136	F-7・8	土坑	19C	1.00	0.55	土】皿（G）。伊】半球碗、端反小碗（17C後）、蓋。唐】刷毛目碗。	
Ⅳ−2・3	35137	E-7	土坑	17C後	1.40	(1.00)	土】皿（D ？）。伊】碗。瓦】赤 - 平。	
Ⅳ−2・3	35140	D-7	ピット	19C	0.60	0.50	土】皿（G）。瀬】灰釉水鉢。瓦】赤 - 平。	
Ⅳ−2・3	35147	D-7	土坑	17C後～ 18C前			土】皿（C）。越】甕、擂鉢。唐】刷毛目碗、京風碗、溝縁皿。備】徳利。中】瀬州碗、染付鉢（大根葉）、碗。瓦】黒 - 平・丸。	17C前のものは混入品か。
Ⅳ−2・3	35150	C-6	土坑	19C	1.30	1.10	土】七輪、皿（G）。伊】鉢、蓋、半球碗。 越】擂鉢、鉢。唐】絵唐津皿、壺。 信】鉢、白磁端反碗、色絵碗。瀬】端反碗、筒碗。陶】青緑釉土瓶、鉢。他】フイゴ羽口。	
Ⅳ−2・3	35151	B・C-6	土坑	18C前			土】皿（C- 新、D）。伊】青磁八角鉢、碗。越】擂鉢（三角）。唐】刷毛目大皿、青緑釉皿、碗、呉器手。瀬】志野皿、小天目。	伊万里が中心。
Ⅳ−2・3	5105	D-6	井戸枠内	17C後～明治	1.50	1.35	土】皿（G）、火桶。伊】皿、碗。越】甕、擂鉢。唐】白土皿、皿（砂目）。瀬】小坏、半筒湯飲。陶】蓋（飛カンナ）。中】漳州大皿。	深さ3.0ｍ。笏谷石製板石を組んだ井戸側を3段積み、その下に直径1.4mの桶側を2段重ねる。
Ⅳ−2・3	5105	D-6	井戸掘方	16C後～ 19C	(3.90)	(3.00)	土】瓦質火入、皿（G、C- 古）。越】擂鉢。唐】刷毛目碗。中】白磁端反皿。	16C後のものが多い。
Ⅳ−2・3	5106	F-7 G-7	土坑	19C中	1.70	1.60	土】皿（G）。伊】色絵皿、端反碗、蓋、半球碗。越】鉢、擂鉢、甕。信】鉄釉柄杓。 瀬】筒碗、緑釉火鉢、志野織部碗。 陶】土瓶、蓋、土管。瓦】黒 - 平。	
Ⅳ−2・3	5110	D-6	撹乱土坑	19C ～近代	(8.30)	(4.00)	土】皿（G）、七輪（角、丸）。伊】小皿、半球碗、筒碗、大皿、鉢。越】擂鉢、鉢、施釉中甕、壺（ロクロ）、大甕。信】餌入れ、亀甲小碗。 瀬】ひょうそく、織部蓋（19C）、灰釉皿、灰釉水鉢、火鉢。陶】土鍋蓋、土瓶、青緑釉土瓶、瓶掛？ 中】漳州大皿。	
Ⅳ−2・3	5111	D-6	土坑	18C後	0.80	0.75	土】皿（G）。越】甕。	
Ⅳ−2・3	5115	E-7	土坑	18C ～	1.40	0.90	土】皿（D ？）。	
Ⅳ−2・3	5116	E-6・7	土坑	18C後	1.35	1.25	土】皿（R、D）。伊】碗。	
Ⅳ−2・3	5117	E-7	土坑	18C後～	0.75	0.60	土】皿（B、D）。越】鉢（逆台形）。 瀬】小坏？	
Ⅳ−2・3	5118	E-7	土坑	17C後～ 18C中	1.40	(0.60)	土】皿（D）。伊】碗、小坏、小皿。越】甕。 唐】刷毛目碗、京風碗（新）。	
Ⅳ−2・3	5128	C-5	土坑	17C中～後	2.85	(2.50)	土】皿（C、B- 大）。伊】碗。越】擂鉢（三角）、甕（タタキ）。唐】碗、飴釉小瓶、呉器手、甕（格子タタキ）。瀬】天目。中】染付鉢。	中心は17C前～中。
Ⅳ−2・3	5129	D-5	土坑	17C後～ 18C	(5.00)	(4.35)	土】皿（D）。伊】碗、半球碗。唐】京風碗（「小松」印）、刷毛目碗（現川）、刷毛目碗（薄）。信】サビ絵碗。中】染付鉢。	
Ⅳ−2・3	5132	C-5	土坑	17C後	2.30	1.90	土】皿（B- 中、K、C- 新、D）。 伊】白磁碗。唐】飴釉壺、呉器手。	土師質皿（E、C-新等）は17C後の典型的組合わせ。

屋敷番号	遺構番号	地　区	遺構種別	時　期	法量（単位：m）		主な遺物	備　考
					長辺	短辺		
Ⅳ−2・3	5133	C-5	土坑	18C前	(1.60)	1.30	土】皿（D、C- 新）。伊】碗。	
Ⅳ−2・3	5134	D-6	土坑	17C初～後	(2.70)	1.10	土】皿（C、K）。伊】碗。越】擂鉢。	
Ⅳ−2・3	5141	F・G-7	土坑	19C前	2.15	1.70	土】皿（G）。伊】碗、蓋。越】鉢。 唐】白唐津写碗。 瀬】碗、緑釉火鉢、古瀬戸灰釉皿。	
Ⅳ−2・3	5143	F・G-7	土坑	18C前	(1.30)	(1.00)	土】皿（D、R）、瓦質火桶。伊】半球碗。 唐】刷毛目碗、京風碗（新）。中】染付鉢。	19Cの伊万里は混入品か。
Ⅳ−2・3	5144	F・G-7	土坑	17C後	0.95	0.55	土】皿（C）。伊】碗。	
Ⅳ−2・3	5145	F・G-7	土坑	18C後	0.80	0.70	土】皿（D ？）。伊】碗。	
Ⅳ−2・3	5147	F・G-7	土坑	～ 18C前	0.80	0.70	土】皿（D）。伊】碗。唐】京風碗（新）。	
Ⅳ−2・3	5148	F-7	土坑	19C	(1.50)	(0.50)	土】皿（D）。伊】碗。信】丸碗。	
Ⅳ−2・3	5149	F-7	土坑	19C	2.00	0.75	土】皿（D）。伊】碗。信】丸碗。	
Ⅳ−2・3	5150	F-7	土坑	～ 19C	2.80	1.70	土】皿（D）。伊】半球碗。越】鉢（逆台形）。	
Ⅳ−2・3	5151	D-6	溝	17C後～ 19C中	(12.50)	0.75	土】皿（C、C- 古、K）。伊】碗、半球碗。 唐】刷毛目碗（薄）、呉器手。 瀬】赤絵端反碗。	
Ⅳ−2・3	5152	E-7	土坑	19C中～ 近代	3.20	1.10	伊】青磁香炉、碗、鉢。越】擂鉢、甕。 瀬】染付植木鉢。	
Ⅳ−2・3	5153	F-7	土坑	17C後	0.60	0.60	土】皿（D）。伊】青磁鉢。瓦】赤 - 平。	
Ⅳ−2・3	5156	B-5 C-5	土坑	17C後	3.90	(3.40)	土】皿（G、C、D）。伊】碗、青磁仏飯器？ 越】擂鉢。唐】呉器手、二彩甕？、二彩大皿。 須】甕。瓦】黒 - 平。	17C後の良いまとまり。
Ⅳ−2・3	5157	B-5 C-5	土坑	17C後	2.80	(2.30)	土】皿（D、C- 新）。伊】碗。越】甕、擂鉢。 唐】擂鉢、二彩香炉、小坏。中】染付鉢。	
Ⅳ−2・3	5158	C-5	土坑	17C前～後	5.40	4.65	土】皿（C、D）。伊】碗、白磁菊皿。越】擂鉢。 唐】折縁皿、飴釉碗、二彩大皿、呉器手、二彩甕、壺、絵唐津大皿。瀬】志野皿、灰釉折縁皿。中】白磁皿、染付小坏。	下層は17C前、上層は17C後のもの。
Ⅳ−2・3	5162	F-7	土坑	17C初～後	3.10	2.10	土】皿（D、C）。伊】碗。唐】絵唐津大皿。 瀬】古瀬戸灰釉瓶。備】徳利。中】染付鉢。	
Ⅳ−2・3	5163	F-7	土坑	～ 18C前	(2.80)	(2.25)	土】皿（D、C）。伊】小碗。	
Ⅳ−2・3	5165	F-7	土坑	17C後	(1.60)	(1.05)	伊】仏飯器、中皿、碗。越】甕。 唐】徳利、溝縁皿。中】染付鉢。	
Ⅳ−2・3	5167	C-6	土坑	17C初～後	(3.40)	(2.40)	土】皿（C）。軟】碗。伊】皿。越】甕、擂鉢。 唐】絵唐津皿、水指？蓋。瀬】絵志野小皿。 中】白磁小坏、染付皿。	5186の上にある土坑。
Ⅳ−2・3	5168	F-7	土坑	17C後	1.50	1.50	土】皿（D、C）。伊】白磁碗。唐】呉器手、二彩香炉。瀬】志野鉢。中】染付鉢。 瓦】黒 - 平。	
Ⅳ−2・3	5169	E-7	土坑	～ 18C	1.90	0.65	土】皿（C、D）。伊】鉢、皿。越】擂鉢、甕。 唐】刷毛目碗（現川）、刷毛目中皿。	
Ⅳ−2・3	5170	C-5・6	土坑	17C初～ 18C前	2.65	1.00	土】皿（C、D- 古、D）。伊】白磁皿（砂目）、碗。 唐】呉器手。瀬】天目。越】擂鉢。 京】色絵鉢。中】漳州碗、染付鉢。	土師質皿が多数出土。
Ⅳ−2・3	5171	E-7	土坑	17C後	(4.40)	(0.70)	土】皿（C）。伊】碗。越】甕。唐】呉器手碗。	
Ⅳ−2・3	5172	E-7	溝	17C後	(7.20)	0.60	土】皿（D）。伊】皿。越】擂鉢（三角）。 唐】呉器手碗。信】腰白壺、餌入れ。 中】染付皿。	
Ⅳ−2・3	5173	E-7	土坑	17C後	1.75	(1.65)	土】皿（C、C-K）。越】壺（ロクロ）。	
Ⅳ−2・3	5174	G-7	土坑	17C後～ 18C前	(5.60)	4.50	土】皿（C-D）。伊】色絵皿。越】甕。 唐】刷毛目碗（薄）。	
Ⅳ−2・3	5176	E-7	土坑	18C後～ 19C	1.10	0.95	土】皿（D）。伊】皿、半球碗。越】甕。 唐】刷毛目碗（現川）、呉器手。信】碗。	
Ⅳ−2・3	5177	F-7	土坑	17C初～後	(1.60)	(1.30)	土】皿（C）。伊】皿、碗。唐】皿（胎土目）。	伊万里あり。
Ⅳ−2・3	5179	E-6	土坑	18C後	2.05	1.15	土】皿（D、G）。伊】碗。唐】鉢。信】鉢、丸碗。	
Ⅳ−2・3	5181	E-7	土坑	17C後～ 18C前	1.75	0.60	土】皿（D）。伊】青磁香炉、皿。 越】甕、擂鉢（丸）。唐】呉器手。	
Ⅳ−2・3	5184	C-6	土坑	17C初～ 18C前	(2.60)	1.40	土】皿（C）。伊】輪花鉢。越】擂鉢、甕。 唐】青唐津碗、皿。瀬】天目（大窯前）。 陶】鉄釉灯明皿。中】染付皿？	陶製灯明皿は混入品か。青唐津と伊万里はやや新しく混入品か。
Ⅳ−2・3	5185	C-6	土坑	18C前	(3.65)	(1.30)	土】皿（D- 古、K）。伊】皿。 唐】刷毛目碗（薄）、皿。瀬】灰釉皿、鼠志野。	18C前の良いまとまり。
Ⅳ−2・3	5186	C-6	土坑	17C初～ 17C後	(3.10)	(1.50)	土】皿（C）。伊】碗。越】擂鉢（三角）。 唐】碗、呉器手。瀬】天目。中】染付小坏。	土坑6167の下にある土坑。
Ⅳ−2・3	5188	D-6	土坑	17C後	(1.20)	1.20	土】皿（D）。伊】皿。越】甕。	
Ⅳ−2・3	5192	F-7	土坑	17C後			土】皿（D）。伊】碗。瓦】赤 - 平。	

屋敷番号	遺構番号	地　区	遺構種別	時　期	法量（単位：m）		主な遺物	備　考
					長辺	短辺		
Ⅳ−2・3	5194	E・F-7	土坑	～ 18C前	0.45	0.35	土】皿（D）。伊】皿。越】甕。中】染付皿。	
Ⅳ−2・3	5196	E・F-6	土坑	17C後（大火後） ～ 18C後半	(8.40)	(8.10)	土】皿（D、B、R、C）、角七厘。伊】紅皿、水注、盃、染付碗、皿、筒型碗、青磁鉢、蓋、赤絵碗、白磁徳利、皿、白磁鉢（蓋もの）。越】擂鉢、甕。唐】刷毛目碗、鉢、皿、天目、呉器手、飴釉碗、灰吹（転用）、青緑釉香炉。瀬】半球碗、皿、天目、志野取手？、四耳壺？　備】瓶。李？】白磁平碗？　中】青磁蓋？、漳州中皿、染付鉢、褐釉五耳壺。遊具】般若面。 瓦】赤 - 丸・平、黒 - 丸・平。	染付は 19C に近いものが多い。茶碗（陶器）は 17C か。土師質皿はロクロ成形が多い。大火後、瓦多い。
Ⅳ−2	5197	E-6 F-6・7	土坑	17C後～（18C後）大火後	(7.20)	2.30	土】皿（D、B、R、C、G）。伊】筒型碗、染付仏花瓶、碗、瑠璃・鉄釉瓶？、白磁盃、白磁鉢、香炉。越】甕、擂鉢。唐】絵唐津皿、刷毛目碗、鉄釉大ペコ缶、二彩水鉢。瀬】織部筒もの、志野筒もの、天目。中】染付皿、碗、青磁稜花皿。瓦】黒、平・丸、赤 - 平・丸。遊具】土鈴。	17C 後のものが中心。瓦やや多い。完形品多い。土師質皿はロクロ成形が多い。
Ⅳ−2・3	5198	F-7	土坑	17C後～ 18C前			土】皿（D）。伊】染付型打皿、碗（一重アミ）。越】擂鉢。唐】呉器手。信】碗、色絵碗。瀬】天目。京】色絵陶器。	
Ⅳ−2・3	5206	F-9	土坑	17C初～後	(2.85)	1.60	土】皿（D）。伊】碗。 瀬】志野向付、黒織部碗。	織部、志野あり。
Ⅳ−2・3	5207	F-9	溝	17C初～ 18C前	2.50	0.70	土】皿（D）。越】擂鉢、甕。唐】絵唐津皿、刷毛目碗（薄）。信】茶壺。中】染付皿。	刷毛目唐津碗、絵唐津は新しい。
Ⅳ−2・3	5210	F-9	土坑？	17C後	(2.00)	(1.60)	土】皿（D）。越】擂鉢、甕。唐】絵唐津皿、刷毛目碗。信】茶壺。中】染付皿。	
Ⅳ−2・3	5241	F-8	土坑	18C後～ 19C	7.95	5.40	土】皿（C、D、G）、焙烙。伊】皿、青磁染付碗、染付碗、染付皿、白磁菊形皿、陶胎染付、水滴。越】甕、壺、擂鉢（19C）。唐】刷毛目皿。信】鉄釉碗、鉄絵碗。	大型土坑。くらわんか碗あり。菊形皿は組み物か。
Ⅳ−2・3	5242	F-8	溝	～ 18C前	2.50	1.10	土】皿（D）。伊】碗。唐】大皿。	
Ⅳ−2・3	5243	F-8	溝	～ 18C前	(2.15)	0.70	土】皿。伊】白磁小鉢？ 越】擂鉢。	
Ⅳ−2・3	5244	F-8	土坑	～ 18C前	1.80	1.70	土】皿（D）。伊】碗？	
Ⅳ−2・3	5245	F-8	土坑	17C後～ 18C前	1.50	1.40	土】皿（D）。伊】瓶、皿、小坏。 唐】皿？、碗、呉器手。中】青花皿？	中国製青花皿は被災。伊万里あり。
Ⅳ−2・3	5246	F-8	土坑	17C後～ 18C前	1.00	0.90	土】皿（D）。伊】碗、皿、形紙皿、瓶、白磁碗。越】甕。唐】皿。瀬】志野天目。遊具】碗。	土師質皿多い。
Ⅳ−2・3	51103	E-6	土坑	19C ～明治	(1.80)	(1.40)	土】瓦質火鉢、皿（G）。伊】染付碗、皿。 越】擂鉢、甕。唐】皿。瀬】染付小皿、上絵盃、蓋、皿、青白火鉢。三田】上絵八角鉢。 遊具】土鍋。	
Ⅳ−2・3	51105	F-6	土坑	17C後			土】皿（D）。伊】小皿、形ねじり小鉢。越】甕（鉄釉）。唐】斑唐津大皿？（白土）、呉器手、刷毛目甕。瓦】黒 - 平。	遺構 5196 の遺物群と似る。
Ⅳ−2・3	51106	E-6	土坑	17C前～ 18C前	2.20	2.20	土】皿（E- 古、E）。伊】染付、碗、皿、角皿（口紅）、腰張碗。越】鉢、擂鉢（三角）。唐】皿。瀬】志野鉢。鉄釉碗。備】大平鉢。 中】染付鉢、カブト鉢、中皿。瓦】赤 - 平。	中国製品多い。
Ⅳ−2・3	51108	F-6	土坑	17C後～ 18C前	3.00	2.70	土】皿（D、G）。伊】染付碗、染付皿、青磁碗、白磁形小皿。越】擂鉢、甕。 唐】皿（砂目）、青緑釉碗、皿。信】茶壺。 瀬】灰釉碗、灰釉水鉢。中】染付皿、青磁碗。 瓦】赤 - 平、黒 - 丸・平。	大火後の遺構。
Ⅳ−2・3	51109	E-5・6	土坑	17C ～ 19C前			土】皿（G、C、D）、軟】碗？ 伊】碗、皿。 越】甕、擂鉢。唐】斑唐津皿（白土）。 瀬】天目、灰釉徳利（16C）。中】染付皿。	17C のもの多い。
Ⅳ−2・3	51115	F-7	溝	19C ～近代	(1.50)	0.75	唐】刷毛目碗、灰釉碗。	
Ⅳ−2・3	51117	E-7	溝	17C中?	1.50	0.45	唐】刷毛目碗（薄）。	
Ⅳ−2・3	51119	D-6	土坑	19C	1.70	1.50	瀬？】透明釉植木鉢。	
Ⅳ−2・3	5160	F-7	土坑	17C後～	1.25	0.45	土】皿（D）。越】擂鉢。信】瓶。 瀬】端反碗。	瀬戸の磁器は混入品か。

第 34 表　屋敷地Ⅳ－４遺構観察表

屋敷番号	遺構番号	地　区	遺構種別	時　期	法量（単位：m）		主な遺物	備　考
					長辺	短辺		
屋敷地境	5254	F-8 G-8	溝	17C初～後	(8.20)	1.20	土】皿（C）。伊】碗。唐】碗。甕（タタキ）、皿。瀬】鼠志野向付。中】青磁碗、染付皿。	屋敷地Ⅳ-2・3とⅣ-4の境溝。中世のものが混じる。
Ⅳ−4	Ⅳ4-1	G-8	礎石列		4.50			礎石４石のみ。

屋敷番号	遺構番号	地　区	遺構種別	時　期	法量（単位：m）		主な遺物	備　考
					長辺	短辺		
Ⅳ－4	5201	G～I-7～9	花壇	19C前～近代	23.00	10.00	土】七輪、瓦質火鉢、皿（G）。伊】紅皿、形紙刷染付皿、青磁大皿、仏具、筒型碗。越】甕、壺、擂鉢、鉢。唐】皿（砂目）、大皿、刷毛目皿、刷毛目鉢。イッチン蓋、灯明皿。信】サビ絵茶碗、型打皿。瀬】蓋、皿、端反碗、緑釉瓶、灰釉水鉢、志野皿、灰釉徳利。陶】土瓶、灰釉鍋。備】徳利。中】漳州色絵大皿。遊具】ミニ染付碗。瓦】だるま、赤 - 丸。	18C後～ 19C前のものが中心。遺物は花壇上の整地土から出土。
Ⅳ－4	5202	G-9・10	土坑（上層）	18C後～19C	(4.00)	2.70	土】皿（G）。伊】白磁徳利、碗（コンニャク）。越】甕、擂鉢。唐】皿、筒型碗、甕、鉢、二彩大皿、灰釉足付鉢。信】蓋、鉢。瀬】端反碗。皿、茶入。陶】土瓶。中】漳州碗、白磁瓶。	18C後のものが中心。近代の染付混じる。
Ⅳ－4	5202	G-9・10	土坑（下層）	17C後～18C後	(3.20)	(1.50)	土】皿（G）、焼塩壺蓋。唐】刷毛目碗、飴釉碗、呉器手。信】鉄釉柄杓。瀬】碗。陶】灰釉土鍋蓋。中】白磁鉢。瓦】赤 - 獅子。	17C後～ 18C後までのものが混じる。被災遺物多い。
Ⅳ－4	5204	H-10	井戸	19C ～近代	0.95	0.85	土】皿（G）。伊】皿。越】擂鉢。唐】大皿。信】碗。瀬】碗、灰釉鉢、ゲンコツ碗。陶】土鍋。	
Ⅳ－4	5205	F-9	ピット	17C前～後	0.60	0.60	土】皿（C- 新）。瀬】鉄釉碗。中】白磁碗。	ピット内に焼土あり。
Ⅳ－4	5206	G-8	石垣	19C	3.00	0.30		畝状溝群を囲む石垣。
Ⅳ－4	5207	G･H-8	石垣	19C	10.00	0.30		畝状溝群を囲む石垣。
Ⅳ－4	5211	F-9	土坑（上層）	19C	(3.70)	3.20	土】風炉、皿（G）。伊】碗、皿、陶胎染付、瓶（赤絵）。越】甕、壺、擂鉢。唐】呉器手碗、皿。信】碗。瀬】甕、織部向付、鬢盥。陶】鉄釉小土鍋。中】青磁稜花皿。	19Cのものが中心。口サビくらわんか碗（伊万里か）あり。返し付きの蓋あり。口サビの陶器（信楽？）。
Ⅳ－4	5211	F-9	土坑（下層）	17C後～18C前	(3.70)	3.20	土】焼塩壺、皿（D）。伊】皿、碗、鉢、白磁壺。越】壺、甕、擂鉢。唐】緑釉鉢、沓茶碗、呉器手、高麗写茶碗、壺（タタキ）。瀬】碗、天目、志野筒碗。中】染付碗、小坏、青磁稜花皿、茶壺。	線描きの蓋。伊万里焼けた碗あり。呉器手碗も火災に遭う。茶壺、茶碗等茶器あり。
Ⅳ－4	5212	F-9	ピット	17C前～後	0.55	0.35	土】皿（C- 新）。伊】碗、小碗。唐】皿、碗、甕（格子タタキ）。中】染付皿。	伊万里あり。
Ⅳ－4	5234	I-10	土坑（上層）	18C中～ 19C	1.80	1.25	土】七輪、皿（D、G）。伊】筒碗、丸碗、蓋、角皿、色絵碗、陶胎染付。越】擂鉢、甕。唐】碗、皿、絵唐津刷毛目碗、天目、瓶。信】植木鉢、半筒碗。陶】平瓶、植木鉢。瀬】鉄釉碗、紅皿。中】染付鉢。瓦】黒 - 平。	
Ⅳ－4	5234	I-10	土坑（下層）	17C後～ 18C	1.80	1.25	土】皿（D）。伊】碗、鳥香合蓋、皿。越】甕、擂鉢。唐】皿、飴釉碗。信】半筒碗。瀬】碗。京】碗。中】染付皿、青磁瓶、雀小物蓋。	
Ⅳ－4	5235	H-10	土坑	19C			伊】十二角皿。瀬】織部盤（19C）。	
Ⅳ－4	5236	G-9 H-9	土坑	19C ～近代	(2.25)	1.70	土】皿（G）。伊】碗、皿、半球碗。越】擂鉢（三角）、甕、壺（ロクロ）。唐】皿（胎土目）、刷毛目皿、斑唐津碗。信】碗。瀬】端反碗、丸碗、徳利、鉢、志野鉢（19C）、緑釉火鉢。陶】土鍋。京】上絵碗。中】青花皿、漳州大皿。	染付は19C ～ 18Cのものが多い。線描きくらわんか銚子などあり。
Ⅳ－4	5237	G-8	土坑	17C ～ 19C中	(10.50)	5.20	土】皿（G、C、D）。伊】重鉢、半球碗、広東碗、皿、鉢、筒碗、陶胎染付碗、青磁鉢。越】甕、壺、擂鉢。唐】刷毛目碗（現川）、青緑釉皿、灰釉小坏、呉器手、二彩大皿、擂鉢。信】鉄絵筒碗、碗、壺、急須、色絵火入。瀬】天目、緑釉火鉢、灰釉皿、ヨロイ手火鉢、志野、鼠志野、織部灰釉鉢。陶】鉄釉土瓶、土鍋。備】擂鉢。中】染付碗、皿、漳州大皿。瓦】赤 - 丸・軒丸・平、黒 - 丸・平。遊具】軟質施釉鯉。	中国製染付多い。
Ⅳ－4	5238	G・H-10	井戸（下層）	～ 17C初?	(3.60)	2.50	土】皿。伊】染付皿。唐】瓶。瀬】天目、鉄釉瓶口。中】漳州皿	
Ⅳ－4	5238	G･H-10	井戸（上層）	17C初～ 19C	(3.60)	2.50	土】皿（G、C、D）。伊】碗、陶胎染付。越】擂鉢。唐】刷毛目ソバ猪口。信】半筒碗。瀬】鼠志野向付。中】漳洲大皿、染付鉢。	上部は1辺0.9ｍ、高さ0.4ｍの笏谷石製板石組、中央は板を組んだ１辺0.9ｍ、高さ0.9ｍ井戸側、下部は直径0,5ｍの桶側。遺物から近世を通じて使われたか。
Ⅳ－4	5240	H-9	土坑	18C後～ 19C	(5.50)	5.50	土】皿（G）。伊】猪口、筒型碗、鉢、半筒碗、陶胎染付。越】擂鉢、壺。唐】刷毛目皿、碗、鉢、皿、青緑釉皿。信】碗、丸碗。瀬】志野向付、ゲンコツ碗。中】染付小坏。	
Ⅳ－4	5247	F-9	土坑	17C後	3.80	(3.20)	土】皿（B、E）。伊】青磁染付碗。越】擂鉢。唐】鉢、半筒碗、呉器手。信】鉢。瀬】御深井向付。中】染付小坏。	

屋敷番号	遺構番号	地　区	遺構種別	時　期	法量（単位：m）		主な遺物	備　考
					長辺	短辺		
Ⅳ－4	5248	G-8	土坑	17C前～17C後	(2.95)	2.95	土】皿(C-新)。伊】角皿、染付碗、小坏(菊)、筒碗、皿、短頸瓶、青磁大皿。越】擂鉢、甕。唐】皿、溝縁絵皿。中】漳州碗。	角皿は漆継ぎか。伊万里の被災遺物あり。古い伊万里が多い。
Ⅳ－4	5249	G-8	土坑	17C後～18C前	1.70	1.65	土】皿(D、C-新)。伊】碗、皿、碗(一重アミ)。越】擂鉢。唐】鉢、甕、溝縁皿、飴釉大皿。備】擂鉢。中】染付カブト鉢。	伊万里皿は被災遺物。少ないが良いまとまり。
Ⅳ－4	5251	G-9	土坑	16C末～17C初	(2.10)	(1.80)	土】土埦(大、小)、皿(C-古)。伊】筒型碗。越】擂鉢。唐】皿、碗。瀬】灰釉青磁写碗。中】染付鉢、碗。	遺構5251は北庄城期の可能性あり。伊万里は混入品か。
Ⅳ－4	5252	G-9	井戸	17C後～19C	3.30	2.70	土】皿(D)。伊】染付碗、皿、紅皿。越】甕、鉢。唐】刷毛目碗、皿、瓶、呉器手。信】碗、灯明皿　瀬】碗。中】漳州赤絵鉢、青花皿。	伊万里碗にコンニャク印判あり。19Cのものが混入か。
Ⅳ－4	5253	G-8	土坑	17C後	1.40	1.10	伊】赤絵蓋、染付瓶、碗(一重アミ)、青磁碗？　越】擂鉢、甕。唐】鉄絵碗。信】鉢？	
Ⅳ－4	5257	H-8	土坑	17C後～18C後	4.50	1.00	土】皿(D、C)。伊】碗。越】甕、小擂鉢。唐】皿。瀬】灰釉碗。中】白磁碗(饅頭心)。	
Ⅳ－4	5262	I-10	土坑	17C初～前	2.20	1.60	土】土埦、皿(朝倉D、C)。越】擂鉢。唐】青唐津碗。備】瓶？　中】カブト鉢。	伊万里なし。
Ⅳ－4	5263	I-10	土坑	17C後～18C前	1.35	1.20	土】皿(D)。伊】皿、碗。越】甕。唐】碗、皿(胎土目)、呉器手。信】碗。瀬】皿、天目、古瀬戸深鉢。中】染付カブト鉢。青磁蓋。	
Ⅳ－4	5268	H-9	土坑	17C後～18C	1.10	1.00	土】皿。伊】碗、青磁瓶、白磁端反小坏、香炉。越】甕。唐】京風碗。中】盃。京】碗。	
Ⅳ－4	5269	I-10	土坑	17C後	(2.90)	0.00	越】擂鉢。	
Ⅳ－4	5270	G-9	土坑	(17C初)～19C			土】皿(G)。伊】染付皿、紅皿。越】擂鉢。唐】刷毛目碗、溝縁皿。瀬】端反碗。天目、志野皿、灰釉皿、緑釉皿。瓦】だるま。	ロサビ染付皿あり。
Ⅳ－4	5273	G-8・9	土坑(上層)	17C初～	(3.50)	0.85	土】土埦、皿(C-古)、焼塩壺。伊】染付碗(一重アミ)、皿、瑠璃釉碗、半球碗。越】甕、擂鉢。唐】蓋、皿、向付、刷毛目碗、呉器手、壺(タタキ)。瀬】天目、鼠志野向付、皿、織部向付、鉄釉碗。陶】土瓶蓋。中】漳州大皿、染付碗、白磁端反皿、白磁軟質小皿。	5288の下にあり。
Ⅳ－4	5273	G-8・9	土坑(下層)	16C末～17C後	(4.50)	0.85	土】皿(C-古)。伊】染付碗。越】擂鉢、甕。唐】皿、天目、壺(タタキ)。信】碗。瀬】碗。中】染付鉢、漳州碗。遊具】皿。	下層は別の古い遺構か。
Ⅳ－4	5282	G-9	土坑	18C中～19C	(2.00)	1.90	中】青花碗。土】皿(D)。越】甕。唐】刷毛目碗。信】灯明皿。瀬】行平？	
Ⅳ－4	5283	H-9	石列下	17C後～18C後			土】皿(C、G)。伊】筒碗。越】擂鉢、鉢。唐】鉢。信】碗。瀬】灰釉碗。南】長胴壺。	時期巾広い。
Ⅳ－4	5288	G-9	土坑	17C初～前			土】皿(C)。唐】鉢。中】漳州赤絵碗。	5273の上にあり。
Ⅳ－4	5310	J-9	焼土廃棄土坑	17C後(大火後)	2.40	1.30	伊】蓋付鉢、香炉、碗、花瓶、色絵鉢、大皿。	被災遺物多い。大型花瓶等優品含む。伊万里碗も薄手で上質。
Ⅳ－4	5313	J-9	ピット	17C中～後	0.30	0.20	土】皿(D、C-新)。唐】朝鮮唐津？	
Ⅳ－4	5345	I-10・1	土坑	17C初	1.05	0.90	土】皿(C)。唐】天目。中】染付小坏。	
Ⅳ－4	5357	J-10	土坑	17C後	1.00	0.60	土】皿(C？)。伊】白磁皿。	
Ⅳ－4	5368	I-9	土坑	18C～19C	1.10	0.90	土】皿(D)、瓦質火鉢。伊】染付(碗、瓶、皿)、色絵碗。越】擂鉢、甕。唐】刷毛目大皿、絵唐津皿、飴釉碗、呉器手、刷毛目甕。信】ヨロイ碗。瀬】鼠志野皿、碗。陶】緑釉鉢、土瓶。中】白磁皿。瓦】黒-平。	強い火を受けた粘土、染付素描、蛇の目高台あり。
Ⅳ－4	5383	J-9	土坑	～17C初	1.00	0.70	土】皿(C-古？)。	
Ⅳ－4	5384	J-9	土坑	17C前	1.40	0.80	土】皿(B)。越】擂鉢(三角-溝)。	
Ⅳ－4	5385	J-9	ピット	17C後～	0.40	0.40	唐】京風碗。	
Ⅳ－4	5393	J-9	土坑	17C後～18C前	0.85	0.85	土】皿(D)。瀬】半筒碗。京】火入(軟質)。中】白磁坏。	
Ⅳ－4	53140	J-9	土坑	～17C初	0.65	(0.55)	越】甕。瀬】黄瀬戸？	
Ⅳ－4	53169	J-9	溝	～17C初	(6.00)	1.80	土】皿(C-古、B)。越】擂鉢。唐】皿、沓茶碗。瀬】天目、志野角大鉢、鉄釉碗、灰釉皿、古瀬戸深鉢、灰釉碗、小天目。備】擂鉢。中】染付皿、青磁碗。	16C末～17C初の良いまとまり。
Ⅳ－4	53170	I-9	土坑	～17C初	3.25	3.05	土】皿(C-古、C)。越】擂鉢。唐】飴釉小壺、皿。瀬】灰釉皿、天目、志野向付、灰釉碗。陶】土瓶？備】徳利。中】染付小坏。	19Cのものは混入品。
Ⅳ－4	53230	J-9	土坑	～17C初	(3.00)	(1.00)	越】擂鉢。瀬】天目(大窯)。	
Ⅳ－4	53233	I-1・10 J-1	土坑	17C初	5.30	(3.90)	土】皿(C)。伊】大皿。越】鉢。唐】刷毛目碗。瀬】天目、鉄釉皿、灰釉皿。中】漳州碗、染付小坏、青磁碗。	17C初のものが中心。16C末の志野・唐津なし。

第35表　屋敷地Ⅳ－５遺構観察表

屋敷地５と６の境は18世紀後半までは溝5311だったが、幕末には溝5346へ移る。

屋敷番号	遺構番号	地　区	遺構種別	時　期	法量（単位：m）		主な遺物	備　考
					長辺	短辺		
屋敷地境	5311	J-10～B-11	溝	17C後	(28.00)	1.70	伊】碗。越】擂鉢（三角）。瀬】天目。	古い時期の屋敷地Ⅳ-5とⅣ-6の境溝。
屋敷地境	5355	J-10	溝（上層）	17C後～18C前	(18.00)	1.00	土】皿（C ？）。伊】染付皿（型打ち）。瀬】灰釉皿。中】染付皿？	屋敷地Ⅳ-4とⅣ-5の境溝。下層は北庄城期まで遡る。
Ⅳ－5	Ⅳ5・6-1	A-10・1	柱穴列	17C後～18C前	16.20		土】皿（G）。伊】鉄絵筒碗。越】擂鉢。唐】二彩大皿。	柱穴53151（西端）～53179（東端）。屋敷地境溝5355の北に並走。
Ⅳ－5	5301	A-9	土坑	17C後			土】皿（D、C-古、K）。伊】腰張碗、碗（アミ）。唐】呉器手碗、溝縁皿。瀬】天目、灰釉皿。備】茶碗。中】青磁大皿。	17C後の良いまとまり。土師質皿多い。東側に石垣残る。
Ⅳ－5	5304	A-9 B-10	溝	（17C後）～19C中	(8.25)	1.05	土】皿（C、D）、角七輪。伊】皿、広東碗。越】鉢、壺、擂鉢。信】白磁端反碗。瀬】ゲンコツ碗。陶】灰釉土瓶蓋、土鍋。遊具】狐、布袋。中】白磁軟質小皿。瓦】赤-平。	19Cのものが中心だが、17C後のものも多い。
Ⅳ－5	5305	J-9	土坑	17C後～18C前			土】皿（D）。伊】碗、大皿（17C）。越】擂鉢。唐】溝縁皿。	
Ⅳ－5	5307	J-9	土坑	～18C前	0.90	0.85	伊】青磁碗。唐】刷毛目二彩大皿。	
Ⅳ－5	5308	A-9	土坑	17C後～18C前	1.00	0.90	土】皿（D）。伊】青磁香炉。越】甕。唐】鉢。中】漳州皿。瓦】黒-平。	瓦は被災遺物。
Ⅳ－5	5312	A-10	土坑	～18C前	(1.65)	1.40	土】皿（D、C）。伊】碗。唐】刷毛目碗（現川）。	唐津刷毛目碗は混入品か。
Ⅳ－5	5314	J-9	土坑	17C後～18C前	1.90	1.40	土】皿（D）。伊】高脚皿、腰張碗、小坏、赤絵壺。越】擂鉢。唐】京風碗。瓦】赤-平。	土師質皿が大量に出土。口径はほぼ１種類。
Ⅳ－5	5315	J-9	土坑	17C中～後	(2.65)	0.90	土】皿（C-新）。伊】碗。唐】碗。瀬】鉄絵（白土）鉢？中】染付小坏。	
Ⅳ－5	5316	A-9	土坑	17C後	0.85	0.70	土】皿（C-新）。伊】碗、鉄釉袋物。越】鉢。瓦】黒-丸？	
Ⅳ－5	5318	A-9	溝	17C中～後	3.00	0.50	土】皿（C-新）。	
Ⅳ－5	5319	A-9・10	土坑	17C後	(1.20)	(0.90)	土】皿（D）。伊】芙蓉手皿。越】小壺。	
Ⅳ－5	5323	A-10	土坑	17C後	1.50	1.30	土】皿（D）。伊】白磁碗。越】擂鉢。唐】呉器手。	
Ⅳ－5	5324	A-10	土坑	17C中～後	(0.85)	0.80	土】皿（D-厚）。瀬】黒織部茶碗。	
Ⅳ－5	5327	J-9	溝	17C ？	3.50	0.50	土】皿。	
Ⅳ－5	5336	J-9	土坑	17C前～中	0.90	0.75	中？】白磁碗。	
Ⅳ－5	5342	J・A-9	土坑	17C後	1.10	0.90	土】皿（K）。伊】徳利。越】擂鉢。唐】皿（砂目）。	
Ⅳ－5	5344	A-9	土坑	17C中	1.00	(0.60)	土】皿（C）。伊】碗。唐】溝縁皿。中】染付坏。	伊万里はごく初期のもの。
Ⅳ－5	5348	A-9	土坑	17C初	0.90	0.60	土】皿（C）。瀬】志野端反皿。	
Ⅳ－5	5350	A-10	土坑	17C後～18C前			土】皿（D）。伊】染付碗。唐】刷毛目碗（現川）。瀬】染付碗、灰釉皿。	
Ⅳ－5	5353	J-10	土坑	17C後～18C前	2.60	0.80	土】皿（D、B）。伊】染付碗。瀬】鉄釉徳利。中】青磁大皿、青磁花碗、染付小坏。	
Ⅳ－5	5362	J-10	土坑	17C中～19C			土】皿（D）。伊】染付丸碗。越】擂鉢（15C）。瀬】緑釉皿？、天目。	
Ⅳ－5	5365	A-10	土坑	17C後～18C後	0.60	0.55	土】皿（B）。伊】染付碗、白磁、陶胎染付。信】半筒碗。瀬】灰釉色絵半筒碗、紅皿。中】白磁鉢、坏。瓦】赤-平。	白磁は被災遺物。
Ⅳ－5	5366	A-10	土坑	18C～19C	1.50	1.35	土】皿。伊】染付火入、青磁皿。越】擂鉢。唐】鉄釉丸碗。信】灰釉筒形碗。瀬】灰釉碗。陶】土瓶。備】擂鉢。瓦】黒-平。	
Ⅳ－5	5374	A-9	土坑	17C後	(1.10)	(0.90)	土】皿（C）。伊】染付碗。越】擂鉢。	伊万里の被災遺物あり。
Ⅳ－5	5375	A-9・10	土坑	17C初～中	1.00	0.70	土】皿（C）。	
Ⅳ－5	5386	A-9	土坑	17C後	(1.50)	1.10	土】皿。伊】菊形皿、碗。	
Ⅳ－5	5387	A-9	土坑	19C	(0.80)	0.80	土】皿（G）。陶】土瓶耳。	
Ⅳ－5	5388	A-9	土坑	17C初～18C前	0.80	0.60	伊】染付皿、赤絵紅皿。越】擂鉢。唐】刷毛目鉢。瀬】天目、灰釉皿。陶】鉄釉鍋。中】鉄釉碗、青磁皿。瓦】赤-平・丸。	平瓦に刻印あり。
Ⅳ－5	5389	A-9	土坑	17C後	2.00	(1.40)	土】皿（C）。伊】青磁香炉。	
Ⅳ－5	5396	J-9	柱穴		0.45	0.45		柱穴列Ⅳ５・６－１
Ⅳ－5	53179	J-9・10	柱穴	17C後	8.50		土】皿（C-新？）。瀬】古瀬戸灰釉瓶？	柱穴列Ⅳ５・６－１
Ⅳ－5	5401	A-1 B-1・2	土坑	19C中～近代	17.00	4.20	土】涼炉、バンドコ蓋、皿（G）。伊】筒碗、半球碗、紅皿、タコ唐草文様小瓶、鉢。瀬】端反碗、皿、江戸絵付盃。中】漳州色絵皿、大皿。唐】刷毛目大皿。信】碗、油差、柄杓、灯明皿。越】大甕、擂鉢、鉢、小擂鉢。瓦】だるま-桟、赤。陶】土瓶、擂鉢、行平。	19C中の典型的なまとまり。優品、組み物多い。赤瓦の桟瓦が大変多い。

屋敷番号	遺構番号	地　区	遺構種別	時　期	法量（単位：m）		主な遺物	備　考
					長辺	短辺		
Ⅳ－5	5407	B-10	土坑	17C後～18C中	1.85	1.60	土】皿（C、D）。唐】刷毛目碗。瓦】黒 - 丸。	17C後の完形に近い土師質皿が大量出土。
Ⅳ－5	5428	B-1・10 C-1・10	土坑	17C後 （大火後）	5.00	4.10	土】皿（D）。瀬】天目。越】甕、擂鉢。 瓦】黒 - 丸・平・軒平、赤 - 丸・平。	
Ⅳ－5	5442	C-1	土坑	17C後	0.80	0.60	土】皿（C- 新）。伊】皿、青磁香炉。越】擂鉢。	
Ⅳ－5	5443	C-10	土坑	（16C末～） 17C初	2.70	2.30	土】皿（C - 古、B）。伊】碗（コンニャク）。 中】染付小碗。唐】小坏。 瀬】灰釉折縁皿、緑釉皿。越】擂鉢。	17C初の良いまとまり。伊万里は混入品。
Ⅳ－5	5444	B-10	土坑	17C後	1.10	0.55	土】皿（D、K）。伊】陶胎染付、小坏。 唐】刷毛目碗（現川）。瀬】京風鉄絵碗、灰釉手桶形鉢。信】急須蓋。越】甕、擂鉢。	18C ～ 19Cは混入品か。
Ⅳ－5	5449	C-10	土坑	17C後	（6.10）	1.20	土】皿（D、C）。伊】碗（17C後）。瓦】黒 - 丸。	量は少ないが良いまとまり。
Ⅳ－5	5450	B-10	土坑	17C初～中	（1.85）	1.20	土】皿（C ？）	
Ⅳ－5	53104	A-10	土坑	17C前～18C後	1.45	1.40	土】皿（C）。伊】陶胎染付。	
Ⅳ－5	53105	A-10	土坑	17C	1.05	0.85	土】皿（C）。	
Ⅳ－5	53107	J-9	ピット	17C後～	0.40	（0.40）	伊】大皿？	
Ⅳ－5	53109	A-10 B-10	溜桝	17C ～18C後	2.60	1.75	土】皿（B、C- 新、D）、焼塩壺。伊】陶胎染付、碗、皿。越】擂鉢。唐】呉器手、皿（胎土目）。瀬】黒織部茶碗、天目。中】染付碗。	深さ0.8ｍほどで底に敷石あり。黒織部印は珍しい。
Ⅳ－5	53110	A-9	土坑	17C初	（1.40）	0.90	土】皿（G、K）。瓦】黒 - 丸。	
Ⅳ－5	53117	A-9	ピット	17C中～後	0.65	0.40	土】皿（C ？）。伊】碗（初期）。唐】斑唐津碗。	
Ⅳ－5	53145	B-10	土坑	17C	1.25	0.70	土】皿（C ？）。	
Ⅳ－5	53146	A-10 B-10	土坑	18C	1.60	1.10	土】皿（D）。軟】小壺。伊】碗、鉢。越】擂鉢。唐】刷毛目大皿、皿。瓦】赤 - 平。	
Ⅳ－5	53149	A-9・10	土坑	17C後～ 19C	（1.50）	1.00	土】皿（H、R- 施釉）。伊】大皿、蓋、鉢。越】擂鉢。瀬】蓋、天目、黒織部碗。瓦】赤 - 平。	
Ⅳ－5	53153	J-9	柱穴	～ 18C前	0.50	0.35	土】皿（D）。	
Ⅳ－5	53156	A-10	土坑	17C初	1.30	1.20	土】皿。越】甕。唐】碗。	
Ⅳ－5	53160	A-9	ピット	17C	0.55	（0.50）	土】皿（C）。	
Ⅳ－5	53163	A-9	土坑	17C前～中	（1.10）	0.60	土】皿（C）。	
Ⅳ－5	53211	A-9	土坑	17C初？	0.80	0.65	土】皿（C）。	
Ⅳ－5	53228	B-10	土坑	17C初～前	1.60	0.30	越】擂鉢。中】染付小坏。	
Ⅳ－5	53231	A-9	土坑	17C初	（0.60）	（0.50）	古】弥生～古墳時代の土器。唐】皿。	
Ⅳ－5	53234	A-10	土坑	17C後	1.80	1.20	土】皿（D ？）。越】擂鉢。	
Ⅳ－5	53236	A-9	土坑	17C中～後	（1.10）	（0.75）	土】皿（K）。伊】皿。	
Ⅳ－5	53238	B-10	土坑	17C	0.90	0.80	土】皿（C- 新）。瀬】志野丸碗。	
Ⅳ－5	53239	B-10	土坑	17C後			土】皿（K- 古）。伊】碗？信】碗。須】甕。瀬】灰釉皿、志野碗。	19Cは混入品か。
Ⅳ－5	53253	A-10	井戸	17C初	0.60	0.50	越】擂鉢（三角 - 溝）。	溜桝53109の下1.3ｍで検出。

第36表　屋敷地Ⅳ－6遺構観察表　　屋敷地5と6の境は18世紀後半までは溝5311だったが、幕末には溝5346へ移る。

屋敷番号	遺構番号	地　区	遺構種別	時　期	法量（単位：m）		主な遺物	備　考
					長辺	短辺		
屋敷地境	5346	A-1 I-10 J-1・2	溝	～19C中	（22.00）	1.80	土】七輪、風炉、皿（G、D）。伊】陶胎染付、碗、青磁花瓶。唐】呉器手。瀬】端反碗。灰釉皿。信】煎じ碗、茶壺。越】鉢、擂鉢。 瓦】黒 - 軒桟、だるま、赤 - 軒丸。陶】行平（飛びカンナ）、白＋緑釉水鉢。備】舟徳利。	幕末期の屋敷地Ⅳ-5とⅣ-6の境溝。
Ⅳ－6	Ⅳ5・6-2	B・C-1	柱穴列		11.00			溝5311に並行する屋敷地Ⅳ-6の柵列
Ⅳ－6	Ⅳ5・6-3	A-1	柱穴列	17C	6.00		土】皿（C ？）。	53144（南端）～ 53224（北端）
Ⅳ－6	5302	A-10	土坑	18C後～19C	（3.80）	（3.75）	土】皿（G）。伊】蓋、半球碗、皿（コンニャク、二重アミ）、瑠璃釉香炉。越】鉢、擂鉢、壺（ロクロ）。唐】碗。信】柄杓。瀬】御深井。京？】高麗写茶碗。瓦】だるま。	土坑の東側は、笏谷石で護岸。
Ⅳ－6	5303	J-10		18C後～19C			土】皿（D、C）。伊】陶胎染付、皿。越】擂鉢。唐】呉器手。堺？】小擂鉢。	
Ⅳ－6	5320	I・J-10	溝	18C後～19C	（15.00）	1.30	土】皿（G、G- 手）。伊】広東碗、半球碗、筒碗、くらわんか碗、蓋。越】甕、鉢、擂鉢。 唐】飴釉瓶。信】色絵碗、飯胴甕。 瀬】御深井鉢、灰釉水鉢。陶】壺。 備】鉄釉土瓶。瓦】黒 - 桟、赤 - 桟。	1.5mと深い。18C後を中心とした良いまとまり。
Ⅳ－6	5322	I-1	土坑	17C前～中	1.30	1.10	土】皿（C- 新）。中】白磁端反皿。	

屋敷番号	遺構番号	地　区	遺構種別	時　期	法量（単位：m）		主な遺物	備　考
					長辺	短辺		
Ⅳ－6	53101	A-10	土坑	17C	0.60	0.50	土】皿（C ？）。	
Ⅳ－6	53102	A-10	土坑	～18C前	0.90	0.70	土】皿。唐】呉器手。	
Ⅳ－6	54103	I･J-1	石積み	17C初	1.20	1.00	土】皿（C-古）。伊】ソバ猪口。中】漳州碗。唐】絵唐津大皿。瀬】志野菊皿、焼締皿？越】短頸壺。	
Ⅳ－6	53108	A-10	土坑	17C初	1.70	1.10	土】皿（C）。唐】皮鯨碗。	19Cのものは混入品。
Ⅳ－6	54109	B-2	土坑	17C初～前	1.00	(0.80)	土】皿（D､C-古）。伊】陶胎染付、半球碗。中】染付小坏。唐】皿（砂目）、大皿。瀬】焼締皿。越】擂鉢。	
Ⅳ－6	53150	J-10	土坑	～17C初	(4.00)	3.60	土】皿（C）。越】擂鉢（三角-溝）。瀬】灰釉皿。瓦】黒-平。	瓦は古いものか。
Ⅳ－6	53155	J-1	土坑	17C前	(2.25)	1.30	土】皿（朝倉D-中・小）。唐】溝縁皿。	5346の下層に存在。
Ⅳ－6	53166	A･J-10	土坑	17C前～中	1.75	0.60	土】皿（C）。	
Ⅳ－6	53174	A-10	土坑	17C	1.65	1.60	土】皿（B-中）。	
Ⅳ－6	53182	J-10	土坑	～17C初	0.60	0.45	土】皿（C）。伊】鉢。越】擂鉢、甕、鉢。信】煎じ碗、餌入。瀬】瀬戸黒、志野丸碗、天目（大窯）、灰釉皿、金属風皿。中】染付碗、小坏。瓦】赤。	16C末～19Cのものが混じる。中心は16C末～17C初か。
Ⅳ－6	53193	A-1･10	溝	18C後～	4.30	0.35	土】皿（G）。	
Ⅳ－6	53194	A-10	土坑	17C初～前	1.40	1.00	土】皿（C）。	
Ⅳ－6	53197	J-1･10	土坑	17C前	1.70	1.20	土】皿（C）。瀬】天目。	
Ⅳ－6	53198	J-1･10	土坑	17C初	1.75	1.50	土】皿（C-古）。唐】天目、絵唐津皿、唐津平碗（岸嶽）。瀬】天目、志野碗。中】染付碗。	伊万里なし。
Ⅳ－6	53199	J-10	土坑	～17C初	(2.00)	1.20	土】皿（C-古）。	土師質皿のみ。
Ⅳ－6	53213	J-10	土坑	17C後	0.95	0.90	伊】瓶。	
Ⅳ－6	53224	A-1	土坑	17C前	0.70	0.65	唐】皿（砂目）。	
Ⅳ－6	5402	A-1･B-1	溝	17C後	(19.75)	1.20	土】皿（C）。伊】青磁皿。唐】絵唐津大皿、飴釉大皿。信】茶壺。越】擂鉢。李】白磁皿。	
Ⅳ－6	5408	A-1	土坑	18C後～19C前	2.90	2.70	土】皿（G）。伊】皿、陶胎染付蓋、色絵大皿、ソバ猪口、小碗、くらわんか碗。中】染付端反碗。唐】刷毛目鉢、斑唐津刷毛目碗。瀬】灰釉丸碗。信】煎じ碗、筒碗、京都系色絵碗。越】鉢、擂鉢、甕。瓦】だるま、黒-平。陶】土瓶。	18C後の良いまとまり。優品が若干入るが、越前は少ない。くらわんか碗等の組み物あり。
Ⅳ－6	5409	J･A-2	土坑（上層）	18C後～19C	1.40	1.35	土】皿（G）。唐】大皿。信】筒鉢、急須。陶】鉢、土鍋。	
Ⅳ－6	5409	J･A-2	土坑（下層）	18C～19C	1.40	1.35	土】皿（G）。伊】菊形小碗、白磁小坏（菊形）。瀬】小碗。陶】徳利？、土瓶。	
Ⅳ－6	5410	B-1	土坑	17C後	2.10	2.00	土】皿（D）。伊】筒碗、皿。唐】鉢。越】擂鉢。	
Ⅳ－6	5422	J-1	土坑	～18C後	2.10	1.90	土】皿（G､D）。伊】碗、皿、鉢。中】漳州赤絵鉢。瀬】天目、鉄釉ひだ皿。越】鉢。	大火後の遺構。
Ⅳ－6	5427	B-1･2	溝	～19C	(5.10)	0.60	土】皿（G）。伊】碗。越】鉢（逆台形）。	
Ⅳ－6	5435	A･B-1	ピット	17C中～後	0.45	0.45	土】皿（D）。伊】青磁平鉢、碗、小坏（蘭）。瀬】鉄釉鉢。越】擂鉢（内傾）。	優品を多く含む。
Ⅳ－6	5436	J-2～A-1	土坑	17C後（～19C前）	1.90	(1.65)	土】皿（D､G）、火鉢。伊】白磁碗、半球碗（菊）。唐】刷毛目斑唐津碗、大皿。	
Ⅳ－6	5438	AB･-2	溝		0.70	(20.00)		
Ⅳ－6	5440	A-1･2	土坑	17C中～後	4.20	(3.10)	土】皿（K､D）。伊】白磁口サビ碗、外青磁天目。唐】大皿、斑唐津チロリ。瀬】天目、志野丸皿。越】擂鉢。瓦】黒-平。	優品を多く含む。
Ⅳ－6	5445	B-1	土坑	17C後	2.95	0.70	土】皿（D）。伊】青磁香炉。唐】刷毛目碗。瓦】黒-平・丸。	瓦は被災遺物。
Ⅳ－6	5465	B-2	溝	17C後～18C後	(4.10)	(1.45)	土】皿。伊】小碗。唐】皿。瀬】灰釉碗、陶胎染付。信】碗。越】甕。	時期幅広い。
Ⅳ－5	5468	B-1	井戸	19C	2.80	2.50	土】皿（C）。伊】鉢。越】擂鉢。瓦】だるま。須】甕。中】漳州色絵鉢、青磁稜花小皿。	
Ⅳ－6	5469	B-2	土坑	17C初	0.80	0.60	唐】皿。	
Ⅳ－6	5471	B-2	土坑	17C	(1.90)	1.30	土】焼塩壺、皿（C）。信】碗。	
Ⅳ－6	5486	A-2	土坑	16C後～17C中	3.20	1.00	土】皿（G）。唐】二彩瓶。瀬】鉄釉皿、灰釉皿。越】擂鉢。	

第37表　道路６遺構観察表

屋敷番号	遺構番号	地　区	遺構種別	時　期	法量（単位：m）		主な遺物	備　考
					長辺	短辺		
道路６	5403	C-1	道路	19C中	(24.00)	(9.00)	土】瓦質焜炉、皿（G、C）。伊】碗、陶胎染付、青磁香炉、壺。瀬】端反碗、型皿、飴釉碗、鼠志野大皿。中】漳州大鉢。唐】二彩甕、三島大皿、鉢。信】腰白壺。越】擂鉢、鉢、甕。瓦】黒－平、赤－平・軒丸、だるま。陶】行平。	
道路６	5404	C-1 B-2	石組溝	～19C	(15.00)	0.50		
道路６	5415	C-1	土坑	17C初	1.80	(0.75)	土】皿（C）。中】染付皿。唐】皿、擂鉢。	
道路６	5418	C-1	溝	16C末～17C初	(5.50)	(0.60)	土】皿（C-古）。伊】碗、皿。中】染付碗。唐】斑唐津碗？須】瓶。	伊万里は最初期のものか。
道路６	5425	C-1	溝	～19C	(5.00)	(0.60)	伊】青磁袴腰平香炉、湯飲形碗（細縁）。唐】二彩大鉢。越】甕。須】坏。	
道路６	5426	B-2 C-1・2	溝	17C～19C中	(23.80)	1.80	土】皿（C）、風炉。伊】大皿、碗。唐】碗、大皿。瀬】天目、志野大鉢、鉢、瓶。越】甕、壺。瓦】黒－丸・平、赤－平、だるま。	
道路６	5429	C-1	土坑	17C初～後	1.50	1.25	唐】絵唐津向付。越】擂鉢。瓦】赤・黒－平。	瓦は被災遺物。
道路６	5431	C-1・2 D-1	溝	17C初～前	(23.80)	1.60	土】皿（C、B）。中】染付坏、青磁大皿。唐】灰釉皿、青磁碗、大皿。信】甕。越】擂鉢。	古い時期の道路側溝。
道路６	5432	B-2 C-1	溝	17C初～前	(23.80)	1.90	土】皿（C）。伊】陶胎染付、青磁鉢、碗。中】白磁軟質小皿。信】碗。越】擂鉢。	古い時期の道路側溝。18Cの遺物混じる。
道路６	5433	C-1	土坑	17C初～前	1.40	1.10	土】皿（C）。唐】絵唐津向付、絵唐津皿、皿（胎土目）。瀬】天目。瓦】黒－丸・平。	伊万里・瓦は寛永年間か。
道路６	5434	B-2 C-1	溝	17C初～中	(6.00)	0.70	土】皿（C）、平鉢？中】漳州碗、染付皿。瀬】天目。越】擂鉢。	伊万里なし。
道路６	5437	C-1	土坑	17C中	1.10	0.90		
道路６	5439	C-1	木戸	17C後	2.10	1.10	瓦】赤－平、黒－平。	5454とで木戸を形成。
道路６	5446	C-1	土坑	17C初	1.50	0.85	土】皿（C、C-古、D-古）。唐】鉢（墨書）、絵唐津稜花皿？信】焼締壺。	唐津の稜花皿は京焼の可能性もあり。
道路６	5454	C-1・2	木戸	17C後	2.50	1.20	土】皿（G）。唐】皿（砂目）。瀬】鉄釉碗。瓦】黒－平・丸、赤－丸・棟？・平・軒丸、だるま－軒。	5439とで木戸を形成。
道路６	5455	C-1	溝	17C後	7.45	1.20	土】施釉皿。瓦】赤－丸。瀬】天目。	
道路６	5460	C-1・2	土坑	17C前			土】皿（C-古）。瀬】天目、絵志野小皿。越】甕。瓦】赤－平。	
道路６	5464	C-1	土坑	～17C初	1.20	0.85	土】皿（C）。中】白磁皿。唐】絵唐津皿。	唐津あり。
道路６	5472	C-2	溝	17C初	6.90	1.70	土】皿（C、B）。中】染付小坏、青磁大皿。唐】灰釉皿（白土）、大皿。信】甕。越】擂鉢。	
道路６	5483	C-1	土坑	17C初	0.80	0.60	土】皿（C）。中】漳州大皿。唐】鉢。越】甕。	唐津あり。
道路６	5484	C-1	土坑	17C後	0.65	0.60	土】皿（C）。瓦】黒－軒平・平、赤－軒丸。	
道路６	5485	C-1	土坑	17C後	1.25	0.60	瓦】黒－平。	
道路６	5491	C-2	土坑	17C初	(2.60)	(2.25)	土】皿（C-古）。	
道路６	54101	B-2	溝	17C前	(5.60)	(1.20)	土】皿（C）。中】染付碗。	
道路６	54104	C-2	土坑	17C前	1.10	1.00	中】染付碗。唐】大皿。瀬】志野皿。	
道路６	54110	C-1	土坑	17C後	1.00	0.30	瓦】黒－平。	被災した瓦片１点のみ。

第38表　屋敷地Ｖ－１遺構観察表

屋敷番号	遺構番号	地　区	遺構種別	時　期	法量（単位：m）		主な遺物	備　考
					長辺	短辺		
Ｖ－１	V1－1	C－2	礎石列	17C初～中	2.90			礎石5492・5493で構成。門か。
Ｖ－１	V1－2	E・F-2	礎石建物		(4.20)	(3.00)		礎石61051,52,55,57で構成。
Ｖ－１	5405	D-2	ピット	17C後	0.60	0.60	土】皿。瓦】赤－平。	
Ｖ－１	5475	C-2	土坑	17C ？	1.30	0.80	土】皿。	
Ｖ－１	5477	C-2	礎石	17C初～中	0.75	0.60		
Ｖ－１	5492	C-3	礎石	17C初～中	0.50	0.50	土】皿（C）	
Ｖ－１	5493	C-2	礎石	17C初～中	0.25	0.20		
Ｖ－１	5498	D-1	土坑	～17C後	1.75	1.65	土】皿（D）。伊】碗、陶胎染付。唐】飴釉瓶。瀬】小天目。越】擂鉢。瓦】黒－平。	17C後が中心か。18C後混じる。
Ｖ－１	54107	D-1	土坑	19C	0.70	(0.45)	瓦】だるま。陶】黄釉鉢。	
Ｖ－１	54113	D-1	ピット	17C初～前	0.40	0.40	土】皿（C）。越】擂鉢。	
Ｖ－１	61002	D-3	土坑	～19C中	1.20	1.05	土】皿（D、C、G）。伊】碗（一重アミ）、鉢。瀬】碗。唐】碗。瓦】赤－軒平・丸・平。陶】染付土瓶、火鉢（砂付）。堺】擂鉢。	17Cのものが混じる。
Ｖ－１	61003	D-2	土坑	17C後	1.05	0.75	土】皿（C-新）。唐】ワラ灰釉碗。中】染付小碗。瀬】鉄釉土鍋。瓦】黒・赤－平。	

屋敷番号	遺構番号	地　区	遺構種別	時　期	法量（単位：m）		主な遺物	備　考
					長辺	短辺		
V－1	61004	E-2	土坑	17C中	1.95	1.85	土】皿（C）。伊】皿、青磁碗。唐】絵唐津大皿、二彩大皿。瀬】志野。瓦】黒。	
V－1	61005	D-2	土坑	17C後	1.45	1.10	土】皿（C-新）。唐】擂鉢。瀬】鉄釉碗。	
V－1	61006	D-2	土坑	16C後	1.35	0.95	土】皿（C）。越】甕（～16C）。	
V－1	61007	E-2	土坑	17C後	2.70	2.10	土】皿（C）。伊】猪口、碗（一重アミ）、腰張碗。唐】呉器手、溝縁皿、飴釉碗。	
V－1	61008	D-2	土坑	17C前	2.30	(2.00)	土】皿（C、D）。瀬】天目。	伊万里なし。
V－1	61009	D-3	井戸	17C前～後	1.80	1.60	伊】碗、青磁足付鉢。中】染付小坏、漳州白磁鉢。瀬】鉄釉碗、茶入。越】擂鉢。 瓦】黒-平、赤-平・丸。	深さ2.1ｍ。1辺1ｍの笏谷石製板石組井戸側上に石積み。
V－1	61010	D-2・3	土坑	17C前～中	2.40	2.20	土】皿（C）。越】擂鉢。	
V－1	61012	D-3	土坑	17C後	1.00	0.60	土】皿（C-新）。	
V－1	61014	D-2	土坑	17C中～後	(2.00)	1.40	土】皿（D）。越】擂鉢。	
V－1	61015	D-2	土坑	17C後～18C前	3.70	2.65	土】皿（D）。伊】碗、ぐいのみ（一重アミ）。越】擂鉢。備】徳利。	
V－1	61017	D-2	土坑	17C後			土】皿（K）。伊】碗（一重アミ）、青磁小壺。	
V－1	61019	D-3	土坑	17C後	1.00	0.90	土】皿（C）。伊】碗。中】形紙染付皿。	
V－1	61022	D-1	井戸	19C中～近代	1.80	1.75	瀬】釉裏紅湯飲、金襴手盃、型紙皿。 陶】行平鍋、擂鉢。	
V－1	61024	E-2	土坑	17C前	1.90	1.10	土】皿（C）。唐】皿（砂目）。	
V－1	61025	E-2	土坑	19C中	1.90	1.00	土】焙烙。伊】陶胎染付、小碗、錦手小重鉢。瀬】端反碗、形紙皿、馬の目皿。唐】鉄釉碗。陶】土瓶。	
V－1	61026	E-2	土坑	～19C	0.80	0.80	土】皿（G）。中】染付小坏。唐】皿（砂目）。	17Cと19Cのもの混じる
V－1	61028	E-2	土坑	17C中	2.60	2.50	土】皿（B、D）。伊】筒碗（古）、碗。中】染付小碗。唐】皿（胎土目）。瀬】鉄釉碗。 越】擂鉢。京】軟質施釉碗？	伊万里は古い。
V－1	61030	E-2	土坑	17C後	(2.10)	2.00	土】皿（D）。伊】碗。唐】飴釉碗、絵唐津大皿。瀬】志野碗、天目。越】擂鉢。	
V－1	61032	D-2 E-2	土坑	17C後～(19C)	1.10	0.80	土】皿（G、C、D-古）。伊】碗（一重アミ）。唐】皿（胎土目）。瓦】黒-平、だるま。	17C後のものが中心。
V－1	61035	F-2	ピット	19C中～明治	0.50	0.30	土】皿。瀬】半球碗。信】色絵半球碗。 瓦】だるま。他】レンガ。	
V－1	61037	E-2	土坑	～17C初	(1.30)	1.10	土】皿（C）。中】青磁碗（16C）。	
V－1	61040	D-1	土坑	明治	0.80	(0.50)	瀬】端反碗。中】染付皿。瓦】赤-丸、だるま。京】軟質施釉葉形皿。陶】土瓶。	
V－1	61044	E-3	土坑（上層）	17C後（大火後）	(2.50)	(2.45)	土】皿（K-古、C）。中】染付小坏。伊】蓋。信】茶壺。唐】手付鉢、溝縁皿、鉄釉碗。 瓦】黒-丸。丹波？】大平鉢	伊万里と瓦が混じる。17C後まで降るか。上層は中層より若干新しいか。
V－1	61044	E-3	土坑（中層）	17C初～前	(2.50)	(2.45)	土】皿（C、A、D）。中】染付皿、漳州大皿。唐】皿（胎土目）、碗（砂目）。瀬】黄瀬戸ふり出し、志野皿、志野天目、天目、古瀬戸深鉢。越】灰器、擂鉢、甕（格子印）。	伊万里なし。唐津の碗に高台内施釉あり。擂鉢多い。
V－1	61044	E-3	土坑（下層）	17C初	(2.50)	(2.45)	土】焙烙（灰器）、皿（C、B）。中】漳州碗、漳州大皿、染付赤絵碗。唐】水指、碗、大皿。瀬】天目、志野向付。越】擂鉢。	
V－1	61045	C-3	土坑	17C中～後	(4.30)	2.10	土】皿（K）。伊】碗。唐】緑釉刷毛目手付鉢、灰釉皿、耳壺（茶壺？）。瀬】志野皿。 越】擂鉢、壺、甕、大鉢。瓦】赤-丸。	
V－1	61058	E-1・2	土坑	17C初			土】皿（C）。瀬】織部向付。越】甕。	
V－1	61062	D-3	土坑	17C初			土】皿（K-古）。瀬】茶入。中】白磁菊皿。	
V－1	61074	D-3	土坑	17C後	1.45	(1.40)	土】皿（A、D、C-新）。伊】白磁端反坏、碗。信】鉄釉壺。瓦】赤-丸。	
V－1	61075	D-2	土坑	17C(19C)	2.75	2.10	土】皿（C）、焼塩壺。伊】碗、半球碗。中】染付皿。越】甕。	19Cのものは混入品か。
V－1	61076	E-3	土坑	17C初	1.50	(1.40)	土】皿（C）、焼塩壺。唐】皿。	
V－1	61083	D-3	土坑	17C初	1.90	1.05	唐】皿（胎土目）。	
V－1	61088	E-3	溝	～17C初	4.40	0.50	土】皿（B、D）。越】甕底？	
V－1	61091	E-3	土坑	～17C初	1.10	0.55	越】擂鉢（16C）。	
V－1	61094	D-3	土坑	17C初	1.20	0.70	唐】丸皿（皮鯨）。	
V－1	61107	E-3	土坑	17C	1.00	1.00	土】皿（C）。	
V－1	61151	F-2	柱穴	～17C初	1.20	0.75		
V－1	61152	F-2	柱穴	～17C初	1.30	1.15	土】皿（C-古）。	
V－1	61177	E-1	炉跡	17C後			土】皿（C-新）。伊】碗（一重アミ）。	
V－1	62014	F-3	土坑	17C	2.40	(2.00)	土】皿。越】甕。	
V－1	62017	F-3	土坑	16C後～17C後	5.00	3.50	土】皿（C）。伊】白磁碗。 瀬】灰釉稜皿、天目（大窯後）。越】擂鉢。	17Cのものは混入品か。

屋敷番号	遺構番号	地　区	遺構種別	時　期	法量（単位：m）		主な遺物	備　考
					長辺	短辺		
Ⅴ－1	62018	G-3	土坑	～17C後（大火後）	3.80	3.50	土】皿（C-新）。伊】碗、白磁小坏、青磁香炉、鉢。瀬】瓶。中】漳州大皿。唐】碗、皿、呉器手、鉄釉片口鉢、甕（格子タタキ）。信】鉄釉瓶。越】擂鉢、鉢。中】漳州大皿、交址鳥。瓦】黒-丸。他】壁土。	土師質皿に穿孔（芯押さえ）。
Ⅴ－1	62037	H-4	土坑	～17C初	0.90	0.60	土】皿（C-古）。	

第39表　屋敷地Ⅴ－２～５・道路７・中之馬場北石垣遺構観察表

屋敷番号	遺構番号	地　区	遺構種別	時　期	法量（単位：m）		主な遺物	備　考
					長辺	短辺		
屋敷地境	62003	C-3 D-3・4 E-4	溝	17C初～19C中	(58.00)	(7.80)	土】焼塩壺蓋、皿（C、K、G）。伊】大皿、碗、赤絵小壺？（唐草）、色絵碗。中】漳州碗、漳州大皿、瑠璃釉大皿、漳州赤絵鉢、染付小坏。唐】飴釉碗、青緑釉香炉、呉器手、朝鮮唐津碗、鉄釉碗、大皿、徳利（タタキ）、皿（砂目、胎土目）、青緑釉壺、茶壺（タタキ）、擂鉢。瀬】志野大ドラ鉢、鉄釉碗、志野盃、碗、皿、天目、織部徳利、織部鉄釉茶入？、黄瀬戸蓋付向付。信】茶壺。越】擂鉢（三角・内傾）、甕。瓦】赤-丸、黒-丸・平。備】徳利。	屋敷地Ⅴ－１とⅤ－２の境溝。４回以上作り直されており、新旧の遺物が混じる。中国製品に優品多い。62005と一連のもの。
屋敷地境	63005	H-4・5	溝	17C初～19C中	(15.00)	5.00	土】皿（C-古）、土埦。軟】黒楽碗。伊】碗、大鉢。瀬】古瀬戸。中】青磁碗、染付皿。越】甕。	63003と一連のもの。
屋敷地境	62009	F-3 G-3・4	溝	17C後～19C中	16.90	2.35	土】皿（G、E）。伊】色絵碗、青磁香炉。瀬】端反碗。中】漳州大皿。唐】飴釉碗、黒釉壺、甕（格子タタキ）。瀬】天目、擂鉢。信】甕。越】甕、擂鉢。陶】急須。	幕末期の屋敷境溝か。溝63003に接続。
Ⅴ－3	62007	G-4	ピット	19C～近代	0.70	0.60	軟】布袋。備】大平鉢。	
Ⅴ－3	62010	G-4	溝	17C初	3.20	0.60	中】小坏、染付皿。唐】皿。瀬】灰釉瓶。	
Ⅴ－3	62011	H-4	ピット	17C	0.65	0.40	土】皿。越】甕、擂鉢。	
Ⅴ－3	62018	G-3	土坑	～17C後	3.80	3.50	土】皿（C、C-新）。伊】碗、白磁小坏、青磁香炉、鉢。瀬】瓶。唐】碗、皿、呉器手、鉄釉片口鉢、甕（格子タタキ）。信】鉄釉瓶。越】擂鉢、鉢。中】漳州大皿、交址鳥。瓦】黒-丸。他】壁土。	
Ⅴ－3	62020	H-4	土坑	17C前	1.35	0.70	土】皿。伊】碗（初期）。唐】碗？	
Ⅴ－3	62021	G-3	ピット	～17C中	0.55	0.45	中】白磁軟質小坏？	１点出土。伊万里の可能性あり。
Ⅴ－3	62022	G-3	土坑	17C後	1.35	0.70	土】皿（C）。伊】蓋。中】染付碗、漳州大皿。越】鉢（逆台形-古）。	
Ⅴ－2	62026	E-26	土坑	17C	(2.30)	(0.70)	土】皿。伊】菊形皿。唐】絵唐津碗、皿。越】擂鉢。	
Ⅴ－3	62034	G-3・4 H-4	溝	17C初	7.70	1.10	土】皿（B、D）。中】漳州大皿。越】甕。	
Ⅴ－3	6301 6302	H-4・5 I-5・6 J-6・7	大土坑	19C～近代	(27.80)	(8.20)	土】皿（G、G-手）、葉型皿、七厘、焜炉、涼炉五徳、瓦質風炉。伊】碗、半球碗、陶胎染付碗、皿、八角鉢、青磁大皿、人形。瀬】形紙碗、太白手碗、盃、形紙小皿、色絵蓋、染付土瓶。中】漳州大皿。唐】呉器手碗、大平鉢、絵唐津向付、刷毛目鉢、二彩甕、三島唐津大皿。瀬】鬢盥、志野向付、織部片口向付、天目、ゲンコツ碗、灰釉碗、灰釉片口鉢、緑釉火鉢。信】色・鉄絵碗。灯明皿。越】灰釉小壺、擂鉢、甕、鉢。瓦】だるま-軒桟・棟、黒-平・桟、赤-丸。三田】青磁植木鉢。	
Ⅴ－3	6304	G-5 H-5・6	大土坑	19C～近代	(7.80)	(6.80)	土】皿（G、G-手）。伊】碗、短頸壺（被災）、陶胎染付。瀬】端反碗、形紙皿、総織部天目。唐】碗、飴釉碗。越】甕。瓦】だるま-軒桟。陶】青緑釉土瓶、土瓶蓋。	
Ⅴ－3	6305	I-5	土坑	17C初	3.30	2.15	土】皿（C、D）。中】漳州碗、漳州大皿。唐】皿、小坏、花瓶、飴釉碗、鉢、絵唐津皿。瀬】黒織部沓茶碗。越】擂鉢。	伊万里なし。土師質皿は口径が２種にまとまる。
Ⅴ－3	6313	I-6	ピット	17C後	0.30	0.25	土】皿（K）。唐】甕、飴釉碗。	
Ⅴ－3	6318	I-7	ピット	17C後	0.35	0.20	土】皿。唐】飴釉碗。	
Ⅴ－3	6321	I-7	溝	～19C中	6.60	1.10	瀬】蓋、緑釉皿。瓦】だるま。	

屋敷番号	遺構番号	地　区	遺構種別	時　期	法量（単位：m）		主な遺物	備　考
					長辺	短辺		
V－3	6324	I-5	土坑	17C後	0.75	0.50	伊】青磁香炉。唐】青唐津皿。越】擂鉢。	
V－3	6327	I-5	土坑	近代	(1.80)	0.80	瀬】形紙半筒碗。	
V－3	6329	I-5	ピット	19C ～近代	0.20	0.20	瀬】急須？	
V－3	6334	H-6 H-5･6	土坑	～近代	(3.10)	0.80	土】瓦質火鉢、皿（G）、焙烙、七厘（角）。 伊】鉢、広東碗蓋、くらわんか碗。 瀬】徳利、赤絵鉢、端反碗、蓋、灰釉丸皿。 越】擂鉢、鉢、甕、灰釉壺。瓦】黒 - 平、赤 - 丸、だるま - 軒桟。湊】掛花入。 陶】土瓶（イッチン）、土鍋。	
V－3	6336	I-5	土坑	19C			越】甕？	
V－3	6337	I-5	土坑	17C前～中～後	(8.00)	(6.40)	土】皿（B、C、D）。中】染付碗、青磁大鉢、碗、皿。唐】絵唐津大皿、溝縁皿、青唐津皿（胎土目）、碗、飴釉碗、耳付水指。 瀬】天目、志野碗。越】擂鉢、甕。	中国製品多い。天目多い。完形品多い。
V－3	6340	I-5	土坑	～ 19C			伊】皿。信】灯明皿？ 越】灰釉甕？	
V－3	6342	H-6	石列	19C中～近代	3.00		土】皿（C、D）。伊】半球碗。中】染付小坏。唐】甕（タタキ・貝目）、灰釉徳利。 瀬】鉄釉徳利。越】こね鉢。	
V－3	6343	H-5	石列	19C中～近代	11.50	(1.50)	土】瓶子、皿（G）。伊】鉢。瀬】盃（江戸絵付）、擂鉢、端反碗、形皿。唐】呉器手。 信】灯台。越】擂鉢、鉢（カメ形）、甕。 瓦】だるま - 軒、黒 - 桟・軒丸・桟軒。	
V－3	6345	I-5	土坑	17C後?	(1.50)	0.90	土】皿（D ？ ）。	
V－3	6348	I-6	井戸掘方	17C中～後	(2.60)	(2.20)	土】皿（E、C）。伊】皿。中】染付皿。越】甕。	深さ2.8ｍ。直径0.9ｍ、高さ１.0ｍの桶側が一段残る。
V－3	6349	I-6	土坑	17C中～後	2.00	1.65	土】土埦、皿（C）。伊】皿。唐】天目、溝縁皿、碗。瀬】天目。越】擂鉢。	
V－3	6350	J-6	土坑	(17C後～) 19C前～近代			土】皿（C）。伊】筒碗、半球碗。瀬】形紙碗、端反碗。中】漳州碗。唐】刷毛目碗（現川）。 越】擂鉢、中甕。陶】染付蓋、白釉鉢。	
V－3	6351	J-5	土坑	17C･19C ～近代	(1.50)	(1.50)	土】皿（B、C）。伊】小碗、色絵徳利。中】白磁端反皿。唐】段皿。瀬】織部小坏。 越】擂鉢。瓦】だるま。	時期の特定が難しい。
V－3	6353	I-5 J-5	土坑	17C中～後	4.65	2.90	土】皿（B、C- 新）。伊】碗？、白磁碗。 中】染付小皿。唐】皿（砂目）、斑唐津碗、飴釉小瓶、擂鉢。瀬】白天目、天目、茶入。 越】擂鉢	優品が多い。土師質皿多い。伊万里ほとんどない。
V－3	6354	B-7･8	道路	19C ～近代	(20.00)	7.50		百間堀沿いの道路。
V－3	6355	J-6･7	土坑	17C後	3.00	2.15	土】皿（C- 新、B）。伊】碗、皿、色絵鉢、青磁鶏。瀬】半球碗。中】染付小坏。唐】大皿、皿（胎土目）、飴釉碗。瀬】灰釉水鉢、打刷毛目碗。信】焼締壺。越】擂鉢。	土師質皿は口径が４種あり。19Cのものは混入品か。
V－3	6356	J-7	土坑	17C前	1.60	(1.40)	唐】皿（B、D）。唐】甕（タタキ）。越】甕。	
V－3	6357	J-6	土坑	17C中	1.90	0.35	土】皿（E- 古）。伊】碗。瀬】天目（連房）。	
V－3	6359	A-6･7	井戸掘方	～ 17C初	1.80	1.75	瀬】灰釉碗。越】擂鉢。瓦】黒 - 平・桟。	
V－3	6359	A-6･7	井戸石組内	17C前～中	1.80	1.75	土】焼塩壺、皿（D、B）。伊】小坏。 唐】甕（タタキ）、斑唐津小瓶。瀬】天目。 越】擂鉢。	深さ2.1ｍ。直径0.9ｍ、高さ0.7ｍの桶側の上に石積みの井戸側あり。
V－3	6360	J-5	土坑	17C初	6.30	(2.60)	土】皿（D、C 新）。伊】瓶。唐】絵唐津大皿、絵唐津皿、朝鮮唐津小瓶。越】甕、擂鉢。	
V－3	6361	J-5	土坑	～ 19C	1.20	1.10	土】皿（C）。唐】絵唐津皿。陶】万古？	
V－3	6364	J-6	土坑	19C中～	1.05	1.05	伊】半球碗。瀬】碗。唐】斑唐津碗？	
V－3	6365	J-6	ピット	～ 18C後	0.40	0.40	土】皿（G）。伊】外鉄釉碗。	
V－3	6367	A-7	土坑	17C中～後	3.50	2.35	土】皿（B、D）。伊】小坏、碗、青磁中皿。 唐】皿（胎土目）。瀬】天目。越】擂鉢。	土師質皿多い。
V－3	6368	A-7 J-7	土坑	17C中～後	2.60	(1.50)	土】皿（D）。中】染付小坏。唐】皿。 信】小碗。	
V－3	6369	A-7	土坑	17C後 (大火後)	5.80	5.10	土】皿（D、C- 新、K）。伊】筒形大鉢、瑠璃釉大鉢、皿、青磁鉢、色絵鉢、碗、片口鉢、鉄釉碗、瓶、瑠璃釉脚付蓋、白磁鉢。中】漳州印判手大皿、青磁碗、染付大皿、小坏、染付輪花大皿。唐】鉢、碗、呉器手、刷毛目大皿、二彩小壺、甕（タタキ）、鉄釉鍋、熊川写碗。瀬】皿、耳壺、鉄釉水次、天目、志野織部小坏、御深井香炉。信】腰白壺。越】大甕。瓦】黒 - 平。	被災遺物が多い。大甕４個体以上あり。伊万里の優品、組み物多い。伊万里の片口等珍しい器種や大型品などが多い。
V－3	6374	J-6	土坑	17C前～中	2.00	1.70	土】皿（C、D）。	
V－3	6375	J-6	井戸掘方	17C初～前	2.70	2.60	土】皿。瀬】鉄釉碗。備】擂鉢。	深さ2.0ｍ。直径0.8ｍ、高さ1.95ｍの桶側が１段残る。
V－3	6375	J-6	井戸内	～ 19C	1.65	1.60	越】だるま - 桟・軒桟、黒 - 桟。	

屋敷番号	遺構番号	地　区	遺構種別	時　期	法量（単位：m）		主な遺物	備　考
					長辺	短辺		
V－3	6381	J-7	土坑	17C後?	0.75	0.75	伊】碗？	
V－3	6387	A-7	土坑	17C後	2.30	1.70	土】皿（D）。伊】碗（一重アミ）、小坏、色絵小坏。中】染付蛇目釉ハギ皿。	
V－3	6388	A-7	ピット	17C?	0.40	0.40	瀬】灰釉皿。	
V－3	6390	A-7	土坑	17C	2.10	(0.50)	唐】鉄釉甕？	
V－3	6391	A-8	土坑	17C初～前	2.80	(2.35)	土】皿（C）。伊】皿、鉢。瀬】天目。信】焼締壺。越】甕、擂鉢。	伊万里は混入品か。
V－3	6393	A-6 J-6	土坑	16C後～ 17C中	(3.30)	1.90	中】漳州碗。唐】碗。瀬】天目（大窯前）。瓦】黒 - 平。	
V－3	6398	J-6	土坑	17C中	1.90	1.60	土】皿（C ？ ）。伊】碗。	
V－3	63113	A-7	土坑	17C後	2.00	1.60	土】皿（K、朝倉 D）。伊】碗。唐】青唐津皿。	
V－3	63118	I-5	土坑	17C中～後	(0.40)	0.40	土】皿（C ？ ）。	
V－3	63132	I-5	土坑	17C初	2.00	1.85	唐】絵唐津皿。	
V－3	63138	A-7	土坑	～ 17C初	1.00	0.85	土】皿（C- 古）。	
V－3	63139	A-6・7 B-6・7	土坑	17C中～後	3.30	1.80	土】皿（C）。伊】外鉄釉碗。唐】甕。瀬】天目、灰釉皿。越】擂鉢、甕。備】擂鉢。	
V－3	63144	B-8	土坑	17C初	(3.00)	1.50	土】皿（C）。唐】水指（タタキ）、大皿。瀬】志野丸皿、大皿。	
V－3	63146	B-7	土坑	17C後 （大火後）	1.90	1.50	土】皿（C）。伊】皿、碗。中】染付皿。越】甕、擂鉢。備】徳利。	伊万里に被災遺物あり。
V－3	63147	A-6	土坑	17C	(2.20)	(2.20)	土】皿（C）。瀬】天目。須】甕。	
V－3	63148	B-8	土坑	17C?	0.90	0.70	土】皿（C ？ ）。	
V－3	63151	B-7	土坑	17C後 （大火後）	(1.40)	(0.50)	土】皿（C）。伊】皿、碗。中】染付皿。越】甕、擂鉢。備】徳利。	伊万里に被災遺物あり。
V－3	63152	B-6・7	溝	～ 19C中	(2.20)	0.50	唐】皿？ 陶】土瓶蓋。	
V－3	63154	J-6	石列	17C前?	(1.45)	0.20	土】皿（C）。	
V－3	63155	J-6	溝	～ 19C	(19.00)	2.50	瀬】皿？ 陶】汽車土瓶用小杯。	
V－3	63161	B-7	土坑	17C初～前			土】皿（C）。唐】皿、碗、絵唐津皿。瀬】総織部碗？ 越】甕、擂鉢。	伊万里なし。
V－3	63162	B-7・8	土坑	19C?	2.50	2.50	瀬】盃？ 越】甕。	
道路7	道路7	B・C-7・8	道路	17C ～明治	(19.00)	(4.30)		
中之馬場北石垣	中之馬場北石垣	C-7・8	石垣	17C ～	25.40			百間堀の南岸石垣。

第40表　百間堀・三ノ丸・土橋遺構観察表

屋敷番号	遺構番号	地　区	遺構種別	時　期	法量（単位：m）		主な遺物	備　考
					長辺	短辺		
百間堀	百間堀	B・C-8・9	堀	17C ～近代		幅 127.00	越】甕、壺（ロクロ）、擂鉢。唐】擂鉢。陶】形紙碗。瓦】黒 - 軒平。	
土橋	土橋	B-7・8 C-7・8	土橋	17C ～ 19C	(17.50)	幅 12.50	土】皿（G）。伊】碗、広東碗。瀬】タンコロ。瓦】だるま。陶】土鍋。	
土橋	土橋西側石垣	C 7	石垣	17C ～ 19C	(26.50)	高さ (2.50)		
土橋	土橋東側石垣	C-8.C-9	石垣	17C ～ 19C	(17.50)	高さ (2.10)	土】皿（G、D）。伊】皿。唐】皿（胎土目）。瓦】黒。陶】土瓶。	17 ～ 19 C のものが混じるが、17 C のものが中心か。
土橋	縁石状延石列	B・C-8	石列	17C ～ 19C	(24.00)	幅 1.50		
三ノ丸	三ノ丸南石垣	D-8 ～ C-9	石垣	17C ～ 19C	(16.00)	高さ (2.50)	土】皿。越】擂鉢、甕。瀬】端反碗。他】笏谷石瓦。	
三ノ丸	三ノ丸東石垣	D ～ F-10	石垣	17C ～ 19C	(21.00)	高さ (1.50)	土】皿（G）。伊】皿。唐】大皿。瓦】だるま - 鬼・桟、赤 - 丸、黒 - 平。他】笏谷石瓦。	
三ノ丸	三ノ丸東堀	D ～ F-10	掘	17C ～ 19C				
三ノ丸	802	E-10	土坑	17C	0.65	0.60	土】皿（C- 古）。	
三ノ丸	803	D-9	溝	16C後～末	(14.60)	0.70	越】擂鉢。	1点のみ。
三ノ丸	805-3	D-9	土坑	縄文～弥生	(3.50)	1.05	古】縄文土器。	1点のみ。
三ノ丸	811	E-10	土坑	17C	2.20	1.30	土】皿（C）。	
三ノ丸	818	E-9	土坑	17C ～	0.55	0.50	越】甕（施釉）。	
土橋	828	C-7	ピット	16C後～末	0.40	0.40	土】皿（C- 古）。越】擂鉢（16C）。	
土橋	831	C-7	ピット	17初	0.65	0.40	土】皿（C）。	
三ノ丸	835	E-9	井戸掘方	16末～ 17初			土】皿（C- 古）。	

第41表　中世遺構観察表（道路４以南）

屋敷番号	遺構番号	地　区	遺構種別	時　期	法量（単位:m）		主な遺物	備　考
					長辺	短辺		
北庄城-1	31109	J-4	土坑	16C末	1.10	0.80	土】皿（C）。瀬】灰釉天目、鉄釉筒碗、天目。	
北庄城-1	31126	J-3・4	溝	16C末	12.50	0.80	土】皿（C）。越】擂鉢、甕、壺。 瀬】灰釉折縁皿、鉄釉碗。中】染付皿。 李】堅手皿。	16C末の良い一括資料。
北庄期	3199	A-4・I-3・H-3	溝	16C後	29.00	1.00	土】皿（C）。越】甕。須】坏蓋。中】染付碗。	
北庄期	31121	A-4	井戸	16C後	(2.40)	(1.00)	土】皿（C）。越】甕。	道路１と重なっているところから、道路１より古い。
北庄期	31125	A-4	井戸	16C後	1.00	(1.00)	土】皿（C）。瀬】天目。中】染付皿。	深さ２ｍの素掘り井戸。底から1.3ｍ付近で地震のため横に大きくずれる。溝31106が上層にあり。
道路１	道路１	A-3・4	道路	16C末	17.50	5.00		東西方向の道路。両側に側溝あり。
道路１	31104	J-4	溝	16C末	17.50	2.40	土】皿（C）、瓦質風炉？ 中】白磁端反皿。	道路１の南側溝。
道路１	31106	A-4	溝	16C末	19.00	2.50	土】皿（C）。瀬】鉄釉瓶。	道路１の北側溝。
北庄城-2	3195	B-5	井戸	16C末	1.80	1.40	土】皿（C）。越】甕。瀬】天目、茶入？ 中】青磁碗（15C後）、白磁端反皿。	深さ3.2ｍ。直径0.7ｍ、高さ１ｍの桶側が２段残る。
北庄城-2	3198	B-4	土坑	16C後	(4.60)	(2.30)	土】皿（C）。瀬】天目、灰釉皿。 中】染付、白磁端反皿。越】甕、擂鉢。	
北庄城-2	31102	B-4・5	土坑	16C後～末	(5.80)	(5.20)	土】皿（C）。越】甕、擂鉢。 瀬】天目、鉄釉皿、擂鉢。中】染付碗（蓮子）。	この付近は北庄期の土坑が複数重なっている。
北庄城-2	31103	A・B-4	土坑	16C末			土】皿（C）。越】擂鉢。瀬】灰釉皿。 李】白磁皿。	瀬戸の灰釉皿は見込釉剥ぎ。
北庄城-2	31107	A・B-5	土坑	16C末	(4.80)	(3.40)	土】皿（C）。越】甕、擂鉢。瀬】天目。 中】漳州染付碗。	
北庄城-2	31108	A・B-4	土坑	16C中～後	(5.00)	1.90	土】土埵、皿（C）。越】擂鉢。 瀬】灰釉皿（大窯前半）、志野皿。	唐津、志野は混入品か。
北庄城-2	31111	A5	土坑	16C末	(3.00)	(2.20)	瀬】鉄釉皿。	
北庄城-2	31112	A5	土坑	16C後～末	2.60	1.90	土】皿（C）。瀬】天目。中】青磁碗。	
北庄城-2	31113	A・B-4	土坑	16C後～末	(1.40)	(0.80)	瀬】天目、灰釉皿。土】皿（C）。中】白磁皿。	
北庄城-2	31114	B-5	土坑	16C末	(1.60)	1.60	土】皿（C）。	
北庄城-2	31115	B-5	土坑	16C末	2.10	(1.80)	土】皿（C）。瀬】天目。	
北庄城-2	31116	B-4	土坑	16C末	(4.10)	1.60	土】皿（C）。瀬】茶入？、灰釉皿。 中】染付皿。	この付近は北庄期の土坑が重なっている。
北庄城-2	31117	B-4	土坑	16C末	(1.50)	0.80	越】擂鉢、甕。瀬】灰釉皿、天目、灰釉ソギ皿。中】白磁皿、白磁軟質小坏、染付皿。	美濃には大窯期後半のﾘｷﾞ皿あり。
北庄城-2	31118	A-4	土坑	16C末	(1.20)	(1.10)	越】甕。	
北庄城-2	31127	B-4・5	土坑	16C後～末	(4.90)	(2.60)	土】皿（C-大）。越】甕。	
北庄城-2	31128	B-5	土坑	16C後～末			土】皿（C）。越】擂鉢（16C）。	
北庄城-2	31130	A-3・4	土坑	15C後～16C末			土】（B、C）。越】壺（14C ～ 15C）。 瀬】古瀬戸鉢。唐】皿。中】白磁端反皿。 李】白磁。	古瀬戸があるが土師質皿（C）は16C末か。
北庄期	3198	B-4	土坑	16C後	(4.60)	(2.30)	土】皿（C）。瀬】天目、灰釉皿。 中】染付、白磁端反皿。越】甕、擂鉢。	
北庄期	31108	A・B-4	土坑	16C中～後	(5.00)	1.90	土】土埵、皿（C）。越】擂鉢。 瀬】灰釉皿（大窯前半）。	
北庄期	31122	B-5	土坑	16C後	1.20	1.00	土】皿（C）。越】擂鉢、甕。瀬】天目、灰釉皿。 須】甕。中】染付碗？	
北庄期	31123	A-3・4	溝	16C後	18.00	2.80	土】皿（C）。中】染付端反皿。古】弥生土器。	溝31106以前の溝か。
北庄期	32179	C-4	溝	16C後	(4.40)	0.70	土】（朝倉D、C）。越】甕。 瀬】灰釉皿、鉄釉皿。中】青磁碗。	朝倉期らしいまとまり。
屋敷地境	32166	C-4	溝	16C末	(5.20)	2.00	土】皿（C-古）。 瀬】灰釉皿、灰釉菊皿、天目。	16C末(豊臣期）の典型的なまとまり。3209の下層。32167に続くか。
屋敷地境	32167	C-6	溝	16C末	(18.00)	(2.00)	土】皿（B、C）。越】擂鉢、甕（14C ～ 15C）。 須】皿？ 瀬】天目（大窯）、灰釉皿、鉄釉皿、瓶。備？】大鉢。中】染付皿？	16C後葉の良い一括資料。朝倉期まで遡るものもある。
北庄城-3	32138	G-7	溝	16C末	10.50	0.80		
北庄城-3	32159	G-6	溝	16C末	(3.50)	2.80		溝32160と池3201で切られる。
北庄城-3	32161	G-6	大溝	16C末	(8.00)	4.00	土】皿（C）。越】擂鉢、甕。 瀬】灰釉菊皿、灰釉皿、天目（大窯）、擂鉢。 中】青磁菊皿、染付碗。	土坑と溝が重なるか。遺物は16C末の典型的なまとまり。
北庄城-3	32170	C-6	土坑	16C末	2.40	2.30	土】皿（C）。瀬】鉄釉瓶、灰釉皿。	16C末（豊臣期）の典型的まとまり。

屋敷番号	遺構番号	地　区	遺構種別	時　期	法量（単位：m）		主な遺物	備　考
					長辺	短辺		
北庄城-3	32171	D-6	井戸	16C末	1.00	0.90	土】皿（C）。越】擂鉢、甕。 瀬】天目、灰釉皿、擂鉢。	深さ2m。４本の支柱と板で構成する1辺1mの井戸側が残る。
北庄城-3	32171	D-6	井戸掘方	16C末	4.50	4.00	土】皿（C- 古）。越】擂鉢、甕（13C？）。 信？】大平鉢。瀬】灰釉皿。	
北庄城-3	32174	F-7	井戸	16C末	2.30 掘り方	1.00 井戸	土】皿。 越】擂鉢、甕。 瀬】天目、鉄釉徳利、灰釉皿。	深さ３m程。上部は笏谷板石を組んで１辺0.7mの方形井戸側を２段積み、下部には直径0.7m、高さ１mの桶側が残る。
北庄城-3	32178	C-5	土坑	16C末	1.00	(0.70)	土】皿（C）。瀬】小天目。	
北庄城-3	32186	D-5 ～ 6	溝	16C末	5.80	1.20	土】皿（C）。	
北庄城-3	32187	D-5	溝	16C末	(4.30)	(1.20)	土】皿（C- 古）。越】擂鉢（三角 - 溝）。 瀬】天目（大窯後期）、灰釉皿。中】白磁皿？	豊臣期のものが中心だが、越前の擂鉢は17C初か。土師質皿多い。
北庄城-3	32209	D-4	土坑	16C末	4.80	2.20	土】皿（C）。中】同安碗。	
北庄期	32180	C ～ D-5	土坑	16C後	(0.90)	0.80	土】皿（C）。	
北庄期	32185	C ～ D-5	土坑	16C後	7.50	3.30	土】皿（朝倉 D）。越】甕。瀬】天目（大窯Ⅲ）、灰釉皿、擂鉢、菊皿。中】染付皿。	
北庄期	32179	C-4	溝	16C後	(5.00)	0.80	土】（朝倉 D、C）。越】甕。瀬】灰釉皿、鉄釉皿。中】青磁碗。	朝倉期の良いまとまり。
北庄期	32188	E-5	土坑	16C後	3.80	3.70	土】皿（C）。瀬】茶入、灰釉皿。中】青磁碗。	
屋敷地境	33448	H-6 ～ 9	溝	16C ？	(32.00)	3.40	土】皿。越】甕、擂鉢。中】青磁碗、染付碗。	屋敷地３と４の境溝。自然流路を改修したものか。
北庄城-4	門１ (34614)	A-8	門	16C末	3.20	3.20		両側に石垣があり、間口10尺の根石が残るところから、礎石建の櫓門と推定。
北庄城-4	34869	A-8	暗渠	16C末	4.00	0.40		側面は笏谷石の切石を立て、蓋は割石で覆う。門１（34614の）西側石垣の下をくぐる。
北庄城-4	34450	A-8	溜桝	16C末	3.10	2.80	土】皿（C）。瀬】鉄釉瓶？ 中】染付皿。	16C後～末の典型的なまとまり。
道路２	道路２	F-8 ～ I-3	道路	16C末	(75.00)	4.50		南北方向の道路。両側に側溝 3325・34554・34372・36013 と 33359・34244・34371が付く。
道路２	3325	F ～ J-7 ～ 8	側溝	16後 ～	(47.40)	3.00	土】皿（C、D）。瀬】天目、灰釉皿、擂鉢。 越】擂鉢。 中】青磁皿。	道路２の西側溝。北庄期からあり、元は自然流路か。溝34554に繋がる。
道路２	33122	H-2	土坑	16C末	(1.25)	1.10	土】皿（C）。瀬】天目。	
道路２	33359	H･I-9	側溝	16C末～ 17C初	(15.00)	0.70	土】皿（C- 古）。越】甕。中】漳州大皿。 瀬】灰釉皿。中】白磁皿？	道路２の東側溝。溝34371に繋がる。柵列33933が並行する。
道路２	34244	D･F ～ H-2	側溝	16C末	(62.00)	2.40	土】皿（C）、土埵。伊】皿。越】甕、壺、擂鉢。 唐】青唐津皿。瀬】鉄釉皿、天目、鉄釉水滴。 越中瀬戸】鉄釉小皿。中】青磁皿。	道路２の東側溝。もとは溝34371と繋がる。伊万里、唐津は混入品か。
道路２	34371	H ～ D-9･10	側溝	16C末	(49.00)	2.20	瀬】天目、サビ釉大平鉢、灰釉皿、古瀬戸深鉢、鉄釉皿。中】白磁菊皿、染付皿。 土】皿（C- 古、朝倉 D）。越】擂鉢（16C 前）。 唐】飴釉碗。中】青磁。李？】赤胎土瓶。	道路２の東側溝。溝の東側に30mにわたって石垣34346がある。
道路２	34372	B･C-9	側溝	16C末	(46.00)	3.00	土】皿（C）。越】擂鉢。瀬】天目（大窯後）、黄瀬戸鉢、志野向付。備】鉢。中】染付皿、	道路２の西側溝。
道路２	34374	C-9	石列	16C末	2.20	0.40		溝34372内にあり土橋に伴うものか。
道路２	34554	J･A-8･9	側溝	16C末～	(8.00)	3.00	土】皿（C- 古、新）。唐】甕（タタキ）、李？】 徳利、壺（赤胎土）。瀬】灰釉皿。 中】青磁碗、染付碗、漳州碗、景徳鎮皿、碗。	道路2の西側溝。溝3325の続き。もとは34372とつながっていたか。暗渠34869の水が流れ込む。
道路２	36013	I-2･3	側溝	16C末	(7.00)	1.00	越】甕。 中】白磁皿、白磁軟質小坏、染付碗。	道路２の西側溝。溝34372に繋がると考えられる。
道路２	36121	I-3	土坑	16C末	1.20	0.50	土】皿（C）。瀬】天目。中】白磁端反皿。	道路2上。少量ながら良いまとまり。
道路２	36182	I-3	土坑	16C末	(1.20)	1.10	土】皿（C）。越】擂鉢。瀬】天目。	道路２上。唐津なし。
北庄期	34556	J-9	土坑	16C後	2.50		瀬】灰釉皿。	完形品が１点のみ。
北庄期	36011	G･H-2	土坑	16C後	3.00	(1.50)	土】皿（C）。越】擂鉢。瀬】灰釉皿。	
北庄城-5	33431	I-10	土坑	15C ～ 16C	1.20	0.80	土】皿（15C、朝倉 D ？）、土埵。	
北庄城-5	33446	I-9	井戸	16C末	(2.90)	(2.30)		深さ1.5mの素掘りの井戸。
北庄城-5	34212	J-10	土坑	16C後～末	3.30	1.00	土】皿（C）。瀬】灰釉皿？	
北庄城-5	34418	J-1	土坑	16C末	0.80	0.50	越】擂鉢。	擂鉢断面に漆痕あり。
北庄城-5	建物１	J-10	掘立柱建物	16C末	6.20	4.60		3間×２間の掘立柱建物。
北庄城-5	34586	J-10	土坑	16C前			瀬】灰釉皿。	
北庄城-5	34592	J-10	土坑	16C中～後			土】皿（朝倉 D）。瀬】灰釉碗。	
道路３	道路３	A-10	道路	16C末	(11.00)	3.60		東西方向の道路。両側に側溝あり。
道路３	34470	A-10	石垣	16C末	(1.20)	0.50		溝34371・34471の交点の石垣。

屋敷番号	遺構番号	地　区	遺構種別	時　期	法量（単位：m）		主な遺物	備　考
					長辺	短辺		
道路３	34471	A-10	側溝	16C末	(5.00)	2.00	土】皿。唐？】瓶（タタキ）。中】白磁端反皿。	道路3の北側溝。溝34371に接続。
道路３	34670	A-10	側溝	15C後～16C中	(7.50)	1.50	土】皿（朝倉 C、D）。中】白磁皿。	道路３の南側溝。
北庄城-6	33123	H-2	溝	16C後	1.20	0.70	土】皿（C）。唐】碗、呉器手？ 瀬】天目（大窯前）。中】青白磁碗。	唐津は混入品か。
北庄城-6	33126	H-2	ピット	16C後～末	0.40	0.30	土】皿（C）。瀬】灰釉皿。備？】小瓶。	
北庄城-6	34346	B～E-1・10	石垣	16C末	30.00	1.20	土】皿（C ？）。越】甕。 瀬】灰釉端反皿。 中】青磁大皿、白磁皿。	溝34371東岸の石垣。北端付近に門2がある。その南には石垣上部を崩して土橋34660が付く。
北庄城-6	34370	A・B-10・1	土坑	16C末	1.10	1.00	土】皿（C-古）。瀬】灰釉碗。古瀬戸灰釉皿？ 備】擂鉢。	土師質皿に特徴あり。
北庄城-6	34392	A-10	土坑	16C末	1.30	0.90	土】皿（C-古）。瀬】天目（大窯前）。	
北庄城-6	34405	A-10	土坑	16C末			土】皿（C-古）。	
北庄城-6	34660	C-10	土橋	16C末	5.00	2.00		屋敷地６に繋がる土橋。溝34224を埋め、両側に土留めの石垣を築く。
北庄城-6	34708	D-1	ピット	(16C)	0.20	0.20	中】青磁稜花皿。	
北庄城-6	36147	H-3	土坑	16C末	0.80	0.50	土】皿（C-古）。瀬】鉄釉皿。中】青磁皿。	
北庄城-6	36184	H-2	土坑	16C末	2.20	2.10	土】皿（C-古）。越】甕、擂鉢（三角 - 溝）。 瀬】灰釉皿。	唐津なし。
北庄城-6	36185	H-3	ピット	16C末	0.50	0.50	土】皿（C）。瀬】天目、鉄釉瓶？	
北庄城-6	36186	H-3	土坑	16C後～末	0.80	0.60	土】皿（C）。越】擂鉢（16C 後）。 瀬】サビ釉大平鉢、灰釉皿。	朝倉～北庄城期のもの。
北庄城-6	36202	H-2	ピット	16C後～末	0.60	0.40	土】皿（C-古）。瀬】古瀬戸灰釉皿。 中】青磁大皿、白磁皿。	
北庄城-6	36207	G-4	土坑	16C末	(1.20)	1.00	土】皿（C-古）。越】擂鉢（16C 後）、甕。 須】甕。瀬】鉄釉瓶。	
北庄城-6	36209	H-4	溝	16C後～末	(8.60)	0.60	土】皿（C）。越】甕。中】青磁碗。	
北庄城-6	36210	H-4	土坑	16C後～末	(1.30)	0.50	土】皿（C）。越】甕。瀬】灰釉折縁皿、天目（大窯）。備】徳利。中】染付碗、白磁皿。	伊万里は混入品。
北庄城-6	36212	H・I-4	土坑	16C後	(2.20)	0.80	土】皿。瀬】灰釉碗。	
北庄城-6	36232	H-3	ピット	16C後～末	0.40	0.40	土】皿（C）。瀬】灰釉大皿。中】白磁皿？	
北庄城-6	36237	H-3	土坑	～16C後			土】皿（D、C）。越】擂鉢。瀬】灰釉皿。 中】白磁碗。	
北庄城-6	36244	I-4	土坑	15C後～16C末	(2.80)	(2.60)	土】皿。越】甕。中】白磁軟質小坏。	
北庄城-6	36267	G-3	土坑	16C後～末			瀬】灰釉皿。中】染付碗。	
北庄城-6	36269	I-3	ピット	16C後	0.20	0.20	土】皿。瀬】灰釉皿。	
北庄城-6	門２	C-10	門	15C後～16C後	4.40	1.00	越】甕？ 中】白磁軟質小坏、染付皿（碁笥底）	柱穴34656～34659の４つで構成。
道路４	道路４	I-3～H-5	道路	16C後～末	(28.00)	(7.00)		東西方向の道路。道路２の北端に接続。
道路４	36175	I-3～H-5	側溝	16C末	(20.00)	1.20	土】皿（C-古、B、G、C-新）。伊】碗、大瓶？ 越】甕（16C 後～末）、擂鉢（三角 - 溝）。 唐】碗。瀬】天目、古瀬戸卸皿、黄瀬戸？鉢。 中】染付小坏、皿、白磁端反皿。	道路４の南側溝。溝34244に繋がる。中国製品多い。伊万里は混入品。土層から見ても撹乱を受けている。
道路４	36293	I-5	土坑	16C末			土】皿（C-古）。越】擂鉢、甕。唐】皿、碗。	

第42表　中世遺構観察表（道路４以北）

屋敷番号	遺構番号	地　区	遺構種別	時　期	法量（単位：m）		主な遺物	備　考
					長辺	短辺		
北庄城期	3594	C-6	土坑	16C後～末	1.90	1.70	土】皿（C-古）、土埵。越】甕（16C）。 瀬】灰釉皿、天目。李】赤胎土瓶？	唐津なし。
北庄城期	35118	E-8・9	土坑	16C後～末	(10.20)	(3.50)	土】皿（C-古）。伊？】皿。越】擂鉢（三角）。 瀬】灰釉皿。中】染付碗。	
北庄期	35133	J-6	土坑	16C後	0.90	0.70	土】皿（C）。瀬】灰釉碗。中】青磁碗。	
北庄城期	35139	D-7	甕	16C～	0.90	0.50	越】甕（無釉）。	
北庄期	5166	D-6	土坑	16C後	(3.80)	0.60	土】皿（C-古）。瀬】灰釉皿、鉄釉徳利。	
北庄城期	5343	A-9	土坑	16C後～末	1.80	0.90	土】皿（朝倉 D、C）。瀬】天目（大窯前）。	
北庄城期	5355	J-9・10	溝下層	16C後～末	(18.00)	1.00	土】皿（C、D）。伊】青磁碗。越】擂鉢。 瀬】天目碗（大窯）。中】青花碗、染付小坏？	唐津なし。土師質皿は小皿中心。大きいのは朝倉Ｄ系。
北庄城期	5376	J-10	土坑	16C末			土】皿（朝倉 D、C）。越】擂鉢。中】青花碗。	
北庄城期	5397	J-9	土坑	16C末	1.20	1.00	土】皿（C-古）。瀬】灰釉皿。	
北庄城期	53137	A-9	土坑	16C後～末	1.50	(1.30)	土】皿（C-古）。瀬】灰釉碗。中】染付碗。	
北庄城期	53212	A-9	土坑	16C後～末	2.90	1.30	土】皿。唐】折縁皿。	

屋敷番号	遺構番号	地　区	遺構種別	時　期	法量（単位：m）		主な遺物	備　考
					長辺	短辺		
北庄城期	53218	J-1	土坑（溝？）	16C末	(9.50)	3.40	土】皿（C- 古 - 大）。軟】碗。越】擂鉢（三角浅溝）、甕。須】甕。瀬】金属風皿、灰釉皿。中】染付皿、青磁碗？	溝5466に繋がるか。唐津なし。大量の土師質皿出土。
北庄城期	53251	A・B-10	土坑	16C中～後			土】皿（朝倉 D- 中）。瀬】天目（大窯前）。	
北庄城期	5419	B-10	土坑	16C後～末	2.00	1.00	土】皿（C）。中】青磁碗。瀬】灰釉皿。	
北庄城期	5447	C-10	溝	16C末	(6.50)	(1.20)	土】皿。越】擂鉢。	
北庄城期	5448	C-10	土坑	16C後～末	5.50	(5.30)	土】皿（C）。越】擂鉢（16C ?）。	
北庄城期	5488	A-1	溝	16C後～末	2.30	0.80	土】皿。中】青磁碗。瀬】天目。	
北庄城期	54106	J-1	土坑	16C後	1.90	1.30	土】皿（C）。中】青磁碗、染付皿。	
北庄城期	54111	D-1	ピット	16C後	(0.60)	0.50	越】擂鉢（16C 後）。	
北庄期	61006	D-2	土坑	16C後	1.35	0.95	土】皿（C）。越】甕（～ 16C）。	
北庄城期	63165	I-6	溝	16C後～末	21.00	3.00	土】皿（C）。中】染付皿、白磁端反碗、青磁碗。瀬】灰釉皿。	17Cの要素なし。
北庄期	53200	J-10	土坑	16C後			土】皿（朝倉 D、C）。中】染付小坏。	
北庄期	5466	A-2 B-2	溝	16C後	(15.00)	1.40	土】皿（朝倉 D）。伊】碗、皿。中】白磁皿。瀬】緑釉皿、鉄釉皿、天目（大窯）、灰釉皿。	1570 ～ 80年代くらい。伊万里は混入品。

第43表　中世遺構観察表（旧吉野川以北）

屋敷番号	遺構番号	地　区	遺構種別	時　期	法量（単位：m）		主な遺物	備　考
					長辺	短辺		
北庄期	801	E-10	西落込み	16C	3.80	0.60	土】皿(C)。瀬】灰釉皿(輪トチ、見込釉ハギ)	
北庄城期	803	D-9	溝下層	16C後～末	(3.80)	0.70	土】皿（C）。瀬】灰釉皿。中】漳州碗。	
北庄城期	805-1	D-10	土坑	16C後～末	1.90	1.60	土】皿（C- 古）。	
北庄城期	805-2	D-10	土坑上層	16C末	1.60	1.60	土】皿（C- 古）。越】擂鉢。須】坏。瀬】天目（大窯）、灰釉皿。中】青磁皿。	
北庄期	805-2	D-10	土坑下層	15C後	1.60	1.60	瀬】古瀬戸深鉢、灰釉瓶？	
北庄城期	805-6	D-9	土坑	16C後～末	1.10	0.90	土】皿（C- 古）。中】染付皿。	
北庄城期	806-3	D-10	土坑	16C後～末	0.40	0.30	越】甕（無釉）。	
北庄城期	809-1	D-9	土坑	16C後～末	2.60	1.30	瀬】天目。中】白磁端反皿。	
北庄城期	812	E-10	土坑	16C末	0.90	0.90	土】皿（C）。越】擂鉢。瀬】擂鉢、灰釉皿。	
北庄城期	813	E-10	土坑	16C後～末	(0.60)	0.50	越】擂鉢（16 末）。	
北庄城期	816	E-10	土坑	16C末	1.40	1.00	土】皿（C- 古）。越】擂鉢。	
北庄城期	817	E-9	土坑	16C後～末	(5.90)	(2.80)	土】皿（C）。越】筒形鉢。	
北庄期	819	E-9	土坑	16C後	0.80	0.80	瀬】古瀬戸小皿、灰釉皿。	
北庄期	824	C-7	土坑	16C後	0.90	0.60	土】皿（C- 古）。	
北庄城期	826	C-7	土坑	16C後～末	1.00	0.90	中】染付皿。	
北庄城期	827	C-7	土坑	～ 16C末	0.70	(0.70)	越】甕（16C）。	越前の甕は無釉。
北庄期	833	E-9	土坑	16C後	2.40	1.30	越】擂鉢。	
北庄城期	834	E-9	土坑	16 末	(0.60)	0.50	越】甕？	

表中の略号について

・土】＝土師質土器および瓦質土器、伊】＝肥前磁器、唐】＝肥前陶器、瀬】＝瀬戸・美濃焼、京】＝京焼、信】＝信楽焼、備】＝備前焼、越】＝越前焼、中】＝中国製陶磁器、李】＝李朝陶磁器、丹】＝丹波焼、九谷】＝九谷焼、萩】＝萩焼、三田】＝三田焼、伊賀】＝伊賀焼、高取】＝高取焼、湊】＝湊焼、越中瀬戸】＝越中瀬戸焼、軟】＝軟質施釉陶器、南】＝東南アジアの陶器、須】＝須恵器、緑】＝律令期の緑釉陶器、古】＝弥生・古墳時代の土器、陶】＝産地不明の陶磁器、瓦】＝瓦を指す。

・土】に続くB、C、D、G、H、K、Rは土師質皿のタイプを表す。
B、C、Dは手づくねで一乗谷の土師質皿の製作技法を引き継ぐもの。Gは内型を用いるもの。HはGの形を似せて手づくねしたもの。
Kは手づくねでC・Dの中間的なもの。Rはロクロ成形によるもの。各タイプの詳細は本報告書の遺物・考察編を参照のこと。

・瓦】に続く「黒」はいぶし瓦、「赤」は越前赤瓦のうち古いタイプ（あな窯や連房式登窯で焼成）、「だるま」は越前赤瓦のうち新しいタイプ（だるま窯で焼成）を指す。また、丸は丸瓦、軒丸は軒丸瓦、平は平瓦、軒平は軒平瓦、桟は桟瓦および軒桟瓦を指す。各瓦の詳細は本報告書の遺物・考察編を参照のこと。